

伝道活動のガイド

わたしの福音を宣べ伝えなさい

(教義と聖約50：14参照)



「地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ……るであろう。」

(3ニーファイ27：20)

わたしの福音を^の宣べ伝えなさい

(教義と聖約50：14参照)

表紙：「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」© 1998 Greg K. Olsen
ミルボンドプレス社およびゲリー・フーパー博士の厚意により掲載。複写は禁じられています。

© 2004 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2005年1月

翻訳承認：2005年1月

原題：*Preach My Gospel*

Japanese

36617 300

わたしの福音を^の宣べ伝えなさい

(教義と聖約50：14参照)

大管長会メッセージ	v
はじめに——『わたしの福音を ^の 宣べ伝えなさい』を最大限に活用するには どうしたらよいでしょうか	vii
1 宣教師としてのわたしの目的は何でしょうか	1
2 効果的に研究し、教える準備をするにはどうしたらよいでしょうか	17
3 何を研究し、教えたらいいでしょうか	29
• レッスン1—— イエス・キリストの福音の回復に関するメッセージ	31
• レッスン2—— 救いの計画	47
• レッスン3—— イエス・キリストの福音	60
• レッスン4—— 戒め	71
• レッスン5—— 律法と儀式	82
4 ^{みたま} 御霊を認識し、理解するにはどうしたらよいでしょうか	89
5 モルモン書の役割は何でしょうか	103
6 キリストのような特質を伸ばすにはどうしたらよいでしょうか	115
7 伝道地で使用される言語を習得するにはどうしたらよいでしょうか	127
8 時間を賢明に使うにはどうしたらよいでしょうか	137
9 教える人々を見つけるにはどうしたらよいでしょうか	155
10 教える技術を向上させるにはどうしたらよいでしょうか	175
11 人々が決意して、それを貫くように助けるにはどうしたらよいでしょうか	195
12 人々をバプテスマと確認に備えるにはどうしたらよいでしょうか	203
13 ステークやワードの指導者と協力して働くにはどうしたらよいでしょうか	213
索引	225

大管長会メッセージ

愛する宣教師へ

宣教師として働く大いなる機会を得ることになり、おめでとうございます。伝道の業以上に大きな感動を与え、大きな満足をもたらす業はほかにはありません。

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』は、あなたがより良い備えをし、霊的に成熟した宣教師となり、説得力豊かな教師となるよう助けることを目的としています。毎日の個人学習と同僚との勉強会で、またディストリクト・ミーティングやゾーン大会で本書を活用するように強くお勧めします。参照聖句を研究し、教義と原則を学んでください。

皆さんが天の御父の栄光あふれる業に力を尽くす決意をいっそう強めてくださるようお願いいたします。すべての宣教師は「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」ために大切な役割を担っています（モーセ1：39）。

あなたが謙遜^{けんそん}に、また祈りをもって主に仕えるとき、主は報いと豊かな祝福を与えてくださるでしょう。神の子らの間で働くときに、あなたはかつて経験したことの無い幸福を味わうことでしょう。

大管長会



はじめに——『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』を最大限に活用するにはどうしたらよいでしょうか

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』

宣教師として直面するの必要に対応するために、『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』を活用してください。学習時間のすべてを費やして二つか三つの段落を研究することもできますし、一つの章全体を研究することもできます。書かれている順序に従って研究することもあるでしょうし、あなたの必要をもっと満たすように順序を変えることもあるでしょう。こうして柔軟に取り組めば、必要なときに必要な箇所を研究し、また伝道部会長の指示に従って研究することができます。

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』のすべての章は、あなたが宣教師として目的を達成するために準備するとき助けてくれます。けれども第3章を開くと、文章の違いに気づくことでしょう。ほとんどの章はあなたに向かって語りかけていますが、第3章は対象を一般の人々に広げています。あなたは第3章で教義を学び、それによって

(a) 福音に関する知識と証^{あかし}を強め、(b) 人々に教え、彼らが決意して、聖約を交わし、それを貫くように準備させるのです。

ほかの章に記されている教義も、求道者や新会員に教える際に役立ちます。例えば、第4章の「御霊^{みたま}を認識し、理解するにはどうしたらよいでしょうか」は、聖霊の力によって証^{あかし}を得る方法を求道者に教える際に役立ちます。また、第5章「モルモン書の役割は何でしょうか」は、モルモン書を読むことについて求道者が持っている懸念を解決するうえで助けとなるでしょう。第2章の「効果的に研究し、教える準備をするにはどうしたらよいでしょうか」で説明されているアイデアは、新しい改宗者がモルモン書の研究からさらに多くのことを学ぶための助けとなります。

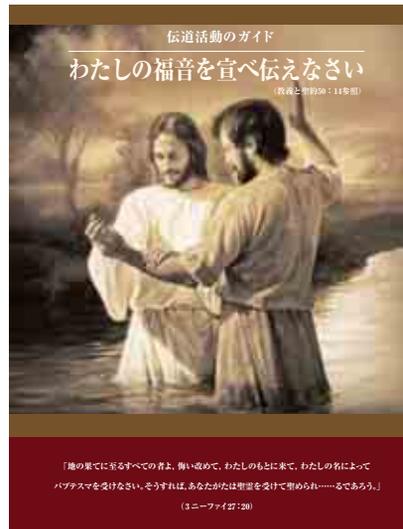
『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』は、伝道活動の基本的事項に焦点を絞っています。あなたが出遭う質問や状況のすべてに答えてはいません。あなたは御霊^{みたま}に従い、聖文を探求し、戒めを守り、学んだことを応用するときに、最大の効果をあげることができるのです。

伝道期間中はいつも、各章を研究してください。学んだことを応用し、自分の働きを評価してください。毎日自分を備え、改善しようと励んでいる宣教師は聖霊の導きを受けて、生活の中に祝福がもたらされることに気づくでしょう。

宣教師のレッスン

人々をバプテスマと確認の儀式に十分に備えさせるために、最善の方法でレッスンを教える柔軟性があなたにはあります。あなたの目的はレッスンの内容^{なまもの}を教えるだけでなく、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けること、そして最後まで堪え忍ぶことによってキリストのもとへ来るよう人々を助けることです。レッスンは普通、45分を超えてはなりません。時間的な制約によって、訪問を早く切り上げなければならないこともあるでしょう。そのような場合、短時間で資料の一部を教える訪問を何回か行う必要があります。

レッスンは様々な方法で教えることができます。どのレッスンを、いつ教え、どれほどの時間を費やすかについては、求道者の必要と御霊^{みたま}の導きに基づいて最善の決定が下されます。レッスン全体を暗記してはなりません。



個人学習、同僚との勉強会、ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会

伝道期間中に効果的な学習を行うならば、宣教師として目的を成し遂げ、イエス・キリストの福音に対する証^{あかし}を強める助けとなります。あなたにとって最も大切な4つの学習の機会、個人学習、同僚との勉強会、ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会です。毎日のスケジュールには個人学習と同僚との勉強会の時間が含まれています。

宣教師の一日のスケジュール*

午前6時半 起床、祈り、運動（30分）、一日の準備

午前7時半 朝食

午前8時 個人学習——モルモン書、その他の聖典、レッスンで採り上げられている教義、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』のそのほかの章、『宣教師の手引き』、『宣教師健康手引き（*Missionary Health Guide* [英語])』

午前9時 同僚との勉強会——個人学習で学んだことを分かち合う、教える準備をする、レッスンを練習する、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の章を勉強する、一日の計画を確認する。

午前10時 伝道を開始する。外国語を学んでいる宣教師は日中に行う言語学習活動を行う計画を含めて、言語学習の時間を30分から60分追加する。

1日の伝道活動中、最も適した時間帯に、昼食と勉強のために1時間、夕食のために1時間を割いてもよい。普通、夕食は午後6時までに済ませる。

午後9時 住居に戻り（レッスンを教える場合を除く。その場合は9時半までに戻る）、翌日の活動を計画する（30分）。日記を書き、就寝の準備をして、祈る。

午後10時半 就寝

* 伝道部会長は七十人会長または地域会長と相談のうえ、このスケジュールを地元の状況に合わせて修正することができます。

個人学習で学ぶ事柄は、同僚との勉強会やディストリクト・ミーティング、ゾーン大会であなたが「互いに王国の教義を教え合〔う〕」ときに役立ちます（教義と聖約88：77）。学習時間やディストリクト・ミーティングから得る事柄は、霊的な力によって教える助けとなります。

個人学習

個人学習の目的は、回復された福音について知識と証^{あかし}を強め、あなたが教える人々の必要を満たす準備をすることです。個人学習では、標準聖典と以下の承認された宣教師基本図書を集中して勉強してください。

- 『キリスト・イエス』
- 『わたしたちの受け継ぎ』
- 『幸福の探求』（*Our Search for Happiness* [英語])
- 『真理を守る』



以下のような方法によって、個人学習を効果的なものとすることができます。

- モルモン書とそのほかの聖典を読む。
- レッスンで採り上げられている教義を研究する。
- 『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』のほかの章を研究する。

同僚との勉強会

同僚との勉強会の目的は、(1) 御霊^{みたま}によって教えるために同僚との一致を築き上げること、(2) 教える人々の進歩に焦点を当てることです。以下のような方法によって、同僚との勉強会を効果的なものとすることができます。

- 個人学習で深められた理解を分かち合う。
- 約束ができていて特定のレッスンや会員の訪問、教える人を見つける機会、その他の活動のために準備する。教え、見つけ、いっそう効果的に働くために助けとなる資料を研究する。働きかけている人々について話し合う。学んでいることを応用する計画を立てる。
- 同僚との勉強会で採り上げた原則や目標、技術、計画についての話し合いを一日を通して行う。

ディストリクト・ミーティング

ディストリクト・ミーティングの目的は「互いに王国の教義を教え合〔う〕」ことです（教義と聖約88：77）。

- ディストリクト・ミーティングは毎週、60分から90分開かれる。
- ディストリクト・ミーティングはディストリクトリーダーが計画、司会する。ほかの宣教師を招いて、教える助けをしてもらうこともできる。
- ディストリクト・ミーティングでは以下の事柄が実施される。
 - 個人学習や同僚との勉強会で深められた理解を分かち合う。
 - 様々な状況を想定してレッスンの教え方を練習する。
 - 『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』で採り上げられている原則と技術を説明し、実演し、練習する。
 - 求道者の進歩と必要について話し合う。
 - 地区の抱えている課題^{あかし}について話し合い、取り組む。
 - 伝道活動で得た経験や証^{あかし}を分かち合う。
- ディストリクトリーダーはディストリクト・ミーティングで、地区内の宣教師の働きに関する報告を受けることができる。ディストリクトリーダーはほかの地区に住む宣教師のために目標や割り当てを設定してはならない。

ゾーン大会

ゾーン大会は伝道部会長の指示の下で開かれます。

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』の特徴

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』の各章には幾つの特徴があります。それらを学習することによって、多くのものを得られるはずです。一定の方法で学習するように強制するものではありません。あなたの必要に基づいて、こうした特徴を柔軟に活用してください。

学習帳

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』では、しばしば、学習していることを理解し、明確にし、覚えるために学習帳を使うよう求められます。リチャード・G・スコット長老はこのように教えています。「しっかりと記録された知識は必要なときに活用できます。扱いに注意を要する霊的な情報は、それを大切にしていることを主に理解していただけるよう神聖な場所に保管しておかなければなりません。このように記録する習慣を身に付けるならば、あなたはさらに光を受けるようになるでしょう。」（「霊的な知識を得る」『聖徒の道』1994年1月号，99参照）霊的な経験を思い出し、新しく理解したことを確かめ、自分の成長を知るために、学習帳に目を通してください。

学習帳としてあなたは市販の日記帳やノート、あるいはルーズリーフバインダーを使うかもしれませんが。自分の学習方法に合ったやり方で考えや印象を記録し、整理してください。将来、大切な情報を簡単に見つけられるように、自分なりのシステムを考えましょう。学んだ事柄を思い返し、見つけ、応用するために頻繁に活用してください。個人学習や同僚との勉強会、ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会、伝道部会長との面接で感じたことを記録したり、メモを取ったりする際に学習帳を活用します。

情報ボックス

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に設けられている情報ボックスはあなたの学習を助けてくれます。あるボックスは要点を予習し、まとめるためのものです。またほかのボックスは、学習の中心となる事柄を明確にし、聖文から学び、学んだことを応用し、能力を高め、教える人々の必要を満たすために助けとなります。ほとんどの場合、これらのボックスは導入としての役割を果たすにすぎません。新しい学習活動を開発し、ほかの聖文を探ることによって、祈りの気持ちでボックスの活動を充実させてください。

深く考えましょう

- 福音を研究すること
- わたしが研究すること
- なぜ絶えずイエス・
- 回復されたイエス・

「深く考えましょう」ほとんどの章は「深く考えましょう」のボックスにある質問で始まります。これらの質問は章の要点に焦点を当てており、学習する際の大筋を教えてください。学習事項を整理し、理解し、深く考え、応用するためにこれらの質問を活用してください。

記憶にとどめましょう

- あなた自身が救われたものである。
- 研究と信仰と、聖霊
- 学習は喜びであり、

「記憶にとどめましょう」ほとんどの章は「記憶にとどめましょう」のボックスで終わります。これは章の中で最も大切な事柄をまとめたものです。章の研究を終えるときに、これらの項目を検討して、要点を理解しているかどうか確かめます。これらの要点を現在どれほど応用しているかを評価し、学んだことを応用する計画を立ててください。

聖文研究

モルモン書の預言者

- 1ニーファイ6：4-6
- 1ニーファイ9：3-5
- 2ニーファイ4：15-16

「^{あかし}聖文研究」このボックスにはあなたの理解と証を築くための参照聖句が記されています。ほかにも聖句を調べて、参照聖句をさらに充実させてください。学んだことを深く理解し応用する助けとなる同様の質問をほかに考えて、自分に問いかけてください。

活動——個人学習

以下の参照聖句から
応用できる方法を2つ

- 2ニーファイ31章
- アルマ32：26-43

「活動」ほとんどの章には個人学習と同僚との勉強会のための活動が用意されています。これらは学習効果と応用力を高めることをねらいとしています。伝道期間中、これらの活動を繰り返し行ってください。あなたの必要もあなたが教えている人々の必要も変化するため、活動を行う度に新しい理解を得ることができます。

求道者とともにモルモン

- 求道者とモルモンを
くださるよう祈って
- これらの宣教師は、
 - どうしたら彼らの

赤のボックス。このボックスには、レッスンや伝道の多くの場面で大切な情報や提案が記されています。

物語

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』に記されている物語はすべて実話です。ほとんどの場合、登場人物の名前は変えられています。それぞれの物語では伝道活動に関連する幾つかの原則が説明されています。物語を読むときに、そこで説明されている原則を見つけてください。

研究と応用のためのアイデア

各章の最後の部分には個人学習や同僚との勉強会、ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会で活用できるアイデアが記されています。学習活動が豊富に提案されているこの項では、資料を効果的に学習する例が示されています。想像力を発揮し、また靈感を求めながら、この部分を研究したり教えたりする度に新しい活動を作り出してください。伝道期間中に、これらの活動を何度か^{おこな}行ってください。

研究と応用のためのアイデア**個人学習**

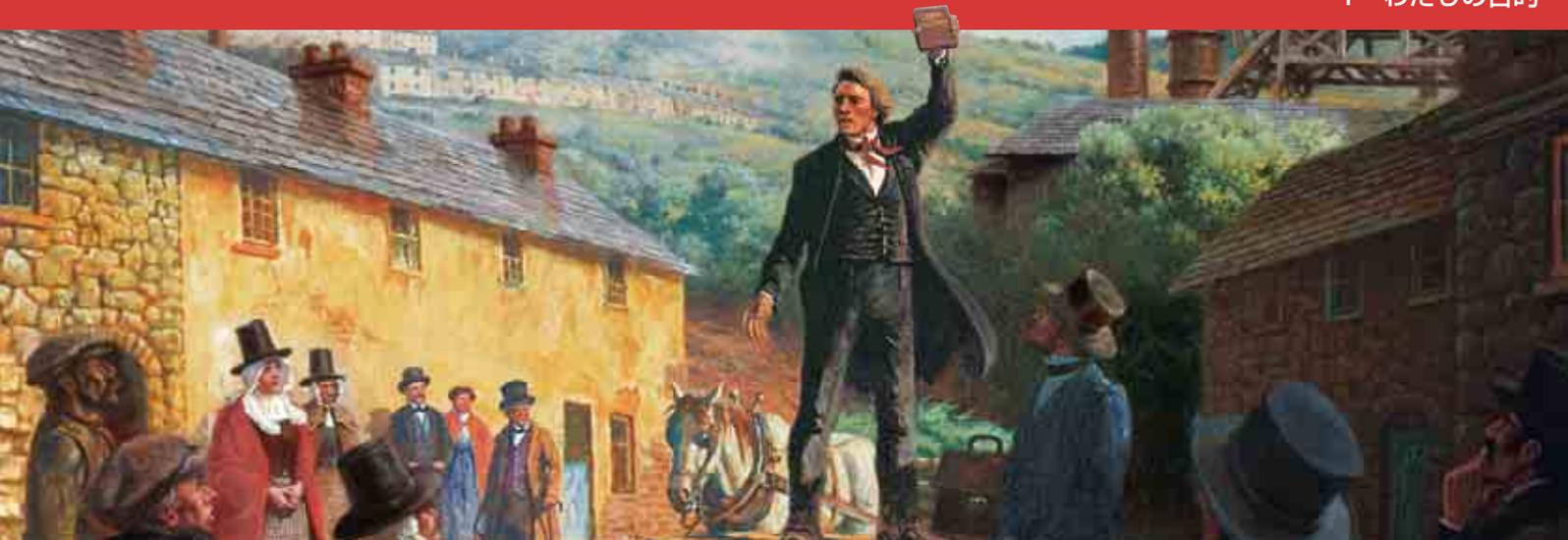
- 一人の宣教師が両親にあてた以下の手紙を読んでください。「バプテスマの洗礼を受けた素晴らしい女性に教えました。ディストリクト・ミーティングで、宣教師たちと一緒にバスに乗ったわたしは唯一空いている座席に座って、手紙を読み始めました。もちろん、赤ちゃんのエバンの写真が入っていたお父さんとお母さんからの手紙を最初に読みました。横に座っていた人が写真に見入っているのに気づきました。横に座っていた年配の婦人と目が合いました。彼女は少しほほえむと窓の外に目を向けました。それから目を閉じました。眠ろうとしているようでした。わたしは『天のお父様、彼女とお話したいのです。どうか助けてください』と祈りました。1分ほど過ぎると、彼女は目を開けて、「すみません。わたしはすぐに言いました。『かわいらしいと思いましたが、赤ちゃんのエバンの写真を見せると、家族について話し始めました。』」

支部や地方部で働いている宣教師

多くの宣教師は支部や地方部で働いています。本書では「ワード」と「ステーク」を対象としていますが、同じ原則と方法が「支部」と「地方部」にも当てはまります。支部と地方部の指導者とともに働くときに何か調整が必要な場合は、伝道部会長があなたに指示を与えます。

ワード宣教師と指導者による本書の使用

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』は、教会の専任宣教師のために作成されています。しかしながら、ここで教えられている原則と教義は、主の王国を築くために働くワード宣教師と指導者にも当てはまるものです。本書をしばしば研究することにより、彼らも会員宣教師としての責任を果たし、専任宣教師との一致を深めることができるようになります。



ウェールズで福音を宣べ伝えるダン・ジョーンズ。彼は現在の神権時代で最も偉大な宣教師の一人だった。

宣教師としてのわたしの 目的は何でしょうか

あなたの目的

あなたの目的は、人々にキリストのもとへ来るよう勧めることです。そのためにあなたは、イエス・キリストとキリストの贖い^{あがな}を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。

深く考えましょう

- 宣教師としてのわたしの目的は何でしょうか。
- 福音とは何でしょうか。
- なぜわたしたちは福音を宣べ伝えるのでしょうか。
- なぜわたしは力と権能によって教えなければならないのでしょうか。
- 回復のメッセージとは何でしょうか。なぜそれほど大切なのでしょうか。
- 人々が改宗するよう助けるうえで、わたしに託された責任は何でしょうか。
- 宣教師として成功しているかどうかを知るにはどうすればよいのでしょうか。

回復されたイエス・キリストの福音を教える責任

あなたの周りには大勢の人々がいます。あなたは、道で人々に出会い、彼らの家庭を訪れます。どこに赴いても、そこには人々がいます。これらの人は皆神の子供であり、あなたの兄弟姉妹です。神は、あなたを愛しているのと同じように、彼らも愛しておられます。これらの人々の多くは、人生の目的を探しています。人々は自分の家族を気にかけています。自分が神の子供であり、神の永遠の家族の一員であることを知ることによってもたらされる帰属意識を必要としています。価値観が絶えず変化する世の中であって、人々は心の安定を求めています。人々は「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命」(教義と聖約59:23)を受けたいと願っていますが、「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずに」(教義と聖約123:12) います。

預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストの福音は人々の家族に祝福をもたらし、彼らの霊的な必要を満たし、心の奥底に宿る望みを成し遂げるよう助けてくれます。理

メモ

由は分からなくても、過ちや罪によって抱いている罪悪感からの安らぎを必要としています。罪の救しを受け、聖霊の賜物を受けることによって、贖われる喜びを経験する必要があります。

あなたはイエス・キリストの正式な代表者として、「贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる」こと、「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないこと」を力と権能によって人々に教えることができます（2ニーファイ2：6，8）。人々は回復されたイエス・キリストの福音を受け入れ、神権の権能によってバプテスマと確認の儀式を受けるとき、「とこしえに捨てられない」ことを確信するのです（モルモン書、タイトルページ）。



イエス・キリストの贖いに対する理解が深まると、福音を分かち合いたいという望みが大きく膨らんでいきます。あなたはリーハイのように、「これらのことを地に住む者に知らせ……るのは、何と大切なことであろうか」（2ニーファイ2：8）と思うようになります。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように教えました。「わたしたちは、この福音を全世界に宣べ伝えるように神から命じられています。わたしたちは今日、この大義において一つとならなければなりません。自ら崩壊の道をたどっている世界を救うことができるのはこの福音においてほかにありません。福音だけが、あらゆる人種や国民を平和のきずなで結び、人類という家族に喜びと幸福、救いをもたらすのです。」（*The Teachings of Ezra Taft Benson* [1988年], 167）

あなたはイエス・キリストに代わって、人々が罪から清められるよう助けるために召されています。そのためにあなたは、人々に、イエス・キリストのもとに来て、回復されたキリストの福音に改宗するよう勧めるのです。救い主のもとへ来るには、悔い改めを生じるほどの、主を信じる信仰を持たなければなりません。それは、キリストの教えに添った生活をするために必要な変化を起こすということです。あなたは、回復された福音を御霊によって教え、その教えに従って生活することを決意するよう勧めることにより、人々がそのような信仰を築くのを助けるのです。この決意を守ることで、彼らはバプテスマの聖約を交わし、確認と貴い聖霊の賜物を受ける備えができます。彼らは「主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒とな[る]」のです（モーサヤ3：19）。

活動—個人学習または同僚との勉強会

このページにある命の木の絵を参照しながら、1ニーファイ8章と11章に記されている命の木の示現を研究してください。この示現の中で、命の木は神の愛を象徴しています（1ニーファイ11：21–22参照）。

- リーハイは木の実を食べた後に何を望んだでしょうか。（1ニーファイ8：10–18参照）
- 示現の中で、人々は木の実を食べるために何をする必要があったでしょうか。贖いのもたらすすべての祝福を受けるために、わたしたちは何を必要があるのでしょうか。これらの祝福にあずかるうえで、決意することと聖約を交わすことはどのように役立つでしょうか。
- 人々が福音の実を見いだして食べるのを助けるうえで、あなたは宣教師としてどのような義務を負っているでしょうか。

福音は家族を祝福する

イエス・キリストの福音の回復に関するメッセージは、家族に祝福をもたらします。福音が回復されたおかげで、わたしたちは家族に対する神の目的を理解しています。すなわち、「神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号、24）

地上において、家族との交わりはわたしたちに最大の喜びをもたらすものの一つとなっています。サタンは様々な面から家族を攻撃しており、その攻撃によってあまりにも多くの家族が崩壊しています。イエス・キリストの福音の回復のメッセージは家族がこの世と永遠にわたって一つとなることを実現させるものです。福音の原則に添った生活をするにより、家族はこの世で平安と喜び、帰属感と自分に対して正しい認識を持つことができます。福音の光を通して、誤解や争い、チャレンジを解決することができます。不一致に

よって引き裂かれた家族は、悔い改め、赦し、イエス・キリストの贖いの力を信じる信仰によって癒され、再び一つとなることができます。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号、24）

家族を見つけて教えるよう努力してください。父親と母親と子供たちは互いに支え合いながら福音に添って生活して、やがては回復された神権の権能によって家族として結び固められるのです。

御霊によって教える

イエス・キリストの福音は「すべて信じる者に、救を得させる神の力」（ローマ1：16）であるため、福音の回復のメッセージは神の力すなわち聖霊の力によって教えなければなりません。聖霊は神会における3番目の御方です。聖霊はしばしば御霊と呼ばれます。聖霊の役割の一つは真理を教え、証することです。あなたがこの力によって教えるとき、聖霊は次のようなことをしてください。

- 新しい真理を教え、あなたが学んだ教えを思い起こさせてくださる（ヨハネ14：26参照）。
- あなたが必要とするそのときに、話すべき言葉を与えてくださる（教義と聖約84：85参照）。
- あなたが教える人々の心にメッセージを届けてくださる（2ニーファイ33：1参照）。
- メッセージが真実であることを証し、あなたの言葉を確認してくださる（教義と聖約100：5-8参照）。
- あなたが教える人々の必要を見分けられるように助けを与えてくださる（アルマ12：7参照）。

福音の真理を教えて、人々の信仰を築くには、御霊が不可欠です。御霊に頼る信仰を築いていくには、以下のことを行う必要があります。

- 御霊を求めて祈る（教義と聖約42：14参照）。
- 心を清くする（教義と聖約112：28参照）。
- 戒めを守る（教義と聖約20：77、79参照）。
- 熱心に神の言葉を蓄える（教義と聖約11：21；84：85参照）。
- 人々があなたのメッセージを理解して、教化されるように教える（教義と聖約50：13-22参照）。
- 信仰を行使する（モロナイ10：7参照）。

「あなたが行く
最も大切な主の業は、
あなた自身の家庭という
囲いの中で行う業である。」

—ハロルド・B・リー大管長
The Teachings of Harold B. Lee,
クライド・J・ウィリアムズ選（1996年）、280

あなたは聖なる召しに任命されており、その召しには、主が定められた要件を満たすならば御霊みたまが与えられるという約束が伴っています。ですから、御霊みたまの賜物たまものを受けることを熱心に願わなければなりません。

あなたの召しに伴う力と権能

宣教師は「聖任を受けたその聖任の力をもって、……胸躍る大いなる喜びのおとずれ、すなわち永遠の福音を宣言する」(教義と聖約79:1)ために出て行きます。宣教師には福音を宣べ伝える権能があります。もし神権者であれば、福音の儀式を執り行う権能を持っています。この権能を祈りの気持ちでふさわしく行使するときに、霊的な力を受けることができます。霊的な力を受けることはあなたが確かに召しを受けていることの証拠となります。この使命を果たすことを恐れたり、恥ずかしがったりしてはなりません。あなたはモーサヤの息子たちのように神の力と権能をもって教えるのです(アルマ17:2-3参照)。

神権の権能を持つ人から任命されたときにあなたは主を代表する権利と特権を受けました。その権能を持っていることを世界に対して証明するために、宣教師証明書が交付されています。スペンサー・W・キンボール大管長はこのように語りました。「任命すること(訳注—英語では set apart で『隔てる』の意)には文字どおりの意味があります。それは罪から、俗世から隔てることであり、あらゆる下品で、卑しく、墮落した、俗悪で、卑わいなものから遠ざかることであり、[自身を]世から隔てて気高い思いを抱き、行動することです。祝福を受けるためには召しを忠実に実行しなければなりません。」(*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 478)

あなたは権能を受けたときに、召しにふさわしく生活するという責任も受けています。主の代表者として「信者の模範に」(1テモテ4:12)ならなければなりません。神の戒めに従って生活し、神殿で交わした聖約を守り、聖文に精通し、礼儀正しく、時間を守り、信頼に足る人物でなければなりません。また行動と服装と身だしなみについて宣教師の標準を守り、仕える人々、ともに働く人々を愛する必要があります。自分の行いによってキリストの名を尊んでください。

あなたは務めを果たすときに、権能によって行動するだけでなく、力を行使しなければなりません。あなたの受けている権能は力をもたらします。霊的な力を行使することは、あなたがほんとうに権能を受けていることの証拠となります。霊的な力たまものは賜物であって、この賜物はあなたが務めを効果的に果たすのを可能にしてくれます。

務めを果たし、教えるときに、あなたの受けている力と権能ははっきりと現れます。以下のように、あなたが行う様々な事柄について力が明白に現れるのです。

- まさに必要なときに主があなたに語らせたいと思われることを言うよう、御霊みたまによって導かれる(教義と聖約84:85参照)。
- どこへ行くべきか、何をなすべきかについて導きを受ける(教義と聖約28:15; 31:11; 75:26-27参照)。
- 御霊みたまの証あかしによってあなたの証が確認される(2ニーファイ33:1; 100:5-8参照)。
- 救いの儀式の執行に参加する(教義と聖約84:19-20参照)。
- 長老であれば、神権の祝福を授ける(ヤコブの手紙5:14-15参照)。
- ともに働いている人々のために祈る。また、彼らとともに祈る(アルマ6:6; 8:18-22; 10:7-11; 31:26-35; 教義と聖約75:19参照)。
- 主に対して、家族、同僚の宣教師、あなたが仕えている人々に愛を示す。

聖文研究

どのようにして力を受けるのでしょうか。

アルマ17：2-3

教義と聖約53：3

1コリント2：4

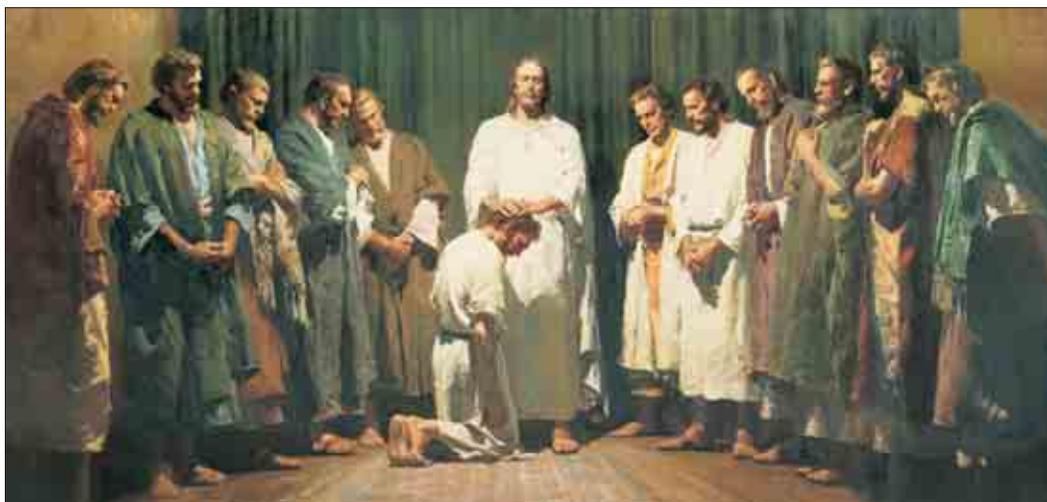
活動—個人学習または同僚との勉強会

使徒たちを聖任するキリストの絵を見てから、ヨハネ15：1-16を読んでください。

キリストはどのような意味でぶどうの木にたとえられるのでしょうか。あなたはどのような意味で、そのぶどうの木の枝にたとえられるのでしょうか。あなたが任命を受けたことは、この関係をどのように表しているのでしょうか。

あなたの宣教師証明書に記されている事項にもう一度目を通してください。読んで感じたことや考えたことを書き留めます。この章を研究する度に、この手順を繰り返して実行してください。あなたの感じる事が次第に変わっていくことに注目してください。

教義と聖約109：13-15, 21-30, 38-39, 55-57を研究してください。これは、預言者ジョセフ・スミスがカートランド神殿を奉獻するときに、靈感によってささげた祈りからの抜粋です。ジョセフ・スミスは忠実な人々のためにどのような祝福を願い求めたのでしょうか。



イエス・キリストの福音

イエス・キリストの福音は、あなたの伝えるメッセージと目的をはっきりと定めています。すなわち、伝道活動とは「何であり」「なぜ行うのか」を明確にしているのです。救い主は御自身の福音の中に非常に大切に基本的な教義が含まれていることを明らかにしておられます。キリストは御父の御心みこころを行うために世に来られました。御父が御子あがなを遣わされたのは、御子が十字架につけられるためでした。御子の贖いと復活により、すべての人は引き上げられて、自分の行い、すなわち善い行いをしたか悪い行いをしたかの裁きを受けるためにキリストの前に立つことになります。キリストを信じる信仰を行使して、罪を悔い改め、キリストの名によってバプテスマを受ける人は、聖霊によって聖めきよを受けることができます。そして、最後まで堪え忍ぶならば、人は最後の日に汚れのない者としてキリストの前に立ち、主の安息に入ります。キリストは彼らを御父の前に罪のない者としてくださいます。キリストは人々の代弁者、仲保者となられます。最後まで忠実に堪え忍ばなかった人々は「火の中に投げ込まれ〔ます。それは〕父の正義のゆえ」です。(3ニーファイ27：13-22参照。2ニーファイ31：10-21；3ニーファイ11：31-41；教義と聖約76：40-42, 50-53と比較)

メモ

福音の目的は人々をその罪から清めて、裁きの日に救い主の憐れみを受けられるようにすることです。したがって本書の焦点であり、さらに大切なことですが、あなたが毎日携わっている業にあって第一に目指すことは、人々にキリストのもとへ来るよう勧めることです。そのためにあなたは、イエス・キリストとキリストの贖い^{あがな}を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。

個人と家族はキリストを信じる信仰を行使して、自分の罪を悔い改めるときから、キリストに従い始めます。儀式を執行する権能を神から授けられた人により、バプテスマと聖霊の賜物^{たまもの}を受けることによって、彼らは罪の赦し^{ゆる}を受けます。それから最後まで堪え忍びます。言い換えると、イエス・キリストを信じる信仰を行使して、悔い改め、交わした聖約を新たにすることを生涯続けるのです。これらは生涯で1度経験すれば終わることではなく、繰り返し行って、いっそう大きな報

いをもたらす生活のパターンとすべき原則です。事実、これは良心に安らぎを与え、天の御父の子らが御父のもとへ帰って生活するための唯一の方法なのです。

生涯変わらぬ決意をもってイエス・キリストに従い続ける必要があります。信仰を行使し、悔い改め、バプテスマを受け、キリストに仕えることを決意し、それから聖霊を受けることによって、わたしたちは癒し^{いや}と罪の赦し^{ゆる}を経験して、救い主と福音に対する完全な改宗を成し遂げることができるのです。

悔い改めを生じる、イエス・キリストを信じる信仰を持つよう人々を助けてください。そのためにはイエス・キリストの完全な福音と神権の権能が回復されたことを教え^{あかし}、その教えに従うよう勧めることが必要です。

「福音の第一の原則を^の宣べ伝えなさい。繰り返し宣べ伝えなさい。そうすればあなたは、来る日も来る日もそれらについての新しい考えが明らかにされ、さらなる光が与えられることに気づくでしょう。原則についていっそう深く知るにより、それらを明確に理解することができます。そうすればあなたは、教える人々にいっそうはっきりと理解させることができるでしょう。」

—ハイラム・スミス
History of the Church, 第6巻, 323

聖文研究

キリストの福音すなわち教義とは何でしょうか。

2 ニーファイ 31 : 10-21

3 ニーファイ 11 : 31-41

3 ニーファイ 27 : 13-22

回復のメッセージ—信仰の基礎

あなたがどこで働くか、だれに教えるかにかかわらず、イエス・キリストの福音の回復を中心にして教えてください。「イエス・キリストの福音を今すぐに必要としている全世界の人々に回復のメッセージを教えるとき、主はあなたを祝福してくださいます。」（「伝道活動に関する声明」大管長会からの手紙、2002年12月11日付参照）レッスンで採り上げられている教義を研究していくと、わたしたちの持っているメッセージは以下に集約されることが分かります。すなわち、神は近代の預言者を通して救いの計画に関する知識を回復されました。救いの計画はキリストの贖い^{あがな}を中心としており、福音の第一の原則と儀式に従うことによって成就されます。

あなたの教えるすべての人が以下の事柄をはっきりと理解していることを確認してください。

- 神は文字どおりわたしたちの天の御父であり、わたしたちを愛しておられます。地上のすべての人は神の子供であり、神の家族の一員です。神の御子イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、贖い主です。
- 愛にあふれる天の御父は聖書の歴史を通じて、預言者に福音を啓示することにより、子供たちに手を差し伸べてこられました。悲しむべきことに、多くの人はその福音を拒みました。受け入れた人々もいましたが、彼らはその後福音の教えと儀式を変え、不信心と背教に陥ってしまいました。
- 天の御父は愛する御子イエス・キリストを地上に遣わされました。イエスは奇跡を行い、福音をお教えになりました。イエスは贖いを成し遂げて、復活されました。
- 神は最初の示現を皮切りに、御自分の子供たちに再び愛の手を差し伸べられました。そして、預言者ジョセフ・スミスを通して地上にイエス・キリストの福音と神権の権能を回復し、御自身の教会を設立されました。モルモン書はこの回復の確かな証拠です。



背教と回復が繰り返されたパターンを理解できるよう助けるならば、求道者は末日の回復が、大いに必要とされた出来事だったことを理解できるようになります。回復された福音を受け入れ、回復された神権の権能によって救いの儀式を受け、永遠の命に至る道を歩む必要性を理解できるようになります。この教会は既存の多くの宗教に加えられた一つの単なる宗教ではなく、またアメリカの教会でもないことを人々に理解させてください。それは、時の初めより明らかにされ、教えられてきた「完全な福音」(教義と聖約1:23)が回復されたものなのです。

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書は、ジョセフ・スミスが預言者であったこと、イエス・キリストの福音が回復されたことの確かな証拠です。モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石であり、このメッセージを教えるための最も力強い手段です。ジョセフ・スミスを通して回復された大切な真理には、神はわたしたちの御父であ

ること、わたしたちは神の霊の子供であること、この世に生まれる前にわたしたちは神とともに住んでいたこと、福音の律法と儀式に従うことにより、またキリストの贖いを通してわたしたちは神の前で永遠に家族とともに住めることなどが含まれます。

モルモン書は神が御自分の子供たちを愛しておられることの証拠です。モルモン書には、神は御自分の子供たちに語られることが明らかにされています。教え、証するとき、モルモン書を読み、そのメッセージについて祈るよう勧めてください。あなたが教える一人一人は、モルモン書が神からの啓示によって与えられたものであるかどうかについて結論を出さなければなりません。

モロナイ10:3-5に記されているすばらしい約束に信頼を寄せてください。人々がモルモン書を読んで、それを理解し、それが真実であるかどうか誠心誠意で神に尋ねるよう、全力を尽くして説得してください。聖霊の証は、キリストが御自身の教会を回復されたことを信じる信仰の原点となるものです。あなたの教える人々がその霊的な確認を受けられるよう助けてください。

メモ

聖文研究

伝道活動においてどのようにモルモン書を活用すべきでしょうか。

1 ニーファイ13：39 モロナイ10：3-5 教義と聖約42：12-14
2 ニーファイ29：8-10 教義と聖約20：5-16

活動——個人学習

地元の新聞に掲載するため、あなたは回復のメッセージについての記事を書くことになったと仮定します。中心となるメッセージを示す見出しを学習帳に書いてください。それから、このメッセージについてあなたがどのように感じているかを書きます。よく理解するにつれて、あなたの生き方や周囲に対する見方が変わってきたことに触れてください。

人々に決意を促す——信仰と悔い改めに通じる道

真の教義を教えてください。またイエス・キリストを信じる信仰を築くことを決意し、それを貫くことによって悔い改め、生活を変えるよう勧めてください。このようにして、人々がバプテスマと確認を受けるにふさわしくなれるよう助けてください。これらの決意は人々が神聖な聖約を交わして守るための備えとなります。

ジェフリー・R・ホランド長老はこのように教えました。「モルモン書を読んでおらず、また祈ってもいないことを求道者から打ち明けられると、皆さんはたちまちがっかりしてしまいます。……多くの場合、わたしたちはこのことについてむとんちゃくすぎます。これは永遠の命にかかわることです。神の子らの救いにかかわることであり、永遠の行く末が懸かっているのです。……この求道者がこれから歩む最も大切な道について話しているのです。たとえ求道者が知らなくても、少なくともあなたは大切な決断であることを知っていなければなりません。……ですから、この状況をよくコントロールしてください。力と権能によって教えてください。そこまでも、求道者が戒めを守らず、聖約を交わすための第一歩を歩んでくれないようだったら、そのとき初めてがっかりしてください。」（“Making and Keeping Covenants”，宣教師のための衛星放送，1997年4月）

完全な福音が回復されたことを理解するよう人々に教えるとき、あなたは「悔い改めを告げているのです（教義と聖約15：6）。悔い改めとは罪を捨てて神に仕えるよう心と望みを変えることです。へりくだって御霊に従い、神の御心に従うことを意味します。そのためには神の御心に添って生活する決意をしなければなりません。悔い改めには思いや望み、習慣、行動を心から、また永久に変えることが求められます。喜びと平安を得るための前向きな行動です。悔い改めるためにどうしなければならないかを理解できるように、大胆にまた愛をもって助けてください。人々に決意を促すことは、効果的に警告と希望の声を上げることなのです。

聖文研究

悔い改めを宣言することについて聖文は何と教えているでしょうか。

アルマ29：1-4 アルマ62：45 教義と聖約15：6；16：6
アルマ42：31 教義と聖約14：8

バプテスマと確認

あなたの第一の目的は、教える人々にバプテスマを施し、確認を行うことです。バプテスマは罪の赦しのために行われるものであり、聖霊の賜物はふさわしい生活をしている人々に多くの祝福を得させるものです。人々はこれらの儀式を通して門をくぐり、永遠の命に通じる道を歩み続けるのです。ダリン・H・オークス長老はこのように語りました。「わたしたちは『人々を教会に入れる』ために、あるいは教会の会員数を増やすために宣べ伝え、教えているわけではありません。単により良い生活を送るよう勧めるために宣べ伝え、教えているわけでもありません。……神の息子、娘たちに日の栄えの王国の扉を開くために、悔い改めて、バプテスマと確認を受けることによって、キリストのもとへ来るよう、わたしたちはあらゆる人に勧めているのです。これができるのは、わたしたちのほかにはいません。」（“The Purpose of Missionary Work”，宣教師のための衛星放送，1995年4月）

回復された福音を教えるとき、バプテスマと確認が神聖な性質を持っていることを人々が理解できるように助けてください。聖霊の賜物を受けることはこの世における大きな祝福であり、自分の救いにとって鍵となることを理解できるように助けてください。聖霊は「すべてのことを教え」てくださいます（ヨハネ14：26）。ボイド・K・パッカー会長はこのように教えました。「求道者に教え、彼らを水によるバプテスマに備えさせているとき、あなたは聖霊の賜物すなわち火によるバプテスマのことも考えていなければなりません。それは一つのものであると考えてください。最初に水のバプテスマが来て、次に火のバプテスマが来るのです。」（“The Gift of the Holy Ghost: What Every Missionary Should Know – and Every Member As Well”，新任伝道部会長セミナー，2003年6月）預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「水によるバプテスマはバプテスマの半分にすぎません。ほかの半分、すなわち聖霊のバプテスマがなければ、何の役にも立たないのです。」（*History of the Church*，第5巻，499）

バプテスマと確認を受ける資格を得るには、教義と聖約20：37に記されている条件を満たさなければならぬことを求道者に理解させてください。

教義と聖約20：37 バプテスマを受ける資格

- 神の前にへりくだる。
- バプテスマを受けたいと願う。
- 打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出る。
- すべての罪を悔い改める。
- 進んでイエス・キリストの名を受ける。
- 最後までキリストに仕えることを決心する。
- 罪の赦しを得るためにキリストの御霊を受けたことをその行いによって明らかにする。

ふさわしい改宗者はバプテスマを受けると、その後に教会の会員として確認され、聖霊の賜物を授けられます。この確認はバプテスマ後の最初の聖餐会においてビショップまたは支部会長の指示によって執り行われます。二つの儀式の間には時間的に短い間隔がありますが、確認はバプテスマを補完し、完成させるものです。

聖文研究

どのような意味で聖霊の賜物はわたしたちが受けることのできる最大の賜物なのでしょう
か。

3 ニーファイ 19:1-13 ヨハネ 3:5 ガラテヤ 5:22-25
教義と聖約 45:56-57 ヨハネ 14:26 『聖句ガイド』「聖霊」の項

改宗者はなぜ聖霊の賜物を願い求めなければならないのですか。

2 ニーファイ 31:12-17 使徒 8:14-17 使徒 19:1-6
2 ニーファイ 32:1-5

活動—同僚との勉強会

以下の聖句を調べて、バプテスマの条件と聖約をすべて書き出してください。これらの条件を人々に教える方法について同僚と話し合ってください。

2 ニーファイ 31:13 アルマ 7:14-16 モロナイ 6:1-4
モーサヤ 18:8-10 3 ニーファイ 11:21-41 教義と聖約 20:37

教会を確立する

バプテスマを受けて教会員として確認されたら、改宗したこれらの人々が新しい生活に慣れ、霊的な成長を続けられるように、ワードや支部の指導者や会員と力を合わせて助けます。証を持つ人々がバプテスマと確認を受け、聖約を守り、神殿に参入するために積極的に準備し、ワードや支部を強めるために力を尽くすときに、教会は堅固なものとなります。

会員の友人を持ち、責任を与えられ、神の言葉によって養われる改宗者は、証と信仰を強めていきます。宣教師、ワードの指導者、教会員は、新会員を養い、強める責任を怠ってはなりません。

宣教師として成功する

宣教師としての成功は主として、人々を見つけ、教え、バプテスマを施し、確認を行うこと、そして彼らが聖霊の現れを受ける忠実な教会員となるように、どれほど力を尽くしているかによって測られます。

ほかの宣教師と自分を比べたり、あなたの努力によってもたらされた表面的な結果についてほかの宣教師と比べたりしてはなりません。人々はあなたのメッセージを受け入れるかどうかについて選択の自由があることを忘れないでください。人々が正しく選択できるように、はっきりと、また力強く教えることがあなたの責任です。ある人たちは、メッセージが真実であるという霊的な証を得たにもかかわらず、メッセージを受け入れないかもしれません。あなたは彼らを愛し、彼らの救いを願っているので悲しみを覚えることでしょうか。しかし、落胆してはなりません。落胆はあなたの信仰を弱めるからです。期待する基準を下げてしまうと、効果が弱まり、望みが低くなって、御霊に従うことが非常に難しくなります。

以下の基準によってあなたは宣教師として成功しているかどうかを測ることができます。

- 御霊があなたを通して人々に証しておられるのを感じる。
- 人々を愛し、彼らの救いを望んでいる。
- 宣教師の規則を厳密に守っている。
- 御霊を受け、御霊に従う方法を理解できるように生活している。御霊はあなたがどこへ行き、何を言い、何を言うべきかを示してくださる。
- キリストのような特質を養っている。
- 毎日熱心に働いて、人々をキリストのもとへ導くために全力を尽くし、学び、進歩することを熱心に求めている。

- どこで働くよう割り当てられても、任地の教会（ワード）が強められるように力を尽くしている。
- 罪のもたらす結果について人々に警告している。人々が決意し、決意を貫くよう勧めている。
- ほかの宣教師に教え、仕えている。
- 人々がメッセージを受け入れるかどうかにかかわらず、あらゆる機会を捕らえて彼らに善を行い、奉仕している。

最善を尽くしていてもなお落胆を経験することはありますが、自分に対して落胆してはなりません。御霊があなたを通して働いていると感じるとき、主はあなたを喜んでおられると確信できます。

聖文研究

主の僕は御業に対してどのような思いを抱くでしょうか。主の僕は仕える人々に対してどのような影響を与えるでしょうか。

モーサヤ28：3

3ニーファイ28：4-10

教義と聖約68：2-6

アルマ8：14-15

エテル12：13-15

ヒラマン10：3-5

教義と聖約15：4-6；16：4-6

活動—個人学習

- ヒラマン10：1-5と3ニーファイ7：17-18を読んでください。主はこれらの宣教師とその働きについてどのように感じておられたでしょうか。
- アピナダイとアンモンが行った伝道活動について考えてください（モーサヤ11-18章；アルマ17-20章；23-24章参照）。直接的な結果は異なりましたが、なぜこの二人の宣教師は成功したと言えるでしょうか。
- 学んだことを学習帳に記録してください。

記憶にとどめましょう

- あなたの目的は、人々にキリストのもとへ来るよう勧めることである。そのためにあなたは、イエス・キリストとキリストの贖い^{あがな}を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのである。
- 回復されたイエス・キリストの福音は、わたしたちが永遠の幸福を見いだすことのできる唯一の方法である。
- あなたは召しを受けたときに権能を与えられている。あなたが聖約を守るとき、力が与えられる。
- イエス・キリストの完全な福音は預言者ジョセフ・スミスを通して回復された。モルモン書はジョセフ・スミスが預言者であったことの証拠である。
- あなたは人々に決意し、決意を守るよう勧めることによって、彼らが福音に従って生活するよう助けるのである。
- あなたは人々を主のもとへ導くことによって、主に対する愛と主の贖い^{あがな}に対する感謝を表す。
- あなたが従順で、義にかなって生活し、人々が福音に従って生活するよう全力で助けているならば、あなたは宣教師として成功している。

伝道活動

現在の神権時代の大管長は以下のように語りました。

ジョセフ・スミス大管長（1830年－1844年）

「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を^の宣べ伝えることです。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976年], 113）

「大いなることが成し遂げられるかどうかは個人の努力に懸かっていること、末日の偉大な業を達成するために、聖なる御^{みたま}霊とともに働くよう召されていることを聖徒たちに悟らせなさい。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 178－179）

ブリガム・ヤング大管長（1847年－1877年）

「教会の男女で使命を持っていない人はいません。その使命は生きているかぎり続きます。それは善を行うことであり、正義を推し進めることであり、真理の原則を教えることであり、自分自身と周囲にいるすべての人々に永遠の命を受けるための原則に従って生活するよう説き勧めることです。」（*Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選 [1954年], 322）

ジョン・テラー大管長（1880年－1887年）

「わたしたちの義務はすべての人に福音を^の宣べ伝えることです。……これこそが、神がわたしたちに望んでおられることです。」（*The Gospel Kingdom*, G・ホーマー・ダラム選 [1943年], 234－235）

ウィルフォード・ウッドラフ大管長（1889年－1898年）

「わたしたちは使命を持ってこの地上に来ています。……そのため、出て行って地の国民に警告する力が与えられています。……イスラエルの長老であるわたしたちの中で、自分の立場、召し、神との関係、責任、主がわたしたちの手に求めておられる働きを十分に理解している人はほとんどいません。」（*The Discourses of Wilford Woodruff*, G・ホーマー・ダラム選 [1946年], 124）

ロレンゾ・スノー大管長（1898年－1901年）

「福音を^の宣べ伝えている長老の成功に、主ほど関心を寄せている御方はおられません。主は御自分の子供である人々に福音を^の宣べ伝えるよう長老を遣わされたのです。」（*The Teachings of Lorenzo Snow*, クライド・J・ウィリアムズ編 [1984年], 70）

ジョセフ・F・スミス大管長（1901年－1918年）

「わたしたちにはこの世で果たすべき一つの使命があります。それは、男性や女性、それに分別のつく年ごろ、つまり自己の責任を取り得る年齢に達した子供たちも皆それぞれに、……真理を^の宣べ伝え、真理に対する証^{あかし}を述べる資格を得なければなりません。」（*Gospel Doctrine*, 第13版 [1968年], 251－252）

ヒーバー・J・グラント大管長（1918年－1945年）

「わたしたちは一個の民として行うべき最も重要な事柄が一つあることを強調したいと思います。それは世の人々に罪を悔い改め、神のもとへ来るよう呼びかけることです。出て行って、主イエス・キリストの福音と、命と救いの計画が再び地上に回復されたことを宣言することは、ほかの何よりも優先して果たすべきわたしたちの義務です。……わたしたちはまことに高価な真珠を手にかけています。世界のすべての富と科学的知識よりもはるかに価値のあるものを持っています。それは命と救いの計画です。……隣りに人に愛を示す最良の方法は、出て行って、主イエス・キリストの福音を宣言することです。福音が天与のものであることについて、主は疑問の余地のない知識をわたしたちに与えておられます。」（*Conference Report*, 1927年4月, 175－176）

ジョージ・アルバート・スミス大管長（1945年－1951年）

「教会の兄弟姉妹、これはあなたの使命であり、あなたの責任です。無償で受けているこれらのすばらしい真理を、御父のほかの息子、娘たちと快く分かち合うことを天の御父は望んでおられます。」（*Sharing the Gospel with Others*, プレストン・ニプレー選 [1948年], 213）

「日の栄えの王国で昇栄を得るには、イエス・キリストの福音のもたらす祝福を御父のほかの子供たちと分かち合い、戒めを守らなければなりません。これらの戒めはこの世と来世においてわ

たしたちの生活を豊かにしてくれます。」(Sharing the Gospel with Others, 190)

デビッド・O・マッケイ大管長 (1951年-1970年)

「すべての会員は……宣教師です。」(Conference Report, 1959年4月, 122)

「真のキリストの教えは愛を行動で表すことです。同胞に対して無私の愛を示すこと以上に、神に対する愛を表す良い方法はありません。これが伝道活動の精神です。」(Gospel Ideals [1954年], 129)

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長 (1970年-1972年)

「わたしたちは皆、宣教師であると言われています。すべての会員は、……宣教師であり、宣教師にならなければなりません。……教会員として、イエス・キリストの福音を広めることを聖約しているわたしたちは宣教師になるのです。これはすべての教会員が果たすべき責任です。」(Take Heed to Yourselves [1971年], 27-28)

ハロルド・B・リー大管長 (1972年-1973年)

「伝道活動はまだ教会員となっていない人々に対するホームティーチングにすぎません。また、ホームティーチングは教会員に対する伝道活動にほかならないのです。」(Improvement Era, 1964年12月号, 1078)

スペンサー・W・キンボール大管長 (1973年-1985年)

「主の時刻表では今が、これまで以上に広く福音を伝える時です。……世界の大部分の人々が、意識しているかどうかを別にして、『来てください。……助けてください』と叫んでいます。それはあなたの隣人かもしれません。友人かもしれません。親戚しんせきかもしれません。昨日会ったばかりの人かもしれません。わたしたちは彼らに必要なものを持っています。『主よ、いま、……僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい』(使徒4:29)と言ったペテロのように、わたしたちも研究と祈りから新たな勇気を得ようではありませんか。」(Teachings of Spencer W. Kimball [1982年], 546)

エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1985年-1994年)

「わたしたちはほかの人々と福音を分かち合わなければなりません。これはわたしたちの責任です。すべての会員は宣教師です。わたしたちは神の預言者からそのように召されているのです。……会員伝道活動は個々の会員の成長にとって大切な鍵かぎとなるものの一つです。会員伝道を実施しているワードの霊性は必ず高められます。わたしはそう確信しています。」(Teachings of Ezra Taft Benson, 208-209)

ハワード・W・ハンター大管長 (1994年-1995年)

「あらゆる部族、国語の民、民族に福音を携えて行くことは、わたしたちがこの世で果たすべき最も大切な責任です。……この終わりの時に生まれたわたしたちは、過去の神権時代の人々と異なり、全世界に福音を届ける特権を与えられています。」(“Walls of the Mind”, Ensign, 1990年9月号, 10)

「贖あがないと伝道活動にはどのような関係があるのでしょうか。わたしたちは生活の中で贖いの祝福を経験する度に、ほかの人々の幸せに思いをはせずにはいられません。……個人が改心したかどうかは、福音を人々に分かち合う望みによって量ることができます。」(“The Atonement and Missionary Work”, 新任伝道部会長セミナー, 1994年6月)

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長 (1995年-)

「わたしたちは、天の御父の業と栄光である『人の不死不滅と永遠の命をもたらす』(モーセ1:39) ための働きの中で天の御父の助け手となるために召されているのです。皆さんの受けている責任も、わたしの受けている責任も、その重要性に変わりはありません。」(「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76)

「人々に真理の知識をもたらす力が一人一人に秘められていることを、すべての会員の心に刻み込んでください。会員がこのように努力するよう導いてください。このことについて大いなる熱意をもって祈るよう励ましてください。」(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 122)

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 本章の初めに記されている質問から一つを選び、その質問に基づいて2分間の話を準備してください。同僚との間で、またはディストリクト・ミーティングで、ほかの宣教師にその話を分かち合えるように準備しておいてください。
- 最近改宗した人から改宗の経緯について聞いてください。「悔い改めを生じる信仰」(アルマ34：17)を得るためにどのようなことが助けになりましたか。どのような理由から、バプテスマと確認を受ける決意をしましたか。教会員になることはどのようなことだと思っていましたか。どうすれば宣教師はもっとよく助けることができたでしょうか。
- 警告の声を上げるとはどのような意味かを考えてください(モルモン書ヤコブ3：12；教義と聖約1：4；38：41；63：57-58；88：81；112：5；エゼキエル3：17-21；33：1-12参照)。その意味を自分の言葉で書くとともに、どのような方法で実行できるかを書き出してください。
- モルモン8章およびモロナイ1章と10章を読んでください。読みながら次のように自問してみてください。「モロナイはわたしたちの時代に対してどのようなことを望んでいただろうか。モロナイはわたしたちにモルモン書をどうするよう望んでいただろうか。もしモロナイと会う機会があるとしたら、わたしはどのような言葉をかけるだろうか。」これらの質問に対する答えを学習帳に記してください。
- これまでの生活の中で、ジョセフ・スミスと回復に関して証が^{あかし}強められた出来事を思い浮かべてください。それから次の質問の答えを学習帳に^{みすがた}記してください。「天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたことをあなたが確信するうえで何が助けとなりましたか。」

同僚との勉強会

- 章の初めに記されている「深く考えましょう」の質問の答えを互いに分かち合ってください。
- あなたが宣教師の召しを受けたとき、伝道についてどのような希望と意欲を持っていたかについて同僚と分かち合ってください。これまでの経験は、どの程度あなたの期待に添っていたでしょうか。期待どおりの結果を得るにはどうすればよいでしょうか。
- 『聖句ガイド』から「仕える」の項を読んで、話し合ってください。
- 以下の偉大な宣教師たちの中から一人を選び、参照聖句を読んでください。読みながら、その宣教師はどのように、(1) 自分の召しを理解し、献身したか、(2) 主の業に対する心構えと望みを表したか、(3) 人々が福音を受け入れるよう助けたか、について話し合います。
アルマ(モーサヤ18章) ニーフアイとリーハイ(ヒラマン5章)
アロン(アルマ22章；23：1-6) ペテロ(使徒2章) パウロ(使徒16章)
- 『賛美歌』の「主題別索引」の「回復」の項(354ページ参照)から賛美歌を2曲選んで、歌うか歌詞を読んでください。歌詞の意味について話し合ってください。
- 『聖句ガイド』から「信仰」、「悔い改め」、「バプテスマ」、「聖霊」の項を一緒に読んでください。各項目の参照聖句をすべて読んで、話し合ってください。
- 『聖句ガイド』から「神権時代」の項を一緒に読んでください。教義と聖約136：37も読んで、話し合ってください。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 最近改宗した人を2, 3人招いて、改宗に当たって経験した事柄を話してもらいます。彼らは宣教師に対してどのような思いを抱いていたでしょうか。宣教師から学んだこと、戒めを守ることについてはどうだったでしょうか。改宗に最も大きな影響を与えたのはどのようなことだったでしょうか。
- あなたの伝道区域で教会を築くに当たり、その機会と困難な点について神権指導者から宣教師に話してもらいます。
- アルマ18章を読んでから、以下の質問について話し合ってください。物語の初めの時期に、ラモーナイはどのような気持ちを抱いていましたか。それは最終的にどのように変わったでしょうか。福音の祝福を受けるために、人はどのような思いを抱いていなければならないでしょうか。アルマ34：15-16を読んで、ラモーナイの物語と比較してください。キリストの贖いは、憐れみを受ける機会をどのようにわたしたちに与えているのでしょうか。
- 宣教師として成功するとはどのような意味かを話し合ってください。何人かの宣教師から成功の具体例を紹介してもらいます。
- 宣教師を3つのグループに分けてください。一つのグループに使徒2：36-38（ペテロ）を、別のグループに使徒16：25-33（パウロ）を、最後のグループにモーサヤ18：8-11（アルマ）を読む割り当てを与えます。各グループに次の質問の答えを導き出してもらいます。「この宣教師は人々が信仰を強めて、悔い改め、バプテスマと確認を受けるよう助けるために何を行ったでしょうか。」人々に悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けよう勧めるときに、宣教師は信仰を行使しますが、これらの物語からそのために役立つどのようなことを学べるかを話し合ってください。
- 章の初めの「深く考えましょう」から質問を指定して、その質問について考えてくる割り当てを集会の数日前に数人の宣教師に与えます。割り当てられた質問について2, 3分の話準備してくるよう頼んでください。ディストリクト・ミーティングかゾーン大会で、彼らに話をしてもらいます。話の後に、学んだ事柄、それを伝道活動の中でどのように活用できるかについて全員で話し合ってください。
- 宣教師を4つのグループに分けてください。預言者ジョセフ・スミスを通して回復され、明らかにされた真理と聖約と儀式をできるだけ多く書き出すように言います。グループごとに結果を発表してもらいます。回復によって明らかにされた真理は宣教師の生活にどのような影響を及ぼしているかについて経験を分かち合うように言います。

伝道部会長

- 面接の中で定期的に、以下について話すよう宣教師に求めてください。
 - イエス・キリストに対する証^{あかし}
 - 回復された福音とジョセフ・スミスの使命に対する証^{あかし}
 - モルモン書に対する証^{あかし}
 - 宣教師の目的についての考え
- 自分の伝道の目的について感じていることを学習帳に記録するよう宣教師に勧めてください。面接中に、書き留めた内容を分かち合うように言います。
- 新会員に歓迎の手紙を書き送ってください。



効果的に研究し、 教える準備をするには どうしたらよいでしょうか

深く考えましょう

- 福音を研究することはなぜ大切なのでしょう。
- わたしが研究することによって、教える人々にどのような影響を与えるのでしょうか。
- なぜ絶えずイエス・キリストの福音の教義を大切に蓄える必要があるのでしょうか。
- 回復されたイエス・キリストの福音の教義を学び、人々に教える準備を効果的に行うにはどうすればよいのでしょうか。
- どうすれば個人学習と同僚との勉強会を改善できるのでしょうか。

主はこのように言われました。「わたしの言葉を告げようとしないうで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21) 効果的に教えるには、霊的な知識を得る必要があります。福音の中で成長を遂げ、永遠の命に至る道にとどまるには、福音を勉強する習慣を身に付けなければなりません(教義と聖約131:6参照)。宣教師として身に付ける勉強の習慣はあなた自身の祝福となるだけでなく、あなたの教える人々が救い主を信じる信仰を増し加える助けにもなるのです。

毎日の勉強の効果を上げるには、必ず祈りによって始めなければなりません。勉強は信仰に基づく行為であって、選択の自由を行使することが求められます。効果的な勉強方法が身に付かず苦しんでいる宣教師は大勢います。何をどのように勉強するかについて、他人の意見や体系化されたプログラムに頼りすぎている人がいます。優れた教師から学ぶことは非常に大切ですが、もっと大切なのは、自分自身で意味のある学習経験をすることです。勉強から優れた結果を引き出すには、強い学習意欲を持ち、「誠心誠意」で研究し(モロナイ10:4)、「義に飢えかわ〔き〕」(マタイ5:6)、求道者の質問や不安に対する答えを探し求めることが必要です。

メモ

活動—個人学習

前ページのジョセフ・スミスの絵を見てください。ジョセフ・スミス—歴史1：11–13を読んでから、以下の質問の答えを学習帳に書いてください。

- ジョセフ・スミスがヤコブの手紙1：5を読み、深く考えたことはどのように啓示を受けることへつながったのでしょうか。
- ジョセフが研究したことは、後代の人々にどのような影響を及ぼしたのでしょうか。
- ジョセフが研究し、答えを探し求めたことはあなたにどのような影響を及ぼしているのでしょうか。
- 福音を研究することによって、あなたは生活にどのような影響を受けているのでしょうか。

聖文研究

主はわたしたちにどのような心構えで福音研究に取り組むことを望んでおられるのでしょうか。

2ニーファイ4：15–16 教義と聖約58：26–28 教義と聖約88：118
2ニーファイ32：3

聖霊によって学ぶ

福音の学習が最大の効果を上げるのは、聖霊によって教えを受けるときです。学ぶことができるように必ず聖霊の助けを祈り求めてから福音の勉強を始めます。聖霊によって与えられる知識と確信はあなたの生活に恵みをもたらし、さらにあなたがほかの人々の生活を祝福できるようにしてくれます。イエス・キリストを信じるあなたの信仰はいつそう強められることでしょう。また、悔い改めて、成長したいと思う気持ちが強められます。

このような方法で勉強するなら、あなたは奉仕の業に携わるために備えられ、慰めを受け、問題が解決され、最後まで堪え忍ぶ強さが得られるでしょう。福音の効果的な勉強には意欲と行動が求められます。「熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖霊の力によって、昔の時代のみならず今の時代にも……同じようにその人々に明らかにされる。」(1ニーファイ10：19) エノスのように永遠の命の言葉に飢え渴き、それらの言葉を「[あなたの]心に深くしみ込ませる」ならば(エノス1：3)、聖霊はいつそう大きな光と理解に向けてあなたの思いと心を開いてくださるでしょう。

福音を学ぶことは啓示を受けるための一つの段階でもあります(モルモン書ヤコブ4：8参照)。主はオリバー・カウドリにこのように言われました。「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義と聖約9：7–8) 学んでいるときに、特にあなたが教える人々について心に浮かんでくる考えとわき上がる感情に十分な注意を払ってください。



聖文研究

福音を学ぶわたしたちを助けるうえで聖霊はどのような役割を果たされるのでしょうか。

2ニーファイ32：5 教義と聖約11：12–14 ヨハネ16：13
アルマ5：45–46 教義と聖約39：5–6 1コリント2：9–14
モロナイ10：5 ヨハネ14：26

学んだことを実行する

福音を理解することによって喜びを感じると、学んだことを応用したいと思うようになります。理解していることと一致した生活をするよう努力してください。そうすることによって、あなたの信仰と知識と証は強められることでしょう。学んだ事柄を実行することによって、理解がさらに深まり、永続するものとなります（ヨハネ7：17参照）。

研究と信仰によって聖文の言葉と末日の預言者の言葉を大切に蓄えるとき、福音を分かち合う望みが強められます。あなたが何を言い、何を教えるべきかは、御霊によって知らされると約束されています。主は言われました。「また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」（教義と聖約84：85）

「まことの教えを理解すれば、
人の態度や行動は
変わります。

福音の教義を研究することは、
人の行動を研究すること
よりも、ずっと速やかに
行動を改善する力があります。」

——ボイド・K・パッカー会長

「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号、18-19

聖文研究

福音を学ぶことについて聖文は何と教えているのでしょうか。

1 ニーファイ10：17-19

教義と聖約50：19-22

教義と聖約88：118

教義と聖約11：21-22

レッスンを教えるために勉強し、準備する

レッスン（本書の第3章にある）にはバプテスマの面接の質問、決意事項、そして教えるべき教義が記されています。また教える際に役立つアイデアも提案されています。けれども、言うべきことがすべて書かれているわけではありませんし、どのように話したらよいかも書かれていません。したがって、レッスンを十分に理解して、自分の言葉で御霊によって教えるのはあなたの責任です。人々がイエス・キリストを信じる信仰を強め、悔い改めることを望み、神と聖約を交わすように教えるのです。

優れた教師というものは知識と能力を向上させるために絶えず努力しています。教義について知っていることをすべて教えるわけではありませんが、知識を増し加えるならば、自分の証を強め、霊的な力をもって教える能力を高めることができます。以下を行えば、レッスンを意図されたとおりに教えていることが自分で確認できます。

- レッソンを準備し、教えるときに御霊を求め、御霊に従う。
- 絶えず教義を研究し、大切に蓄え、生活の中で応用する。
- 同僚と協力して、教える一人一人のために具体的な計画を立てる。
- 中心となるメッセージと教義に集中して教える。
- 教える相手の必要を満たすために、順序、時間、ペースを調整する。
- 聖文をしばしば使い、はっきりと確信をもって教える。
- しばしば証を述べる。
- バプテスマと確認の儀式につながる決意をして、その決意を守れるよう助ける。

以上を実行するときに、回復されたイエス・キリストの福音の証を得るよう人々を助けることができます。

伝道を始めるに当たって、回復された福音のメッセージの構成を学び、教える技術を習得する必要があります。経験を重ねていくうちに、知識を深め、教える技術を向上させたいと思うようになります。約束したレッスンを準備するときには、御霊によって教えることができるように、また相手が決意をして、その決意を守れるよう助けることができるように、レッスン計画が必要になります。以下の指針は伝道期間を通じて応用することができます。けれどもあらゆる状況ですべての指針に従う必要はありません。あなたの必要を満たすため、また御霊に導かれるままに、これらの指針を応用してください。外国語を学んでいる場合は、最初に自国語で指針を当てはめて、次に伝道部の言語で応用します。

- **決意とバプテスマの面接の質問に集中する。**バプテスマと確認の儀式を受けることについて、決意と準備ができるように教えます。各レッスンの決意事項とバプテスマの面接の質問を理解しておかなければなりません。あなたのレッスンを受ける人々が、何を知り、感じ、行うことになるのかを理解してください。その原則を自分の言葉で明確にまた力強く説明するために同僚と協力します。
- **教義を学び、応用する。**レッスンの基礎を成しているのは教義です。聖文、レッスン、パンフレット、「教えるためのアイデア」や宣教師基本図書を祈りの気持ちで研究し、教義を確実に理解します。レッスンの教義を裏付ける資料を探してください。教義的な原則をどのような順番で教えるかを暗記します。学んだことを実際の状況に当てはめます。学んだことを学習帳に記録します。学んだことをほかの宣教師と分かち合います。

- **教える事柄を組み立て、まとめる。**

明確に、また霊的な力によって教義を教える準備をするために、教える事柄を組み立てて、レッスン計画という形にまとめます。レッスンで採り上げる教義、バプテスマの面接の質問、決意に焦点を絞ります。聖文、質問、例を使ってレッスン計画を広げます。どの程度広げるかは予定したレッスンの長さに応じて決めます。求道者ごとにまったく新しいレッスンを作るのではなく、レッスンの計画に絶えず磨きをかけ、教える人々の必要に合わせて変更します。初めてレッスン計画を作るときは、簡単で、短い計画を作るようにします。経験を重ねていくにつれて、広がっていきましょう。



- **必要に焦点を合わせる。**福音の原則はだれにも当てはまるものですが、教える人々の必要に合わせて教え方を変更しなければなりません。教義を研究し、レッスンを計画する段階で、必要が生じたときにどの部分の教え方を変えることができるかを確認しておきます。具体的なレッスンを準備する際に、調整箇所を見直し、磨きをかけることが大切です。どのような勧めを行うかについても明確にしておきます。最終的な目標は、あなたの教える人々がバプテスマと確認の儀式によって回復されたイエス・キリストの福音を受け入れるように助けることであり、それに的を絞る必要があります。

- **質問に答える準備をする。**あなたは宣教師として多くの質問を受けることでしょう。それらの質問を学習帳に記録しておきます。聖文やほかの資料から解答を探します。理解を求めて祈ってください。解答を学習帳に記録します。見いだした事柄をほかの宣教師とともに検討します。将来の参考のために、しばしば受ける質問とその答えを学習帳に記録しておきます。

- **レッスンを教える。**レッスンをすることはあなたの知識と能力を向上させるうえで大きな助けになります。教義を学び、レッスン計画を組み立てたら、同僚やほかの宣教師に教えてください。新しい説明の方法、教え方、経験、質問、決意を勧める方法を試します。ほかの宣教師にアイデアや提案を求めてください。
- **教え方を評価する。**様々な状況で教える度に、どれほどうまくできたかを評価します。教義に的を絞れたでしょうか。求道者に悔い改めるように、また決意をしてそれを守るように勧めたでしょうか。バプテスマと確認の儀式に備えることができたでしょうか。効果的な質問を使ったでしょうか。証^{あかし}を述べたでしょうか。リフェローを求めたでしょうか。上達した度合いに応じてレッスン計画を調整してください。

レッスンを研究するとき、教義についての知識を深めることを常に目指してください。いっそう大きな力によって教えられるよう積極的に学びます。祈りと信仰によって研究するとき、知識と証^{あかし}が増します。けれども、自分の知っていることをすべて教えようとしてはなりません。メッセージをはっきりと簡潔に、個人の必要に基づいて、御霊^{みたま}に導かれるままに教えてください。御霊は「それぞれの者に必要な部分」を授けてくれます（教義と聖約84：85）。

言葉を定義する

わたしたちの力強いメッセージには独特の用語が使われています。医師は病院の待合室と手術室で言葉を使い分けます。それと同じように、わたしたちはメッセージをまだあまり知らない人々でも理解できる言葉で教えるようにしなければなりません。

なじみのない用語を理解してもらうための準備として、各レッスンの「教えるためのアイデア」に挙げられている主要な言葉と用語を定義したリストを研究します。掲載されている定義に精通してください。これ以外の語句の定義は『真理を守る』と『聖句ガイド』から見つけます。それらの定義を学習帳に書き留めておきます。定義を同僚やほかの宣教師に紹介して、自分の理解が正しいことを確認してください。定義の内容がほかの人に分かりにくければ、自分が研究している資料に基づいて定義を修正します。

教えるときに、自分の説明の中に、相手にとって新しい言葉や原則が含まれているかどうか気づくように努力してください。よく知らない言葉や原則が出てきたら、時間を取って説明します。あなた自身とあなたが教えている人々が「両者ともに教化されて、ともに喜ぶ」には（教義と聖約50：22）、理解できるように教える必要があることを記憶にとどめましょう。

活動—個人学習

第3章の「イエス・キリストの福音の回復のメッセージ」を開いて、「教えるためのアイデア」の中にある主要な言葉を定義したリストを読みます。レッスンの中から定義が必要だと思われる言葉をほかに3つ探して、上記の提案に基づいて、各語の定義を作ります。

研究のためのアイデアと提案

本項で採り上げられているアイデアと提案は、学習時間をより有意義で靈的に高められるものとするを目的としています。学習計画を立てるときに以下を検討してください。

- 常に祈りによって始める。
- 救い主を信じる信仰を築き、実りある時間となるように、学習活動を計画する。
- 教える人々と彼らの必要、バプテスマと確認の儀式、最後まで堪え忍ぶことを中心にした学習を計画する。学習計画をデイリープランナーに記入してください。
- 次のように自問しながら計画を立てます。「今日どのようなことについて教えることになっているだろうか。」「どうすれば教える人々に最も役立つような勉強ができるだろうか。」「本項のアイデアと提案から、どれを自分の学習に取り入れることができるだろうか。」

学習活動を計画するとき、ほかの人から学んだアイデアや提案をそのまま、あるいは自分のアイデアを加えて試してみるようにします。

学んだことを応用し、生活に取り入れる

- 学んだことを自分に「当てはめ」る（1ニーファイ19：23参照）。
- 学んだことを生活に取り入れる目標を設定する。
- 聖句を自分に当てはめるために、自分の名前に置き換えて考える。
- 次のように自問します。「これを学んだことによってわたしはどのように変わらなければならないだろうか。」適切な目標を設定してください。

活動—個人学習

以下の参照聖句から一つを選んでください。その聖句を読み、深く考えて、生活の中で応用できる方法を二つか三つ見つけます。

- 2ニーファイ31章
- アルマ32：26-43
- モロナイ7：32-48

自分が教えている原則にどれほど従って生活しているかを評価します。改善できる方法の一つを選んで、そのための計画を立てます。

調べ、深く考え、記憶にとどめる

- 集中できるように、運動し、シャワーを浴び、祈ってから勉強に取りかかります。
- 筆記できるように、机かテーブルを使って勉強してください（寝転んだり、ベッドの上に座ったりするのはよくありません）。学習資料をそろえて、集中を持続させてください。
- 理解できるよう祈り求めてください。
- テーマごとに研究してください。
- 次のように自問してください。「著者は何を言おうとしているのか。」「中心となるメッセージは何か。」「これはわたしにどのように当てはまるだろうか。」
- 勉強している事柄を心に描いてください。例えば、アンモンがレーマン人の王の前に立ったときの光景をイメージします。
- 生ける預言者の言葉を研究します（承認された宣教師基本図書と教会機関誌に掲載されているもの）。
- 学習帳に質問を書き出し、それから聖典、末日の預言者の言葉、その他の学習資料を使って答えを見つけます。
- 一つの節に幾つかの概念が含まれている場合があります。一つの節の中にある複数の概念を区別できるように、語句に傍線や印を付けておきます。
- 学んだ事柄をほかの宣教師と分かち合ってください。教義や原則をほかの人に説明することによってさらに学ぶことができます。

- 聖典に印を付け、メモを書き込んでください。学んでいる聖句の余白に、その意味を説明している参照聖句の箇所を書いておきます。
- あなたが教える原則を説明したり、裏付けたりする聖句を暗記してください。

研究資料を活用する

- 末日聖徒版の聖典から研究資料を活用します（章の前書き、脚注、『聖句ガイド』（ジョセフ・スミス訳と地図も含む））。
- レッスン、承認された宣教師基本図書、教会機関誌、本書を活用します。
- 聖典の章の前書きに目を通します。これによって章の中に何が記されているかが分かります。
- 学習帳を使って、学んでいることを記録し、整理します。記録した事柄にしばしば目を通します。学んだことを容易に思い出せるように学習帳を系統立てて整理します。
- 本書をワークブックとして活用します。余白を使って感想やアイデアを書き込んでおきます。
- 本書に挙げられている聖句を研究します。ほかに見つけた聖句があれば、本書か学習帳に書き留めておきます。

全体像を把握する

- 書、章、数節をざっと読むか、前書きに目を通して概要を把握します。前後関係と背景を理解するようにします。
- 聖句の主概念を一文または短い段落にまとめるようにします。
- 地理、距離、気候、地勢を理解するために聖書地図と教会歴史地図を活用します。
- 出来事の流れと文化を復習してください。『聖句ガイド』と章のまとめから歴史的な情報を読んでください。

活動——個人学習

以下の書の各章のまとめを読んで、各書の背景、おもな出来事、主要な教義を書き出します。

ニーファイ第一書

モーセ書

使徒行伝

詳細を調べる

- 鍵となる言葉を見つけて、その意味を確実に理解します。定義については脚注、『聖句ガイド』、そのほかの辞書を活用します。前後の文章を調べて、鍵となる語の意味を理解する手がかりとなる語句を見つけます。
- したがって、また再び、このようにして、このようなわけでなどの接続語を探してください。さらに、前後の節とどのような関係にあるかを調べます。
- 『聖句ガイド』を使って、ほかの文脈でどのように用いられているか、あるいはほかの預言者が同じ語をどのように使っているかを調べます。
- なじみのない語句を探して、その意味を確実に理解します。

聖典に印を付ける

聖典に印を付けることによって、聖句や福音の教義について深く考えることができます。聖典に印を付ける方法はたくさんあります。あなたにとって役立つ方法を見つけます。以下の指針を参考にしてください。

- ペンか蛍光ペンを使います。インクが紙の裏までにじみ出るようなペンは使わないようにします。
- 節の一部、節全体、数節の聖句を塗りつぶす、傍線を引く、括弧で囲む、線で囲むなどの方法があります。
- 印を付けすぎないようにします。あまりに多くのメモや線、色をつけているために、印の意味を理解できなくなってしまうとしたら、意味がなくなります。
- 節、章を強調するために幾つかの大切な語だけに傍線を引きます。
- 大切な語を丸で囲むか、傍線を引いてから、密接な関係のある語と結びつける直線を書き入れます。
- 一つの節の中で幾つかの要点が関連を持っている場合、行間または文中に番号を付けます。
- どの聖句に印を付け、聖句をどう解釈するかについて情報を得るために脚注を利用します。
- 記憶しておく必要があると思う大切な節の余白部分に印（チェックマークなど）を付けておきます。

聖句に印を付けておくと、学んだことを応用したり、人々を教えたりすることにさらに集中できるようになるはずです。統一性があって、宣教師としての目的を果たすために役立つ方法を開発してください。

記憶にとどめましょう

まだ試したことのない提案があるでしょうか。「研究のためのアイデアと提案」から提案を一つ選んで、次回の個人学習または同僚との勉強会で試してください。

記憶にとどめましょう

- あなた自身が救われ、宣教師として成功するために、学習意欲を持ち続けることは大切である。
- 研究と信仰と、聖霊の力によって福音を学ぶ。
- 学習は喜びであり、多くの祝福をもたらす。
- 日々の個人学習と同僚との勉強会を通して信仰を強め、御霊によって教える能力を高める。
- 様々な研究方法を使って、研究を意義深く楽しいものにする。

研究と応用のためのアイデア

メモ

個人学習

- 以下について自分を評価してください（1=決してしない，3=時々する，5=ほとんどいつもする）。
 - 勉強するときは，教えている人々について考えている。
 - 朝勉強したことについて一日中考えている。
 - 勉強しているときに，かつて経験したことのない考えが浮かんでくる。
 - 霊的な印象や考えを適切な箇所に記録している。
 - 勉強しているときに眠ってしまう。
 - 個人学習を楽しみにしている。
 - 同僚との勉強会を楽しみにしている。

自分の答えを検討します。どの項目が良くできているでしょうか。改善したい項目があるでしょうか。学習の質を向上させるための目標を一つか二つ立ててください。

- 本章の初めに記されている「深く考えましょう」の質問をもう一度考えてください。これらの質問はあなたの勉強にどのような影響を与えるでしょうか。
- 「研究のためのアイデアと提案」を復習してください。まだ使ってみたことのない提案を各項目から一つ選び，個人学習で実行してください。
- 教義と聖約138：1-11を読んでください。読みながら，以下の質問に答えてください。
 - 思いが開かれるために，スミス大管長はどのようなことをしなければならなかったでしょうか。
 - スミス大管長は深く考えていた教義についてどのように感じていたでしょうか。
- 『聖句ガイド』にある「知識」の定義と，列挙されている参照聖句を読んでください。学習帳に「宣教師として奉仕するためにどのような知識が助けになるか」という質問に対する答えを書いてください。
- もっとよく理解したいと考えている教義を第3章から一つ選んでください。答えを得たいと思う質問を学習帳に書き出してください。一定期間（数日）その教義を詳しく調べて，理解が増し加えられるよう具体的に祈ってください。学んだことを書き留めておきます。
- 1ニーファイ10：17；11：1-6を読んでください。これらの聖句を読みながら，「ニーファイは父が知っていたことをなぜ知ることができたか」という質問に答えてください。

同僚との勉強会

- 以下の聖句と一緒に読んで，「わたしたちはなぜ神の光を求めなければならないか」という質問に答えてください。

教義と聖約11：11-14 ヨハネ8：12 詩篇119：105
 教義と聖約84：43-47

メモ

- 以下の聖句から幾つかを同僚と一緒に読んで、神の言葉を研究することによってもたらされる祝福について話し合ってください。あなたの教えている人々にとって最も大きな助けになるのはどの聖句でしょうか。

1 ニーファイ10：19 アルマ32：42-43 教義と聖約130：19
 2 ニーファイ32：3 アルマ37：44-46 『聖句ガイド』『聖文』
 モーサヤ1：6-7 アルマ49：30 の「聖文の価値」の項
 アルマ17：2-3 教義と聖約90：24

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- あなたが注意深く研究しているテーマをレッスンから一つ選んでください。以下の活動を行います。
 - 研究した結果、そのレッスンを教えるうえで役立つ要点を二つか三つ紹介してください。
 - これらの要点を見つけるうえで役立つ研究方法を説明してください（読み方、使った資料、調べ物をするときに使った質問〔訳注—リサーチクエスションのこと。知りたい事柄を問いかける質問。その問いの答えを見つけるために資料を調べる〕など）。
 - 研究の結果をどのように記録し、まとめたかを説明してください。
 時間が許せば、何人かの宣教師に同じことを発表してもらいます。
- この活動は個人でも小グループでも行うことができます。以下の質問（あるいは独自の質問を作って追加してもよい）の中から一つを選んで答えるよう指示します。質問を書き留めるように言います。
 - 神の計画において家族はなぜそれほど大切なのでしょう。
 - 人はなぜ試練や苦しみを受けるのでしょうか。
 - 改宗において御霊はどのような役割を果たされるのでしょうか。
 以下の活動を5分から7分間で行うことを説明してください。
 - 質問に答えている聖句の参照箇所を少なくとも二つ見つける。
 - 選んだ聖句が質問にどのように答えているかを説明する簡単な文を書く。
 - 答えを覚える方法を説明する。
 - 答えをさらに掘り下げて研究するために何をするかを説明する。
 2, 3人の宣教師（または各グループ）に答えを発表してもらいます。全員で答えについて話し合います。
- 第3章のレッスンの中から、答えを見つけたいと思う福音の原則と教義についての質問を一つか二つ書いてもらいます。その質問をグループで互いに紹介させます。それぞれの質問について以下を話し合ってください。
 - この質問に答えることによって、宣教師の生活にどのような祝福がもたらされるのでしょうか。
 - 求道者の生活にはどのような祝福がもたらされるのでしょうか。
 - 宣教師として、どうすればその質問の答えを見つけられるのでしょうか。
- 数人の宣教師に、同僚から教わった福音の原則の一つ紹介してもらいます。同僚がどの原則を、どのように教えてくれたかを説明してもらいます。

- 宣教師を同僚ごとか、小グループに分けます。各グループにモルモン書から章を一つ選んで、読む割り当てを与えます。各グループに「研究のためのアイデアと提案」で挙げられている各項目の中から一つのアイデアを選んでもらいます。グループで一緒に章を読みながら、そのアイデアを応用します。読んで話し合うための時間を15分から20分取ります。各グループは選んだアイデアを説明し、提案がどのように生かされたか、また何を学んだかを報告します。
- 宣教師一人一人に、聖典の中から自分にとって意義のある物語か出来事を考えてもらいます（例えば、リーハイの命の木の示現、ベニヤミン王の説教、山上の垂訓、ニーファイ人を訪れたキリストなど）。心に思い浮かべたその物語または出来事を絵に描くか、情景を説明してもらいます。2, 3人の宣教師にそれを発表させます。ほかの宣教師には、その物語を話し、それらをレッスンの中の教義の一つに結びつけてもらいます。モロナイ10:3を読んで、霊的な知識について深く考えることの価値について話し合います。

伝道部会長

- 宣教師に各自の学習帳を面接に持参させてください。内容の一部を紹介してもらいます。
- 面接の中で、以下の中から幾つかの項目を質問してください。
 - あなたは最近、聖文研究を行っているときにどのようなことを感じていますか。
 - 最近同僚から教わった福音の原則を一つ紹介してください。
 - 過去2週間で、あなたにとって最も助けになった章または項目を本書の中から紹介してください。
 - 個人学習の中であなたが行っていることで、あなたの学習に最も役立っているのはどのようなことですか。
- 個人学習と同僚との勉強会で経験した意義深い事柄をゾーン大会で分かち合うように勧めてください。
- ゾーン大会で個人学習のアイデアを宣教師に発表させてください。
- あなた自身が個人学習で新たに発見した事柄を紹介してください。学習帳に書き留めた事項、福音の研究の大切さに関する証^{あかし}を宣教師と分かち合ってください。
- できれば、宣教師の同僚との勉強会に参加してください。
- 面接の中で、一つのレッスンについてのレッスン計画を紹介するよう求めてください。それらの教義は宣教師にとってどのような意味を持っているかを尋ねます。



何を研究し、教えたら よいでしょうか

本章のレッスンには、基本的な教義と原則と戒めが記されています。これらを学び、信じ、大切に、実践し、教えてください。それらは生ける預言者と使徒たちから、教えるよう指示されている事柄です。レッスンは、人々にキリストの教義をはっきりと理解させることができるように構成されています。

本章で採り上げるレッスンは以下のとおりです。

- イエス・キリストの福音の回復に関するメッセージ
- 救いの計画
- イエス・キリストの福音
- 戒め
- 律法と儀式

バプテスマを受けるまでに最初の4つのレッスンを教えてください。あなたの教える人々がレッスンに記されている事柄を決意・実行し、バプテスマと確認を受けるための条件を満たすようにしてください。

バプテスマを受けるまでのレッスンは、ワード宣教師と会員たちの助けを受けながら専任宣教師が中心となって実施します。新会員はバプテスマを受けた後に、最初の4つのレッスンをもう一度受け、さらに「律法と儀式」のレッスンを受けます。ワード指導者は、これらのレッスンを専任宣教師とワード宣教師のどちらが中心となって教えるかを決め、レッスンが確かに行われるようにします。また専任宣教師がどれほどの期間レッスンに携わるかも決定します。新会員がこれらのレッスンの決意事項を守るよう励ましてください。

また、個人学習や同僚との勉強会、ディストリクト・ミーティングやその他の訓練の場でこれらのレッスンを活用してください。聖文を研究し、レッスンで採り上げられている教義を心の中に大切に蓄えるなら、御霊は、あなたが何を話し、何を行うべきかを、必要なそのときに知らせしてくれるでしょう。こうして教えていることが真実であるという証を人々が得られるよう助けるのです。

あなたは宣教師として、心から、また御霊によって教えるという大きな責任を担っています。大管長会と十二使徒定員会はこのようにはっきりと言いました。「わたしたちの目的は、宣教師と教える人々が、ともに御霊に導かれるような方法によって、回復された福音のメッセージを教えることである。〔レッスン〕の概念を学ぶことは必要不可欠であるが、暗記したことをそのまま教えてはならない。御霊によって促されたときに、宣教師は、ためらわずに自分の言葉で話す

メモ

べきである。暗記した言葉をそのまま言うのではなく、心を込めて自分の言葉で話す。レッスンの順序から離れて、求道者の関心と必要に応じて、御霊に導かれるままに進めてもよい。自分自身の確信とともに、自分の言葉で話し、教えていることが真実であることを証する。」（「伝道活動に関する声明」大管長会からの手紙、2002年12月11日付参照）同僚とともにレッスンを研究し、教える準備をするとき、これらの指示をしっかりと心に留めておいてください。これらのレッスンに含まれているすべての教義を教えるようにしてください。

御霊の導きを受けないかぎり、最初の3つのレッスンは、本書に記されている順序に従ってすべての内容を教えます。適切であれば幾つかの戒めを含めたり、別個のレッスンとして教えたりしてもよいでしょう。

各レッスンにはバプテスマの面接の質問、決意事項、宣教師が教えるべき教義の概要が記されています。教義を十分に学んでください。教える人々が決意をし、それを守り続けるよう助けることに絶えず気持ちを集中させてください。教える人々をバプテスマと確認に備えさせるためにバプテスマの面接の質問を活用します。レッスンには教えるためのアイデアも記されています。これらの提案を活用して、準備し教える方法をさらに充実させてください。

暗記の果たす役割

レッスンで使えるように聖句を暗記します。各レッスンの教義上の要点を順序立てて暗記するよう決意してください。外国語を学んでいる宣教師は、レッスンを教える準備として言語学習に取り組んでください。レッスンに出てくる単語、語句、文型、教義にかかわる短い文章を暗記すべきですが、その内容を十分に自分のものにしてから覚えます。レッスン全体を丸暗記してはなりません。

明確に教える

最初の3つのレッスンの最後には、教える人々にとってなじみがないと思われる用語の一覧があります。これらの言葉を簡潔に定義する方法を習得してください。教えるときには、メッセージをできるだけ分かりやすくすることを心がけましょう。

聖文研究

あなたは何を教えるよう指示されているでしょうか。

モーサヤ18：18-20 教義と聖約43：15-16 教義と聖約52：9

レッスンで採り上げられている教義を研究しなければならないのはなぜでしょうか。

アルマ17：2-3 教義と聖約84：85

イエス・キリストの福音の回復に 関するメッセージ

メモ



© 1991 Greg K. Olsen. 複製は禁じられています。

あなたの目的

福音を教えるときに、求道者が教義と聖約20：37と、バプテスマの面接の質問で明らかにされているバプテスマの条件を満たせるよう備えてください。以下の事柄を決意して、それを守るよう勧めることで最もよく助けることができます。

バプテスマの面接の質問

- あなたは神が永遠の御父であられることを信じていますか。
- あなたはイエス・キリストが神の御子であられ、世の救い主、^{あがな}贖い主であられることを信じていますか。
- あなたはイエス・キリストの教会と福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことを信じていますか。
- あなたは「現在の大管長」が神の預言者であることを信じていますか。そのことはあなたにとってどのような意味がありますか。

決意

- モルモン書が神様の言葉であることを知るために、モルモン書を読み、祈っていただけますか。
- ジョセフ・スミスが預言者であったことを知るために、祈っていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

神様は、愛にあふれる天のお父様です

神様はわたしたちの天のお父様です。わたしたちは神様の子供です。神様は骨肉の体を持っておられます。栄光を受けた、完全な体です。神様はわたしたちを愛しておられます。神様は、わたしたちが苦しんでいるときに一緒に涙を流し、正しいことをするとき喜んでくださいます。神様は、わたしたちと話すことを望んでおられます。わたしたちは心から祈ることで、神様と話すことができます。

神様は、わたしたちが学び、成長するために、地上で生活する機会を下さいました。わたしたちは正しい選択をし、神様の戒めに従うことで、神様への愛を示すことができます。

天のお父様は、子供であるわたしたちに、この世ですばらしい人生を送り、お父様のもとに戻って生活する方法を用意してくださいました。けれども、そのためには、従順になり、清く、汚れない状態にならなければなりません。不従順は、わたしたちを天のお父様から遠ざけます。お父様の計画の中心は、イエス・キリストの贖いあがなです。この贖いには、イエス・キリストの十字架上であがなの苦しみと死だけでなく、ゲツセマネの園でのイエス様の苦しみが含まれています。わたしたちは贖いによって罪の重荷から解放されます。そして、試練に立ち向かうための信仰と強さを得ることができるのです。

神について信じていること

あなたの教えている人が、キリスト教の人々が信じている神についてどのように理解しているかを明らかにします。今日の世の多くの人は、神について何の考えも持っていないか、非常に異なった考え方をしています。

モルモン書に登場する二人の宣教師、アンモンとアロンは、キリスト教の教えを知らない人々に教えました。彼らは簡潔な真理を教えて、求道者に祈るよう勧めました。そしてラモーナイとその父は改宗しました。アルマ18：24-40と22：4-23を読んで、以下の質問に答えてください。

- これらの宣教師は、神の特質についてどのようなことを教えましたか。
- どうしたら彼らの模範に従うことができますか。

聖文研究

父なる神とイエス・キリストはどのような特質を持っておられるでしょうか。

1 ニーファイ 17：36	3 ニーファイ 27：13-22	ヨハネ 3：16-17
2 ニーファイ 9：6	教義と聖約 38：1-3	使徒 17：27-29
モーサヤ 4：9	教義と聖約 130：22	ローマ 8：16
3 ニーファイ 12：48	モーセ 1：39	ヘブル 12：9
3 ニーファイ 14：9-11	マタイ 5：48	1 ヨハネ 4：7-9

家族は福音から祝福を得られます

夫と妻、両親と子供が、家族関係のきずなをさらに強いものにしようとするとき、また、家族を霊的に強めようと努力するとき、回復された福音は祝福と助けを与えてくれます。この祝福は、この世と永遠にわたって得ることができます。イエス・キリストの福音は、目の前にある問題や困難に対して助けを与えてくれます。

家族は神様が定められたものです。ですから、家族はこの世と永遠にわたって最も大切な社会の単位です。神様は、御自分の子供たちを幸せにするために、家族を作られました。わたしたちが、愛に満ちた環境の中で正しい原則を学び、永遠の命に備えられるようにしてくださったのです。家庭は、イエス・キリストの福音の原則を教え、学び、応用するための、最もすばらしい場所です。福音の原則のうえに築かれた家庭は、嵐あらしから守られる安全な場所となります。そこは主の御霊みなたまがとどまる場所となります。また、家族に平安と喜びと幸福を与える場所となります。神様は、すべての時代の預言者を通して、個人と家族のための幸福の計画を明らかにしてこられました。それは現代も同じです。

天のお父様は、すべての神権時代に福音を明らかにされます

神様は一つの大切な方法を通して、わたしたちへの愛を示されます。それは預言者を召すことです。預言者は神権を授けられています。神権とは、神様の子供たちの救いのために、神様の御名によって行動する力と権能です。預言者は、啓示によってイエス・キリストの福音を学びます。そして人々に福音を教え、イエス・キリストが救い主、贖い主であることを証します。預言者の教えは、聖典という神聖な書物に書いてあります。

わたしたちが素晴らしい人生を送り、神様のもとへ戻って生活するために、天のお父様は一つの計画を立てられました。その計画は、イエス・キリストの福音と呼ばれています。この計画の中心は、イエス・キリストの贖いです。わたしたちは、イエス・キリストの贖いを通して、永遠の命を受けることができます。そのためには、イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、罪の赦しを受けるために、水に沈めるバプテスマを受ける必要があります。また、聖霊の賜物を受けて、最後まで堪え忍ぶ必要があります。「これが道である。そして、このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていない。見よ、これがキリストの教義で〔ある。〕」

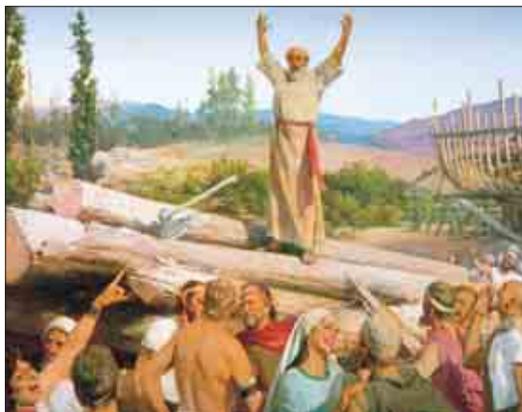
(2ニーファイ31：21) すべての人には、選択の自由という賜物（贈り物）が与えられています。つまり、預言者や使徒が教えた福音を受け入れるか、受け入れないかを選ぶ自由があるのです。従うことを選んだ人は、祝福されます。けれども、福音を大切にしないで、拒み、曲げる人は、神様が約束された祝福を受けることができません。

福音の原則や儀式を無視し、背き、曲げるとき、人は神様から離れます。主の預言者を拒み、信仰をもって堪え忍ばなくなるときも同じです。彼らは霊的な暗闇の中を生きるようになるのです。そして最後には、「背教」という状態になります。背教が広がると、神様は神権の権能を取り去られます。福音の儀式を教え、執り行う権能がなくなるのです。

聖書には、神様が預言者に語られたときのことが多く書かれています。背教が起きたときのことも多く書かれています。神様は、新しく預言者を召すことで、それぞれの背教の時代に終わりを告げてこられました。御自身の子供たちへの愛を示してこられたのです。そして、イエス・キリストの福音を回復し、もう一度教えるために、預言者に神権の権能をお授けになりました。預言者は管理者として、地上の神様の家族を見守ります。このように預言者に導かれた時代を、「神権時代」と呼んでいます。

神様はアダムに、イエス・キリストの福音を教えられました。そして、神権の権能を授けられました。アダムは、地上で最初の預言者です。アダムは啓示を通して、人と父なる神様、御子イエス・キリスト、聖霊との正しい関係学びました。また、イエス・キリストの贖いと復活、福音の第一の原則と儀式についても学びました。アダムとエバは、この真理を子供たちに教えました。そして信仰を育て、すべての面で福音に従って生きるように、子供たちに勧めました。アダムの後に、ほかの預言者たちが召されました。けれども、長い年月の間に、アダムの子孫は福音を拒んでいきました。そして、正しくないことを選び、背教に陥ったのです。

こうして、預言者によって導かれる神権時代が始まりました。旧約聖書の歴史のほとんどが、この神権時代についての記録です。天のお父様は、ノア、アブラハム、モーセなどの預言者に、直接語られて、福音を明らかにされました。この預言者たちは、それぞれ新しい福音の神権時代を開くために神様から召されたのです。神様は預言者一人一人に、神権の権能を授けて、永遠の真理を明らかにされました。でも残念なことに、人々は、どの神権時代においても、最後には福音を拒むことを選んで、背教に陥りました。



メモ

預言者

あなたの教えている人が、預言者についてどのようなことを理解しているか明らかにします。ほとんどの文化には、聖人や靈感を受ける人が神から導きや指示を受けると信じる人がいます。けれども、靈感を受ける人がすべて、回復された福音で定義されている神の預言者というわけではありません。神が新しい神権時代を起こすために、預言者をお召しになり、地上に神の王国を確立されることを明確に説明します。神はその預言者に神権の権能を授けられます。預言者はそこで、人と神との関係をはじめ、イエス・キリストの福音を通して永遠の命を受ける方法を人々が理解できるように助けます。

あなたはキリスト教の背景や文化を持たない人々に教えるとき、福音の神権時代をどのように意義づけたらよいだろうかと考えるかもしれません。しかし、福音の神権時代の歴史を簡単に説明することによって、神は御自分の子供たちを愛しておられ、昨日も、今日も、また、永遠に変わる事のない御方であることを理解するように助けることができます。

聖文研究

預言者

モルモン書ヤコブ4：4、6

使徒10：34-43

アモス3：7

モーサヤ8：13-18

神権時代

教義と聖約136：36-38

モーセ8：19-30

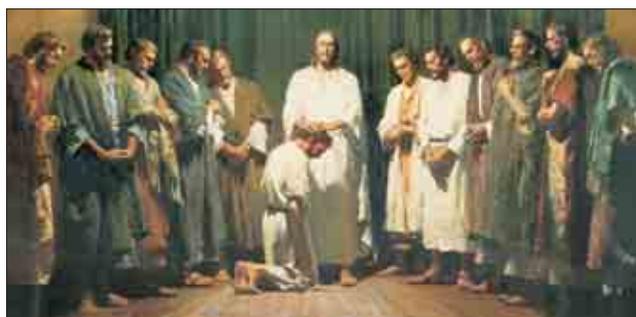
『聖句ガイド』「神権時代」の項

モーセ5：4-12, 55-59

救い主の地上での働き

イエス・キリストがお生まれになる数百年前にも、人々は背教に陥りました。けれども、救い主はこの世での働きを始められ、地上に主の教会をもう一度設立されました。

天のお父様は、全人類の罪を贖い、死を克服するために、御子を地上に遣わされました。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは……御子によって、この世が救われるためである。」(ヨハネ3：16-17) 天のお父様が御子イエス・キリストを遣わされたのは、イエス様が地上のすべての人の罪を身に受け、肉体の死に打ち勝つためでした。そのためには、イエス様自身が苦しみを受けなければなりません。救い主は無限の贖いの犠牲をささげられました。ですから、救い主を信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマと聖霊を受け、最後まで堪え忍ぶなら、わたしたちは罪の赦しを受けます。そして、永遠の命へと続く道に入って、神様のもとへ歩めるようになるのです(2ニーファイ31：13-21参照)。



何よりも重要なことに、救い主は贖いを成し遂げられました。神様の御子、主イエス・キリストは、天のお父様から命じられたすべてのことを果たされたのです。

救い主は、御自身の死と復活の前に、使徒たちに権能を与えられました。福音を教え、救いの儀式を執り行い、この世で主の教会を築くための権能をお与えになったのです。

救い主は、この世で務めを果たされていたとき、福音を教え、多くの奇跡を行われました。また、12人を使徒に召し、彼らの頭に手を置いて神権の権能を授けられました。救い主は、御自身の教会を組織し、預言を成就されました。その後、救い主は人々から拒まれ、十字架につけられました。そして

聖文研究

信仰箇条1:5
マタイ10:1-10

ルカ6:13
ヨハネ15:16

ヘブル5:4

メモ

大背教

イエス・キリストが亡くなった後、悪い人々は使徒と教会員を迫害しました。多くの教会員が殺されました。使徒が亡くなったことで、神権の鍵と、神権の管理の権能は地上から取り去られました。それまで使徒は、福音の教義を純粹に保っていました。また教会の秩序と教会員のふさわしさの標準を保っていました。しかし使徒がいなくなったことで、福音の教えはだんだんと腐敗していきました。また、教会の組織や神権の儀式が、許可なしに変えられていきました。バプテスマや聖霊の賜物を授ける儀式が変えられていったのです。

啓示や神権の権能がないため、人々は人間の知恵に頼って、聖文やイエス・キリストの福音の原則と儀式を理解するようになりました。間違った考えが真理として教えられました。父なる神様と御子イエス・キリストと聖霊のほんとうの属性や特質に関する、多くの正しい知識が失われました。イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物に関する教義は曲げられ、忘れ去られました。キリストの使徒たちに授けられた神権の権能は、地上からなくなったのです。この背教によって、次第に多くの教会ができました。

霊的な暗黒時代が何百年も続いた後、真理を求める男女は、そのとき行われていた宗教上の習慣に反対し始めました。多くの福音の教義や儀式が変えられ、失われていることに気がついたのです。彼らはいっそう大きな光を探し求めました。そして多くの人が、真理を回復する必要があることについて話しました。けれども彼らは、自分が預言者として神様から召されているとは言いませんでした。変えられ、曲げられていると思われる教えと儀式を元に戻そうとしたのです。彼らの働きは、多くのプロテスタント教会を生みました。この宗教改革によって、宗教の自由が重要視されました。そして最終的な福音の回復へと道が開かれたのです。

救い主の使徒たちは、全世界で背教が起きることを預言していました。また、イエス・キリストの福音と、その教会がもう一度地上に回復されることも預言していました。

聖文研究

1 ニーファイ13章

使徒20:28-30

『聖句ガイド』「背教」の項

2 ニーファイ26:20-21

ガラテヤ1:6-9

『真理を守る』「背教」153-

2 ニーファイ28章

2テサロニケ2:1-12

154

4 ニーファイ1:27

(ジョセフ・スミス訳, 2, 3, 7-9節)

Our Search for Happiness,

教義と聖約86:1-3

1テモテ4:1-3

23-32

マタイ24:9-11

2テモテ4:3-4

『キリスト・イエス』第40章

マルコ12:1-9

2ペテロ2:1-2

「背教の長い夜」の項

使徒3:19-21

アモス8:11-12

メモ

大背教

求道者は、イエス・キリストと使徒たちの死後に、世界的な背教が起きたことを理解しなければなりません。もし背教が起きなかったとしたら、回復の必要はないのです。ダイヤモンドを黒いビロードの布の上に乗せるとその輝きが引き立つように、福音の回復は、大背教という暗黒を背にするとときに大きな輝きを放ちます。御霊^{みたま}の導きに従い、求道者の必要と状況に合わせ、大背教について教えてください。イエス・キリストの福音を回復する必要があったことを、求道者に理解させることを目的としてください。

要点

- イエス・キリストの教会は、使徒と預言者という土台のうえに築かれています（エペソ2：19-20；4：11-14参照）。これらの指導者は、聖なる神権の権能を持っています。彼らは、啓示によって、教会で行うことについて指示を与えます。また、教義を純粋なまま保ち、儀式を執り行う権限を与えます。そして人々を召して、神権の権能を授けます。
- 人々は、イエス・キリストと使徒たちを拒み、殺しました（マタイ24：9；1ニーファイ11：32-34；2ニーファイ27：5参照）。使徒たちが亡くなったことで、教会を管理するために必要な神権の権能がなくなりました。聖霊を授ける権能も、ほかの救いの儀式を執り行う権能もなくなりました。啓示はなくなり、教義は曲げられました。
- 教義に関する多くの論争は、使徒たちが亡くなる前から起きていました。最初、クリスチャンを迫害していたローマ帝国は、後にキリスト教を取り入れました。宗教上の大切な疑問点は、話し合うことで決められました。救い主の純粋な教えと儀式は、話し合いにより、この世の考えに合わせたものに変えられました（イザヤ24：5参照）。彼らは、分かりやすくて貴い部分を取り去り、聖典も変えてしまいました（1ニーファイ13：26-40）。人々は、間違った教義や、変えられた教義を使って、教えや信条を作りました（ジョセフ・スミス—歴史1：19参照）。ある人は、高慢な思いから、権力を求めました（3ヨハネ1：9-10参照）。人々は、これらの間違った考えを受け入れました。そして神の真理よりも、人々を喜ばせる教えを説く、偽りの教師を大切にしたので（2テモテ4：3-4参照）。
- 歴史を通じて、多くの人は、間違った信条と教義を心から信じていました。人々は自分の持つ光に従って礼拝し、祈りの答えを受けていました。彼らは「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにい」たのです（教義と聖約123：12）。
- そのため、「宗教改革」ではなく、「福音の回復」が必要でした。神権の権能は、使徒ペテロから途切れることなく受け継がれてはいませんでした。「改革」とは、すでにあるものを変えることです。「回復」とは、何かを元の形に戻すことです。このため、大背教を終わらせるには、神の使いによって、神権の権能が回復される以外に方法はなかったのです。

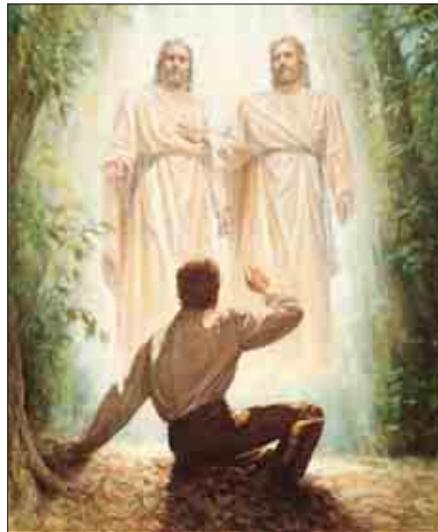
ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの福音が回復されました

天のお父様は、条件が整ったときに、もう一度、御自身の子供たちに愛の手を差し伸べられました。天のお父様は、ジョセフ・スミスという名前の少年を預言者に召されました。ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの完全な福音が、地上に回復されました。

ジョセフ・スミスは、アメリカ合衆国に住んでいました。恐らくアメリカは、そのとき宗教の自由があるただ一つの国でした。合衆国の東部では、宗教上の大きな混乱が起きていました。ジョセフ・スミスの家族は信仰深い人たちで、いつも真理を探し求めていました。けれども、真実の福音を持っていると言う牧師たちはたくさんいました。ジョセフは「すべての教派のうちのどれが正しいか」を知りたいと思いました（ジョセフ・スミス—歴史1：18）。聖書には「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」（エペソ4：5）と書いてあるからです。ジョセフは幾つかの教会に出席しましたが、どの教会に入ればよいのか分かりませんでした。ジョセフは後に、こう書いています。

「様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、わたしのように若……い者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。……この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』（ジョセフ・スミス—歴史1：8, 10)

ジョセフは、たくさんの教会の中から真理を見つけようとしていました。そして、導きを求めて聖書を開き、次の言葉を読みます。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」（ヤコブの手紙1：5）この聖句を読んだジョセフは、何をしたらよいか神様に尋ねることにしました。1820年の春、ジョセフは近くの森へ行き、ひざまずいて祈りました。ジョセフは、そのときの経験をこう書いています。



「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」（ジョセフ・スミス—歴史1：16-17)

この示現の中で、父なる神様と御子イエス・キリストが、ジョセフ・スミスに姿を現されました。救い主はジョセフに、どの教会にも入ってはならないとおっしゃいました。なぜなら、彼らは「すべて間違っ」ていて、「彼らの信条はことごとく……忌まわしいものであ」ったからです。そして主はこう言われました。「彼らは唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している。」（ジョセフ・スミス—歴史1：19）キリストを信じて、キリストの福音を理解し、教えようとする正しい人はたくさんいました。けれども、彼らには完全な真理がありませんでした。バプテスマや、ほかの救いの儀式を執り行う神権の権能がなかったのです。彼らは背教の状態を受け継いでいました。時代は変わっても、前の時代の影響は残ったのです。教義やバプテスマなどの儀式も変えられたままでした。神様は、アダム、ノア、アブラハム、モーセ、そのほかの預言者と同じように、ジョセフ・スミスを預言者として召されました。そしてジョセフ・スミスを通して、完全な福音を地上に回復されました。

メモ

お父様と御子の訪れの後に、天からの使者（天使）が、ジョセフ・スミスとその同僚であるオリバー・カウドリのもとへ遣わされました。まずバプテスマのヨハネが現れ、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けました。アロン神権にはバプテスマを施す権能が含まれています。また、（キリストが最初に選ばれた使徒の中の3人である）ペテロ、ヤコブ、ヨハネが現れ、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けました。キリストの古代の使徒たちに与えられていたのと同じ権能が回復されたのです。ジョセフ・スミスは、この神権の権能によって、地上にイエス・キリストの教会をもう一度組織するよう命じられました。イエス・キリストは、ジョセフ・スミスを通して十二使徒を召されました。

わたしたちが生きているこの時代を、聖書の預言者たちは、「終わりの時」「末の日」または「時満ちる神権時代」と呼んでいます。イエス・キリストの再臨を目の前にした時代です。最後の神権時代です。わたしたちの教会が、末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれているのはこのためです。

この教会は、今日、^{こんにち}生ける預言者が導いています。この預言者は、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長で、ジョセフ・スミスの正式な後継者です。大管長と、現在の十二使徒の持つ権能は、ジョセフ・スミスから途切れることなく、イエス・キリストまでさかのぼります。

ジョセフ・スミス—歴史 1：16–17を暗記する

御父と御子にまみえたときの、ジョセフ・スミスの記述（ジョセフ・スミス—歴史 1：16–17）を暗記し、いつでも自分の言葉で最初の示現を説明できるようにします。暗記した言葉を、早口で言うことのないようにします。それが真実であることを心から^{あかし}証してください。その真理をどのようにして知ったかをためらわずに話します。同僚にも同じようにすることを勧めてください。

証を述べる

現在の預言者と大管長について^{あかし}証を述べることは、宣教師の大切な義務の一つです。

聖文研究

2ニーファイ3章

エペソ4：5

パンフレット

教義と聖約112：30

ヤコブの手紙1：5

『預言者ジョセフ・スミスの証』^{あかし}

エペソ1：10

モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証^{あかし}

愛にあふれる天のお父様は、何世紀も続いた暗黒時代が終わっても、疑いや不信仰、間違った情報がなくならないことを知っていました。そこで、聖書と肩を並べる古代の聖典を世に出されました。イエス・キリストの完全な永遠の福音が収められている聖典です。この聖典は、ジョセフ・スミスがほんとうの預言者であることの確かな証拠です。この記録は、「モルモン書——イエス・キリストについて^{あかし}のもう一つの証」です。

ジョセフ・スミスは、モロナイという名前の天使から丘に案内されました。その丘には、何世紀もの間、金版が埋められていました。この金版は預言者たちの記録で、古代アメリカ大陸の住民に対して神様が行われたことが記されていました。ジョセフ・スミスは、神様の力でこの金版を翻訳しました。モルモン書の預言者たちは、救い主の使命を知っていて、イエス様の福音を教えました。キリストは復活されてから、モルモン書の民に姿を現されました。そして、御自身の福音を人々に教え、教会を設立されました。モルモン書は「神が実に人々に靈感を与えて、昔と同じようにこの時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられる」ことの証です（教義と聖約20：11）。モルモン書が真実であることを知るには、モルモン書を読み、深く考え、祈らなければなりません。心から真理を求める人は、すぐにモルモン書が神の言葉であると感じるようになるでしょう。

いつまでも続く改心をするには、モルモン書を読み、深く考え、祈ることが重要です。初めてモルモン書を読む人は、大切な一步を踏んでいることとなります。ジョセフ・スミスが神の預言者であり、真実の教会が地上に回復されたことを知るための一步を踏んでいるのです。



あかし

モルモン書を活用して、回復が真実であることを確かなものとする

どのようにモルモン書を紹介したらよいか、以下に提案します。

「神様は、御自分の子供たちを愛しておられるので、わたしたちのメッセージが真実であることを確認する方法を与えてくださいました。それはモルモン書です。この書物の序文から、最後の二つの段落を読んでいただけますか。」

これらの段落に記されている概念を、一つ一つ丁寧に説明します。それから、モルモン書の読書課題を読んで、これらの段落で説明されている原則を応用する決意をするよう求道者に勧めます。

モルモン書を紹介するときは、モルモン書を見せて、その内容を簡単に説明し、あなたにとって意義深い聖句や、その人にとって意義深いと思われる、一つまたは二つの聖句を分かち合うとよいでしょう。

聖文研究

モルモン書のタイトルページ 教義と聖約1：17-23 ジョセフ・スミス—歴史1：27-64
モルモン書の序文、段落1-7 教義と聖約20：5-12

聖霊を通して真理を知るために祈る

この福音の回復のメッセージは、真実か、そうでなければ間違っています。モロナイ10：3-5で約束されているように、わたしたちは聖霊によってモルモン書が真実かどうかを知ることができます。真理を知りたいと願う人は、モルモン書のメッセージを読み、深く考えてから、それが真実かどうかを、イエス・キリストの御名によって祈り、天のお父様に尋ねなければなりません。そのためには、天のお父様に語りかける必要があります。わたしたちが受けている祝福を天のお父様に感謝し、モルモン書のメッセージが真実かどうかを知ることができるようお願い求めるのです。だれであっても、祈らないで霊的な真理を知ることはできません。

聖霊は祈りにこたえて、わたしたちの感情と意思を通して真理を教えてください。聖霊から与えられる感情は力強いものですが、通常は優しく、静かなものです。学んでいることが真実であると感じ始めると、福音の回復に関して知ることができるすべてを知りたいと思うようになります。

モルモン書が真実であることを知ると、ジョセフ・スミスが預言者として召されたことが分かります。また、イエス・キリストの福音がジョセフ・スミスを通して回復されたことが分かります。

祈り

- 天のお父様に呼びかける（「天のお父様、……」）。
- 心に感じていることを話す（感謝、質問、モルモン書が真実であることを確認させてくださるようお願い求める、など）。
- 終える（「イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」）。

祈り

祈りは多くの宗教や文化の中で役割を担っていますが、神と人との間で行われる双方の交わりであると考えられることはまれです。祈りによって、自分の心に感じていることを話せると求道者が理解できるよう教えてください。レッスンを始めるときか、終えるときに、あなたが祈って、この模範を示します。彼らが祈るときに使えるように、簡単な言葉で祈ってください。天の御父は、一般的に人々の心と意思を通して、祈りにこたえてくださることを、彼らが理解できるよう助けます。神がおられることをほんとうに知りたいと真心から願うならば、神は、それにこたえてくださるのです。レッスンの最後に、ひざまずいて祈りをささげていただけるか家長に尋ねてください。

聖文研究

アルマ5：45-46
教義と聖約8：2-3

ヨハネ14：26

モルモン書の序文、段落8-9

バプテスマの勧め

このレッスン、またはほかのレッスンでも、バプテスマと確認を受けるよう勧めることをためらってはなりません。

人々に、バプテスマと確認を勧めるために、すべての人が権能を持つ人からバプテスマを受けることの大切さと、罪の赦しや、すばらしい聖霊の賜物を受けることについてしばしば証します。次のように言うことができます。「主が、〇〇さんの祈りにこたえてくださり、このメッセージが真実であると感じるときに、バプテスマを受け、イエス・キリストの模範に従ってくださいますか。」

バプテスマと確認の勧めは、次のように、具体的、かつ単刀直入でなければなりません。「イエス・キリストの模範に従って、神の神権の権能を持つ人から、バプテスマを受けていただけますか。（〇月〇日）にバプテスマ会が予定されています。この日にバプテスマを受けるよう準備していただけますか。」

教えるためのアイデア

本項には、このレッスンを準備し、教えるために活用できるアイデアが記されています。これらのアイデアの使い方については、よく祈ってから、御霊の導きに従って決めてください。選んだアイデアを自分のレッスンプランに書き加えてください。これらのアイデアは、あなたが教える人々の必要を満たすうえで役立てるための提案であって、必ず採り上げなければならないものではないことに注意してください。

ショートレッスンプラン (3–5分)

イエス・キリストの福音は何世紀にもわたって失われていました。けれども、愛にあふれる天のお父様は、生ける預言者を通して、地上に福音を回復されました。モルモン書はこれを証明するものです。〇〇さんは、モルモン書を手に取って、読むことができます。また、この本のメッセージが、〇〇さんの生活をどのように改善できるかを心の中で深く考えることができます。〇〇さんは、このメッセージが、神様の言葉であるかどうかを知るために祈ることができます。

- 神様は愛にあふれる天のお父様です
- 家族は福音から祝福を得られます
- 天のお父様は、すべての神権時代に福音を明らかにされます
- 救い主の地上での働き
- 大背教
- ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの福音が回復されました
- モルモン書—イエス・キリストについてのもう一つの証^{あかし}
- 聖霊を通して真理を知るために祈る

決意

- モルモン書が神の御言葉であることを知るために、モルモン書を読み、祈っていただけますか。
- ジョセフ・スミスが預言者であったことを知るために、祈っていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

ミディアムレッスンプラン (10–15分)

このメッセージはすばらしく、簡単なものです。神様はわたしたちのお父様です。わたしたちは神様の子供です。わたしたちは神様の家族の一員です。神様はわたしたちを愛しておられます。神様は、世の初めから人々を愛し、関心を示してこられました。神様は何度も愛の手を差し伸べ、イエス・キリストの福音を明らかにしてこられました。それは御自身の子供たちに、みもとへ戻る方法を知らせるためです。神様は、アダム、ノア、アブラハム、モーセなどの預言者に福音を明らかにされました。しかし人々は、何度も福音を拒みました。2000年前に、イエス・キリスト御自身が福音を教え、イエス・キリストの教会を設立されました。しかし、人々はイエス様さえも拒みました。人々が真実の教義や儀式を大切にしなかったり、曲げたりするとき、神様は教会を管理する権能を取り上げられます。

メモ

メモ

わたしたちが、〇〇さんとすべての人にお勧めするのは、〇〇さんが大切にしている真理に、新しい真理を付け加えていただくことです。天のお父様と御子イエス・キリストは、神様の子供たちにもう一度愛の手を差し伸べ、預言者を通して完全な福音を明らかにされました。そのメッセージについて深く考えてください。この預言者の名前は、ジョセフ・スミスと言います。このすばらしい真理は、モルモン書と呼ばれる書物の中に記されています。〇〇さんは、モルモン書を読み、深く考え、そこに書いてあることについて祈ることができます。〇〇さんがキリストを信じながら、心から祈るなら、神様は聖霊の力によって、この書物が真実であることを教えてください。

決意

- モルモン書が神の御言葉であることを知るために、モルモン書を読み、祈っていただけますか。
- ジョセフ・スミスが預言者であったことを知るために、祈っていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

フルレッスンプラン (30-45分)

- 神様は愛にあふれる天のお父様です
 - わたしたちは神様の子供です (使徒17:29参照)。
 - 神様は、わたしたちを愛しておられ、正しい選択をするように助けてくださいます。
 - わたしたちは、イエス・キリストのおかげで、再び神様とともに住むことができます (ヨハネ3:16-17参照)。
- 家族は福音から祝福を得られます
 - イエス・キリストの福音は、家族関係をより良いものにするよう助けてくれます。
 - 家族は、神様が定められたものです。家族は、この世と永遠にわたって最も大切な社会の単位です (教義と聖約49:15-16参照)。
 - 家庭は、福音の原則を教え、学び、応用するうえで、最も優れた場所です (教義と聖約68:25; 創世18:19; 申命6:7参照)。
 - 家庭は、安全と平安と喜びの場とすることができます。
- 天のお父様は、すべての神権時代に福音を明らかにされます
 - 神様は、福音を教えるために預言者を召されます (アモス3:7参照)。
 - 背教とは、預言者と福音を拒むことです。
 - 神権時代とは、預言者が福音を教えた期間を意味します。これまでの神権時代は、背教によって終わりを告げてきました (教義と聖約136:36-38参照)。
 - アダム、ノア、アブラハム、モーセをはじめとする古代の預言者は、皆福音を教えました (モーセ5:4-12参照)。
- 救い主の地上での働き
 - 神様の御子は福音を回復し、教えられました。イエス・キリストは多くの奇跡を行われました (『聖句ガイド』「奇跡」の項, 81参照)。

メモ

- イエス・キリストは使徒たちを召して、福音を宣べ伝え、バプテスマなどの救いの儀式を執り行う神権の権能を彼らに授けられました（ヨハネ15：16参照）。
- キリストは御自身の教会を設立されました。
- キリストは十字架につけられ、キリストの使徒たちは拒まれ、殺されました（マタイ27：35；マルコ15：25参照）。
- キリストは贖いを成し遂げられました（『聖句ガイド』「贖罪」の項、131-133参照）。
- 大背教
 - 人々は預言者を通して啓示を受けなければ、霊的な暗黒に陥ります（アモス8：11-12参照）。
 - 預言者と使徒たちは大背教を預言しました（2テサロニケ2：1-3参照）。
- ジョセフ・スミスを通してイエス・キリストの福音が回復されました
 - ジョセフは真理を探し求めました（ジョセフ・スミス—歴史1：8, 10参照）。
 - 神様とイエス・キリストはジョセフ・スミスに御姿を現されました（ジョセフ・スミス—歴史1：16-17参照）。
 - これまでの神権時代の預言者たちと同様に、ジョセフ・スミスは、この最後の神権時代の預言者として召されました。
 - 神様は、ジョセフ・スミスを通して、完全な福音を回復されました（教義と聖約35：17；135：3参照）。
 - ほかの天からの使者により神権が回復され、キリストの教会が組織されました（教義と聖約13章；27：12参照）。
 - 生ける預言者が現在教会を導いています。
- モルモン書—イエス・キリストについてのもう一つの証
 - モルモン書は、ジョセフ・スミスが預言者であったことのできる確かな証拠です。
 - ジョセフは、神様の力で金版を翻訳しました（モルモン書の序文、段落5参照）。
 - モルモン書は、すべての神権時代と同様に、今も神様が預言者に靈感を与えておられることを証明しています（教義と聖約20：5-12参照）。
 - モルモン書には、イエス・キリストの完全な福音が収められています（教義と聖約20：8-9参照）。
- 聖霊を通して真理を知るために祈る
 - あなたはモルモン書が真実であると知ることができます（モロナイ10：3-5；モルモン書の序文、段落1, 8-9参照）。
 - 聖霊は、あなたの思いと感情を通して教えてください（教義と聖約8：2-3参照）。

決意

- モルモン書が神の御言葉であることを知るために、モルモン書を読み、祈っていただけますか。
- ジョセフ・スミスが預言者であったことを知るために、祈っていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

メモ

教えた後に尋ねる質問

- 今日学んだことについて、どのような質問がありますか。
- もし今、地上に預言者がいるとしたら、〇〇さんはどのようなことを尋ねたいですか。
- 神様は、〇〇さんの祈りにこたえてくださると思いますか。それはなぜでしょうか。
- 〇〇さんは、モルモン書が真実の書物かどうかを知りたいですか。それはなぜですか。

主要な言葉の定義

- **贖い主**—贖いによって人類の罪の代価を払い、万人が復活できるようにされたイエス・キリストは、人類の偉大な贖い主であられる。贖うとは、代価を払って人を束縛の境遇から自由にするよう、人を解放したり、買い取ったり、人のために賠償したりすることである。贖いという言葉は、イエス・キリストの贖いと罪からの解放を指す。イエスの贖いは、全人類を肉体の死から贖う。復活だけでなく、ゲツセマネや十字架上の苦しみを含み、イエス・キリストの贖いにより、キリストを信じる信仰をもって悔い改める人は、霊の死から贖われる。
- **回復**—回復するとは、以前の状態に戻したり、取り戻したりすることを意味する。末日聖徒が使う回復という言葉は、背教によって長い間失われていた、イエス・キリストの真の教会が、イエス・キリストによって組織されたときと同じ状態に戻されることを意味する。改革と異なり、回復は、啓示を通して神の権能によって成し遂げられた。
- **啓示**—神が地上の子らに語られること。啓示はキリストの光や聖霊を通して、靈感や示現、夢、天使の訪れなどの方法により授けられる。啓示は、忠実な人を日の栄えの王国における永遠の救いに導く助けを与える。主はその御業を預言者に明らかにし、また信じる人々に対して、預言者への啓示が真実であるとの確認をお与えになる（アモス3：7参照）。導きを求め、信仰を持ち、悔い改めてイエス・キリストの福音に従うすべての人に、主は啓示を通して個人的な導きを与えられる。
- **宗教改革者**—改革するとは、何かを改善するために変更することである。宗教改革者という言葉は、改革する必要があると感じていた、既存の教会の慣習に異議を唱えた（マルチン・ルター、ジョン・カルビン、ウィリアム・ティンダル、ジョン・ウイクリフなどの）男女を指す。
- **神権**—神が人類の救いのために、イエス・キリストの名によってあらゆることを行うよう人に授けられた権能と力。
- **神権時代**—権能を与えられた、聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人、主が地上に置かれる時代。イエス・キリストのほかに、アダム、エノク、ノア、アブラハム、モーセ、ジョセフ・スミスなどの預言者は、それぞれに新しい福音の神権時代を開いてきた。主は一つの神権時代を起こされるととき、その時代の人々が救いの計画を知るに当たって、過去の神権時代に頼る必要がないように、新たに福音を啓示される。ジョセフ・スミスによって始められた神権時代は「時満ちる神権時代」と呼ばれている。
- **選択の自由**—神が人々に与えられた、自分自身で選び、行動する能力と特権。

メモ

- **背教**—個人、教会、または国民全体が真理に背くこと。権威に逆らい、預言者を拒むことも含む。神の律法に背くこと、福音の儀式を変えること、聖約を破ることは背教の証拠である（イザヤ24：5参照）。
- **預言者**—神によって召され、神に代わって語る人。預言者は神の使いとして神から神権の権能、戒め、預言、啓示を受ける。その責任は、人類に神の御心と真の属性を知らせること、人類に対する神の計らいの意図するところを示すことである。預言者は罪を非難し、罪のもたらす結果を予告する。預言者は義の説教者である。時には、人類のために将来について予告をするように靈感を受けることがある。しかしながら、預言者の本来の務めは、キリストについて証^{あかし}することである。

教える人々に詳しく定義する必要があると思われるその他の用語

- 祈り
- 戒めに対する従順と不従順
- 神のもとへ戻って生活する
- 管理人の職
- 最後まで堪え忍ぶ
- 使徒
- 救い主
- 救いの儀式
- 聖書
- 聖文
- 聖霊の賜物^{たまもの}
- 罪
- 福音

宗教改革者と世界の宗教指導者

以下の略歴は必要な場合にのみ用いる。

ジョン・ウィクリフ—14世紀にイギリスで生まれる。オックスフォード大学の神学者。カトリック教会は神権の鍵^{かぎ}を持っていないこと、聖体（聖餐）はキリストの実際の体ではないこと、教会は人々に政治的な権力を行使すべきではないことを教えた。聖書を英語に翻訳した。1384年12月31日に死去。

マルチン・ルター—1483年11月10日にドイツで生まれる。エルフルト大学とピッテンベルク大学で学ぶ。罪の赦し^{ゆる}を得るため人々に金銭を支払わせる、という慣習を含む95箇条の意見書をピッテンベルク城教会の扉に釘で打ちつけて、ローマカトリック教会の多くの現行の教えに反対した。1546年2月18日に死去。

ウィリアム・ティンダル—1494年にウェールズで生まれる。オックスフォードとケンブリッジで学ぶ。新約聖書を英語に翻訳した。聖典を一般の人々の手に渡るようにして、宗教指導者の偽りの教義と腐敗を暴いた。1536年10月6日に処刑された。

ジョン・カルビン—1509年7月10日にフランスで生まれる。司祭になるためにパリで学んだ。カトリック教会改革運動の有力な指導者の一人だった。生涯の大半をスイスで過ごした。人は生来墮落^{あわ}していて、神の憐れみによってのみ救われることを説いた。聖書に関する多くの注解書を執筆した。1564年5月27日に死去。

宗教改革者に関する詳しい情報は、以下の宣教師基本図書を参照してください。ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』721-731；M・ラッセル・バラード、*Our Search for Happiness*, 26-32

メモ

キリスト教社会が、宗教改革者たちの勇気とビジョンから祝福を受けたように、ほかの多くの国民や文化も「〔神が〕彼らにとってふさわしいと思われる……事柄」（アルマ29：8）の一部を与えられた人々から恵みを受けました。ほかの宗教指導者の教えも、多くの人々が社会的秩序と倫理を確立するうえで役立ってきました。

仏陀（ゴータマ）^{ぶつだ}——紀元前563年にネパールのヒンズー教指導者の家に生まれる。周囲の人々の苦難に心を痛めていた。父親の住む華美な宮殿を逃れて、世を捨て、貧困の生活を送った。悟りを求めていたときに、自ら「解脱の道」と呼ぶものを見いだした。^{ねほん}涅槃、すなわち煩い、苦痛、または外面的な現実を忘れる状態に達することを主張した。^{そうりよ}僧侶社会の教師となった。

孔子^{こうし}——紀元前551年に生まれる。子供のころに孤児となった。中国で最初の職業教師となる。中国で最も偉大な道徳と社会の思想家。霊的な存在や、神の力についてはほとんど語らなかった。善と真実の擁護者として、天から神聖な使命を託されたと信じていた。

ムハンマド——570年にメッカで生まれる。子供のころに孤児となり、貧困の生活を送った。有能な調停者としての評判を得、25歳で結婚。610年にヒラー山で祈り、^{めいそう}冥想した。天使ガブリエルが現れて、アッラー（神）からのメッセージを受けたと言われる。620年から632年まで、ガブリエルを通して神との交わりを受けたと主張した。弟子たちに語ったこれらの交わりは、後にイスラムの教典となるコーランに記された。

救いの計画



メモ

あなたの目的

福音を教えるときに、求道者が教義と聖約20：37と、バプテスマの面接の質問で明らかにされているバプテスマの条件を満たせるよう備えてください。以下の事柄を決意して、それを守るよう勧めることで最もよく助けることができます。

バプテスマの面接の質問

- あなたは神が永遠の御父であられることを信じていますか。
- あなたはイエス・キリストが神の御子であられ、世の救い主、^{あがな}贖い主であられることを信じていますか。
- あなたは毎週^{せいさん}聖餐を受け、会員に奉仕することなどを通して、喜んで安息日を守りたいと思っていますか。

決意

- わたしたちの教えた事柄が真実であることを知るために、祈っていただけますか。
- 自分の罪を悔い改めていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 救い主の模範に従い、(○月○日)にバプテスマを受けていただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

人々がイエス・キリストについて学べるよう助ける

宣教師は、イエス・キリスト^{あかし}を証し、キリストのもとへ来て救いを得られるようあらゆる人に勧めます。救い主について、ほとんど、あるいはまったく知らない人々には、具体的に教えることが大切です。イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書は、すべての人が「イエスがキリストであり、……すべての国民に御自身を現されること」を知ることができるよう記録されました(モルモン書タイトルページ)。救い主について教え、証する最も効果的な方法の一つは、モルモン書を一緒に読むことです。ほかの標準聖典から聖句を読むことも助けになります。

以下の提案を検討してください。このレッスンか、ほかのレッスンで、あるいは別個のレッスンを設けて、これらを採用上げるとよいでしょう。有効であれば、バプテスマと確認の前後のレッスンで、この活動を繰り返す行くとよいでしょう。

- | | |
|--------------|--|
| タイトルページと序文 | モルモン書の目的を明確にする。 |
| 1ニーファイ10-11章 | リーハイとニーファイ、救い主について ^{あかし} 証する。 |
| 1ニーファイ19章 | ニーファイ、救い主の働きと ^{あがな} 贖いに関する預言について語る。 |

メモ

2ニーファイ2章	リーハイ、救い主が贖い主であられることを証する。
2ニーファイ9章	ヤコブ、贖いについて証する。
2ニーファイ31-33章	ニーファイ、キリストの教義を教える。
エノス	エノス、贖いの力を経験する。
モーサヤ2-5章	ベニヤミン王、キリストについて教える。
モーサヤ12-16章	アピナダイ、イエス・キリストを証するために命をささげる。
アルマ5, 7章	アルマ、救い主について証する。
アルマ17-22章	レーマン人、イエス・キリストの証を受け入れる。
アルマ34章	アミュレク、贖いについて証する。
アルマ36章	アルマ、イエス・キリストの贖いの力を経験する。
アルマ40-42章	アルマ、復活と贖いについて証する。
ヒラマン5章	ニーファイとリーハイ、救い主を証するために神の手に使われる者となる。
3ニーファイ9-10章	救い主、御自身のもとに来るよう人々にお勧めになる。
3ニーファイ11-18章	救い主、御父と御父の教義についてニーファイ人にお教えになる。
3ニーファイ27章	救い主、御自身の福音をお教えになる。
エテル3章	ヤレドの兄弟、救い主にまみえる。
エテル12章	エテルとモロナイ、救い主と贖いの力について証する。
モロナイ7-8章	モルモン、キリストの純粋な愛と贖いについて教える。
モロナイ10章	モロナイ、キリストのもとに来て、キリストによって完全になるようすべての人に勧める。
『生けるキリスト』	預言者と使徒たち、救い主について証する。

前世での生活—わたしたちに対する神様の目的と計画

多くの人はこう考えます。「わたしたちはどこから来たのか。なぜ地上にいるのか。この世を去ってからどこへ行くのか。」救いの計画は、これらの疑問に答えてくれます。

神様は、わたしたちの霊のお父様です。わたしたちは文字どおり神様の子供です。神様は、わたしたちを愛しておられます。わたしたちは地上に生まれる前、天のお父様の霊の子供として生活していました。けれども、わたしたちは天のお父様のようではありませんでした。お父様のように、お父様が持っておられるすべての祝福を受けるには、体を持って、この世での生活を経験しなければなりません。

神様の大きな目的（神様の業と栄光）は、わたしたち一人一人が、神様のすべての祝福を受けられるようにすることです。神様は、この目的を果たすために、完全な計画を用意されました。わたしたちは地上へ来る前に、この計画を理解し、受け入れました。神様の計画は聖典の中で、「憐れみに満ちた計画」「幸福の計画」「贖いの計画」そして「救いの計画」と呼ばれています。

神様の計画の中心は、イエス・キリストです。イエス・キリストは贖いによってお父様の目的を果たされました。わたしたち一人一人が、不死不滅と永遠の命を得られるようにしてくださいました。サタン（悪魔）は、神様の計画の敵です。

選択の自由（選ぶ力）は、神様が御自身の子供たちに与えておられる最も大きな賜物の一つです。わたしたちが永遠に進歩するかどうかは、この賜物をどのように使うかに懸かっています。わたしたちはイエス・キリストに従うか、サタンに従うかを選ばなければなりません。

わたしたちは地上にいる間、神様から離れて暮らしています。しかし神様は、すべての子供たちがこの世で平安を見いだせるよう願っています。そして人生が終わった後、神様のもとで完全な喜びを受けてほしいと望んでおられます。神様は、わたしたちに神様のようになってほしいと望んでおられます。

聖文研究

神の子供

教義と聖約93：29 ヘブル12：9
使徒17：29

神の目的

モーセ1：39 ヨハネ17：3

前世

教義と聖約138：53-56 アブラハム3：22-26 『聖句ガイド』「前世」の項
モーセ3：5 エレミヤ1：5

メモ

創造

イエス・キリストはお父様の指示を受けて、地球を造られました。わたしたちが生活し、経験を積むための場所です。わたしたちは皆、成長して、神様のようになるために、体を受けなければなりません。そして、地上での試しの時期に、試練を受けなければなりません。この世にいる間、わたしたちは、神様から離れて暮らしています。わたしたちは前世での生活を覚えていません。ですから、見えるものによってではなく、信仰によって歩まなければなりません。

聖文研究

1 ニーファイ17：36

モーセ2：1

ジョセフ・スミス訳、ヨハネ1：1-3

アルマ30：44

モーセ6：63

2 コリント5：6-7

教義と聖約88：41-47

アブラハム3：24-25

選択の自由とアダムとエバの墮落

アダムとエバは、地上に来た最初の神様の子供でした。神様は、アダムとエバをお造りになり、エデンの園に置かれました。アダムとエバは、神様の形に似せて造られました。また、骨と肉のある体を持つ者として造られました。エデンの園にいたとき、アダムとエバは、まだ神様の近くにいました。そして永遠に生きることができました。アダムとエバは罪のない生活を送っていました。生活に必要なものは、神様が与えてくださいました。

神様はエデンの園で、アダムとエバに選ぶ自由をお与えになりました。神様は二人に、禁じられた木の実を取って食べてはならないと命じられました。それは、善と悪について知る木でした。この戒めを守っているかぎり、二人はいつまでもエデンの園にいたことができた。けれども、この世で反対のものを経験しなければ、二人は成長できませんでした。アダムとエバは、悲しみや苦しみを経験できないので、喜びを知ることができなかったのです。

サタンは、アダムとエバに、禁じられた実を食べよう誘惑しました。そして、二人は実を食べました。これは神様の計画の一部でした。二人は禁じられた実を食べたことで、エデンの園から追い出されました。神様の前から断ち切られたのです。この出来事は「墮落」と呼ばれます。神様の前から断ち切られることは、「霊の死」を意味します。こうして、アダムとエバは、死（肉体と霊が分かれること）を経験する体となりました。二人は病気と様々な苦しみを経験するようになりました。また、道徳的な選択の自由、（善と悪を選ぶ能力）を得ました。二人は学び、成長できるようになりました。しかし同時に、悪を選び、罪を犯すこともできるようになったのです。さらに、二人は子供をもうけられるようになりました。こうして、神様の霊の子供たちが地上に来て、体を得、試しを受けられるようになりました。神様の子供たちが成長し、神様のようになるために、ほかに方法はありませんでした。

メモ

墮落について教える

この教義を初めて教える場合、あなたの知っていることをすべて教えようとしてはなりません。ただ次のように簡潔に教えてください。「神様は、地上で最初の親となるよう、御自身の子供たちの中から、アダムとエバを選ばれました。アダムとエバは神様に背いたことで、罪と死を避けられなくなりました。自分の力では、天のお父様のもとに戻って、ともに住むことができなくなりました。そこで主はアダムに語られ、救いの計画を教えられました。また、主イエス・キリストを通して得られる贖い^{あがな}についても教えられました。アダムとその家族は、救いの計画に従うことによって、この世で喜びを受け、神様のもとに戻れるようになりました。」(アルマ18:36; 22:12-14参照)

聖文研究

エデンの園

2 ニーファイ 2 章	モーセ 3 : 15 - 17	創世 1 : 26 - 31
モーセ 2 : 26 - 31	モーセ 5 : 11	創世 2 : 15 - 17

墮落

2 ニーファイ 2 : 25	モーセ 4 章	創世 3 章
アルマ 12 : 22 - 34	モーセ 5 : 10 - 12	

地上におけるわたしたちの生活

現世の生涯は、特別な機会であり、祝福です。この世に来た目的は、喜びを得て、神様のもとに戻れるよう準備することです。わたしたちはこの世で、肉体の死と霊の死を避けられません。神様は、完全で、栄光を受けた、不死不滅の体を持っておられます。骨肉でできた体です。神様のようになり、神様のもとに帰るためには、わたしたちも骨肉でできた、完全で、不死不滅の体を得なければなりません。しかしアダムとエバの墮落により、地上のすべての人は、不完全で、いつかは死ぬ体を持つことになりました。ですから、最後には必ず死にます。もし救い主イエス・キリストがおられなかったら、将来、天のお父様のもとに帰るといふ望みは、死によって失われます。

肉体の死と同様に、罪もわたしたちの望みを妨げる大きな障害です。天のお父様のようになって、みもとへ帰りたいという願いを妨げます。この世で生活していると、誘惑に負けたり、神様の戒めを破ったり、罪を犯したりすることがよくあります。だれでも、地上で生きている間に過ちを犯します。罪を犯している人が、幸せそうに見える場合もあります。でも、罪は必ず不幸をもたらします。罪を犯すと、罪悪感や、恥じる気持ちを感じるようになります。わたしたちは罪があるままでは、天のお父様のもとへ戻って、お父様とともに住むことはできません。そのためには、罪の赦し^{ゆる}を受けて清くならなければなりません。

この世で、わたしたちは幸せをもたらす経験をします。また、苦しみや悲しみをもたらす経験もします。だれかの悪い行動が原因で、苦しい経験をさせられることもあります。これらの経験は、学び、成長し、善と悪を見分け、自分で選択をする機会となります。神様は、わたしたちに正しいことを行うよう働きかけられます。サタンは罪を犯すよう誘惑します。わたしたちは肉体の死から逃れられません。それと同じように、自分の犯した罪の結果から、自分の力で逃れることはできません。イエス・キリストの贖い^{あがな}がなければ、わたしたちにはどうすることもできないのです。

聖文研究

試しの期間

2ニーファイ2:21	アルマ12:21-24	アブラハム3:25-26
2ニーファイ9:27	アルマ34:31-35	
モーサヤ3:19	アルマ42:2-10	

選択

2ニーファイ2:26-29 ヨシュア24:15
『若人の強さのために』『選択の自由と責任』

善と悪

モロナイ7:12-19

罪

ローマ3:23	1ヨハネ1:8-10	1ヨハネ3:4
---------	------------	---------

清くない者は神とともに住むことができない

1ニーファイ10:20-21	3ニーファイ27:19	モーセ6:57
アルマ41:10-11		

メモ

あがな
贖い

世界が組織される前に、天のお父様は、イエス・キリストをわたしたちの救い主、あがな贖い主として選ばれました。イエス・キリストの贖いの犠牲によって、わたしたちは、墮落の結果に打ち勝てるようになりました。すべての預言者は、世の初めから、イエス・キリストがあがな贖い主であることを証してきました。

わたしたちは皆、肉体の死を迎えます。けれども、イエス・キリストは、わたしたちのために、肉体の死という障害に打ち勝たれました。イエス様が十字架上で亡くなられたとき、イエス様の霊は肉体から離れました。そして3日目に、イエス様の霊と体は永遠に一つとなり、再び離れることのない状態になりました。主は多くの人々に御姿を現し、御自身が、骨肉でできた不死不滅の体を持っていることを示されました。体と霊が再び一つとなることを、「復活」と言います。これは、すべての人に約束されている賜物です。イエス・キリストの復活のおかげで、わたしたちは皆、復活できるようになりました。この世で正しいことを行ったか、悪いことを行ったかにかかわらず、皆が復活します。わたしたちは骨肉でできた不死不滅の完全な体を受けます。病気や苦しみ、死を再び受けることのない状態になるのです。復活により、わたしたちは、裁きを受けるために神様の前に戻ります。しかし、だれでも神様のもとで住めるようになるわけではありません。この祝福を受けるために、わたしたちは罪から清められなければなりません。

神様は、愛する御子イエス・キリストを遣わされました。それは、肉体の死だけではなく、罪という障害に打ち勝つためでした。わたしたちは、アダムとエバの墮落について責任を取ることはありません。しかし、自分の罪については責任があります。神様はほんの少しでも、罪を見ごしにはされません。わたしたちは罪があるままでは、神様のもとで住むことができません。救い主の慈しみと憐れみだけが、わたしたちを罪から清めてくれます。そして神様とともに、もう一度住むことができるのです。イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、バプテスマと聖霊の賜物を受けて、最後まで堪え忍ぶことにより、それは可能になります。

救いの計画を完成させるために、キリストは、わたしたちの罪の代価を払ってくださいました。それがおできになるのはキリストだけでした。イエス・キリストは、そのように前世で召され、



メモ

準備されたのです。イエス様は、肉における文字どおりの神様の御子でした。イエス様は罪を犯したことがなく、お父様に完全に従順でした。イエス様は誘惑を受けられましたが、誘惑に負けたことは一度もありませんでした。天のお父様から、世の罪の代価を払うよう求められたとき、イエス様はすでに準備ができていました。そして進んで行おうとされました。贖いの業には、ゲツセマネの園での苦しみと、十字架上の死とがあり、イエス様が復活されたことで完成しました。その苦しみは想像できないほど大きいものでした。イエス様はあらゆる毛穴から血を流し、「できることならその苦しみを過ぎ去らせてほしい」と天のお父様に願い求められたほどでした。それでも救い主は、お父様の御心に従われました。お父様とわたしたちを、何よりも愛しておられたからです。イエス・キリストは苦しみを通して霊の死に打ち勝ち、復活を通して肉体の死に打ち勝たれました。これを「贖い」と言います。

主を受け入れるなら、主はわたしたちの罪を赦すと約束しておられます。そのためには、イエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、水に沈めるバプテスマを受けなければなりません。また、按手によって聖霊の賜物を受け、人生の最後まで主の戒めを忠実に守らなければなりません。続けて悔い改めるなら、わたしたちは赦され、聖霊の力によって罪から清められます。そうすると、罪悪感や、恥じる気持ちという重荷から解放され、イエス・キリストを通して、神様のもとに戻るにふさわしい者となるのです。

イエス・キリストの贖いに頼るとき、主はわたしたちが試練や病氣、苦しみに耐えられるよう助けてくださいます。わたしたちは、あふれるばかりの喜び、平安、慰めを受けることができます。人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖いによって正されるのです。

イエス様は、わたしたちの罪の代価を払ってくださいました。けれども、個人の責任がなくなったわけではありません。わたしたちは、イエス・キリストを受け入れ、戒めに従うことを示さなければなりません。贖いという賜物を通してのみ、わたしたちは神様のもとに戻り、神様とともに住めるのです。

聖文研究

復活

2ニーファイ9：6-7	教義と聖約88：27-32	1コリント15：41-42
アルマ11：42-45	ルカ24：1-10, 36-39	『聖句ガイド』『死(肉体の)』『死(霊の)』
アルマ40：23	1コリント15：20-23	「復活」の項
ヒラマン14：15-19	ジョセフ・スミス訳, 1コリント15：40	

贖い

2ニーファイ2：6-8	教義と聖約19：15-19	1ヨハネ1：7
アルマ7：11-13	教義と聖約45：3-5	『聖句ガイド』『贖い；贖う』の項
アルマ34：8-10	ヨハネ3：16-17	

福音—道

2ニーファイ9：1-24	アルマ11：40	3ニーファイ27章
2ニーファイ31章	3ニーファイ11：31-41	モロナイ7：27-28

霊界

キリストは肉体の死に打ち勝たれました。しかし、すべての人は死ななくてはなりません。「死」は、死を避けられない体から、不死不滅の体へと変化するための一つの段階だからです。人が死ぬと、その人の霊は霊界へ行きます。死んだからといって、わたしたちの個性や善悪に対する考え方は変わりません。この世で神様に従うことを選んだ人は、問題や悩みから解放されて、幸福で平安な状態で暮らします。この世で神様に従うことを選ばずに、罪を悔い改めなかった人は、不幸な状態で暮らします。霊界では、この世で福音に従わなかった人や、福音を聞く機会がなかった人に福音が宣べ伝えられます。わたしたちは復活するまで霊界にとどまります。

聖文研究

死者に福音が^の宣べ伝えられる

教義と聖約138章

1ペテロ3：19-20

1ペテロ4：6

死と霊界

アルマ34：34

アルマ40：11-14

伝道12：7

メモ

復活、裁き、不死不滅

復活によって肉体と霊は再び一つになります。そして、わたしたちは、裁きを受けるために、神様の前に引き出されます。わたしたちはそこで、自分がした正しい行いも、悪い行いも完全に思い出します。悔い改めていれば、憐れみを受けます。わたしたちは自分の行いと望みに応じて、報いを受けます。

すべての人は、復活によって不死不滅の体になります。つまり永遠に生き続けるのです。不死不滅は、すべての人に無条件に与えられる賜物です。正しい人であっても悪い人であっても、関係ありません。しかし、永遠の命は不死不滅とは違います。永遠の命とは、主の福音に従う人だけに与えられる神様の賜物です。永遠の命は、わたしたちが到達できる最高の状態です。それは、キリストの贖い^{あがな}によって罪と苦しみから解放された人に与えられます。永遠の命を得ることを「昇栄」といいます。昇栄すると、永遠の家族の中で、神様とともに永遠に生活することができます。「昇栄する」とは、神様とイエス・キリストを知ることであり、御二方が送っている素晴らしい生活を送ることです。

復活と輪廻^{りんね}

ある人は、復活の教義を輪廻^{りんね}の思想と混同しているかもしれません。輪廻の思想とは別の形をとってこの世に再び生まれることを指しており、誤った教えです。復活の教義は、骨と肉からなる不死不滅の体を、永遠の報いとして受けることなのです。これは真の教義です。あなたの教える人々が、復活の教義を正しく理解していることを確かめてください。

栄光の王国

人は皆、この世で善と悪のどちらかを選びます。神様は、わたしたちの行いと望みによって報いを与えられます。そのため、わたしたちは裁きを受けた後で、様々な栄光の王国のどれかに割り当てられます。自分の罪を悔い改め、福音の儀式を受け、儀式に伴う聖約を守った人は、キリストの贖い^{あがな}によって清められます。彼らは、「日の栄えの王国」と呼ばれる、最高の王国で昇栄を受けます。そして神様のもとで暮らし、神様のようになって、完全な喜びを受けます。この人々は、同じようにふさわしかった家族とともに、永遠に暮らします。聖文の中で、この王国は、太陽の輝きや栄光にたとえられています。

イエス・キリストの完全な福音を受け入れることはなかったけれども、立派な人生を送った人は、「月の栄えの王国」に入ります。この王国は、月の輝きにたとえられています。

罪を犯したままこの世で悔い改めなかった人は、最も低い王国に入ります。そこは、「星の栄えの王国」と呼ばれています。この王国は、星の輝きにたとえられています。

教えるためのアイデア

本項には、このレッスンを準備し、教えるために活用できるアイデアが記されています。これらのアイデアの使い方については、よく祈ってから、御霊の導きに従って決めてください。選んだアイデアを自分のレッスンプランに書き加えてください。これらのアイデアは、あなたが教える人々の必要を満たすうえで役立つための提案であって、必ず採り上げなければならないものではないことに注意してください。

ショートレッスンプラン (3-5分)

救いの計画は、「わたしたちがどこから来たのか」「なぜ地上にいるのか」「この人生を終えた後で、どこへ行くのか」という質問に答えてくれます。前世、現世、死、復活から永遠の命までの、わたしたちの永遠の旅を示してくれます。また、神様のもとに無事に戻って、神様のようになるために、愛にあふれる天のお父様がどのような助けを与えてくださるかを明らかにします。救いの計画の中心は、イエス・キリストの使命と贖いあがなです。イエス・キリストの使命と贖いによって、墮落の影響がなくなり、永遠の命が得られるようになったのです。このメッセージについて深く考え、祈ってくださるようお勧めします。

- 前世での生活—わたしたちに対する神様の目的と計画
- 創造
- 選択の自由とアダムとエバの墮落
- 地上におけるわたしたちの生活
- 贖いあがな
- 霊界
- 復活、裁き、不死不滅
- 栄光の王国

決意

- わたしたちの教えた事柄が真実であることを知るために、祈っていただけますか。
- 自分の罪を悔い改めていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 救い主の模範に従い、(○月○日)にバプテスマを受けていただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

ミディアムレッスンプラン (10-15分)

わたしたちのメッセージは、人生の目的と、わたしたちがどのような存在かを理解する助けとなります。それは希望を与え、平安と喜びと幸福を見つけるのに役立ちます。また、「わたしたちがどこから来たのか」「なぜ地上にいるのか」「この人生を終えた後にどこへ行くのか」という質問に答えてくれます。神様はわたしたちのお父様です。神様は、わたしたちを愛しておられます。わたしたちは神様の子供です。わたしたちは神様の家族の一員であり、この地上に生まれる前に、神様とともに住んでいました。神様は、わたしたちがこの世の生活を終えた後で、神様のもとへ戻ることができるように、幸福の計画を用意されました。わたしたちの成長は、神様が与えてくださった

メモ

メモ

「選択の自由」(選ぶ力)を、どのように使うかに懸かっています。アダムの墮落は、その計画の一つでした。アダムの墮落により、わたしたちは地上に来て、体を得ることができるようになりました。そして、いろいろな経験をし、自分の家族を持つことができるようになりました。けれども墮落は、霊と体が離れる「肉体の死」と、神様から遠ざけられる「霊の死」をもたらしました。

神様の計画の中心はイエス・キリストです。キリストの贖いの犠牲により、肉体の死と霊の死の両方が克服されました。わたしたちは皆復活して、苦しみや病気のない体を与えられ、永遠に生きるようになります。また、キリストは、霊の死も克服できるようにしてくださいました。キリストの福音に従って生活するなら、主はわたしたちに憐れみをかけ、罪を赦してくださいます。キリストはわたしたちを癒し、罪悪感や、恥じる気持ちを取り去り、この世での平安と幸福に変えてくださいます。

神様の憐れみの計画の一部として、すべての人は肉体の死を経験します。わたしたちの霊は体を離れると、しばらくの間、霊界で生活します。その後、不死不滅の体に復活して、体と霊は永遠の一つになります。そして、一人一人の現世での行いと望みに応じて、裁きを受けます。福音に従って生活した人は、天のお父様の最も大きな賜物である永遠の命の賜物を受けて、お父様のもとで生活します。

天のお父様は、御自身の子供たちにもう一度愛の手を差し伸べて、幸福の計画を明らかにしてくださいました。わたしたちは、このすばらしい計画を、モルモン書から学ぶことができます。〇〇さんはモルモン書を読み、深く考え、祈ることができます。わたしたちは〇〇さんに、教会に出席して、わたしたちとともに礼拝行事に参加するようお勧めします。

決意

- わたしたちの教えた事柄が真実であることを知るために、祈っていただけますか。
- 自分の罪を悔い改めていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 救い主の模範に従い、(〇月〇日)にバプテスマを受けていただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

フルレッスンプラン (30-45分)

- 前世での生活—わたしたちに対する神様の目的と計画
 - 神様はわたしたちの天のお父様です。わたしたちは神様の子供です(使徒17:16-34;ヘブル12:9参照)。
 - 神様は、わたしたちの幸福のために計画を用意しておられます。イエス・キリストはその計画の中心です。
 - 神様の幸福の計画によって、わたしたちは神様のもとに戻ることができます(モーセ1:39参照)。
 - 永遠の成長は、わたしたちが選択の自由(選ぶ力)をどのように使うかに懸かっています(2ニーファイ2:27-29参照)。

メモ

- 創造
 - お父様の指示の下、イエス・キリストは地球を創造されました（ヘブル1：1-3参照）。
- 選択の自由とアダムとエバの墮落
 - アダムとエバは神様の形に創造されました（創世1：26-27参照）。
 - エデンの園にいたとき、二人には罪がなく、神様のもとに住んでいました。
 - 二人は禁じられた実を食べたため、園を追い出されました（モーセ4：19-31参照）。これは「墮落」と呼ばれています。
 - アダムとエバはいつかは死ぬ（死すべき）体となり、子供をもうけることができるようになりました。さらに、罪と死を受けました（2ニーファイ2：22-25；モーセ5：11参照）。
- 地上におけるわたしたちの生活
 - この世の目的は、家族として永遠の平安、喜び、幸福を見だし、神様とともに生活するために戻る用意をすることです。
 - わたしたちは、試しを受けるために地上に来ました（アブラハム3：24-25参照）。
 - わたしたちは骨肉の体を得ますが、肉体の死を受けなければなりません。
 - 神様は戒めを与られます。戒めに従えば祝福を受けます。従わなければ罪を犯し、その結果を受けます。
 - すべての罪は、自分で、またはキリストによって、その代価が払われなければなりません（教義と聖約19：15-20参照）。
 - わたしたちは選択をし、皆罪を犯します（ローマ3：23参照）。
 - わたしたちは、幸福や悲しみをもたらす経験をします。
 - キリストによらなければ、肉体の死も、霊の死も克服することができません。
- 贖い^{あがな}
 - イエス・キリストが肉体の死に打ち勝たれたので、わたしたちは皆復活します（アルマ11：41-43参照）。
 - わたしたちはキリストの贖い^{あがな}によって罪から清められるため、神様のもとに戻り住むことができます（2ニーファイ9：8-9参照）。
 - キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマと聖霊の賜物^{たまもの}を受け、最後まで堪え忍ぶなら、キリストはわたしたちの罪^{つとめ}を赦してください。
- 霊界
 - 人は皆死ななければなりません。
 - 死んだ後で、霊は霊界へ行きます。
 - この世でどのような生活を送るかによって、惨めな状態で生活するか、平安と安息を得て生活するかが決まります。
- 復活、裁き、不死不滅
 - わたしたちの霊と体は、復活によって再び結合します（アルマ11：42-45；40：23参照）。
 - わたしたちは、自分の行いと望みに従って裁きを受けるために、神様のもとに戻ります。
 - もし悔い改めていれば、わたしたちは憐れみ^{あわ}を受けます。
 - 永遠の命とは、イエス・キリストの福音を完全に守る人々に与えられる神の賜物^{たまもの}です（教義と聖約14：7参照）。

メモ

- 栄光の王国（教義と聖約76章；137章；1コリント15：40－42参照）
 - わたしたちは、行いと望みに応じて報いを受けます（教義と聖約137：9参照）。
 - 福音を受け入れ、それに生涯を通して雄々しく従う人々は、「日の栄えの王国」を受けます（教義と聖約76：50－70参照）。
 - 世の高潔な人々で、「人間の悪巧みによって目をくらまされた者」や、「イエス〔・キリスト〕の証あかしに雄々しくない者」は、「月の栄えの王国」を受けます（教義と聖約76：75，79参照）。
 - 罪を犯して悔い改めない者は、苦しみを受け、罪の代価を払った後に、「星の栄えの王国」を受けます。

決意

- わたしたちの教えた事柄が真実であることを知るために、祈っていただけますか。
- 自分の罪を悔い改めていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 救い主の模範に従い、(○月○日)にバプテスマを受けていただけますか。
- 次の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

教えた後に尋ねる質問

- 今日学んだことについて、どのような質問がありますか。
- 神様が、○○さんと○○さんのご家族のために用意しておられる計画は、どのようなものだと理解されましたか。
- これまで学んだことから、イエス・キリストの役割についてどのようなことを理解されましたか。それは○○さんにとってどのような意味がありますか。

主要な言葉の定義

以下の言葉は、しばしば理解されないことがあります。明確に説明して、あなたの教える人々が理解していることを確かめてください。

- **贖い**——聖典で用いられているように、贖いとは、罪の行いに対する罰を引き受け、それによって悔い改める人から罪がもたらす影響を除き、神との和解を可能にすることである。イエス・キリストは、ゲツセマネと十字架上で苦しみを受けられた。イエス・キリストは、全人類のために完全な贖いをなし得る唯一の御方である。イエスは、ゲツセマネにおいて、わたしたちの罪の代価を払い、十字架上で亡くなられた。イエスは全人類の苦しみ、病気、誘惑、悩み、弱点を身に受けられた（アルマ7：11－12参照）。
- **(アダムとエバの) 墮落**——アダムとエバは禁じられた実を食べて、死すべき状態、つまり、罪と死に支配される者となった。アダムは地上で「最初の肉なるもの」（モーセ3：7）となった。末日の啓示は、墮落が祝福であり、アダムとエバは全人類の始祖として尊ばれるべきであるということを明らかにしている。

メモ

- **現世**—誕生から肉体の死までの期間。
- **裁き**—神は、イエス・キリストを通して、わたしたち一人一人が受ける永遠の栄光を決めるための裁きを行われる。この裁きは、神の戒めに従順かどうかを基準に行われる。それは、イエス・キリストの贖いの犠牲を受け入れることを含む。わたしたちは、行いと望みの善悪に基づいて、永遠の報いを受ける。
- **昇栄**—神のもとでの永遠の命。天の御父のようになって、お父様のもとに住むこと。神のすべての賜物の中で最も大きな賜物。昇栄は、キリストの贖いと、福音のすべての律法と儀式に従うことによってもたらされる。
- **贖罪**—束縛の境遇にある人を、解放すること、買い取ること、または買い戻すこと。つまり支払いによって自由にする。贖罪とは、イエス・キリストの贖い、罪から解放することを指す。イエスの贖罪によって、全人類は肉体の死から贖われる。イエスの贖罪によって、主を信じる信仰を持ち、悔い改める人は、霊の死からも贖われる。
- **救い**—肉体の死と霊の死から救われること。人は皆、イエス・キリストの死と復活を通して、神の恵みにより肉体の死から救われる。またイエス・キリストを信じる信仰を通して、神の恵みにより霊の死からも救われる。この信仰は、福音の律法と儀式に従順な生活とキリストへの奉仕の中に示される。
- **前世（誕生以前、前世の生活）**—わたしたちは、地上に生まれる前、天の御父の霊の子供として、御父のもとに住んでいた。前世では肉体を持っていなかった。
- **肉体の死**—霊が肉体から離れること。霊は永遠に生きて、死ぬことはない。
- **不死不滅**—復活して、肉体の死に服することなく、永久に生きる状態。
- **復活**—死後、霊体と骨肉の体が再び結合すること。復活後は、霊と体は決して再び分離することがなく、人は不死不滅となる。イエス・キリストが死に打ち勝たれたため、地上に生を受ける人はすべて復活する。
- **霊の死**—神とその影響からの分離。義に関する事柄について死んだ状態になること。霊の死はアダムの墮落によって世にもたらされた（アルマ42：6-7参照）。思いや言葉や行いが邪悪な人は、たとえこの世に生きていても、霊的には死んでいる（2ニーファイ9：39参照）。イエス・キリストの贖いを通して、また福音の原則と儀式に従うことにより、人は男女を問わず罪から清められ、霊の死に打ち勝つことができる。

教える人々に詳しく定義する必要があると思われるその他の用語

- | | | |
|----------|---------------|--------------|
| ● 永遠の命 | ● 信仰 | ● [罪の] 赦し |
| ● 永遠の進歩 | ● 救いの計画 | ● 肉体の死 |
| ● 栄光の王国 | ● 善悪を知る木 | ● 反対のもの |
| ● エデンの園 | ● 創造 | ● 日の栄え |
| ● 禁じられた実 | ● 月の栄え | ● 星の栄え |
| ● 悔い改め | ● 罪 | ● 水に沈めるバプテスマ |
| ● 試練 | ● [罪から] 清められる | ● 霊界 |

イエス・キリストの福音



あなたの目的

福音を教えるときに、求道者が教義と聖約20：37と、バプテスマの面接の質問で明らかにされているバプテスマの条件を満たせるよう備えてください。以下の事柄を決意して、それを守るよう勤めることで最もよく助けることができます。

バプテスマの面接の質問

- あなたは神が永遠の御父であられることを信じていますか。
- あなたはイエス・キリストが神の御子であられ、世の救い主、^{あがな}贖い主であられることを信じていますか。
- あなたはイエス・キリストの教会と福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことを信じていますか。

決意

- イエス・キリストの福音を続けて学ぶことによって、主を信じる信仰をこれからも築き続けていただけますか。
- 悔い改め、罪の赦しを求めて祈っていただけますか。
- (○月○日) にバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になっていただけますか。確認の儀式を受けて、聖霊の賜物^{たまもの}を受けていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

わたしたちはキリストを通して罪から清められる

神様は、愛する御子イエス・キリストを世に送られました。それは、御自身のすべての子供たちが、死んだ後に、神様のもとに戻って生きられるようにするためです。わたしたちを罪から清め、天のお父様のもとに戻れるようにすることができるのは、救い主の恵みと憐れみ^{あわれみ}だけです。罪から清められるとは、霊的な癒し^{いひ}を受けることです（3ニーファイ9：13；18：32参照）。

キリストの贖いと復活によって、すべての人は主のもとに連れ戻され、それぞれの行いと望みに応じて裁かれます（2ニーファイ9：10-16；ヒラマン14：15-18；3ニーファイ27：14-22；教義と聖約137：9参照）。わたしたちは正義と憐れみ^{あわれみ}の律法によって裁かれます。

正義の律法は変わることがありません。正義の律法は、行いに対する報いをもたらします。神様の戒めに従う人は祝福を受け、従わない人は罰を受けます。わたしたちは皆、罪を犯します。

罪を犯すと、わたしたちは汚れます。清くないものは、神様と一緒に住むことはできません（1ニーファイ10：21；3ニーファイ27：19；モーセ6：57参照）。

救い主は、罪を悔い改めて、主のすべての戒めを守ろうとする人のために、正義の要求を満たしていただきました。わたしたちの罪のために代わりに罰を受けてくださったのです。この行いを「贖い」と言います。この無私の行いにより、キリストはわたしたちに代わってお父様に執り成しをすることができます。これにより、天のお父様は憐れみを施して、わたしたちに罰を与えることなく、御自身のもとに迎え入れることができます。天の御父は、わたしたちの罪を赦し、御自身のもとに戻って住めるよう助けることで憐れみを示されます。

けれども、イエス様は一人一人の責任は取り去られませんでした。主を受け入れ、悔い改め、主の戒めを守るときに、主はわたしたちの罪を赦して下さいます。贖いと福音に従って生活することにより、わたしたちは天のお父様のもとに永遠に住むのにふさわしい者となります。わたしたちは戒めを守り、福音の第一の原則と儀式に従うことによって、キリストを受け入れ、信じていることを示さなければなりません。

罪

「罪」の概念は文化によって様々です。ある文化では犯罪行為という概念に近く、別の文化では、何か間違ったことをしてそれが発覚し、家族や社会に恥をもたらしたという場合にだけ罪とらえています。罪とは、神の戒めに反する行いであり、それによって神から遠ざけられてしまうことをはっきりと説明してください。神は、わたしたちの行いと思いを、すべて見ておられます。わたしたちが罪を犯せば、神を悲しませることになります。あなたの過去の罪について話し合ってはなりません。求道者が犯した罪について話し合うことも避けてください。

聖文研究

神は御子を遣わされた

アルマ11：40 ヨハネ3：16-17

キリストを通してもたらされる救い

2ニーファイ2：6-8

2ニーファイ9：21-24

アルマ34：8-9, 14-16

キリストはわたしたちの弁護者であられる

教義と聖約45：3-5

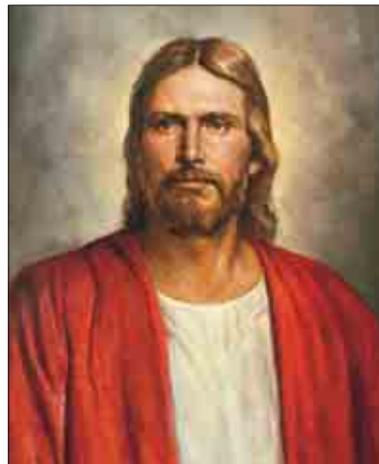
憐れみと正義

モーサヤ15：9 アルマ42：22-25

イエス・キリストを信じる信仰

福音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。キリストを信じる信仰を持つとは、キリストが神様の独り子であり、世の救い主、贖い主であることを固く信じることを含みます。天のお父様のもとへ戻るには、御子の恵みと憐れみに頼るしかありません。キリストを信じる信仰を持つとき、わたしたちはキリストの贖いと教えを受け入れて、それを実践します。キリストを信頼し、キリストが言われたことを信じます。わたしたちは、キリストが御自身の約束を果たす力を持っておられることを知っています。天のお父様は、信仰をもって御子に従う人を祝福して下さいます。

キリストを信じる信仰は、行動を促します。また、永続する心からの悔い改めにつながります。信仰を持つとき、わたしたちは主について学び、さらに救い主ようになるために全力を尽くします。主の戒めについて学び、それに従おうと努力します。まだ間違いを犯すことがあっても、戒めを守るよう努



メモ

め、罪を避けることで、主への愛を示します。

わたしたちはキリストを信じています。わたしたちは、主がすべての戒めを守るよう望んでおられると信じています。わたしたちは、主に従うことで、信仰を示したいと望んでいます。また、誘惑に打ち勝つ力を得られるよう信仰をもって祈ります。戒めを守れるほど十分にイエス・キリストを信じるなら、知恵の言葉や什分の^{じゅうぶん}一など、特定の戒めに対する信仰を築くことができます。特定の戒めに従って生活するなら、わたしたちは経験を通してその戒めが真実であることを知ります（ヨハネ7：17参照）。また、神様の御言葉を聞いた^{みことば}り（ローマ10：17参照）、神様の御言葉を読んだりすることで（ヒラマン15：7-8参照）、信仰を育てることもできます。

神様に従うと祝福を受けます。神様は、人生の問題に立ち向かう力を授けてくださいます。神様は、わたしたちが心の望みを変えるのを助けてくださいます。イエス・キリストを信じる信仰を通して、神様は肉体的にも霊的にも、わたしたちを癒^{いやす}してくださいます。

聖文研究

信仰、力、救い

1 ニーファイ7：12 モロナイ7：33-34
2 ニーファイ9：23 モロナイ10：7
2 ニーファイ25：23

信仰の教義

アルマ32章
エペソ2：8
『聖句ガイド』「信仰」の項

信仰の模範

エテル12章 ヘブル11章

行いと従順

1 ニーファイ3：7
教義と聖約130：20-21
ヤコブの手紙2：17-26

悔い改めを生じる信仰

アルマ34章

悔い改め

福音の第二の原則は悔い改めです。キリストを信じる信仰とキリストへの愛は、わたしたちを悔い改めへと導いてくれます。悔い改めとは、主の御心^{みこころ}と調和していない思いや信条、振る舞いを変えることです。悔い改めには、神と自分自身、世の中に対するとらえ方を新たにすることが含まれます。悔い改めるとき、わたしたちは神様の御心に添った悲しみを感じます。そして間違っ^{まちが}たことをやめて、正しいことを続けるようになります。悔い改めを通して、生活を神様の御心に添わせることは、わたしたちの人生の重要な目的です。わたしたちはキリストの憐れみ^{あわれみ}によってのみ、父なる神様のもとへ戻って生きることができます。キリストの憐れみは、悔い改めなければ得ることはできません。

悔い改めるには、自分の罪を認め、後悔する、つまり、神様の御心^{みこころ}に添った悲しみを感じる必要があります。また、神様に自分の罪を告白します。非常に重大な罪については、神様が承認された教会指導者に告白します。彼らはわたしたちが悔い改められるように助けてくれます。また、神様に赦しを求めて祈ります。わたしたちの行いが引き起こした問題を正すために最善を尽くします。これを「償い」と言います。悔い改めるとき、自分自身と世の中に対するとらえ方が変わります。自分自身が変わるとき、わたしたちは自分が神様の子供であることを認識し、同じ間違いを繰り返す必要がないことに気づきます。心から悔い改めるなら、わたしたちは罪から遠ざかり、二度と同じ罪を繰り返さなくなります。また、罪を犯したいという思いに抵抗します。神様に従いたいという望みはますます強く、深くなっていきます。

心からの悔い改めは、様々な結果をもたらします。わたしたちは生活の中に神様の赦し^{ゆる}と平安を感じます。罪悪感や悲しみは消え去ります。御霊^{みたま}の影響力をさらに豊かに感じます。そして、この世を去るときには、天のお父様と御子とともに住むためにさらに準備ができていることでしよう。

キリストを受け入れ、罪を悔い改めても、期待どおりにいかず、罪を犯すこともあるでしょう。わたしたちは続けてこのような過ちを正す必要があります。それに加えて、キリストのような特質を伸ばし、知識を増やし、よりよく奉仕できるよう改善し続ける必要があります。救い主が望

んでおられることがさらに分かるようになります。キリストに従うことで、主に愛を示したいと思うようになります。このようにして、毎日悔い改めることにより、自分の生活が変化し、改善していくのが分かります。わたしたちの心と行いは、さらにキリストのようになります。毎日悔い改めることに大きな喜びを感じるようになるのです。

聖文研究

わたしたちは皆罪を犯す

ローマ3：23 1ヨハネ1：7-8

悔い改め

アルマ34：8-17

教義と聖約58：42-43

教義と聖約61：2

2コリント7：9-10

『聖句ガイド』「悔い改め」の項

あがな ゆる
贖いと赦し

ヒラマン5：10-11

あわ
憐れみは悔い改めを要求する

アルマ12：32-35

アルマ42：13, 21-24

教義と聖約18：10-13

バプテスマ、最初の聖約

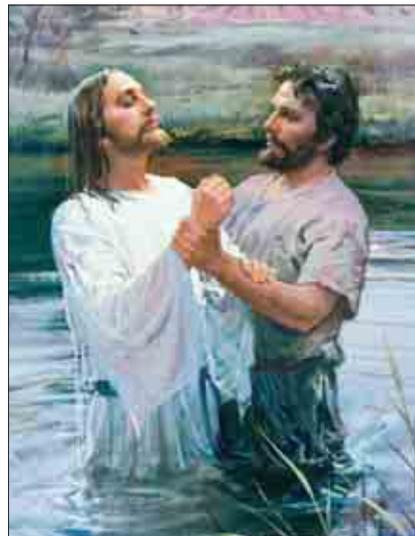
イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めを通して、わたしたちはバプテスマと確認の儀式に備えることができます。「儀式」とは、わたしたちが神様と聖約を交わしたことを示す、神聖な礼式または祭式です。

神様は、聖約を交わすことを、いつも御自身の子供たちに求めてられました。「聖約」とは、神様と人との間で交わす、拘束力のある厳粛な取り決めです。神様はわたしたちを祝福することを約束されます。わたしたちは神様に従うことを約束します。聖約の条件は神様がお決めになります。わたしたちは聖約を受け入れることも、拒むこともできます。聖約を守るなら、この世で祝福を受け、次の世で昇栄することができます。

聖約を交わすと、わたしたちは神様との約束を守るという大きな義務を負います。聖約を守るには、これらの聖約を守ることを妨げる活動や関心事をやめなければなりません。例えば、安息日を聖く過ごすために、日曜日に買い物をしたり、レクリエーション活動をすることをやめます。ふさわしい状態で神様が与えてくださる聖約を受け入れ、それを守ろうと努力することを望みます。

わたしたちが交わした聖約は、毎日悔い改めなければならないことを思い出させてくれます。聖約を守り、人々に仕えることで、わたしたちは罪の赦しを受け、その状態を保つことができます。ほとんどの場合、聖約は神聖な儀式を通して交わします。バプテスマがその一つです。これらの儀式は、神権の権能により執り行われます。例えば、わたしたちはバプテスマの儀式を通して、イエス・キリストの御名を受け、いつもキリストを覚え、キリストの戒めを守ることを聖約します。神様はわたしたちが聖約の中の自分の役割を果たすなら、聖霊をいつも伴侶とし、罪が赦され、新たに生まれることができると約束してくださっています。

バプテスマや確認などの神聖な儀式を通して、わたしたちは神の力について学び、それを感じることができます（教義と聖約84：20参照）。イエス様は、罪の赦しを受けるには、水に沈めるバプテスマを受けなければならない、と教えられました。バプテスマは救いに欠かせない儀式です。だれもバプテスマを受けずに神様の王国に入ることはできません。キリストもバプテスマを受けることで、わたしたちに模範を示されました。



水に沈めるバプテスマは、救い主の死と埋葬と復活の象徴です。それはまた、わたしたちのこれまでの罪の生活が終わり、キリストの弟子としての新しい生活が始まることを意味します。救い主は、バプテスマとは新しく生まれることである、と教えられました。バプテスマを受けるとき、わたしたちは、新しく生まれ、キリストの霊的な息子、娘となる過程を歩み始めるのです（モーサヤ5：7-8；ローマ8：14-17参照）。

回復されたキリストの教会である、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となり、最終的に天の王国に入るには、バプテスマを受けなければなりません。この儀式は神様が定められた律法です。神様の権能によって執り行われなければなりません。バプテスマと確認を執り行うには、ビショップか伝道部長が神権者に許可を与えなければなりません。

幼い子供は、バプテスマを受ける必要がありません。幼い子供たちは、イエス・キリストの憐れみによって贖われているのです（モロナイ8：4-24参照）。責任を取れる年齢（8歳）になるまで、幼い子供にバプテスマを施すことはできません（教義と聖約68：27参照）。

わたしたちはバプテスマの前に、残りの生涯を通じて、すべての戒めに従うために聖約を交わす意志があることを示します。バプテスマの後には、聖約を守ることで信仰を示します。わたしたちはまた、聖餐を受けることで、バプテスマのときに交わした聖約を新たにします。毎週聖餐を受けることは戒めです。聖餐を取ることで、いつも御霊を受けるためにふさわしくあることができます。聖餐を受けることで、毎週聖約について思い出すことができます。イエス・キリストは贖いの前に、使徒たちに聖餐の儀式を教えられました。イエス・キリストは、預言者ジョセフ・スミスを通してその儀式を回復されました。救い主は神権者に、御自身の体と、わたしたちのために流された血の記念として、聖餐を執り行うよう命じられました。ふさわしい状態で聖餐を取るときに、わたしたちはいつも主の犠牲を覚えることを約束します。また、約束を新たにし、御霊がいつもともにあるという新たな約束を受けます。

バプテスマに先立って

「求道者がキリストを信じる信仰をはぐくみ、罪を悔い改め、教義と聖約20：37で命じられているように生活を十分に改めていることを確かめなければならない。求道者は道徳的なふさわしさに関する原則や知恵の言葉に従って生活し、自分の一を納めることを決意していなければならない。宣教師は、さらに準備が必要であると感じたら、求道者が標準を満たすまでバプテスマを延期すべきである。

求道者はバプテスマを受けるまでに、宣教師のレッスンをすべて受け、〔ビショップ〕または〔支部会長〕と会い、聖餐会に数回出席すべきである。〕（「伝道活動に関する声明」大管長会からの手紙、2002年12月11日付）

聖文研究

キリストの模範

2ニーファイ31：4-18 マタイ3：13-17

バプテスマの聖約

モーサヤ5：8-10 教義と聖約20：37

モーサヤ18：8-10

バプテスマを受けるための資格

2ニーファイ9：23 モロナイ6：1-4

モーサヤ18：8-10 教義と聖約20：37

アルマ7：14-15 使徒2：37-39

3ニーファイ11：23-27

主が聖餐についてお教えになる

3ニーファイ18：1-18 ルカ22：15-20

約束されたバプテスマの祝福

モーサヤ4：11-12, 26 ヨハネ3：5

モロナイ8：25-26 ローマ6：4

聖餐の祈り

モロナイ4章, 5章

教義と聖約20：75-79

聖餐を受ける

教義と聖約27：2

1コリント11：23-29

権能の必要性

教義と聖約22章

ヘブル5：4

聖霊の賜物^{たまもの}

イエス様は、水によるバプテスマと聖霊によるバプテスマを受けなければならないと教えられました。水によるバプテスマを受けた後で、聖霊によるバプテスマを受けなければ不完全です。バプテスマと聖霊の賜物^{たまもの}を受けて初めて、わたしたちは罪の赦し^{ゆる}を受け、霊的に生まれ変わります。こうしてわたしたちは、キリストの弟子として新しい霊的な生活を始めます。

水によるバプテスマを受けた人は、一人または複数の承認された神権者から、頭に手を置かれて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認されます。彼らは次に聖霊の賜物^{たまもの}を授けます。聖霊の賜物を受けて、ふさわしくあるなら、生涯を通じて聖霊を伴侶とすることができます。聖霊には、人を聖別し、清める力があります。聖霊はキリストについて証し^{あかし}、わたしたちが真理を見分けられるように助けてくださいます。また、霊的な力を与え、正しい行いができるように助けてくださいます。試練や悲しみの時には、慰めてくださいます。霊的、または物質的な危険があるときは警告してくださいます。また、教えたり、学んだりする力を与えてくださいます。聖霊の賜物は、天のお父様の最も貴い賜物の一つです。わたしたちは聖霊の力を通して、神様の愛と導きを感じます。この賜物を通して、わたしたちは永遠の喜びと約束された永遠の命の一部を味わうことができます。

この儀式を行うために必要な神権の権能は、背教によって何世紀も前に失われました。けれども、この権能は、預言者ジョセフ・スミスによって回復されました。この教会の会員になることでしか、聖霊の賜物を受けることはできません。この権能があることで、この教会は世の中のほかの宗教とは違ったものとなっています。主御自身が宣言されたように、この教会は「全地の面に〔おける〕唯一まことの生ける教会」なのです（教義と聖約1：30）。

聖霊の導き

あなたが教える人たちに、悪魔は神に敵対し、人々に罪を犯させようと誘惑することを説明してください。宣教師との集会で感じる温かい気持ちを、いつも持ち続けるためには、モルモン書を読み、祈り、教会の集会に出席し、戒めを守らなければならないのです。常に聖霊の導きを受けられるということは、バプテスマと確認の儀式を受けることから来る、恵みの一つだということを説明してください。

聖文研究

聖霊の特質

教義と聖約130：22-23

ヨハネ3：1-8

ガラテヤ5：22-23

『聖句ガイド』「聖霊」の項

聖霊がもたらす祝福と影響力

2ニーファイ32：1-5

2ニーファイ33：1-2

モーセ6：61

ヨハネ14：26

『聖句ガイド』「聖霊」の項

聖霊の賜物^{たまもの}の大切さ

2ニーファイ31：11-12, 18, 21

3ニーファイ18：36-37

3ニーファイ19：13

3ニーファイ27：19-20

教義と聖約19：31

教義と聖約33：15

使徒19：1-6

メモ

メモ

最後まで堪え忍ぶ

イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマの儀式と確認の儀式を通して細くて狭い道に入ったわたしたちは、道にとどまるために最善を尽くさなければなりません。そのためには、イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、聖約を交わし、御霊に^{みたま}に従い続けなければなりません。

罪の赦しを受けた後は、罪を犯さないように毎日努力する必要があります。いつも聖霊がともにあるようにするためです。バプテスマの聖約の中で、わたしたちは生涯を通じて天のお父様の戒めを守ることをお父様に約束します。その約束を果たせないときは、聖約の祝福を受け続けるために悔い改める必要があります。わたしたちは、正しいことを行い、人々に仕え、救い主の模範に従うと約束します。この生涯にわたる約束のことを、聖典ではしばしば「最後まで堪え忍ぶ」と呼んでいます。

福音の道を歩み続けることで、わたしたちは神様に近づくことができます。そして誘惑や罪に打ち勝ち、さらに豊かに聖霊の賜物^{たまもの}を受けるようになります。生涯を通じて、忍耐強く、忠実に、着実に福音の道を歩み続けるなら、永遠の命を受けることができます。

キリストを信じること、悔い改めること、聖約を交わし、新たにし、守ること、御霊^{みたま}によって清められることが生活のパターンとなります。わたしたちの毎日の生活における行いは、これらの原則によって形造られ、治められます。この道をたどることで平安と喜びが得られます。そしてわたしたちは、少しずつキリストのような特質を身に付けます。この道を歩み続け、「キリストを確固として信じ、……力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、」「あなたがたは〔ついに〕永遠の命を受ける」と約束されています（2ニーファイ31：20）。

聖文研究

最後まで堪え忍ぶ

2ニーファイ9：24

3ニーファイ27：16-17

マタイ10：22

2ニーファイ31：14-20

堪え忍ぶ人々に与えられる祝福

1ニーファイ13：37

3ニーファイ15：9

教義と聖約14：7

バプテスマの勧め

バプテスマと確認の勧めは、次のように、具体的、かつ単刀直入でなければなりません。「イエス・キリストの模範に従って、神の神権の権能を持つ人から、バプテスマを受けていただけますか。（○月○日）にバプテスマ会が予定されています。この日にバプテスマを受けるよう準備していただけますか。」

教えるためのアイデア

本項にはこのレッスンを準備し、教えるために活用できるアイデアが記されています。これらのアイデアの使い方については、よく祈ってから、御霊の導きに従って決めてください。レッスンで採り上げるアイデアをあなたのレッスンプランに書き加えてください。これらのアイデアは、あなたが教える人々の必要を満たすうえで役立つための提案であって、必ず採り上げなければならないものではないことに注意してください。

ショートレッスンプラン (3-5分)

イエス・キリストの福音は、永遠の命に通じる、ただ一つの道です。イエス・キリストの福音の第一の原則と儀式とは、イエス・キリストを信じる信仰を持つこと、悔い改めること、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを受けること、聖霊の賜物を受けることです。わたしたちはその後で、最後まで堪え忍ぶ必要があります。この原則を生涯を通じて取り入れるなら、わたしたちは救い主の模範に従い、主の戒めを守り、キリストのような特質を伸ばすことができます。そして、わたしたちは罪の赦しを受け、天のお父様のもとに戻って住むことができます。

- わたしたちはキリストを通して罪から清められる
- イエス・キリストを信じる信仰
- 悔い改め
- バプテスマ、最初の聖約
- 聖霊の賜物
- 最後まで堪え忍ぶ

決意

- イエス・キリストの福音を続けて学ぶことによって、主を信じる信仰をこれからも築き続けていただけますか。
- 悔い改め、罪の赦しを求めて祈っていただけますか。
- (○月○日) にバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になっていただけますか。確認の儀式を受けて、聖霊の賜物を受けていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

ミディアムレッスンプラン (10-15分)

わたしたちのメッセージは、信仰と希望のメッセージです。わたしたちはイエス・キリストを愛し、礼拝します。イエス様は、神様の幸福の計画の中心です。キリストの贖いの犠牲のおかげで、わたしたちは神様のもとで永遠の命を得ることができます。福音に従って生活すれば、イエス様は、わたしたちを憐れんで、罪を赦してくださいます。イエス様はわたしたちを癒し、後ろめたさや、やましい気持ちを取り去って、その代わりに、平安と幸福を与えてくださいます。

イエス・キリストの福音は分かりやすいものです。まず、キリストを信じる信仰から始まります。わたしたちはイエス様を信じ、信頼し、頼りにします。そのような信仰を持つと、悔い改めたいと思うようになります。間違ったことをやめて、正しいことを続けて行いたいと思うようになります。イエス様を信じるようになると、戒めを守ることでイエス・キリストへの愛を示そうと望むようになります。これにはバプテスマも含まれ

メモ

メモ

ます。バプテスマを受けた人には、聖霊の賜物^{たまもの}が与えられると約束されています。聖霊はわたしたちを導き、慰め、真理を知ることができるように助けてくださいます。聖霊がわたしたちと一緒におられるときには、そのことを心と思いとで理解することができます。また、平安、愛、喜びを感じます。人に奉仕したいと思うようになります。生涯を通じて、主に喜んでいただくために努力したいと思うようになるのです。

イエス・キリストは、末日の預言者を通して、福音を回復されました。わたしたちはモルモン書から、福音を学ぶことができます。○○さんはそれを読み、深く考えて、祈ることができます。神様は聖霊の力によってモルモン書が真実であることを○○さんに教えてください。モルモン書が真実であることが分かると、悔い改めて、バプテスマを受けたいと思うようになります。バプテスマを受けることで、罪の赦しを受け、聖霊の賜物^{たまもの}を受けたいと望むようになるのです。

決意

- イエス・キリストの福音を続けて学ぶことによって、主を信じる信仰をこれからも築き続けていただけますか。
- 悔い改め、罪の赦し^{ゆるぎ}を求めて祈っていただけますか。
- (○月○日) にバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になっていただけますか。確認の儀式を受けて、聖霊の賜物^{たまもの}を受けていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

フルレッスンプラン (30–45分)

- わたしたちは、キリストを通して罪から清められる
 - 神様は、愛する御子イエス・キリストを世に送られました (ヨハネ3：16–17参照)。
 - わたしたちは、キリストの恵みと憐れみ^{あわれみ}によってのみ、罪から清められます (2ニーファイ2：6–8参照)。
 - キリストを受け入れ、罪を悔い改めて、キリストに従うことは、わたしたちの責任です。
- イエス・キリストを信じる信仰
 - わたしたちは、キリストを世の救い主として信じます。
 - イエス・キリストは、わたしたちが御自身の教えを受け入れて従うことを望んでおられます。
 - 従うなら、祝福を受けます (教義と聖約130：20–21参照)。
- 悔い改め
 - キリストを信じると、悔い改めたいと思うようになります (アルマ34章参照)。
 - 神様の御心^{みこころ}に添った悲しみを感じます (2コリント7：9–10参照)。
 - 間違ったことをやめて、正しいことを続けて行います。

メモ

- 罪を告白します。重大な罪は教会の指導者に告白します。教会の指導者は、わたしたちが悔い改められるように助けてくれます（教義と聖約58：43参照）。
- 赦しを受け、後ろめたさや、やましい気持ちがなくなり、代わりに平安を受けます（アルマ36：17-21参照）。
- バプテスマ、最初の聖約
 - 儀式とは、神様と聖約を交わすために行われる、神聖な宗教儀礼です。
 - 聖約とは、神様と神様の子供たちの中で交わされる厳かな約束です。
 - 聖約を交わすと祝福を受けます。
 - わたしたちは、罪の赦しを受けるために、水に沈めるバプテスマを受けます（信仰箇条1：4参照）。
 - バプテスマを受けるときに、わたしたちは、キリストに従う新しい生活を始めます（ローマ6：3-8参照）。
 - バプテスマは、神権の権能を持つ人によって行われなければなりません。
 - 毎週聖餐を受けることによって、バプテスマの聖約を新たにします（教義と聖約20：77, 79）。
- 聖霊の賜物
 - 水に沈めるバプテスマの後で、聖霊によってバプテスマを受けます。この二つの儀式を切り離すことはできません。
 - 神権者は按手礼（頭の上に手を置く）によって聖霊の賜物を授けます。
 - 聖霊は、教え、清め、慰め、真理を証し、警告し、導いてくださいます（2ニーファイ32：1-5；モーサヤ5：1-6；モロナイ10：5；教義と聖約36：2参照）。
- 最後まで堪え忍ぶ
 - バプテスマと確認を受けたら、福音の道を歩み続けなければなりません。
 - 聖霊の賜物を享受できるよう、最善を尽くして罪を遠ざけます。
 - 信仰、悔い改め、聖約を交わし守ること、そして聖霊を受けることで福音の道を忠実に歩むなら、永遠の命を受ける資格が得られます（2ニーファイ31：14-20参照）。
 - わたしたちは生涯を通じて、悔い改めを続けなければなりません（教義と聖約19：15-20参照）。

決意

- イエス・キリストの福音を続けて学ぶことによって、主を信じる信仰をこれからも築き続けていただけますか。
- 悔い改め、罪の赦しを求めて祈っていただけますか。
- (○月○日) にバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になっていただけますか。確認の儀式を受けて、聖霊の賜物を受けていただけますか。
- 次の日曜日に、わたしたちと一緒に教会に出席していただけますか。
- 次回の訪問予定を決めてもよろしいですか。
- レッスン4から選んだほかの戒め

メモ

教えた後に尋ねる質問

- 今日学んだことについて、何か質問がありますか。
- 悔い改めるとはどのような意味ですか。
- 聖霊の賜物は、なぜ福音に欠かせないと思いますか。
- バプテスマを受けて、聖霊の賜物を受けることは、〇〇さんにとってなぜ大切ですか。
- 教会の集会について、理解できないことがありましたか。
- 教会の集会で、どのようなことが楽しかったですか。

大切な言葉の定義

- **憐れみ**——憐れみとは、同情し、愛し、救済の心のことです。憐れみは神様の属性の一つです。わたしたちが悔い改めることを条件として、イエス・キリストは贖いの犠牲を通してわたしたちを憐れんでくださいます。
- **永遠の命**——永遠の命とは、家族として神様のもとで永遠に神様とともに住むことです（教義と聖約132：19-20参照）。永遠の命は、神様から人に与えられる最も大きな賜物です。
- **確認**——確認とは、教会員となり、聖霊の賜物を受けるために、メルキゼデク神権者が頭の上に手を置いて行う儀式のことです。
- **更新**——更新とは、取り去られたり、失われたりした物事が元に戻ることです。例えば、福音の回復は更新と呼ばれることもあります（使徒3：19-21）。
- **最後まで堪え忍ぶ**——最後まで堪え忍ぶとは、誘惑や反対や逆境に屈することなく、神様の戒めに忠実であり続けることです。
- **聖約**——聖約とは、神様と人との間で交わされる合意のことです。ただし、この合意は対等の関係によるものではありません。神様は聖約に関して条件を定め、人は神様から求められることを行うという合意をします。神様は、人が条件に従うなら、定められた祝福を与えることを約束されます。わたしたちは儀式を受けるときに神様と聖約を交わします。聖約を交わすときには、聖約を尊重することを誓います。例えば、教会員はバプテスマのときに主と聖約を交わし、聖餐を受けることによってその聖約を更新します。わたしたちは神殿でも聖約を交わします。主の民は聖約を交わす民であり、主との聖約を守るときに、豊かに祝福されます。
- **福音**——福音とは、神様の救いの計画のことです。この計画は、イエス・キリストの贖いによって可能になりました。福音には、人が神様のもとへ戻るために必要な永遠の真理や律法、聖約、儀式が含まれています。
- **恵み**——恵みとは、信仰を实践し、悔い改め、全力を尽くして戒めを守ることを条件に受けられるイエス・キリストの力のことです。この力によって、この世で祝福を受け、永遠の命と昇栄を受けることができます。この神聖な助けと力は、イエス様の憐れみと愛を通して与えられます。アダムが墮落したことで、人間が持つ弱さのために、すべての人が神の恵みを必要としています。

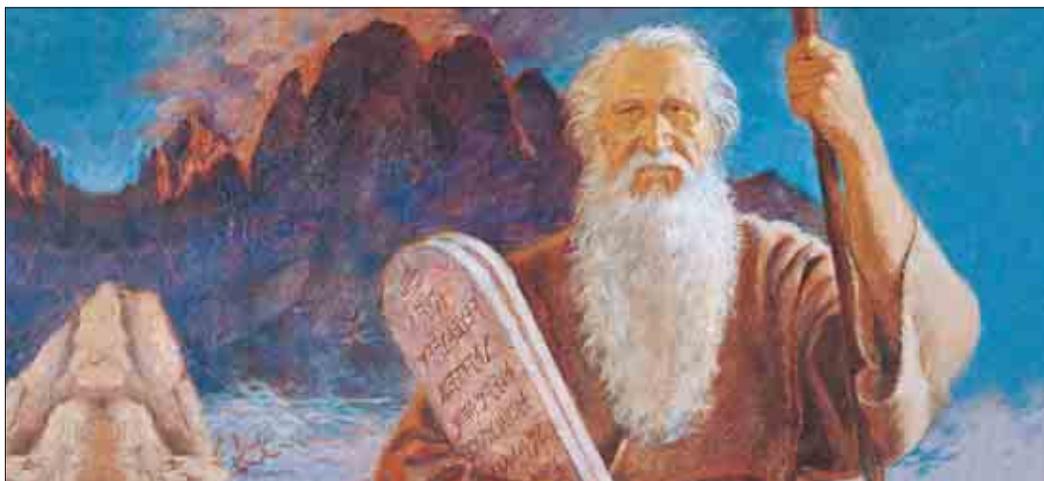
教える人々に詳しく定義する必要があると思われるその他の用語

- | | | |
|------|-----------|------|
| ● 祈り | ● 狭くて細い道 | ● 救済 |
| ● 告白 | ● 罪から清くなる | |
| ● 聖餐 | ● 誘惑 | |

戒め

バプテスマと確認に備える

メモ



このレッスンを教えるにあたって

このレッスンで採り上げられている戒めを教える方法は、たくさんあります。例えば、このレッスンに記されている幾つかの戒めを、最初の3つのレッスンの一部として教えるか、一つのレッスンとして幾つかの戒めを教えてもよいでしょう。求道者の必要と御霊の指示に従って決めてください。

教える準備

戒めを教える目的は、人々がバプテスマと確認に備えるに当たり、イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改めることで、福音に従った生活ができるよう助けることです。戒めに従うことにより、人々は福音に対する証を強めます。そして、「打ち砕かれた心と悔いる霊」を持っていることを表し、すべての罪を悔い改めるようになるのです（モロナイ6：1-4；教義と聖約20：37参照）。

このレッスンは、これまでの3つのレッスンとは構成が異なります。これまでのレッスンでは、イエス・キリストの福音の基本を成す教義を扱ってきました。このレッスンでは、福音の原則を生活の中で実践するために、神がお与えになった具体的な戒めについて説明します。

このレッスンを教える方法はたくさんあります。どのような方法で教えるかは、求道者の必要と御霊の指示に従って決めてください。どうしたら求道者が福音に従って生活できるようになるかを、絶えず考えて祈ってください。以下のアイデアを参考にします。

- 幾つかの戒めを、レッスン3までのレッスンの一部として教えます。その際、アルマ12：32で教えられている原則、「神は、贖いの計画を人々に示された後、……戒めを彼らに与えられた」（強調付加）ことを忘れてはなりません。祈りや聖文研究など特定の戒めは、レッスン3までの中で教えるとよいでしょう。ほかの戒めは、レッスン3までの中で採り上げられている、福音の教義的な基礎を築いてから教えるとよいでしょう。
- 二つか三つの戒めを単独のレッスンとして教えます。
- 一つの戒めを単独のレッスンとして教えます。

- 福音に関連づけながら戒めを教えます。イエス・キリストの福音に関するレッスンを簡単に復習してから、一つまたは複数の戒めを教えます。こうすることで求道者は、バプテスマと確認に備えるに当たって、救い主への信仰を働かせ、悔い改めることが、戒めとどう関連づいているかを理解できるのです。イエス・キリストの福音を、生活のパターンとしてとらえるときに、彼らの生活は豊かに祝福されます。

何回かの少ない訪問で教えることができる求道者もいれば、多くの訪問を必要とする求道者もあります。あなたは、人々がバプテスマと確認に十分に備えられるよう、臨機応変に、最適な方法でレッスンを教えることができます。あなたは本書に記されていることをすべて教えるだけでなく、人々がイエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマと聖霊の賜物を受け、最後まで堪え忍ぶことによって、キリストのもとに来よう助ける必要もあります。

レッスンの時間は、ほとんどの場合、45分を超えてはなりません。教える時間がわずかしかないこともあるでしょう。そのような場合は、教える内容を幾つかに分けて、短いレッスンを何度も行う必要があるでしょう。

このレッスンは、いろいろな方法で教えることができます。どの戒めを、いつ、どれだけの時間を取って教えるかは、求道者の必要と御霊の導きに従うことにより最もよく決めることができます。

戒めと決意事項について学ぶ

このレッスンを研究するときは、以下のパターンに従ってください。

- 戒めを説明している項目を研究し、3つから5つの要点を含めた、簡単なレスンプランを書き出します。
- 同僚を相手に2、3分の短いレッスンを教えます。どのように決意事項を勧め、求道者の問題を解決するか練習します。
- 求道者が受け入れた決意事項をフォローアップする方法について話し合います。

従順

神様は、わたしたちのために戒めを与えられます。戒めは、わたしたちが幸せな生活を送れるように、愛ある天のお父様が与えられた指示です。神様はまた、人に選択の自由を与えられました。選択の自由とは、善と悪を選ぶ力とそれを選ぶ機会のことです。神様に従うとき、わたしたちは御霊の導きに従って、神様の御心になかったことを選びます。戒めに従順であるなら、この世で平安を得ます。そして次の世では、永遠の命を受けることができます。従順であるとき、わたしたちは神様を愛していることを示します。しかし従順でないとき、わたしたちは悲しみを受けます。

天のお父様はわたしたちの弱さを御存じです。そして、忍耐強く見守ってくださいます。わたしたちが戒めに従うために努力するときに、天のお父様は祝福してくださいます。天のお父様は、わたしたちがお父様に従うことを期待しておられます。お父様に従うなら、祝福があるからです。

聖文研究

選択の自由

2 ニューファイ 2：26-29
アルマ12：31

教義と聖約58：26-29
教義と聖約82：8-10

『聖句ガイド』「選択の自由」の項

従順

教義と聖約130：20-21

ヨハネ14：15, 21

伝道12：13

決意

- 神の律法に従っていただけますか。

しばしば祈る

わたしたちは神様に祈るように命じられています。いつでも、どんなときも祈ることができます。主は、朝と夜に、独りで、また、家族と一緒にひざまずいて祈るように教えておられます。天のお父様は、祈りを聞いて、こたえてくださいます。毎日祈るとき、わたしたちは、神様の導きと祝福を受けます。わたしたちは、いつも心から祈らなければなりません。また、「誠意をもって」祈らなければなりません。それは、受けた答えに従って、必ず行動するという意味です。

わたしたちはイエス・キリストの御名によって、天のお父様に信仰をもって祈ります（モーセ5：8参照）。神様はわたしたちの天のお父様です。そしてわたしたちは神様の子供ですから、神様はわたしたちの祈りにこたえてくださいます。祈るときは、まず天のお父様に呼びかけます。そして、「イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という言葉で終わります。祈りの中で、わたしたちは、愛する天のお父様に何でも正直に話します。自分が受けている祝福を感謝します。神様を愛していることを伝えることもできます。また、わたしたちが必要な助けや、守り、指示を願い求めます。

信仰をもって、心から、誠意をもって祈るとき、わたしたちは、生活の中で神様の影響を感じます。神様は、毎日わたしたちを導き、正しいことを選べるように助けてくださいます。慰めと平安を与えてくださいます。また、危険を知らせ、誘惑に立ち向かう力を与えてくださいます。神様は、わたしたちの罪を赦してください。わたしたちは、神様を身近に感じます。わたしたちは、生活の中に神様の影響があることを認めて、御霊の静かな細い声を聞くように努力しなければなりません。

聖霊が真理を教えてください、わたしたちはそれが分かります。わたしたちの思いが強められ、高められます。心に光が注がれます。新しい知識が与えられます。わたしたちの心に平安と、喜びと、愛が生まれます。そして、正しいことを行って、人々を助けたいと願います。この気持ちを言葉で表すのは難しいですが、感じればそれが分かります。

聖文研究

2 ニーファイ32：8-9

教義と聖約6：22-23

教義と聖約19：28

エノス1：1-12

教義と聖約8：2-3

列王上19：11-12

アルマ34：17-28

教義と聖約9：7-9

『聖句ガイド』『祈り』の項

モロナイ10：3-5

決意

- 個人として、また家族として、毎日ひざまずいて祈っていただけますか。

聖文を研究する

聖文とは、神様がその子供たちと交わられた記録です。預言者が聖霊の導きによって記録しました。わたしたちは信仰をもって、神様が明らかにされた言葉を研究し、信じ、従うことで信仰を示します。わたしたちは真理を理解するために熱心に聖文を調べます。聖文は啓示への扉を開いて、わたしたちが何をすべきか、また、どのような人になるべきかを教えてください。わたしたちが神様の言葉をよく調べるのはそのためです。また、わたしたちは、イエス・キリストとその福音について知るために聖文を調べます。イエス・キリストを信じる信仰は、神様から与えられる賜物です。この賜物は、神様の言葉と福音を研究し、行うことによって与えられます。教会で認められている聖文は、標準聖典と呼ばれています。それは、聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠です。わたしたちは、これらの聖文を、毎日研究する必要があります。

メモ

聖文研究

1 ニーファイ 19:22-23	2 ニーファイ 31:19-20	ヨハネ 20:31
2 ニーファイ 9:50-51	2 ニーファイ 32:3-5	2 テモテ 3:14-17
2 ニーファイ 25:26	アルマ 32:28-30	2 ペテロ 1:20-21
2 ニーファイ 29:1-13	ヨハネ 5:39	

決意

- 個人として、また家族として、毎日聖文を読んでもいただけますか。

安息日を聖く過ごす

わたしたちは安息日をどのように過ごすかで、神様を敬い、礼拝する気持ちを表します。わたしたちは安息日を聖く過ごすことによって、喜んで聖約を守ることを神様に示します。毎週、安息日に主の家に行って礼拝します。そして聖餐を受けて、イエス・キリストと、主の贖いを思い起こします。また、聖約を新たに、罪と過ちを喜んで悔い改めます。

安息日には、仕事を離れて休みます。教会の集会に出席して、一緒に礼拝することにより、互いに強め合います。友達や家族と一緒に過ごすことにより、新しい力をもらいます。聖文を研究し、回復された福音についてもっと学ぶことにより、信仰が強くなります。

人々が安息日を聖く過ごさなくなると、社会や国で宗教を大切にすることが弱くなります。そして生活のいろいろなところで悪い影響が出てきます。安息日を聖く過ごすことで得られる祝福がなくなってしまいます。安息日には、買い物を控えるべきです。また、商売やスポーツなどを控えるべきです。それらは現在一般的に行われていますが、安息日を汚します。

この聖なる日に、末日聖徒は、この世のことから離れます。そして、礼拝と感謝と奉仕の心を持ち、安息日にふさわしい活動を家族と一緒にを行います。安息日に、主の御霊にふさわしい活動を行うようにするなら、教会の会員は喜びと平安をたくさん受けることができます。

聖文研究

3 ニーファイ 18:1-25	出エジプト 20:8-11	イザヤ 58:13-14
教義と聖約 59:9-15	出エジプト 31:12-17	

教会で求道者や会員と一緒に座る

聖餐会やステーキ大会に出席するとき、宣教師は同僚とともに、求道者、最近改宗した人、会員たちと一緒に座ります。ほかの宣教師たちと一緒に座るべきではありません。

決意

- 安息日を、聖く過ごしていただけますか。
- ふさわしい状態で聖餐を受けられるよう、準備していただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- 毎週聖餐を受け、教会員に奉仕することも含め、安息日についてどのように理解していますか。〇〇さんは〔バプテスマを受ける前から〕この律法に進んで従いますか。

バプテスマと確認

わたしたちはバプテスマと確認を通して、神様の道に入りたいと望んでいることを示します。バプテスマと確認の儀式を受けるとき、わたしたちは神様と聖約します。わたしたちはその聖約の中で、イエス・キリストの御名を受け、いつもイエス・キリストを覚え、イエス・キリストの戒めを守ることを約束します。またいつでも神様の証人になり、助けを必要としている人を助けることを約束します（モーサヤ18：8-9参照）。すると神様は、わたしたちがいつも聖霊と一緒にいられることを約束してくださいます。また、わたしたちの罪が赦され、わたしたちが新しく生まれることを約束してくださいます。

決意

- バプテスマと確認の儀式を受けていただけますか。
- バプテスマ会に、求道者（福音に興味がある人）を招待していただけますか。
- できれば、だれかの確認の儀式が行われる聖餐会に、求道者（福音に興味がある人）を招待してください。

該当するバプテスマの面接の質問

- すべてのバプテスマの面接の質問

バプテスマの勧め

バプテスマと確認の勧めは、次のように、具体的、かつ単刀直入でなければなりません。「イエス・キリストの模範に従って、神の神権の権能を持つ人から、バプテスマを受けていただけますか。（〇月〇日）にバプテスマ会が予定されています。この日にバプテスマを受けるよう準備していただけますか。」

預言者に従う

真理とは、現在ある、過去にあった、また未来にあるとおりの物事についての知識です。真理は、状況や時間で変わることがありません。時代も文化も関係ありません。すべての真理は神様から出ています。神様が教えてくださるのは真理だけです。ですから、わたしたちは神様に信仰を持つことができますのです。神様は、すべての子供たちが真理を知るように望んでおられます。その理由で、神様は、救いに必要な真理を預言者と使徒を通して明らかにしておられるのです。神様は、聖文と個人の啓示を通して、わたしたちに個人的に真理を示してくださいます。

預言者は神様から選ばれ、召された正しい人で、強い信仰を持っています。主は聖霊を通して、預言者に真理を明らかにされます。主は、すべての人に真理を教えるように、預言者に命じておられます。預言者を通して明らかにされた神様の言葉を信じるなら、祝福を受けます。

キリストの教会は、使徒や預言者という土台の上に建っています。使徒や預言者は、啓示を受けて教会を導きます。主は、ジョセフ・スミスを預言者として召されました。今は最後の神権時代ですが、ジョセフ・スミスは、この神権時代の最初の預言者として、また頭として召されました。今日、ジョセフ・スミスに続く後継者たちが末日聖徒イエス・キリスト教会を導いています。彼らも預言者であり、使徒です。今の大管長は、生ける預言者です。わたしたちは、神様が選ばれた預言者を信じなければなりません。また、預言者が神様から召されていることを確信して、その教えに従わなければなりません。

わたしたちは、集会などで教会の指導者を支持する機会がよくあります。「支持する」とは、支えることです。わたしたちは自らを備える必要があります。そうすれば、預言者や使徒が語るときに、聖霊によって彼らの教えが真実であることが分かります。そして彼らの勧告に従う決心ができます。

生ける預言者と使徒の勧告を聞き、従うなら、いつも正しい道にすることができます。この世の中ではどんどん価値観が変わりますが、生ける預言者の教えは永遠の真理の錨となります。そ

して、わたしたちが惨めにならないように、悲しくならないように助けてくれます。この世の混乱と争いに負けることもありません。神様の御心を行っていらっしゃるという確信をもって生活することができます。

聖文研究

モーサヤ15：11-12	教義と聖約21：1-7	エペソ2：19-20
アルマ13：1-16	教義と聖約136：37-38	エペソ4：11-14
3ニーファイ12：1-2	ヨハネ15：16	ヘブル5：4
教義と聖約1：37-38	使徒10：34-44	アモス3：7

決意

- ビショップに会っていただけますか。
- 教会の指導者の勧告を支持して従っていただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- あなたは〔現在の預言者〕が神の預言者であることを信じていますか。そのことはあなたにとってどのような意味がありますか。

十戒を守る

天のお父様は、わたしたちに戒めをお与えになります。天のお父様はわたしたちに、喜び、良心の安らぎ、いつまでも続く幸福などの祝福を与えたいと願っておられます。戒めは、わたしたちがそれらの祝福を受けるために何を行い、何を避けるべきかを教えてくれます。神様はモーセに、民を導くために十戒を授けられました。

- 「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」(出エジプト20：3)ほかの「神」には財産、権力、名声などが含まれる。
- 「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。」(出エジプト20：4)
- 「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」(出エジプト20：7)
- 「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」(出エジプト20：8)
- 「あなたの父と母を敬え。」(出エジプト20：12)
- 「あなたは殺してはならない。」(出エジプト20：13)
- 「あなたは姦淫してはならない。」(出エジプト20：14)
- 「あなたは盗んではならない。」(出エジプト20：15)
- 「あなたは隣人について、偽証してはならない。」(出エジプト20：16)
- 「あなたは……むさぼってはならない。」(出エジプト20：17)

わたしたちは、今もこの十戒を守ります。十戒は、神様を礼拝し、敬うよう教えています。また、わたしたちが、互いにどのように接したらよいかを教えています。

メモ

なにもものをも神としてはならない

多くの文化には、神や先祖を思い起こす物を所有したり、それらに敬意を表したりする習慣があります。像や宗教上の象徴、小型の祭壇なども、礼拝の儀式的対象となることがあります。主は、偶像を礼拝してはならないと命じておられることを理解するよう助けてください。礼拝や祈りの対象とする物を、家庭から取り除くよう勧めます。天の御父とイエス・キリストに信仰を向けて、礼拝するよう助けるのです。回復されたイエス・キリストの福音は、生けるキリストを中心としていることを教えてください。

回復された福音において、主は、どのようにして御自身を覚えたらよいかを教えてください。わたしたちは、祈り、^{せいさん}聖餐、神殿での礼拝を通して、主を思い起こします。具体的な事例については、伝道部会長の指示を仰いでください。

聖文研究

モーサヤ13章

マタイ22：36-40

申命5：6-21

教義と聖約59：5-6

出エジプト20：1-17

決意

- 十戒を守っていただけますか。

純潔の律法を守る

神様は純潔を喜び、性的な罪を嫌われます。純潔を守ることには、結婚する前に決して性的な関係を持たないこと、また、結婚した後は、^{ほんりよ}伴侶以外といかなる性的な関係も持たないこと、伴侶に対して心から誠実であることが含まれます。純潔の律法を守る人は、自制心を持ち、強さを得ることができます。また、家族の中で自信と信頼を得ます。生活の中で、聖霊の力をもっと強く感じることができます。この律法を破る人は、恥ずかしい気持ちと罪悪感をいつまでも持つこととなります。それは人生の重荷となります。

純潔を守るためには、思いと行いが誠実でなければなりません。清い思いを持ち、服装と言葉と行動が慎み深くなければなりません。どのような形のポルノグラフィーも避けなければなりません。神様が与えてくださった生殖の力と、わたしたちの体を神聖に扱う必要があります。バプテスマを受けたいと願う人は、純潔の律法を守らなければなりません。この律法は、正式に結婚している男女の間以外では、どのような性的な関係も持つてはならないと教えています。また、中絶やホモセクシャル、バイセクシャルなどの同性愛にかかわることも禁止されています。性的な罪を犯した人は、悔い改めて^{ゆる}赦しを受けることができます。

どうせい 同棲生活を送っている男女

一緒に住んでいて、結婚していない男女は、まず結婚するか、別居して離れなければバプテスマを受けることができません。また、同時に一人以上の人と結婚している人は、バプテスマを受けることができません。それぞれのケースについては、伝道部会長に相談してください。

聖文研究

モルモン書ヤコブ2：28

3 ニーファイ12：27-30

マタイ5：27-28

モーサヤ13：22

教義と聖約42：22-24

ローマ1：26-32

アルマ39：3-5

教義と聖約63：16

エペソ5：3-5

決意

- 純潔の律法に従って生活していただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- 法的に結婚をした男女間の結びつき以外のあらゆる性的関係を禁じる純潔の律法についてどのように理解していますか。〇〇さんは〔バプテスマを受ける前から〕この律法に進んで従いますか。
- これまで墮胎や同性愛にかかわったことがありますか。〔注意—この質問に「はい」と答えた人は、バプテスマを受ける前に伝道部会長の面接を受けなければなりません。〕

知恵の言葉に従う

主は預言者ジョセフ・スミスに、健康の律法を明らかにされました。それは知恵の言葉と呼ばれています。知恵の言葉は、体のために取るべきものと、取るべきではないものについて教えています。この律法は、体の健康のために、また悪の力から逃れるために与えられました。これを守る人は、健康と強さが約束されます。また悪から守られ、霊的な真理を受け入れやすくなります。

わたしたちの体は神聖です。大切に、敬わなくてはなりません。知恵の言葉は、健康によい物を食べるように教えています。また、何を取ってはならないかをはっきりと教えています。それは、アルコール、たばこ、茶、コーヒーなどの有害な物です。そのほか、どのような形の有害な薬物（ドラッグ）も取ってはなりません。バプテスマと確認の儀式を受けたいと願う人は、これらの物をやめなければなりません。知恵の言葉に従う人は、霊的な真理を受け入れやすくなります。

伝道地の文化で取られている物が知恵の言葉に反するかどうかは、伝道部会長に聞いてください。

常用癖を克服する

次に挙げる原則に従えば、喫煙、アルコールなどの習慣を克服できずにいる人たちを、上手に助けることができます。以下の提案は、特に知恵の言葉に応用するものですが、ほかの常用癖にも、応用することができます。

1. 知恵の言葉を、いつから、どのような方法で守るか、目標を立ててもらう。
2. 知恵の言葉を守れるよう、個人的に祈り、本人と一緒にいるときにも祈る。
3. 失敗しても、必ずできるという態度で励ます。
4. 引き続き福音を教え、祈りと信仰を通して力を得る方法を教える。
5. 教会の集会に定期的に出席して、知恵の言葉を守り、同じ常用癖を克服した人々と親しくなるように助ける。
6. 適切であれば、神権の祝福を授けることを申し出る。
7. 有害な物質を、家に置かないように勧める。

常用癖を克服することに関するさらなる指示は、本書第10章を参照してください。

聖文研究

教義と聖約89章

1コリント3：16-17

1コリント6：19-20

決意

- 知恵の言葉に従って生活していただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- 知恵の言葉についてどのように理解していますか。あなたは〔バプテスマを受ける前から〕この律法に進んで従いますか。

メモ

什分の一の律法を守る

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になると、大きな祝福があります。その中の一つは、什分の一を払うことにより、神様の王国が成長するのを助けられることです。什分の一は神聖な律法です。古代から行われていました。例えば、旧約聖書の預言者アブラハムは、全財産の10分の1を払いました（アルマ13：15参照）。

主は、什分の一を払う人にこう約束されています。「天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ。」（マラキ3：10）この神聖な律法に従うなら、物質的、または霊的に祝福を受けるでしょう。

什分の一とは、10のうちの1を意味します。主は、わたしたちが祝福を受けられるように、収入の10分の1を払うように命じられました。什分の一を払うことによって、主の王国を建てる助けができます。主にお支払いする什分の一は神聖なものです。什分の一を払うことによって、主を敬うことを示します。神様は、正直に什分の一を払う人を豊かに祝福すると約束しておられます。什分の一を払わない人は、神様の物を盗んでいます（マラキ3：8参照）。ほんとうは主にお返しすべきものを返していないからです。わたしたちは、まず、神様の国を求めなければなりません。什分の一も、神様の国を求める方法の一つです。什分の一を払うことによって、わたしたちは信仰を示します。そして神様と神様の業への信仰が見える形で示すのです。

什分の一基金は、教会の活動を支えるために使われます。神殿や集会所の建設と維持、世界中で福音を伝えること、神殿や家族歴史を行うことなど、世界中で行われている多くの活動のために使われます。什分の一は、地元の教会指導者には払われません。どのような形でも、地元の指導者がそのお金を受けることはありません。

地元の教会指導者は、受け取った什分の一を、毎週教会本部に送ります。神聖な什分の一基金をどのように使うかは、大管長会、十二使徒定員会、管理ビショップリックで構成される評議会が決めます。

聖文研究

什分の一

教義と聖約119章	ヘブル7：1-2	レビ27：30-33
教義と聖約120章	創世14：18-20	マラキ3：7-12

信仰

3ニーファイ13：33	エテル12：6
-------------	---------

決意

- バプテスマを受けた後に、什分の一の律法に従っていただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- 什分の一の律法についてどのように理解していますか。あなたはこの律法に進んで従いますか。

断食の律法を守る

断食という神様の戒めを守る人は、大きな祝福を受けます。断食とは、一定の時間、何も食べない、また何も飲まないことです。普通、わたしたちは毎月第1日曜日に断食します。この特別な日に、わたしたちは続けて2回食事を取りません。そして祈り、証あかしをします。断食と祈りは一緒にします。信仰をもって断食して、祈るなら、祈りの答えと主からの祝福をもっと受けやすくなります。主は、いつもわたしたちを導いてくださることを約束しておられます。断食して祈るときは、具体的な目的を持つ必要があります。断食は個人的で、霊的なことです。食べ物や飲み物を取らないということばかりに思いがいかないようにしてください。

ほんとうの信仰を持つとは、貧しい人々に親切にすることでもあります。わたしたちは、貧しい人々が物質的、また霊的に満たされるよう助けなければなりません。断食するとき、わたしたちは貧しい人や、助けを必要としている人を助けるために教会に献金します。これは断食献金といいます。断食した2回分の食事のお金を献金します。それ以上のお金を献金することもできます。できるかぎりたくさん、惜しみなく献金するように勧められています。貧しい人に親切にすることによって、わたしたちはバプテスマの聖約を守り、罪の赦しゆるを保つことができます。

聖文研究

断食

オムナイ 1：26

アルマ 17：2-3

教義と聖約 88：76

アルマ 5：45-46

モロナイ 6：5

マタイ 6：1-4, 16-18

アルマ 6：6

教義と聖約 59：12-16

イザヤ 58：6-11

貧しい人の世話をする

モーサヤ 4：16-27

アルマ 4：12-13

ヤコブの手紙 1：27

モーサヤ 18：8-10

マタイ 25：34-46

イザヤ 58：3-12

決意

- 次の断食日曜日に、何か特別な目的をもって断食し、祈っていただけますか。
- [バプテスマを受けた後、] 断食献金を、惜しみなく納めていただけますか。

什分の一と献金を納める方法

什分の一と、献金は、自発的に、また個人的に納めるものです。会員は、いつでも什分の一と献金を納めることができますが、普通、什分の一は、収入を得たときに納めるのがよいでしょう。また、断食献金は、断食日に納めるのがよいでしょう。会員は、献金票に必要事項を記入して献金します。献金票はビショップリックから受け取ることができます。黄色の用紙は手もとに残し、白の用紙と献金を用意された封筒に入れて封をします。この封筒を、ビショップリックの一員に渡します。献金は神聖なものであり、それは主のものです。ビショップリックの一人と、書記一人が、すべての献金を細心の注意を払って計算します。(日本では、下線部分と会員直接献金制度のいずれかを使用することができます。)

会員は毎年、一年の終わりにビショップから什分の一面接を受けて、什分の一を正直に納めたかどうかを申告します。この個別面談で、会員は、自分のすべての献金についての、年度末報告書を受け取ります。財政に関する情報は、すべて内密に扱われます。

什分の一と献金を納める方法を教える

献金票を見せて、その使い方を説明してください。改宗者がバプテスマを受けたら、献金票に記入できるよう助けるとよいでしょう。

法律を遵守し、敬う

あらゆる地の末日聖徒は、自分が住んでいる国の法律に従うべきことを信じています。教会員は、善良な市民となり、市や国の政治活動に参加し、地域社会で奉仕するよう勧められています。しかし、それは関心を持つ一市民として行動するのであって、教会を代表して行うものではありません。

聖文研究

教義と聖約58：21

教義と聖約130：20-21

信仰簡条1：12

教義と聖約98：5

教義と聖約134章

決意

- ○○さんが住んでいる国の法律を守っていただけますか。

該当するバプテスマの面接の質問

- あなたは過去に重大な犯罪にかかわったことがありますか。もしあれば、現在執行猶予中または仮保釈中ですか。[注意—この質問に「はい」と答えた人は、バプテスマを受ける前に伝道部会長の面接を受けなければなりません。]

活動

このレッスンで採り上げられている、一つ一つの戒めについて、戒めを守る人に与えられている主の約束を、聖典の中から書き出します。自分の生活の中で約束が実現したときのことを、学習帳に書いてください。

メモ

律法と儀式

バプテスマと確認を受けた後



© 1986 Deil Parson 撮影は禁じられています。

教える準備

改宗者が、バプテスマと確認を受けた後、ワード指導者は、今後、ワード宣教師と専任宣教師のどちらが中心になって教えていくかを決めます。また専任宣教師がどれほどの期間レッスンに携わるかを決めます。このレッスンは、改宗者がバプテスマと確認を受けてからすぐに実施します。この律法と儀式についてのレッスンを教え始める時期は、バプテスマから確認までの間でも、バプテスマの前でもかまいません。バプテスマ志願者はバプテスマを受ける前に、少なくともこれらの律法と儀式があることを知っていなければなりません。

このレッスンは、第4課と同じように進めます。どのような方法で教えるかは、改宗者の必要と、御霊の指示に従って判断します。新しく改宗した人が福音に従って生活できるよう助けるにはどうしたらよいかを、常に考え、祈ってください。以下のアイデアを参考にします。

- 「回復のメッセージ」「救いの計画」「イエス・キリストの福音」のレッスンを復習しながら、このレッスンにある、律法と儀式について教えます。例えば、回復のメッセージを復習しながら、神権と伝道活動について教え、救いの計画を復習するときに永遠の結婚、神殿、家族歴史活動、教会で教え学ぶことについて教えるとよいでしょう。イエス・キリストの福音の復習をするときには、細くて狭い道と、教会で奉仕することについて教えるとよいでしょう。
- 二つか三つの律法と儀式を単独のレッスンとして教える。
- 一つの律法と儀式を単独のレッスンとして教える。

新会員が、これらの律法と儀式を受け入れて実践し始めるように、会員たちと協力して支援してください。神の律法を守っていれば、罪の赦しを保ち、永遠の命に至る道を歩み続けられるということを、新会員がよく理解できるよう説明してください。神の律法を守ることによって、大きな平安と喜びを感じるようになります。また、人生の疑問に答えを見だし、自分が、イエス・キリストのまことの教会に属していることに、安心感を覚えることでしょう。律法と儀式は、イエス・キリストを信じる信仰と、神の前で永遠の命を受けられるという確かな希望をもって、幸せな人生を歩むための指針となるのです。

律法、儀式、決意事項について学ぶ

「律法と儀式」を研究するときに、以下のパターンに従うとよいでしょう。

- 教義を説明している項を研究し、3つから5つの要点を含めた、簡単なレスンプランを書き出します。
- 同僚を相手に、2、3分の短いレッスンを教えます。どのように決意事項を勧め、求道者の問題を解決するか練習します。
- 求道者が受け入れた決意事項をフォローアップする方法について話し合います。

神権と補助組織

神権とは、神様の子供たちの救いのために人に与えられている力と権能です。それは神様の御名によって行動するために与えられています。わたしたちは神権を通して救いの儀式を受けます。また、癒しや慰め、勧告を受けます。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、使徒や預言者を通してイエス・キリストが導いておられます。使徒や預言者は神様から選ばれた正しい人であり、神権を受けられています。キリストはいにしへの時代に使徒を聖任し、神権を受けられました。しかし、人々が福音を拒み、キリストと使徒を殺したことにより、その神権は失われました。

神権の権能は、1829年に回復されました。バプテスマのヨハネが、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れたのです。バプテスマのヨハネは、二人の頭に手を置いて、アロン神権を受けました（教義と聖約13章参照）。しばらくして、最初の十二使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネが、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭の上に手を置いて、メルキゼデク神権を受けました。ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、イエス・キリストからこの神権を授かっていました（教義と聖約27：12-13参照）。

神権の権能は、あんしゅ 按手という正しい方法により、権能を持つ人からのみ受けることができます。神権を受けた人は、特別な機会を与えられたこととなります。神権を受ける人は、神聖な務めを果たすこと、人々に奉仕すること、教会を築き上げるのを助けることを聖約します。神権を受ける人は、神様に仕える望みを持っていなければなりません。また、この力に聖任される必要があります（教義と聖約4：3；63：57参照）。神権者はまた、バプテスマや確認などの神聖な儀式を施す必要があります。ふさわしい状態で神権の権能を働かせるなら、神様の力が現れます。神権の力は、義と愛と忍耐を持っていなければ働かせることはできません。

すべての神権は、神様から与えられます。教会には二つの神権があります。アロン神権とメルキゼデク神権です。アロン神権は、バプテスマやせいざん 聖餐などの儀式を行います。12歳以上のふさわしい男性は、バプテスマと確認の後ですぐにアロン神権を受けることができます。

ふさわしい成人男性は、最終的にメルキゼデク神権（大神権）を受けます。教会の会員は、神権の力を通して、霊的な祝福や物質的な祝福をたくさん受けます。ふさわしいメルキゼデク神権者は、たまもの 聖霊の賜物を授けることができます。また、割り当てに応じてほかの人を神権に聖任することや、聖別された油で病人を癒すこと、癒しや慰めの祝福を授けることができます。メルキゼデク神権を持つ、ふさわしい夫や父親は、妻や子供たち、家族に特別な祝福を授けることができます。ホームティーチャーは、教会員の家を訪れ、個人や家族を助けます。ビショップとステーク会長は、教会の判士です。ビショップとステーク会長は、罪を犯した人が悔い改め、教会員としてすべての祝福を得られるように助ける権限があります。ビショップとステーク会長は、会員たちが神殿に入るにふさわしいかどうかを確認するために面接します。

「補助組織」は、神権の指示の下に会員を強めます。補助組織は、伝道活動の助けの源です。求道者を見つけたり、教えたり、新会員と友情を築いたりするうえで助けてくれます。18歳以上の女性は、「扶助協会」の会員です。扶助協会は、家族や個人、地域社会に手を差し伸べます。12歳から18歳の若い女性は、「若い女性」プログラムの会員です。同年代の少年たちは、「若い男性」のプログラムに参加します。3歳から11歳のすべての子供たちは、「初等協会」の組織の一員です。また、12歳以上のすべての会員は、日曜学校のクラスに出席します。

メモ

聖文研究

モーサヤ18：17	教義と聖約84：19-20	ルカ 9：1-6
アルマ13：1-19	教義と聖約107章	ヨハネ15：16
教義と聖約20：38-65	教義と聖約121：34-46	ヤコブの手紙 5：14-15

決意

- アロン神権を受けるために準備していただけますか（12歳以上の適格で、ふさわしい男性）。
- メルキゼデク神権を受けるために準備していただけますか（適格で、ふさわしい成人男性）。
- 該当する補助組織に積極的に参加していただけますか。

伝道活動

教会員は福音を分かち合うときに喜びを感じます。そして主の御霊をさらに豊かに受けます。わたしたちは福音を分かち合うときに、福音がどれほど大切で意義深いか分かるようになります。そして神様と周りの人たちにもっと大きな愛を感じます。主は全世界で福音を宣べ伝えるよう弟子たちに命じられました。すべての人に福音を受け入れるか拒む機会があるようにするためです。バプテスマを受けた人は、いつでも主の証人となることを聖約します。そして福音をまだ聞いたことのない人に分かち合うよう命じられます。福音に忠実であるなら、わたしたちは良い模範とすることができます。そして模範を通して、福音に従うことで得られるすばらしい祝福を、家族や友人に伝えることができます。また会員たちは、周りの人の質問に進んで答えるべきです。教会の印刷物や視聴覚資料を分かち合い、回復された福音のメッセージを聞くよう人々に勧めるべきです。会員たちは、教会員でない人たちのために祈るべきです。そして伝道する機会、つまり同じ信仰がない人たちに仕え、信じていることを分かち合う機会を求めて祈るべきです。主は、会員たちが福音を分かち合うときに、何を話し、何をしたらよいか分かるように助けると約束しておられます。

聖文研究

モルモン書ヤコブ5：70-75	教義と聖約19：29	教義と聖約84：74-76, 88
モーサヤ28：3	教義と聖約33：8-11	教義と聖約88：81
教義と聖約18：10-16	教義と聖約38：40-42	教義と聖約100：5-8

決意

- 教会員でない友人や親戚が、宣教師と会って福音を学べるよう、彼らを招待するために準備していただけますか。
- 宣教師のために、また、〇〇さんが福音を伝えられるように祈っていただけますか。
- 伝道に出る準備していただけますか。

永遠の結婚

教会の基本的な単位は家族です。わたしたちは、人生の最大の喜びと悲しみの多くを家族の中で経験します。男女の間の結婚は神様によって定められたものです。それは、神様の子供たちの永遠の救いのために、神様が立てられた計画の中心です。この世に命をもたらす行為は神様によって定められました。それは、結婚というきずなの中で守られなければなりません。神様の幸福の計画により、家族関係は肉体の死後も続きます。しかし、結婚が永遠のものとなるには、権能を持つ神権者から、聖なる神殿で結び固めの儀式を受ける必要があります。そして、夫婦が自分たちの交わした聖約を守らなければならないのです。夫婦は、互いに愛し合わなければなりません。戒めを守り、福音の原則に従って生活する夫婦は、互いへの完全な貞節によって、結婚の聖約を尊びます（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年1月号参照；教義と聖約42：22も参照）。

家族生活の幸福はほとんどの場合、イエス・キリストの教えのうえに家族を築き、両親が家族を何よりも大切にするときに見いだされます。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年1月号）両親は協力して、子供たちにイエス・キリストの福音を教える必要があります。そして、子供たちが福音に従えるよう助ける必要があります。

サタンは家族を集中的に攻撃しています。教会指導者は何年も前に、月曜の夕べを家庭の夕べを開く時間として決めました。両親は、この時間を使って子供たちに福音を教えるべきです。また、子供たちとの関係を強め、一緒に楽しい時間を過ごします。ほかにも、毎日の家族の祈りや聖文研究、家族として教会で礼拝すること、人々に奉仕することなどを通して、家族を強めることができます。天国は、理想的な家族の延長です。神権の儀式と正しい生活を通して、わたしたちは家族として神の前に永遠に住むことができます。

聖文研究

結婚

教義と聖約42：22	教義と聖約132：7	「家族——世界への宣言」
教義と聖約49：15	創世2：24	
教義と聖約131：1-4	エペソ5：25	

家族

モーサヤ4：14-15	教義と聖約130：2	「家族——世界への宣言」
3ニーファイ18：21	1テモテ5：8	

子供たちを教える

アルマ56：47	教義と聖約68：25-30	エペソ6：4
アルマ57：21	モーセ6：55-62	箴言22：6

決意

- 毎週家庭の夕べを開き、毎日家族で祈りをし、聖文研究を行い、家族の活動を行っていただけますか。
- (1) 自分のエンダウメントを受けるために、(2) この世と永遠にわたって結婚するために、(3) またもし既婚者であれば、夫婦として永遠の結び固めを受け、(4) 子供たちとの結び固めを受けるために、神殿に参入する準備をしていただけますか。
- 家族として、安息日に礼拝していただけますか。
- 人々に奉仕していただけますか。

神殿と家族歴史

神様は、御自分の民に神殿を建てよう命じられました。わたしたちは神殿で神聖な聖約を交わします。そして天から力と知識の賜物を受けます。わたしたちはこの力を通して毎日助けられ、神様の王国を築く力を受けます。わたしたちはまた、神殿の中でこの世と永遠にわたって結婚することができます。これにより、わたしたちは家族として神様の前で永遠に一緒にいることができます。会員となって1年以上たったふさわしい成人会員は、自分のエンダウメントを受けるために、ビショップから面接を受けることができます。結婚している男女は、自分のエンダウメントを受けた後に、結び固めを受けることができます。つまり、永遠の結婚をすることができるのです。

救い主はすべての人を愛し、すべての人の救いを望んでおられます。けれども、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを聞く機会がなかった人や、救いの儀式を受けずに亡くなった人はたくさんいます。主は愛にあふれた慈しみと憐れみにより、この世で福音を聞き、理解し、従う機会がなかった人々も、救いを得られるようにしてくださいました。これらの亡くなった人には、霊界で福音が宣べ伝えられています。この世にいる教会員は、亡くなった先祖やそのほかの人の代わりに、救いの儀式を執り行うことができます。霊界にいる死者は、福音と彼らの代理として受けた儀式を受け入れることも拒むこともできます。

このような理由から、教会員は自分の先祖について調べます。系図表と家族の記録を作成して、聖なる神殿で救いのための身代わりの儀式を必要とする、亡くなった親族の名前を提出します。これは家族歴史活動と言います。新会員を含む、12歳以上のふさわしい会員は、死者のためのバプテスマを受けるために、ビショップから推薦状を受けることができます。

家族歴史

新会員に、家族歴史活動を紹介し、利用できる資料などについて説明するために、会員と会うか、地元の家族歴史センター（利用できる場合）へ行くよう勧めてください。また新会員に、家族歴史に関する資料を渡してください。

聖文研究

教義と聖約43：16	教義と聖約138章	1コリント15：29
教義と聖約95：8-9	詩篇65：4	1ペテロ3：18-21
教義と聖約124：22-42		
教義と聖約128章	パンフレット、	
教義と聖約131章	<i>Welcome to the Family History Center</i>	
教義と聖約132章	（『家族歴史センターへようこそ』〔英語〕）	

決意

- 神殿の儀式を受けるために準備していただけますか。（12歳以上のふさわしい会員は、バプテスマと確認を受けると、推薦状を発行してもらって神殿で死者のためのバプテスマに参加することができる）
- 家族歴史活動を行い、身代わりによる神殿の儀式を受けるために、先祖の名前を提出していただけますか。

メモ

奉仕

教会の会員になると、奉仕をする機会があります。それは大きな祝福です。人々に愛をもって仕えるとき、わたしたちは神様に仕えています。わたしたちはバプテスマを受けるときに、奉仕することを聖約します（モーサヤ18：8-10参照）。わたしたちは、周りの人の物質的な必要や霊的な必要を知らなければなりません。そして、その必要を満たすために、自分の時間と、才能と、資力をささげます。わたしたちは、人々に仕えるために来られた、救い主の模範に従います。わたしたちはイエス様が行われたことを行い、さらにイエス様のようになります。

新会員はバプテスマを受けると、神権指導者から教会の中で助ける責任を受けます。これは祝福です。これは「召し」と呼ばれます。教会の中のすべての働きは、自らの意志によって行われます。奉仕をすることで金銭的な報酬を受けることはありません。召しを受け入れたなら、教会の集会で会員の前で支持を受けます。ほかの会員たちが、わたしたちの召しを知って、助けられるようにするためです。また、わたしたちは神権指導者によって任命され、召しを果たせるよう特別な祝福を受けます。教会には様々な召しがあります。その召しを果たすには、すべての会員の才能と能力が必要です。すべての召しは大切なものであり、神様の王国の建設を助けます。わたしたちは召しを受け入れ、自らの務めを学び、それを果たすために、熱心に働くよう求められています。そうすることにより、信仰は増し加わり、奉仕するために必要な新たな才能や能力が身に付きます。そして多くの祝福を受けます。

聖文研究

慈愛

モロナイ7：43-48

マタイ22：36-40

1コリント13：1-8

教義と聖約88：125

貧しい人の世話をする

モーサヤ4：26

教義と聖約52：40

マタイ25：40

アルマ34：28-29

わたしたちは仕えるべきである

モーサヤ2：17

教義と聖約42：29

教義と聖約107：99-100

モーサヤ18：8-10

決意

- (ホームティーチャーや訪問教師の割り当てを含め) 召しを受け入れて、それを果たしていただけますか。
- 召しを受けている、ほかの会員たちを、支持していただけますか。

メモ

教会で教え、学ぶ

教会は、教会員を完全な者とし、祝福を与えるために組織されています。教会では、お互いに福音を教える機会、友達になる機会、仕える機会、救いを得るために助ける機会があります。会員は、家族の中で、また教会の中で福音の教義を学びます。教える責任に召された会員は、教材や資料を受け取ります。また、召しを果たすために必要な助けも受けます。

聖文研究

教義と聖約88：77-79

エペソ4：11-14

決意

- 教会の集会に出席していただけますか。

最後まで堪え忍ぶ

福音に従い続けることにより、わたしたちは成長し、天のお父様に近くなります。また、救い主の贖いを喜び、もっと感謝するようになります。家族はもっと仲良くなります。わたしたちは、贖いを通して与えられる、愛と、喜びと、平安をもっと感じます。福音に従うとき、心が変わります。そして回復された福音に従った生活の中に安心を見いだすことができます。

わたしたちが、引き続きキリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、聖約を新たにしていくな、聖霊の導きを受け続けることができます。聖約に忠実であり、人生の最後まで堪え忍ぶなら、わたしたちは永遠の命を受けます。

堪え忍ぶことができなかつたり、活発であり続けることができなかつたりする会員もいます。しかし、最後まで堪え忍ぶことは、個人の責任です。わたしたちは「自分の救の達成に努め」ます（ピリピ2：12）。教会に来ることができなくて、信仰が弱くなった人がいるとき、わたしたちは、その人々に仕え、愛を示します。

聖文研究

2ニーファイ31：20-21

信仰箇条1：3

ピリピ2：12

モロナイ6：4

ヨハネ14：15, 21

教義と聖約20：37

エペソ4：11-14

決意

- バプテスマの聖約を生涯守り、福音に従った生活を続けていただけますか。



みたま 御霊を認識し、理解するには どうしたらよいでしょうか

深く考えましょう

- なぜ個人の啓示を受ける必要があるのでしょうか。
- 聖霊はどのような御方で、どのように働かれるのでしょうか。
- なぜ信仰をもって祈らなければならないのでしょうか。
- 伝道活動において御霊はどのような役割を果たすのでしょうか。
- どうすれば御霊みたまの促しを認識することができるのでしょうか。

個人の啓示

ジョセフ・スミスはこのように語りました。「啓示なしに救いはありません。啓示を受けずに教え導いても、それは何の益ももたらしません。」(History of the Church, 第3巻, 389) あなたの働きを成功させるためには、個人の啓示を受けて、それに従うことを学ばなければなりません。ジョセフ・スミスはまた、啓示はあなたが毎日携わる業にとってなくてはならないものである、と教えました。「これは天の政体をつかさどる原則です。すなわち啓示は王国の子供たちが置かれている状況に応じて与えられるのです。」(History of the Church, 第5巻, 135)

神はあなたとすべての子供たちを愛しておられます。神は、実際にチャレンジを受けているあなたを助けたいと望んでおられます。あなたは何をなすべきかについて靈感を受けると約束されており、それを行う力を与えられています(教義と聖約43:15-16参照)。聖文を熱心に研究することによって御霊みたまを認識し、理解しようとするときに、神はあなたを助けてくださいます。神は、回復のメッセージを受け入れる人々のもとへあなたを導いてくださいます。メッセージを伝え、キリストとキリストの福音について証あかしする力を与えてくださいます。神は聖霊たまものを通してあなたにあふれるばかりの祝福を注いでくださいます。この祝福を受けるために、この賜物にふさわしい状態を保ち、願い、求め、たたくことを神はあなたに要求しておられます(教義と聖約4:7; マタイ7:7-8参照)。

わたしたちはモルモン書の預言者たちが預言した時代、すなわち人々が「互いに言い争って、自分の学識で教え、語る言葉を与えてくださる聖霊を否定する」時代に生きています(2ニーファイ28:4。3ニーファイ29:6; モルモン9:7-8も参照)。けれども霊的なものを求めている人は大勢います。あなたは個人の啓示を受けることを学ぶとき、力と権能をもって教えることがで

メモ

きます（アルマ17：3参照）。なぜなら、聖霊が、語る力を授けてくださるからです（1ニーファイ10：22参照）。

バプテスマと確認を受けるよう人々を助けるとき、あなたは聖霊を通して個人の啓示を求め、それを受ける必要があります。毎日の生活の中で導きとなる個人の啓示を受けられることに対し信仰を持ってください。聖霊はあなたの働きのあらゆる面について助けを与えてくださいます。

活動——個人学習

モロナイは最後の証の中で、「あかし勧めとして少しの言葉」（モロナイ10：2）を記しました。モロナイ10章を読んで、モロナイがモルモン書の読者に実行するよう勧めている事柄を自分の言葉で書いてください。（この「勧め」に当たる英語 *Exhort* とは、だれかに何かを行うよう熱心に奨励する、切に願うという意味です。）

キリストの光

バプテスマと確認を受ける前から、人は霊的な導きを受けることができます。この霊的な影響力はキリストの光を源としており、「善悪をわきまえることができるように、すべての人に……与えられている」（モロナイ7：16。14–19節も参照）ものです。

キリストの光は以下のように定義されています。「キリストを通して神から発せられ、万物に命と光を与える神聖なエネルギーや力、影響力。天においても地上においても万物が治められる律法である。またそれは、人々が福音の真理を理解し、救いに至る福音の道を歩めるように助けを与える。

キリストの光を聖霊と混同してはならない。キリストの光は人格的な存在ではない。キリストの光は神から発する影響力であり、人に聖霊を受ける備えをさせるものである。また、人生においてすべての人を善に向かわせる力である。

キリストの光の一つの表れは、良心である。良心は善悪の選択ができるように人を助ける。福音について学べば学ぶほど、良心は鋭敏になる。キリストの光に聞き従う人々は、イエス・キリストの福音に導かれる。」（『聖句ガイド』「光；キリストの光」の項。教義と聖約84：46–47も参照）

ボイド・K・パッカー会長はこのように語りました。「聖霊はキリストの光を通して働くことがおできになることを知るのには、宣教師にとって重要です。福音の真理の教師は、まったく未知のものや新しいものを大人や子供の心に植え付けるわけではありません。宣教師や教師はすでにそこにあるキリストの光に彼らを引き合わせているのです。彼らにとって福音は聞き慣れた『鐘の音』なのです。」（“The Light of Christ” 新任伝道部会長セミナーでの講話、2004年6月22日、2）

聖霊

聖霊という御方。 聖霊は神会の第三の御方です。聖霊は霊の御方であって、骨肉の体は持っておられません（教義と聖約130：22参照）。聖霊とは、救い主が弟子たちにすべてのことを教え、また救い主が教えられたことをことごとく思い起こさせると約束された慰め主のことです（ヨハネ14：26参照）。

聖霊の力。 バプテスマを受ける前であっても、誠実に真理を探求する人々には聖霊の力を通して証あかしが与えられます。「聖霊の力は、まだバプテスマを受けていない人にも及び、福音が真実であることを証する。」（『聖句ガイド』「聖霊」の項）イエス・キリストやキリストの業、地上における僕たちの業しよべについて人に証を与えます。聖霊は真理を証されます。人は皆聖霊の力によってモルモン書が真実であることを知ることができます。「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」（モロナイ10：5）

聖霊の賜物^{たまもの}。求道者^{あかし}は証を受けても、聖霊を絶えず伴侶とする約束をまだ受けていません。ジョセフ・スミスはこのように語りました。「聖霊と聖霊の賜物は別個のものです。コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けました。それは福音の真理を確信させる神の力でした。しかし、彼はバプテスマを受けた後でなければ聖霊の賜物を受けることができませんでした。もしコルネリオがこのしるし、すなわち儀式を受けなかったとしたら、神の真理について確信を与えた聖霊は離れて行かれたことでしょう。」(History of the Church, 第4巻, 555)

「絶えず聖霊の影響力を受けることは、バプテスマを受けて教会員となったすべてのふさわしい人に授けられる権利である。イエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた人は、正当な権能を持つ人の^{あんしゅ}接手^{たまもの}によって聖霊の賜物を受ける。」(『聖句ガイド』「聖霊の賜物」の項)

あなたは教会員として神権の権能により聖霊の賜物^{たまもの}を授かっています。この賜物は、ふさわしい状態を維持するならば、絶えず聖霊を伴侶とする権利を与えます。御霊^{みたま}の導きを祈り求め、また受ける導きに雄々しく従ってください。

約束の聖なる御霊^{みたま}。聖霊は約束の聖なる御霊とも呼ばれます(教義と聖約88:3参照)。約束の聖なる御霊によって結び固められるとは、人々の義にならなかった行い、儀式、聖約を神に受け入れられるものとして聖霊が確認してくださるという意味です。約束の聖なる御霊は救いの儀式が正しく執行されていること、儀式に関連する聖約が守られていることを御父に証^{あかし}されます。約束の聖なる御霊によって結び固められた人々は御父の持つておられるすべてを受けます(教義と聖約76:51-60; エペソ1:13-14参照)。すべての聖約と履行がこの世の後まで効力を持ち続けるには、約束の聖なる御霊によって結び固められなければなりません(教義と聖約132:7, 18-19, 26参照)。聖約を破ると結び固めは取り消されることがあります。

御霊の賜物^{みたま}。御霊の賜物とは、ふさわしい個人に対して本人の益と人々に祝福をもたらすために主がお与えになる霊的な祝福のことです。例えば、新しく外国語を習得しなければならない宣教師は、言語の習得に当たって、神からの助けをもたらす異言の賜物を授けられます。御霊の賜物については、モロナイ10:8-18; 教義と聖約46:11-33; 1コリント12:1-12に説明されています。これらは数多くある御霊の賜物の一部にすぎません。主はあなたの忠実さ、必要、あなたの仕える人々の必要に応じてこれら以外の方法でも祝福を与えてくださいます。あなたは霊の賜物を願い、熱心に求める必要があります(教義と聖約46:8; 1コリント12:31; 14:1, 12参照)。これらの賜物は神の御心^{みこころ}に基づいて、祈りと信仰と行いによって授けられます(教義と聖約63:9-12; 84:64-73参照)。

「**聖霊の賜物**^{たまもの}は悔い改めて、ふさわしくなった人に与えられるものです。……聖霊は真理^{あかし}について証し、父なる神と御子イエス・キリストが実在することを人の心に深く刻みつけます。そこでもはや、世のいかなる力や権威もその知識を取り去ることができなくなります。」

—ジェームズ・E・ファウスト管長
「聖霊の賜物、正しい羅針盤」
『聖徒の道』1996年4月号, 5

活動—個人学習または同僚との勉強会

以下の参考資料を読んでください。

- 『聖句ガイド』「聖霊」, 「光; キリストの光」, 「霊」の項
- *Our Search for Happiness*, 84-86, 91-92
- 『真理を守る』「聖霊」, 「霊的な賜物」の項
聖霊の本質と役割を説明する文章を書いてください。

使徒4:23-33を読んでください。

- ペテロとヨハネはどのように御霊の賜物たまものを求めたでしょうか。
- 主は彼らの祈りにどのようにこたえられたでしょうか。
- この経験からあなた自身の働きについてどのようなことを学べるでしょうか。

改宗における御霊みたまの力

改宗するには聖霊の力が不可欠です。改宗の教義と改宗の経験を理解するように努めてください。ボイド・K・パッカー会長は改宗において御霊みたまの果たす大切な役割について次のように説明しています。

「人が改宗するとき、そこには御霊みたまの力があります。伝道活動を成功させるには次の3つの状態が起きていなければなりません。

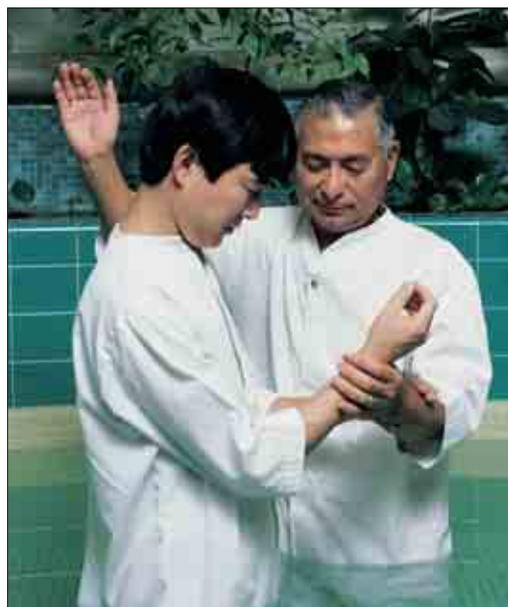
わたしたちは、求道者が改宗するために何を感じなければならないかを理解していなければなりません。

わたしたちは、御霊みたまから与えられる改宗の力によって教えるために宣教師が何を感じなければならないかを理解していなければなりません。

さらにわたしたちは、会員が改宗を実現させるためにどのような思いを抱いていなければならないかを理解していなければなりません。」(伝道部会長大会, 1985年4月3日)

求道者、宣教師、会員が御霊みたまの証を受けるときにどのように感じるかを理解すればするほど、あなたは次のような自分の役割をよく理解できるようになります。

- 聖文を研究し、教義を教えるときに、霊的に強められ、思いが照らされるようになります。
- 聖霊あかしが証されるような雰囲気を作り出し、その中で教えます。そのような雰囲気は、回復のメッセージを教え、証することによって醸かもし出されます。御霊みたまによって導かれるままに教え、また教えていることが真実であると聖霊の力によって知っていることを証してください。
- あなたのメッセージを各人の必要に合わせて、御霊みたまの導きに従います。
- 人々に行動を起こすよう勧めます。悔い改め、戒めに従い、聖約を交わして守るときに彼らの信仰は強められます。



M・ラッセル・バラード長老は御霊みたまの力を次のように説明しています。「真の改心は、御霊の力を通じてもたらされます。御霊が心の琴線に触れるとき、心に変化が生じます。……人は御霊の働きかけを感じる時、または生活の中で主の愛と憐れみあわれみが現れているのを目にするときに、霊的に高められ、強められて主への信仰が増していきます。御霊を伴うこれらの経験は、人が喜んで御言葉みことばを試そうとするときに自然に起こる事柄です。そしてわたしたちは福音が真実であると、感じるようになるのです。」（『今が、その時である』『リアホナ』2001年1月号、89）

聖霊は人々の心に働きかけてこれらの変化を生じさせてくださいます。人々は決意を貫こうとするときに、聖霊の力をいっそう強く感じて、キリストに従う信仰を養うのです。このように、あなたは人々に悔い改め、決意をしてそれを貫くよう勧めることにより、彼らが信仰にあって成長するよう助けなければなりません。

活動—個人学習

- 以下の聖句から一つか二つを読んで、求道者が改宗するためにどのようなことを感じなければならないかを考えてください。あなたの気持ちや感じたことを学習帳に書き留めます。あなたの考えをほかの宣教師や会員たちと話し合ってください。
2 ニーファイ4：16-35；エノス1章；モーサヤ4-5章；18：7-14；27-28章；アルマ5章；17-22章；32章；36章；38章
- 以下の聖句から一つか二つを読んで、あなたが宣教師として、また教会員として、人を改宗する力によって教えるためにはどのようなことを感じなければならないかについて深く考えてください。あなたの気持ちや感じたことを学習帳に書き留めます。あなたの考えをほかの宣教師や会員たちと話し合ってください。
1 ニーファイ8：11-12；モーサヤ28：1-4；アルマ26章；29章；31：26-38；32章；モロナイ7：43-48；教義と聖約4章；18：10-16；50：21-22

聖文研究

みたま御霊の力によって働くことについてこれらの聖文は何と教えているでしょうか。

2 ニーファイ33：1-2 教義と聖約50：13-22 1 コリント2：11-14
教義と聖約42：11-17 使徒2：37-38 『聖句ガイド』「改宗」の項

みたま御霊の力を受けて働くためにあなたはどのようなことができるでしょうか。

アルマ32：27-28 教義と聖約42：14 ヨハネ7：17

あなた自身を知っており、信じていることを教えるのはなぜ大切なのでしょうか。

アルマ5：43-47 教義と聖約52：9 教義と聖約80：4

信仰をもって祈る

みたま御霊の力によってのみ、主の方法で教えることができます。御霊を受けるには信仰の祈りが必要です。主は言われました。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」（教義と聖約42：14）教えるに当たって、助けを祈り求めるなら、聖霊の力はあなたの教えを「人の子らの心に」（2 ニーファイ33：1）伝えてくださいます。

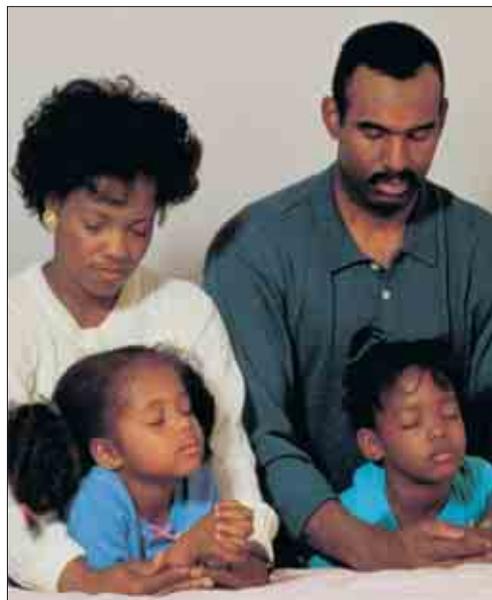
ゴードン・B・ヒンクレー大管長は自らの伝道中の経験を引用してこの原則を次のように説明しています。

「わたしは伝道中に一緒に働いた二人の青年を忘れることができません。一人はスーパースターでした。教養があり、頭が良く、動作が機敏でした。しかし、それを多少鼻にかけているところがありました。もう一人の宣教師は伝道に出る前、看板のペンキ塗りをしていました。ほとんど教育を受けていませんでした。彼は宣教師としての至らなさを実感していたため、主にすがっ

ていました。彼が祈るのを聞いた人は、彼が主とお話をしているということが分かりました。それは決まり文句を並べるのではなく、まさに対話でした。その青年はすばらしいことを成し遂げたのに対して、もう一人の青年は求められたことを漫然と行っただけでした。一人の青年には力があり、もう一人にはなかったことが明らかでした。主を呼び求めてください。主は招いておられ、そしてこたえてくださいます。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 469)

誠心誠意で、十分に固い決意をもって、「熱意を込めて」(モロナイ7:48) 祈るように努めてください。望んでいるような祈りの結果を得るには、大きな努力が求められます(モロナイ10:3-4; 教義と聖約8:10; 9:7参照) あなたの態度や使う言葉について真剣に考えてください。祈るときに以下のことを考えてください。

- 天の御父を愛し、尊敬していることを表す祈りの言葉を使ってください。いずれの言語を使う場合でも適切で尊敬の気持ちを表す言葉を使います。例えば、あなた、御父、御名、御業などの聖文で用いられている言葉を使います。
- 受けている祝福について常に感謝を表してください。常に感謝するよう努めることによって、主があなたの人生の中でどれほど憐れみをかけてこられたかを理解できます。
- 特に聖霊の導きと助けを求めて祈ってください。霊的な励ましに敏感であり、気づくことによって、この祝福をとっても大切にしていることを表してください。それから、受けた励ましに勇気をもって従います。
- 愛と慈愛を込めて祈ってください。名前を挙げて人々のために祈ってください。人々の必要を理解し、満たすことができるよう靈感を祈り求めてください。出会う人々、求道者、新しい改宗者、教会にあまり活発でない会員の幸福のために祈ってください。地域の会員と神権指導者、補助組織指導者のために祈ってください。故郷にいるあなたの家族のために祈ってください。同僚やほかの宣教師、伝道部会長のために祈ってください。人々を助ける方法が分かるよう祈り、それから彼らのために進んで犠牲を払ってください。
- どこへ行って、何をなすべきかを示されるように祈ってください。回復のメッセージを受け入れる備えのできている人々のもとへ導かれるよう祈ってください。そして彼らに気づくことができるように祈ってください。
- 天の御父はあなたが必要としていることをあなたよりもよく御存じであることを心に留めてください。何について祈るべきかを知るために御霊にすがってください(3ニーファイ19:24; 教義と聖約46:28, 30参照)。



「宣教師は毎朝、……自分の舌が緩められ、これから教える人々に祝福をもたらす話ができるように、主に嘆願しなければなりません。こうすれば宣教師の生活に新たな光が注がれます。伝道にもっと熱心になれます。ほんとうの意味で、自分が主に代わって語る主の僕であることが分かるようになります。自分が教える人々からの反応が変わったことが分かります。御霊によって教えるとき、求道者は同じ御霊の影響を受けた答えをします。」

—ゴードン・B・ヒンクレー大管長
「伝道活動」第1回世界指導者訓練集会, 2003年1月11日, 20

- 就寝前の祈りでは、あなたの一日の働きについて主に報告します。それから、翌日の計画を主とともに検討します。みたま御霊の促しに耳を傾けてください。
- 誘惑に打ち勝つことができるよう祈ってください。誘惑に負けるとみたま御霊を受けられなくなるからです。
- 特別な祝福を求めて祈り、適切であれば断食してください。
- 聖文について祈り、深く考えてください。聖文は啓示の窓を開きます。
- 神があなたの祈りにこたえてくださることを信じてください。神の思いはあなたの思いと異なることを認め（イザヤ55：8-9参照）、神は御自身の時と方法によって祈りにこたえられることを信じてください。

活動—個人学習

心を込めて祈ることにに関して述べている以下の文について深く考えてください。

「ほとんどの祈りが抱えている問題は、電話の受話器を手にとって、日用品を注文するかのよう祈りをささげていることにあります。注文したら、受話器を置いてしまうのです。わたしたちは何について、何のために祈るかについてめいそう瞑想し、熟考し、考え、それから人が人に話すように、主にお話しする必要があります。」（ゴードン・B・ヒンクレイ、*Teachings of Gordon B. Hinckley*, 469）

「もし祈りが危機に陥ったときの突発的な叫びでしかないとしたら、それはまったく利己的なものであって、わたしたちは神を緊急時だけに助けてくれる修理工かサービス機関とみなしていることになります。わたしたちは昼も夜も、ほかから助けを得られないときや、どうしても助けを必要とするときだけでなく、常に至高者を覚えなければなりません。」（ハワード・W・ハンター、*The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 [1997年], 39）

以下の指標を使って、あなたの祈りを個人的に評価してから、次の質問の答えを学習帳に書いてください。あなたはこの指標のどこに自分を置くでしょうか。どの位置に置きたいと思うでしょうか。どうしたら変われるでしょうか。

劣る	普通	優れている
キリストを信じる信仰が弱い	←————→	キリストを信じる信仰が強い
感謝の気持ちがない	←————→	感謝の気持ちであふれている
御業に対して精神が集中していない	←————→	御業に対して精神が集中している
祈りと行動には関連性がない	←————→	祈りを成就するために行動している
繰り返しが多い	←————→	今日必要とすることに集中している
鈍い気持ち	←————→	啓発された新鮮な気持ち
清くない思いに支配される	←————→	清い思いに集中している
自己中心的	←————→	ほかの人々に関心を持っている
具体的でなく一般的	←————→	一般的でなく具体的
<small>みたま</small> 御霊を受けていない	←————→	御霊により導かれている
祈りの答えに気づかない	←————→	神が祈りにこたえてくださることを確信している

聖文研究

なぜみたま御霊を求めて祈らなければならないのでしょうか。

2ニーファイ32：8-9 教義と聖約42：14 教義と聖約50：13-22

何について祈るべきでしょうか。

アルマ6：6 アルマ37：36-37 教義と聖約50：29-30
 アルマ13：28 3ニーファイ18：20 『聖句ガイド』「祈り」の項
 アルマ34：17-27 3ニーファイ19：9

^{みたま}御霊の促しを認識することを学ぶ

^{みたま}御霊はいつでもあなたを導き、指示を与えてくださいます。けれども、御霊はあなたの心と意思を通して静かに語られます。あなたとあなたの教える人々にとって大きなチャレンジの一つは、聖霊の静かで、かすかな励ましを認識することです。

ボイド・K・パッカー会長はこのように教えました。「聖典には、^{みたま}御霊の声は『大きな声』でも『耳障りな声』でもなく、また、『雷のような声ではなく、大きな騒々しい音』でもないと書かれています。むしろそれは、『まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫 [き]』、『心を燃え上がらせ』る声です (3ニーファイ11:3; ヒラマン5:30; 教義と聖約85:6-7)。エリヤが、主の声は風の中にも、地震の中にも、火の中にもなく、『静かな細い声』(列王上19:12) であると認めたときのことを思い起こしてください。

^{みたま}御霊は叫んだり、大きな手で揺すったりはしません。ささやきかけてくるのです。そのささやき方は、非常に静かで、ほかのことに気を取られていると、まったく気がつきません。(知恵の言葉が啓示されたのは不思議ではありません。なぜなら、酒に酔っている人や中毒に陥っている人はどうしてそのような声を感じることができるでしょうか。)

時には、強い訴え方をして、気づかせることもあります。しかし、ほとんどの場合、その静かなささやきに耳を傾けていないと、^{みたま}御霊は離れ去ります。わたしたち自らが熱心に求め、聞く耳を持つまで訪れなくなります。いにしへのサムエルが言ったように、わたしたち自身の言葉で『しもべは聞きます。[主よ] お話してください』(サムエル上3:10) というまで待っておられるのです。」「(「主のとしび」『聖徒の道』1988年12月号, 35参照)

世の中ではあなたの注意を引こうとして多くの声が競い合っています。注意していないと、霊的な感動はそれらに押し流されてしまいます。

活動—個人学習または同僚との勉強会

以下の表を研究してください。聖句の中で述べられている感覚、思い、感動を経験したときのことを考えてください。あなたが聖文を研究して、経験したら、このリストにそれらの聖句を書き加えます。人々が^{みたま}御霊を感じ、認識できるよう助けるために、これらの原則をどのように使えるかを考えてください。

教義と聖約6:23; 11:12-14; ローマ15:13; ガラテヤ5:22-23	^{みたま} 御霊は愛、喜び、平和、忍耐、柔和、穏やかさ、信仰、希望の感覚を与える。
教義と聖約8:2-3	心に考えと感動を与える。
教義と聖約128:1	心を占め、気持ちに影響を与える。
ジョセフ・スミス—歴史1:11-12	聖文が強い影響を及ぼすようにする。
教義と聖約9:8-9	正しければ、心によい気持ちを感じさせる。
アルマ32:28; 教義と聖約6:14-15; 1コリント2:9-11	思いを照らす。
アルマ19:6	暗黒の思いを光に置き換える。
モーサヤ5:2-5	悪事をやめて、戒めに従う望みを強める。
ヨハネ14:26	真理を教え、思い起こさせる。
ヨハネ14:27	平安と慰めの気持ちを与える。
ヨハネ16:13	真理に導き、来たるべきことを知らせる。
モロナイ10:5	真理を明らかにする。
教義と聖約45:57	わたしたちを導き、欺きから守る。
2ニーファイ31:18; 教義と聖約20:27; ヨハネ16:14	父なる神とイエス・キリストをたたえ、 ^{あかし} 証する。

教義と聖約42：16；84：85；100：5-8； ルカ12：11-12	語るべき言葉を謙遜な教師に悟らせる。
ヨハネ16：8	罪を明らかにして、正す。
モロナイ10：8-17； 教義と聖約46：8-26；1コリント12章	御霊の賜物を与える。
アルマ10：17；12：3； 18：16，20，32，35；教義と聖約63：41	ほかの人の考えを読み取り、見分けるよう助ける。
教義と聖約46：30；50：29-30	何について祈るべきかを告げる。
2ニーファイ32：1-5；教義と聖約28：15	何をなすべきかを告げる。
1ニーファイ10：22；アルマ18：35	義人が力と権能によって話せるよう助ける。
教義と聖約21：9；100：8；ヨハネ15：26	真理を証する。
2ニーファイ31：17；アルマ13：12； 3ニーファイ27：20	清めと罪の赦しをもたらす。
1ニーファイ2：16-17； 2ニーファイ33：1；アルマ24：8	耳を傾ける人々に真理を届ける。
1ニーファイ1：1-3；出エジプト31：3-5	技術と能力を高める。
1ニーファイ7：15；2ニーファイ28：1；32：7； アルマ14：11；モルモン3：16；エテル12：2	促したり（推し進めたり）、制止したり（引き戻したり）する。
教義と聖約50：13-22	説く者と受ける者を教化する。
教義と聖約88：3；ヨハネ14：26	慰めを与える。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「どのようにして御霊の促しを認識できるか」という問いに答えるために、モロナイ7：13，16-17を読んでから、次のように語りました。「それはあらゆる事が語られ、行われた後に実施される、最終的なテストです。その促しは善を行い、立ち上がり、背筋を伸ばし、正しいことを行い、親切であり、寛容であるよう人に勧めているでしょうか。そうであれば、それは神の御霊から与えられたものです。……

善を行うよう促すものであれば、それは神から与えられているものです。もし悪を行うよう促すものであれば、それは悪魔から出ているものです。……もしあなたが正しいことを行い、正しい生活をしているならば、御霊が語りかけていることを心の中で察知できることでしょう。

あなたは御霊の促しを御霊のもたらす実によって識別することができます。すなわち啓発し、築き上げるもの、積極的、肯定的であり、心を高め、より良い思いと言葉と行いに導くものは、神の御霊によるのです。」(Teachings of Gordon B. Hinckley, 260-261)

神は個人的な靈感と啓示を通して、あなたの祈りにこたえてくださいます。教える人を見つげるとき、回復された福音を教えるとき、教会にあまり活発でない会員や新会員を強めるとき、神は聖霊を通してあなたを導かれます。あなたがなすべきことは、ふさわしい生活を送り、熱心に祈ることです。そして御霊の導きを認識し、勇気をもって従う力を身に付けることです。

みたま 御霊に頼る

主の僕であるあなたは、主の方法と力によって主の業を行わなければなりません。ある宣教師は成功する方法を知っていると自負しています。そのような自信を持ち合わせていない宣教師もいます。けれども、あなたの自信と信仰はキリストに対して向けられるものであって、自分に対してではないことを忘れてはなりません。自分の才能や能力ではなく御霊に頼ってください。あなたの働きのあらゆる面について導いてくださる御霊にすがってください。預言者ジョセフ・スミスは、御霊は、教え、宣べ伝える際の基本となるものである、と教えました。

「いかなる人も、聖霊を受けていなければ福音を宣べ伝えることはできません。」(History of the Church, 第2巻, 477)

「多くの人が啓示と預言の御霊によって召され、聖任され、そして御霊から与えられる言葉を宣べ伝えています。彼らは力のない者たちですが、神の力によって強められているのです。」(History of the Church, 第4巻, 538)

メモ

「〔ジョセフ・スミスは〕福音を宣べ伝えることについて長老たちに指示を与えました。そして、天から下られる聖霊とともに宣べ伝えるには、御霊を得る必要があることを強調しました。」
(History of the Church, 第4巻, 13)

毎週の計画会と毎日の計画会で、幾つかの基本的な質問を自分に問いかける必要があります。それは毎日、そして1日に何回となく問いかけるべき質問です（質問の例を以下の聖文研究の項から参照）。それぞれの状況に合った方法でこれらの質問に答えられるように御霊の導きを求めてください。導き出した答えを計画に反映させます。しかし、予定にない機会が訪れたときには御霊の導きに積極的に従って、計画を変更する必要があります。

以下の聖句を研究して、あなたが毎日問いかけるべき大切な質問に、これらの聖句がどのように答えているかを考えてください。教える人を見つけるための活動、計画会、個人学習と同僚との勉強会にとってこれらの聖句はどのような意味を持っているかを考えます。また、レッスンを教えるとき、人々に決意するよう勧めるとき、決意のフォローアップを行うとき、新会員やあまり活発でない会員を強めるとき、会員たちと協力して働くときに、これらの聖句がどのような意味を持っているかを考えましょう。

聖文研究

どこへ行くべきか。

ヒラマン10：17 教義と聖約75：26-27
教義と聖約31：11 教義と聖約79：1-2

何をなすべきか。

1 ニーファイ4：6 教義と聖約28：15
2 ニーファイ32：2-5 教義と聖約52：3-4

何を話すべきか。

2 ニーファイ33：1	教義と聖約33：8-10	マタイ10：19-20
アルマ5：43-46	教義と聖約50：13-22	マルコ13：11
アルマ11：22	教義と聖約68：1-4	1コリント2：4-5, 12-13
ヒラマン5：18	教義と聖約75：3-11	出エジプト4：10-12
ヒラマン13：3-5	教義と聖約100：5-8	

求道者の必要に合わせて教えるにはどうしたらよいか。

アルマ12：7	3 ニーファイ17：2-3	教義と聖約84：85
アルマ41：1	教義と聖約71：1	

どの聖句をどのように使うべきか。

モーサヤ18：19-20	教義と聖約32：4	教義と聖約71：1
モーサヤ27：35	教義と聖約42：11-17	教義と聖約80：4
教義と聖約18：32-36	教義と聖約68：1-4	ルカ24：13-32

警告の言葉

靈感を求めて祈るときに、自分がどのような思いを抱いているかを確かめておく必要があります。例えば、あなたが決断したことを聖文や生ける預言者の教えと比べてみてください。抱いている思いが自分の務めと調和していることを確かめてください。これは例えば、地元のビショップに対して、召しをどのように果たすべきかを告げる啓示をあなたは受けないということです。あなたの決定と結論について、同僚やディストリクトリーダー、適切であれば伝道部会長と話し合います。

ハワード・W・ハンター大管長はこのような勧告を与えています。「このテーマについて、一言警告させてください。……わたしたちは注意をおろそかにしていると、……ふさわしくない、ごまかしの方法を使って、主の御霊みたまのまことの影響力を受けているかのようなふりを始めます。大きな感動や涙を流す出来事が、御霊の現れと同じように扱われているのではないかと懸念しています。確かに主の御霊は涙を流すような大きな感動をもたらすことがあります。そのような表面的な現れを御霊の現れと混同してはなりません。」(The Teachings of Howard W. Hunter, 184) 主の御霊は常にわたしたちを啓発してくださいます。

啓示や霊的な経験は神聖なものです。これらは当事者だけに限定しておくべきことであり、適切な状況においてのみ話し合う事柄です。あなたは宣教師として、以前よりも霊的な経験に対する関心が高まっていることでしょうか。これらの経験について制限なく話そうとする誘惑を退けてください。

ポイド・K・バックナー会長は次のように勧告しています。「霊的に強い印象を残す出来事は、そう何度もあるわけではありません。多くの場合、霊的な体験は、わたしたちを教え導き、指示を与え、誤りを正すために与えられます。わたしたちは正当な権能を持つ人からそのような職に召されないかぎり、勧告を与えたり、誤りを正したりする立場にはありません。

わたしはまた、特に霊的な体験を四六時中話すのは賢明なことではないと信じています。そういう体験は慎重に扱い、ほかの人々の祝福のために用いるようにと、御霊みたまのささやきがあったときだけに話すべきものです。」(「主のともしび」『聖徒の道』1988年12月号, 35)

「もしふさわしければ、
わたしたちは自分自身のために、
また、親として子供たちのために、
会員として自らの召しのために、
啓示を受ける資格があります。
しかしながら、
ほかの人々のために
啓示を受ける権利は、
わたしたち自身の管理の職を
超えて与えられることは
ありません。」

—ジェームズ・E・ファウスト管長
『聖き御霊との交わり』
『リアホナ』2002年3月号, 4

聖文研究

主は御霊みたまを否定したり、抑制したりすることについて非常に厳しく警告しておられます。それは御霊に頼ることが非常に大切であるためです。以下の聖句から、どのようなことを学べるでしょうか。

モルモン書ヤコブ6：8-9

モルモン9：7-9

教義と聖約11：25-26

3ニーファイ29：5-6

モロナイ10：7-8

1テサロニケ5：19-20

記憶にとどめましょう

- 祈りがこたえられるという信仰をもって祈る。
- 御霊みたまの促しを理解し、認識し、それに従うことを学ぶ。
- あなたがどこへ行き、何を言い、何を語るかを示してくださるよう御霊みたまに頼ることを学ぶ。
- 御霊みたまを認識する方法を人々に教える。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- あなたの霊的な経験を学習帳に記録してください。例えば、次のような質問の答えです。——「聖文を研究することによって理解を深めた事柄があるだろうか。」「珍しい方法で人々に出会う機会が訪れて、メッセージを分かち合うことができただろうか。」「必要とするときに言うべき言葉が与えられただろうか。」「出会った人々に強い愛を感じただろうか。」「わたしの祈りはどのようにこたえられただろうか。」
- 学習帳の1ページを二等分して、片方の欄に見出しとして「主が行われたこと」、もう片方の欄に「リーハイまたはニーファイが行ったこと」と書きます。リアホナの物語と折れた矢の物語（1ニーファイ16：9-30）またはニーファイが船を建造した物語（1ニーファイ17：7-16；18：1-6）を読んでください。読み進めながら、該当する欄に出来事を書き出してください。この話から靈感の本質についてどのようなことを学べるかを考えます。
- 学習帳に目を通し、御霊によって導かれた経験、または啓示や御霊の賜物を経験した出来事を探してください。それらの経験がいつ、どこで、なぜ起きたのかを考えます。そのような経験をするために何か特別な準備をしていたでしょうか。その経験の中で主の手はどのように現されていたでしょうか。あなたはその出来事をどのように感じたでしょうか。どうすれば同じような経験を繰り返せるでしょうか。これらの経験を心に留めておくことは、再び御霊を認識し、受けるための備えとなります。
- 聖書の使徒行伝は「使徒たちを通して行われた聖なる御霊の働きの記録」と呼ばれています。使徒行伝全体にざっと目を通し、なぜこの標題が適切かを説明してください。説明の裏付けとなる証拠を見つけてください。
- 以下の助言を研究し、深く考えてください。この助言はあなたの日常の伝道活動にどのように応用できるでしょうか。
 「謙遜で忠実であり、主の御霊を常に伴侶とするように兄弟たちに教えてください。そうすれば道を誤ることはないでしょう。静かな細い声を聞き逃さないように注意してください。その声は何をすべきか、またどこへ行くべきかを教えてくれるでしょう。そして、王国の実りをもたらすでしょう。兄弟たちに、常に強い信念を持つことを心がけるよう教えてください。そうすれば聖霊の訪れを受けたとき、すぐにそれを受け入れられるでしょう。主の御霊はそのほかの霊と区別することができます。それは心に平安と喜びを与えるささやきです。悪意や憎悪、争いなど、すべての悪を心から取り除き、善を行うことを心から望むものです。」（*Juvenile Instructor*, 1873年7月19日号, 114で引用）
 この助言は預言者ジョセフ・スミスが亡くなってから約3年後に、夢の中でブリガム・ヤングに与えたものです。もしあなたがブリガム・ヤングの立場にいて、ジョセフ・スミスからこの助言を受けたとしたら、どうしたでしょうか。
- アルマ33：1-12；34：17-29, 38を研究してください。アルマはどのような質問に対して答えたのでしょうか。（アルマ33：1-2を復習する。）アルマはこれらの質問に対してどのように答えたでしょうか。神が祈りを聞いてこたえてくださるということについて、アルマはどのような約束を与えたでしょうか。
- 御霊がほかにも多くの大切な方法によってわたしたちを導かれることを、主は約束されました。以下の聖句を読んで、あなたの働きの中で御霊の導きを必要とする様々な分野を見つけてください。これらの聖句に含まれている戒めと約束は、個人学習や同僚との勉強会においてどのような意味を持つでしょうか。ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会、バプテスマ会、そのほかの集会ではどうでしょうか。

祈る

3ニーファイ19：24 教義と聖約50：30

教義と聖約46：30 ローマ8：26

集会を開く

モロナイ6：9 教義と聖約20：45 教義と聖約46：2

書き留める

教義と聖約9：9 教義と聖約47：4 教義と聖約124：4

教義と聖約24：6 教義と聖約104：81 モーセ6：6

- 以下の聖句を読んでください（章の前書きも含めて）。

教義と聖約60：1-5 教義と聖約61：1-4, 21-22 教義と聖約62：4-8

ここで、主にとって非常に大切なことは何だったでしょうか。

主にとって大切でないことは何だったでしょうか。

ダリン・H・オークス長老が語った以下の話について深く考えてください。

「主の御霊によって導かれたいという強い願望を持つ人が、愚かにもすべてのことに導きを受けたいと願うまでにその願望を暴走させてしまうことがあります。主によって導かれたいと願うこと自体は力のよりどころとなるものですが、同時に、天の御父は多くの決断をわたしたち自身の個人的な選択に任せておられることも理解する必要があります。個人的な決断は、わたしたちの成長のためにこの世で経験するよう定められた方法の一つです。すべての決断を主にゆだね、どんな選択にも啓示を願う人たちは、やがて、導きを求めて祈っても答えを受けないという状況に直面するでしょう。そのような状況として考えられるのは、選択が取るに足りない場合や、いずれの選択でもよいという場合です。そのような状況はいくらでもあります。

わたしたちはまず、造り主が与えてくださった理性を働かせ、心の中でよく思い計らなければなりません。それから導きを求めて祈り、導きを受けたならそれに従って行動するのです。もし導きが与えられなかったなら、可能な限りの最善の判断に従って行動すべきです。主が指示を与えようとなさらなかった事柄について執拗に啓示を求める人たちは、自分の空想や偏見から答えをでっち上げたり、偽りの啓示によって答えを受けたりするかもしれません。」（「強さが墮落を招くと き」『聖徒の道』1995年5月号、15参照）

自分の判断に従うことと、御霊に頼ることとの間にはどのような関係があるのでしょうか。

同僚との勉強会

- 同僚とともにささげている祈りについて話し合ってください。それは御霊によって導かれている祈りでしょうか。あなたは祈りの答えを受けてきたでしょうか。同僚とともに祈るとき、あなたは、――
 - ― 義にかなって願い求めることを神はかなえてくださる、と信じていますか。
 - ― 祈りの答えに気づいて、そのことに感謝していますか。
 - ― 人々の名前を挙げて祈り、彼らの必要について考えていますか。
 - ― 互いのために、また御霊があなたを導いてくださるよう祈っていますか。
 - ― 祈りの答えを受けていますか。

もっと熱心に御霊を求める方法について同僚と話し合ってください。

- 人々が御霊の影響について説明している様々な方法について話し合ってください。求道者が福音を学び、決意を貫く努力をしているときに御霊を感じた経験について語った言葉を書き留めておきます。この神聖な力を認識するよう人々を助けるために、あなたはどのようなことができるのでしょうか。どうすれば導きを受けているふりをするのを避けることができるのでしょうか。

メモ

- 以下の勧告をどのように自分に当てはめることができるかを考え、話し合ってください。「霊的な事柄に無理強いは効きません。強制、強要、束縛、圧力、要求などは、わたしたちが御霊を受ける特権とは無縁の言葉です。豆に無理に芽を出させたり、卵にひなにかえるように命じたりすることができないように、無理に御霊の答えを引き出すこともできません。わたしたちにできるのは成長を促す環境作りをし、はぐくみ、守ることであり、無理強いはできません。成長を待たなければなりません。」(ボイド・K・パッカー「主のともしび」『聖徒の道』1988年12月号, 36)

- 以下の文を読んで、これらの原則によってあなたの祈りと働く方法をどのように変えることができるかについて話し合ってください。毎日の計画や目標設定、働き、活動は祈りによってどのような影響を受けるでしょうか。

「わたしたちの行いは、大部分、わたしたちの祈りの結果です。わたしたちは祈ったとおりに行動します。わたしたちの正しい祈願は、わたしたちの行いを義にかなった方向に導く効果を生みます。」(ブルース・R・マッコンキー「主はなぜ祈りを定められたか」『聖徒の道』1976年10月号, 488参照)

「心を込めて祈るということには、祝福や徳を願い求めるとき、その祝福を得るために努力し、徳を養わなければならないという意味が含まれています。」(デビッド・O・マッケイ, *Secrets of a Happy Life*, 114-115)

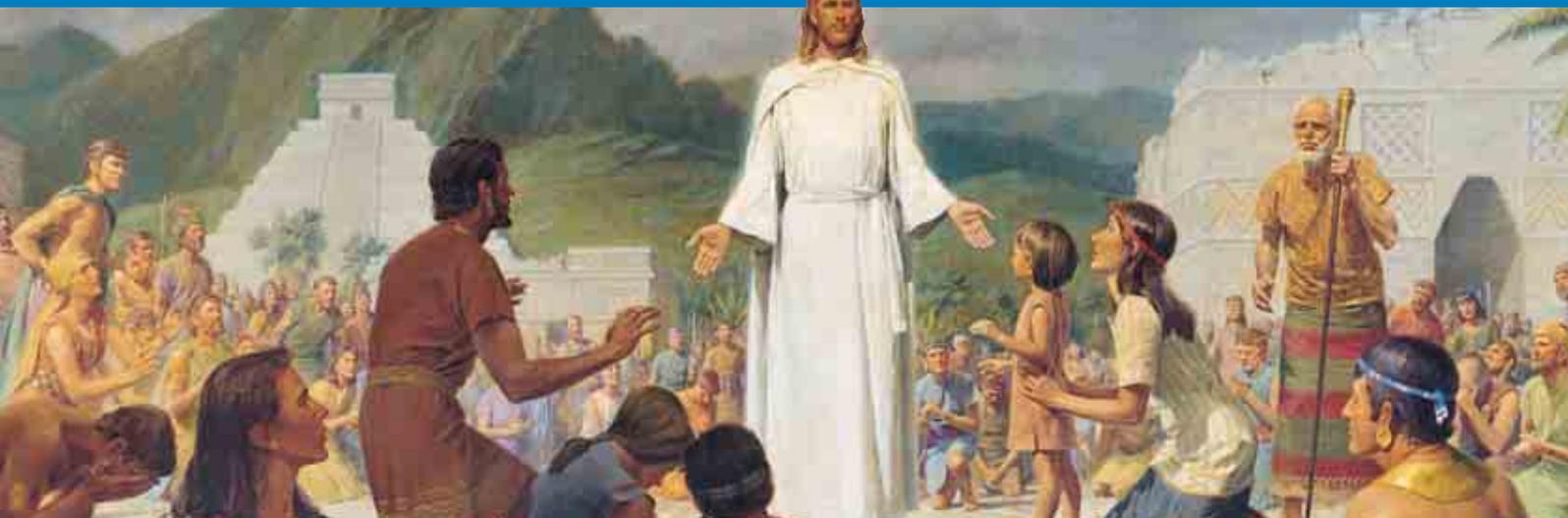
「〔神〕があなたにどこで、何をしよう望んでおられるかを尋ねてください。そしてあなたはそれを行う用意ができていることを心の中で確かめてください。」(ブリガム・ヤング, *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選 [1954年], 46)

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 祈りの中で正しい言葉と敬語を使うことについてのレッスンを実施してください。
- 適切であれば、最近の証会、レッスン、その他で聞いた物語や経験を宣教師たちに分かち合ってもらいます。ほかの人たちが語る霊的な物語と経験は、あなたが信仰を強めるために、そして御霊の影響力は広範囲に、またしばしば現れることを理解するために役立ちます。
- あなたの働きの中に主の手が現れていることへの感謝を述べてください(教義と聖約59:21参照)。主があなたにしておられるささやかながらも非常に大切な事柄を認識するうえで、感謝の気持ちを表すことがどのように助けになるか話し合ってください(エテル3:5参照)。
- 伝道と聖霊の果たす役割について宣教師に話をしてもらいます。
- 最近改宗した人に、求道者のときに御霊の導きを受けた経験について話してもらいます。

伝道部会長

- 毎週の手紙の中で適切であれば霊的な経験について記すよう、折に触れて宣教師に求めてください。
- 面接の中で、朝と晩の祈りについて時々尋ねてください。自分の祈りが意義あるものだと感じているかどうかを尋ねます。
- 求道者が御霊を感じ、認識できるよう、宣教師がどのように助けているかを尋ねてください。
- 適切であれば、転任の決定について、従順でない宣教師について、助けを必要としている宣教師について、また、教える教義について、あなたがどのように啓示を受けているかを宣教師に話してください。



モルモン書の役割は 何でしょうか

深く考えましょう

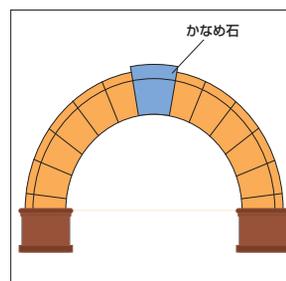
- モルモン書は、どのような点でわたしたちの宗教のかなめ石なのでしょう。
- 人生の重要な問題に対してモルモン書はどのように答えているのでしょうか。
- なぜモルモン書は改宗の過程で大きな力を発揮するのでしょうか。
- 信仰を築き、人々が神に近づくよう助けるために、モルモン書をどう活用すべきでしょうか。
- モロナイ10：3-5の約束は、なぜ伝道活動の中心となるのでしょうか。

モルモン書はキリストの神性に対する力強い証拠です。また、預言者ジョセフ・スミスを通して回復が行われたことを証するものでもあります。聖霊を通してモルモン書が真実であるという証を得ることは、改宗の大切な要素となります。あなたは宣教師として、まずモルモン書が真実であることを自分自身で知る必要があります。この証は改宗の過程において、モルモン書の持つ力に対する深遠で不朽の信仰へと成長します。モルモン書を読み、深く考え、この書物が真実かどうかをキリストを信じながら誠心誠意問うならば、聖霊はあらゆる人に証して下さるという確信を持たなければなりません。あなたが教える最大の目的は求道者が聖霊によってモルモン書の証を得ることです。

モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石である

預言者ジョセフ・スミスは、モルモン書が「わたしたちの宗教のかなめ石である」と教えました（モルモン書、序文）。別の折に預言者はこう語りました。「わたしたちの宗教からモルモン書と啓示を取り去るとしたら、一体何が残るだろうか。何も残らなくなる。」（*History of the Church*, 第2巻, 52）

アーチとは、くさび形の石でできた強靱な建造物で、一つ一つの石が互いに支え合っています。中心部分に置く石、つまりかなめ石は、通常ほかのくさび形の石よりも大きく、ほかの石を固定



メモ

します。ジョセフ・スミスはモルモン書を「わたしたちの宗教のかなめ石」と呼んで、モルモン書がわたしたちの宗教を支えるものであることを教えました。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、モルモン書は少なくとも3つの意味でかなめ石であると語りました。

キリストの証。^{あかし}「イエスは、わたしたちが行うすべてのことの隅石となる御方ですが、モルモン書はそのイエス・キリストに対するわたしたちの証のかなめ石となるものです。モルモン書は力強く、そして明快にイエスが実在の御方であることを証しています。」

完全な福音。「主は自ら、モルモン書には『イエス・キリストの完全な福音』（教義と聖約20：9）が載っているとおっしゃいました。……モルモン書には救いに必要な教義が完全な形で収められています。そして、それは分かりやすく簡単に教えられており、子供でさえも救いと昇栄の道について学ぶことができるようになっていきます。」



証の基。^{あかし}「かなめ石が取り除かれたらアーチが崩れ落ちるように、この教会のすべての教えはモルモン書が真実であることに依存しているのです。教会の敵はそれをよく知っています。彼らがこのモルモン書の誤りを立証しようとあらゆることをするのはそのためであり、もしそれが立証できれば、預言者ジョセフ・スミスもともに倒れるからです。神権の鍵^{かぎ}や啓示、また回復された教会についてのわたしたちの主張もそうです。しかし逆に、もしモルモン書が真実であるならば——事実、何百万人という人はこれが真実のものであるという御霊^{みたま}の証を受けたことを証しています——回復やそれに伴うすべてのことを受け入れなければならなくなるはずです。」(A Witness and a Warning[1988年], 18-19)

モルモン書は、御霊^{みたま}を通して用いるときに、改宗をもたらす最も強力な手段となります。それは地上で最も正確な書物です（モルモン書、序文参照）。特にあなたが求道者に教えるレッスンの中で、モルモン書はキリストの教義を分かりやすく教えます。回復された福音を教えるに当たり、最も大切な原典として用いてください。あなたが求道者に教える真理が、モルモン書の中で分かりやすく教えられている例を以下に示します。

宣教師のレッスン	教義	参照聖句
回復されたイエス・キリストの福音のメッセージ	背教、回復、ジョセフ・スミス、神権の権能	1 ニーファイ12-14章 2 ニーファイ3章；26-29章 モーサヤ18章
救いの計画	アダムの墮落 ^{あがな} 、贖い、復活、裁きを含む「永遠の神の偉大な計画」	2 ニーファイ2章；9章 モーサヤ3章；15章 アルマ12章；40-42章
イエス・キリストの福音	キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物 ^{たまもの} 、最後まで堪え忍ぶ	2 ニーファイ31-32章 3 ニーファイ11章；27章
戒め、律法と儀式	バプテスマ、確認、神権の聖任 ^{せいじん} 、聖餐などの儀式	3 ニーファイ11：22-28；18章 モロナイ2-6章

活動—個人学習

以下の質問の答えを学習帳に書いてください。

- モルモン書を研究することによって、イエス・キリストに対するあなたの証^{あかし}はどのような影響を受けてきたでしょうか。
- 人々の証^{あかし}を強めるためにモルモン書をどのように活用できるでしょうか。

聖文研究

救い主はモルモン書について何と言っておられるでしょうか。

教義と聖約1：29

教義と聖約19：26-27

教義と聖約42：12

教義と聖約3：19-20

教義と聖約20：5-16

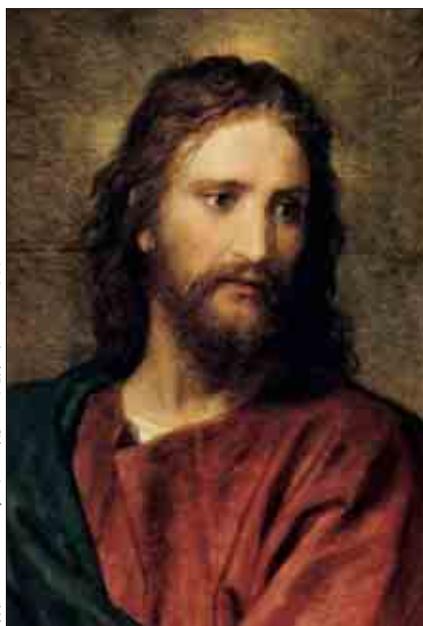
モーセ7：62

教義と聖約17：6

教義と聖約33：16

モルモン書はキリストを証^{あかし}する

モルモン書の第一の目的は、イエスがキリストであることをあらゆる人に確信させることです（モルモン書、タイトルページ参照）。モルモン書は、キリストの生涯、使命、力の真実性を確信させることで、キリスト^{あかし}を証します。また、救いの計画の根底を成す贖^{あがな}いに関してまことの教義を教えます。モルモン書に収められている幾つかの書の著者はキリストにまみえました。ヤレドの兄弟、ニーファイ、ヤコブはこの世に来られる前のキリストの御姿^{みすがた}を見ました。モルモンとモロナイは復活されたキリストにまみえました。さらに、ニーファイ人の中で救い主が短期間ながら力強く教え導かれたときには、多くの人がその場にいました（3ニーファイ11-28章参照）。救い主についてほとんど、あるいはまったく知らない人々は、モルモン書を読み、深く考え、祈ることにより、救い主を知るようになります。



写真/C. Harrison Conroy Co., Inc.の厚紙による。描写は禁じられています。

モルモン書の証^{あかし}は、イエスが神の独り子であり、世の救い主であるという聖書の証を確証します。あなたはイエス・キリストの完全な福音を教えるとき、世の救い主^{あがな}、贖い主についてしばしば証することでしょう。あなたは聖霊の力によって、モルモン書の証に自身の証を加えるのです。

聖文研究

モルモン書の預言者たちは、どのような理由から記録を書いたのでしょうか。

1ニーファイ6：4-6

2ニーファイ33：13-15

モルモンの言葉1：3-8

1ニーファイ9：3-5

モルモン書ヤコブ1：4-7

アルマ37：2, 14

2ニーファイ4：15-16

モルモン書ヤコブ4：1-6, 12

3ニーファイ5：14-15

2ニーファイ25：23-29

エノス1：13

モルモン8：35

2ニーファイ26：15-16

ジェロム1：2

教義と聖約3：16-20

2ニーファイ29：11-14

オムナイ1：25-26

教義と聖約10：46-48

モルモン書と聖書は互いに支え合う

人々の聖書に対する信じ方は実に様々です。ある人は、聖書は完全で誤りがなく、救いを得るために必要なすべてのことが記されていると信じています。別の人は、聖書は文学的に研究する価値のある書物だと考えていますが、キリストの神性、奇跡、神からの直接の啓示についての証拠となることを否定しています。また聖書に関心を示さない人もいれば、聖書を見たことのない人や読んだことのない人もいます。

末日聖徒は「正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じ」ています（信仰簡条1：8）。モルモン書は聖書に対抗するどころか、聖書を支え、聖書を読むようわたしたちに勧め、聖書のメッセージが真実であることを証^{あかし}しています。モルモン書と聖書は、互いに支え合うものとして活用しなければなりません。

モルモン書には、神が御自身の子供たちと交わされた古代の聖約について記されています。そして聖書には、偉大な預言者たちもまた信仰^{あがな}によってこれらの聖約を受けたことが記されています。モルモン書はキリストとその贖い^{あかし}を証し、聖書はキリストの誕生、務め、死、贖い、復活について語っています。このように聖書とモルモン書は互いを補い、豊かなものになっているのです。

末日聖徒版の欽定訳聖書（英語）とモルモン書には、相互参照聖句と研究資料が付されています。これによってユダの木（聖書）とヨセフの木（モルモン書）はわたしたちの手の中で一つとなります（エゼキエル37：15-17参照。1ニーファイ13：34-41；2ニーファイ3：12；29：8も参照）。教えるときはモルモン書の聖句を優先的に使ってください。けれども、モルモン書と聖書が同じ原則を教えていることも示す必要があります。

モルモン書を使って、聖書の聖句の意味を明らかにし、説明してください。例えば、新約聖書にはキリストがバプテスマを受けられたのは「すべての正しいことを成就する」ためであったと記されています（マタイ3：14-15）。モルモン書はすべての正しいことを成就するとはどのような意味かを説明しています（2ニーファイ31：5-9参照）。

対を成す書物としてモルモン書と聖書を使うことにより、争いを鎮め、偽りの教義を正すことができます（2ニーファイ3：12参照）。

聖書は証人の律法について次のように教えています。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」（2コリント13：1）この律法に従って、モルモン書と聖書はともにイエス・キリスト^{あかし}を証しているのです。

活動—個人学習または同僚との勉強会

以下のテーマについてモルモン書と聖書から参照聖句を見つけます。各テーマの後に参照聖句の例が記されています。自分で考えたテーマとその参照聖句も付け加えましょう。

- 預言者（アモス3：7とモルモン書ヤコブ4：4-6）
- 背教（2テモテ4：3-4と2ニーファイ28章）
- 回復（使徒3：19-21と1ニーファイ13：34-42）
- 神の子（使徒17：29と1ニーファイ17：36）

聖文研究

聖書には、モルモン書についてどのように記されていますか。

ヨハネ10：16 エゼキエル37：15-17 『聖句ガイド』「エフライム」、
イザヤ29：4、11-18 エフライムまたはヨセフの木の項

モルモン書には、聖書についてどのように記されていますか。

1ニーファイ13：20-29、40-41 3ニーファイ23：1 モルモン7：8-9
2ニーファイ29：3-14

両書はどのようにキリスト^{あかし}を証しているでしょうか。

2ニーファイ29：8 ヨハネ20：31 使徒10：43

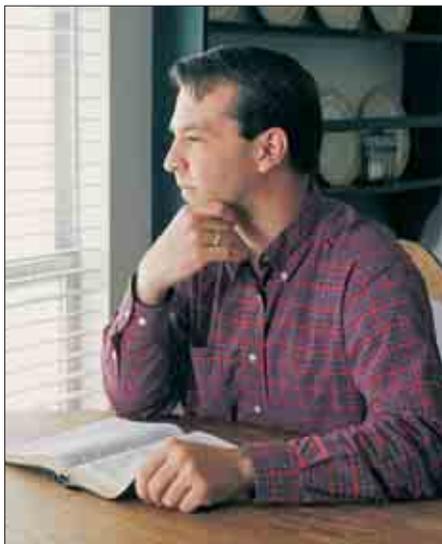
モルモン書は人生の問題に答えてくれる

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、宣教師は「人生の重要な問題に対して〔モルモン書が〕どのように答えてくれるかを示さなくてはなりません」と語りました。（「モルモン経で洪水のごとく地を満す」『聖徒の道』1989年2月号、5）

「人生の重要な問題」には次のようなものが含まれます。神はほんとうにおられるのですか。わたしはこの世に生まれる前から存在していたのですか。わたしは死んだ後も生きるのですか。人生の目的は何ですか。イエスはほんとうに救い主ですか。

もっと実生活にかかわる問題もあります。どうすれば伴侶との関係を改善できるでしょうか。10代の子供たちが薬物を避け、不道德から離れるようにするにはどうすればよいでしょうか。家族を養えるような仕事を見つけるにはどうすればよいでしょうか。

イエス・キリストの福音は、これら両方の分野の問題を解決できるよう助けてくれます。モルモン書が真実であることを信じられるようになると、人生の目的や永遠の命についての様々な疑問に答えを見いだせるようになります。モルモン書は幸福の計画について説明しています。これは人生に意味と展望を与えてくれるものです。以下のような疑問の答えがモルモン書の中にはっきりと記されています。



- 神は存在するのですか。（アルマ22章）
- イエス・キリストはわたしに何を期待しておられるのですか。（2ニーファイ9章）
- イエス・キリストを信じることは、どのような助けとなりますか。（アルマ36章）
- 死後の世界は存在するのですか。（アルマ40章）
- 人生の目的は何ですか。（アルマ34章）
- 神はなぜ邪悪や苦しみを放置しておかれるのですか。（2ニーファイ2章；アルマ14：9-11；60：13）
- わたしの赤ちゃんはバプテスマを受ける必要がありますか。（モロナイ8章）
- 神はわたしのことを御存じですか。（アルマ5：38, 58）
- 神は祈りにこたえてくださいますか。（エノス1章）
- どうすれば平安と喜びを見いだせますか。（モーサヤ2章, 4章）
- 家族がもっと幸せになり、一致するにはどうすればよいですか。（モーサヤ2章）
- どうすれば家族と仕事を両立させることができますか。（3ニーファイ13章）
- どうすれば伴侶との関係を強めることができますか。（3ニーファイ14章）
- どうすれば家族を脅かす邪悪な影響を取り除くことができますか。（アルマ39章）
- 罪を犯さないためにはどうすればよいですか。（ヒラマン5章）

御霊の導きを受けながらモルモン書を読むとき、それは個人的な問題に対する答えを得るうえで助けとなります。特定の問題を解決するには祈りと啓示が鍵になるとモルモン書は教えています。モルモン書は、神が祈りにこたえてくださる、という信仰を持てるよう助けてくれます。

メモ

モルモン書はまた、神の戒めが、すべきことと、してはならないことを簡条書きにしたものではなく、幸福で豊かな生活への道しるべであることを理解できるよう助けてくれます。福音の第一の原則と儀式が豊かな生活に至る道であることを理解し始めると、これらの原則がどのような疑問にも答え、必要を満たすための助けとなることを知ります。例えば、伴侶との関係を改善するには、悔い改めと赦し、人に仕えるという聖約が欠かせないことを理解します。また、10代の子供たちが自分を取り巻く大きな誘惑を退けるうえで、キリストを信じる信仰を持ち、聖約を受け入れて守り、御霊の勧めに従うことが助けとなることに気づきます。

福音によってほとんどあらゆる疑問を解決し、必要を満たすことができます。『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えよう命じられているのはそのためです（教義と聖約42：12）。

「危険な世界にあって、
モルモン書——イエス・
キリストについてのもう
一つの証^{あかし}には、この世の
飢えた霊^{いや}を癒し、
養う力があります。」

——ボイド・K・バッカー会長
「モルモン書——イエス・キリストについての
もう一つの証」『リアホナ』2002年1月号、74

活動——個人学習または同僚との勉強会

求道者から尋ねられた「人生の重要な問題」を幾つか書き出してください。それらの問題の答えとなる聖句をモルモン書から見つけます。答えを学習帳に書き出しておき、教えるときに活用します。

モルモン書は人を神に近づける

預言者ジョセフ・スミスはモルモン書について「人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」と語りました（モルモン書、序文）。モルモン書は、人が証と個人の啓示を得るための出発点となります。人々が霊的な経験、特にこの書物が真実であることについて聖霊の証を得られるようにモルモン書を活用してください。モルモン書に記されている原則に従うよう絶えず勧めることで、人々がイエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、神に近づけるよう助けてください。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように宣言しました。「祈りの気持ちで〔モルモン書〕を読む人は、貧富の差や学問の有無に関係なく、その力によって成長することができます。……わたしは皆さんにはっきりと約束します。これまで何度読んだかに関係なく、祈りの気持ちをもってモルモン書を読むなら、……主の御霊が注がれるようになります。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになるでしょう。」（『モルモン経』『聖徒の道』1988年10月号、7）

反対意見に答えるためにモルモン書を活用する

多くの人はあなたが教えるすべてを信じないかもしれません。エズラ・タフト・ベンソン大管長はモルモン書がそのような状況に対処する最大のものであると教えました。

「教会に反対する人々に対処するときにも、モルモン書を使わなければなりません。……

……それが墮胎の問題であれ、多妻結婚であれ、7日目に礼拝することであれ、どのような事柄であろうと、それらはすべて基本的に、ジョセフ・スミスとその後継者が神から啓示を受ける神の預言者か否かという点に帰着します。……

……反対者が自分で解決しなければならない問題は、モルモン書が真実かどうかということに集約されます。なぜなら、もしモルモン書が真実の書物であるならば、イエスはキリストであり、

ジョセフ・スミスは主の預言者であり、末日聖徒イエス・キリスト教会はまことの教会であって、この教会は今日預言者が啓示を受けて導いていることとなります。

わたしたちの第一の務めは福音を宣べ伝えることであり、それを効率良く行うことです。わたしたちはすべての反論に答える義務はありません。人は皆、いずれ信仰の壁に行き詰まり、自分の主張をはっきりさせなければならないのです。」
(A Witness and a Warning, 4-5)

例を挙げると、懸命に学んでいる求道者の中には、あなたが教えた知恵の言葉に対して反対意見を唱える人がいるかも知れません。その疑問の本質は、この戒めが現在の神権時代に改めて与えられたとき、ジョセフ・スミスが神の預言者として語っていたかどうかにあります。このことを求道者に理解させるために、次のように言うことができます。「この教えを受け入れる信仰を持つには、この戒めが神の啓示によって預言者ジョセフ・スミスに与えられたことを確信する必要があります。ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知るにはモルモン書を読んで、祈る必要があります。」

求道者はそれぞれの問題や障害となるものを自分で解決しなければなりません。イエス・キリストを信じる信仰を強める事柄、つまりモルモン書を読み、祈るよう勧めることに焦点を絞ることで、求道者を助けることができます。求道者は回復についての証を深めることによって、障害や問題を克服する力を得るのです。

これらの問題に答えるときに、わたしたちが理解している事柄は現代の預言者、すなわちジョセフ・スミスとその後継者から来ていることを忘れてはなりません。彼らは神から直接啓示を受ける者です。したがって、求道者が最初に答えを見つけなければならないのは、ジョセフ・スミスが預言者であったかどうかという問題です。この答えはモルモン書を読んで祈ることにより得ることができます。



「わたしの証(ジョセフ)」 © 2001 by Lemon Smeikle この絵は、84003ユタ州アメリカン・カンパニー、フアン・デ・ラ・ソウザによって複製されました。

ジョセフ・スミスとモルモン書

ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知る方法の一つは、モルモン書を読み、それについて祈ることです。

活動—個人学習

ジョセフ・スミスとモルモン書に焦点を当てることで、以下の問題や反対意見にどのように答えることができるか、学習帳に記してください。

- 「神がいまだに人に語られるとは思えません。」
- 「わたしは、宗教団体に加わらなくても、自分の方法で神を礼拝できると信じています。」
- 「教会に入ること、どうして食事のときのワインをやめなければならないのですか。」
- 「なぜ宗教が必要なのでしょう。」

モルモン書をどのように活用すべきか

多くの求道者はモルモン書を読もうとしないか、読んでいても、内容を理解していません。モルモン書を読もうとしない人や理解していない人は、この書物が真実であるという証^{あかし}を受けるのが難しくなります。

求道者とともにモルモン書を読む

求道者とモルモン書を読むときに、この書物が真実であることを聖霊が求道者に証^{あかし}してくださるよう祈ってください。



モルモン書を一緒に読むことによって求道者を助けることができます。求道者の心配事や問題について述べている聖句を選ぶときに、助けが得られるよう祈り求めてください。レッスンを行うときや、フォローアップの訪問の際にモルモン書を一緒に読むとよいでしょう。会員たちに、求道者と一緒に読んでもらうよう手配することもできます。

特に大切な箇所は、タイトルページ、序文（特に最後の二つの段落）、モロナイ10章3-5節です。これらの箇所は、モルモン書の証^{あかし}を得

る方法を理解するうえで役に立ちます。三人の証人と八人の証人の証^{あかし}、預言者ジョセフ・スミスの証が記されている最初の部分からモルモン書を読むよう勧めてください。

短い聖句（1ニーファイ3：7やモーサヤ2：17など）と長い聖句や章全体（2ニーファイ31章、アルマ7章、または3ニーファイ18章など）を読んでから話し合います。

求道者と一緒に読むとき、時々中断して、読んだ内容について話し合ってください。その際、注意を向ける必要のある大切なメッセージや教義を指摘します。適切な見解や感じたこと、証^{あかし}、個人的な経験を伝えてください。モルモン書の持つ霊的な力を感じることができるよう助けってください。このようにして、モルモン書から直接、まことの教義を教えることができます。あなたの教えている人々が自分で読み、自分で祈ることができるように、この方法を訪問する度に実行します。

モルモン書の預言者が用いている言葉を使って、原則と教義を教えてください。聖句の背景と前後関係を説明するとともに、分かりにくい語句の意味を説明します。

読んだ内容をあなた自身と求道者に「当てはめる」ために、自分と求道者に関連づけて、応用する方法を見つけてください（1ニーファイ19：23参照）。「当てはめる」とは、教義を理解することと教義に添った生活を送ることを結びつけることです。誠心誠意で読むために、あなたとあなたの教える人々は教えを進んで実行し、それを日常生活に取り入れなければなりません。また、必要であれば悔い改めなければなりません。教えに従うことによって、それが真実であるという確信を得ることができるのです。例えば、求道者に次のように言うことができます。

「モルモン書があることを当然のことと思わないでください。伝道するに当たって、モルモン書をさらに活用するにはどうしたらよいか祈り求めてください。そうするならば、あなたの思いは照らされて、行くべき道が明らかにされると約束します。」

—ジョセフ・B・ワースリン長老
新任伝道部会長セミナー、1999年6月23日

- 「ニーファイはあなたと同じように難しい問題に直面しました。けれどもニーファイは信仰を行使して主が命じられたことを『行って、……行った』ため、それを成し遂げることができました。(1ニーファイ3:7を読む。)神はあなたが知恵の言葉を守れるように道を用意しておられます。」
- 「山口さん、罪悪感から解放されたいと願っているのはすばらしいことです。救い主がニーファイ人に約束されたように、悔い改めて、バプテスマと聖霊を受けるなら、『父の御前で罪のない者』となることができます。」(3ニーファイ27:16を読む。)

モロナイ10:3-5の約束に信頼を寄せてください。モルモン書を真心から読んで祈る人はだれでも、この書物が真実であることを聖霊の力によってはっきりと知ることができます。求道者が以下の事柄を実行できるよう、できる限りのことを行って支援してください。

- モルモン書を読み、イエス・キリストに関するモルモン書のメッセージを深く考える。
- モルモン書が真実であり、ジョセフ・スミスが回復の預言者であるという証を得るために、イエス・キリストを信じる信仰をもって神に祈る。
- 誠心誠意で祈る。これは、神から受ける答えに従って行動する意思があるという意味を含んでいます。

モルモン書に対する自分の証^{あかし}を強め、新たにするために、あなたも定期的にこの約束を実行しなければなりません。モルモン書の証を新たにすることによって、この約束を実行する人はだれでも答えを得られるという確信を持続することができます。

あらゆる面でモルモン書を活用する

モルモン書は改宗をもたらす強力な手段です。回復された福音を教えるに当たり、モルモン書を第一の原典としてください。

記憶にとどめましょう

- モルモン書は、キリストの証^{あかし}のかなめ石であり、わたしたちが教え、証する事柄のかなめ石である。
- モルモン書は、レッスンで採り上げられている教義を分かりやすく教えている。
- モルモン書を使って人生の重要な問題に答え、教会に対する反対意見に対応する。
- 求道者や新しい改宗者とともにモルモン書を継続して読む。求道者が毎日自分でモルモン書を読み、学んだことを生活の中で応用できるように、あらゆる手助けをする。
- モルモン書を真心から読んで祈る人は、聖霊の力によってそれが真実であると知ることができるという主の約束を信頼する。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 2ニーファイ2章、9章、30章、31章、32章を読んで、イエス・キリストについて語っているすべての箇所^{あかし}に印を付けてください。これらの章で使われているキリストの様々な名称と称号を書き出してください。キリストが語られた言葉に傍線を引きます。キリストの特質と行動に印を付けてください。モルモン書全体を通してこの活動を行うとよいでしょう。
- モルモン書が真実であることについて、初めて霊的な証^{あかし}を受けたときの気持ちを学習帳に記してください。
- 教義と聖約20：17では、モルモン書が教え、明らかにしている教義を説明するに当たって、「これらのことによって……知っている」という言葉を使っています。教義と聖約20：15-35を読んで、採り上げられている教義をリストにしてください。その中から一つを選び、『聖句ガイド』を使って、これらの教義について聖書が教えている事柄とあなたのリストとを比較してください。
- マタイ5-7章の山上の垂訓と3ニーファイ12-14章の神殿におけるキリストの教えとを比較してください。分かりやすくて貴い部分がモルモン書を通して回復されたことを示すリストを作ってください。
- 求道者から受けた質問の一覧表を作ってください。それらの質問の答えとなる聖句をモルモン書から見つけて、必要に応じて毎日の伝道活動で活用します。
- あなたの生活を変えた聖句をモルモン書から見つけて、この聖句について感じることを学習帳に書き留めてください。
- だれかの祈りの言葉が記されている箇所をモルモン書から見つけてください。それらの祈りに共通する事柄を学習帳に書き出します。
- 2ニーファイ33：10-15とモロナイ10：27-29、34を読んでください。裁きの法廷に立つときに、あなたはモルモン書を活用してきたことについてニーファイとモロナイに何と報告するのでしょうか。答えを書き出して、それを改善するための目標を設定してください。
- モーサヤ11-16章の前書きから、アビナダイが教えたことを要約してください。これらの章を読んで、要約した内容をさらに充実させてください。
- モーサヤ2-5章の前書きから、ベニヤミン王が教えたことを要約してください。これらの章を読んで、要約した内容をさらに充実させてください。
- 毎日モルモン書を読むとき、感銘を受けた聖句を学習帳に記録します。それらを生活の中で応用する方法を書き出してください。

同僚との勉強会

- モルモン書の聖句を一緒に読んでください。あなたが学び、感じたことを伝えます。それから、互いの証^{あかし}を分かち合ってください。
- あなたはモルモン書のどの預言者や宣教師のようになりたいですか。それはなぜですか。答えを同僚と分かち合ってください。
- アルマ26章と29章を同僚と一緒に読んでください。自分の伝道について感じていることを伝えます。感じていることを学習帳に書き出してください。
- アルマ37：9を読んで、アンモンと同僚にとって聖文はどれほど大切だったかを話し合います。彼らがどのように聖文を使ったかを説明している箇所を探してください。
- 一人がアルマかアミュレクの役を、もう一人が中傷する人々の役を受け持って、アルマ11-14章を同僚と一緒に読んでください。これらの宣教師が難しい質問にどう対応したかに注目してください。

- 実際にあった以下の物語を読み、モルモン書の大切さとその力について何を学んだか話し合ってください（名前は変えてあります）。

「スナイダー家族にバプテスマと確認の儀式を受けるよう勧めたとき、スナイダー姉妹は準備ができていました。けれども、スナイダー兄弟はこう言いました。『長老たち、あまり期待しないでください。準備できるかどうか分かりませんから。』スナイダー兄弟はわたしたちが教えたことを受け入れ、またいつも温かく、親しみを込めて迎えてくれましたが、もしほかの教会に移るとしたら家族から何と言われるだろうかと非常に心配していました。

それから数週間、スナイダー兄弟が苦しんでいる様子を見守っていました。そして、わたしたちはスナイダー夫妻とともにもう一度、第三ニーファイ11章を読むべきだと強く感じました。その晩に起きたことを忘れることができません。モルモン書を開くと、同僚がこのように説明しました。『覚えていらっしゃるでしょうが、この章には、モルモン書の民に救い主が訪れられたことが記されています。救い主がこれらの人々を愛しておられたこと、そしてお教えになった事柄が書かれています。』わたしたちは1節か2節ずつ順番に読んでいきました。5節を読み終えたときに同僚は中断して言いました。『わたしは彼らが聞いた声についての記述を読む度に感動を覚えてきました。その声は耳障りな声でもなく、大きな声でもありませんでした。それは小さい声で、人々の心を貫く力を持っていました。この声は人々の耳に聞こえただけでなく、心に語りかけました。』わたしは同僚の説明にじっと聞き入っているスナイダー夫妻を見ていました。

祈ることと御霊に耳を傾けることについてしばらく話し合いました。次はスナイダー兄弟が読む番でした。『すると見よ、3度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かった。その声は彼らに語った。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。』」スナイダー兄弟はここで読むのを中断して、じっとモルモン書を見ていました。それからわたしに視線を移して言いました。『天のお父様は御子をほんとうに誇りに思っておられたのですね。』『そうです』とわたしは言いました。スナイダー兄弟はモルモン書に視線を戻すと、またじっと見つめていました。深く考えているようでした。そしてついにこう言いました。『わたしも天のお父様から誇りに思われたいです。わたしのことをお父様はどのように紹介されるのでしょうか。たぶん、……もしお父様から誇りに思われたければ、お父様の望んでおられることを行う方がいいですね。』『そうです。それはとても大切なことです』とわたしは答えました。『ええ』スナイダー兄弟は続いて言いました。『わたしは周りのみんなからどう思われるだろうかということばかりに心を奪われて、天のお父様が考えられることに心を向けようとしていませんでした。』少し間をおいてからスナイダー兄弟はうなずき、意を決したような表情を見せると、こう言いました。『わたしはバプテスマを受けるべきだと思います。』予期しなかったスナイダー兄弟の反応に同僚とわたしはあっけにとられていました。それから同僚は口を開いて言いました。『そうです。それは正しいことです。実際、この章の後の方で、救い主は教えておられます。……』同僚が話している間、わたしは胸が熱くなるのを感じるとともに、モルモン書の力に感謝しました。』

宣教師たちはモルモン書をどのように活用したのでしょうか。モルモン書を伝道活動においてもっと効果的に使うために、あなたは同僚と何ができるのでしょうか。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

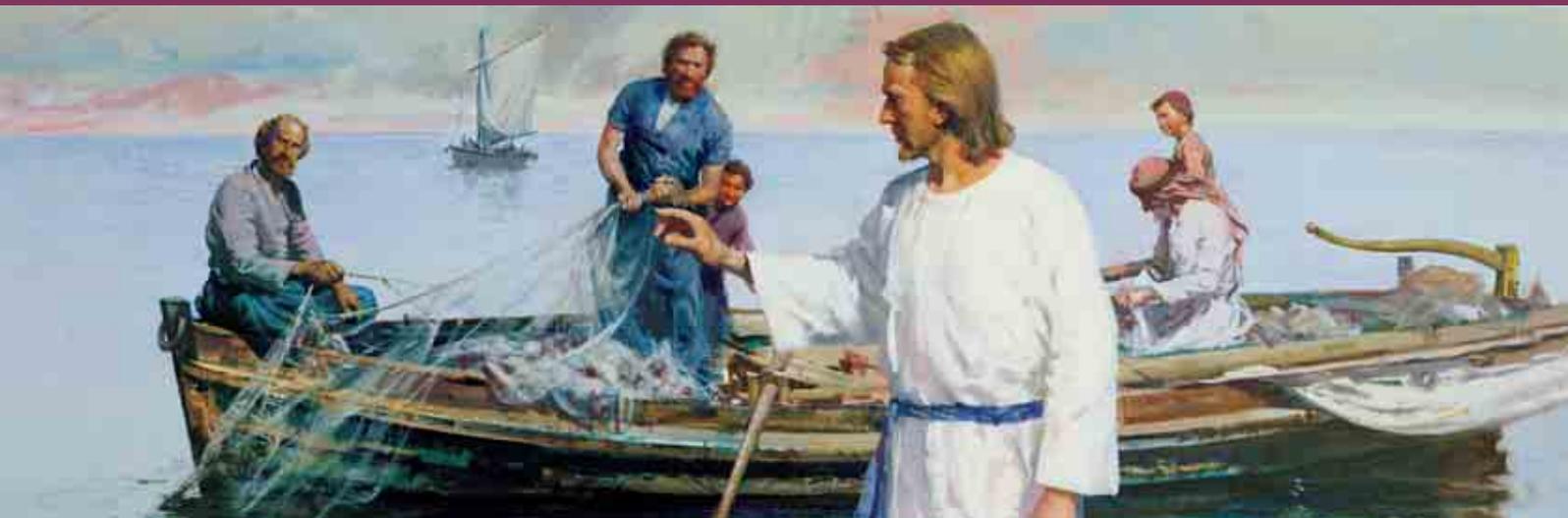
- 本章の主旨出しに記されているそれぞれの方法でモルモン書を活用する練習を行ってください。
- 求道者が持ち出した反対意見や質問を書き出してください。モルモン書を使ってこれらの疑問に答える方法を互いに説明してください。
- モルモン書の聖句を一緒に読んでください。学んだ事柄や感じていることを伝え、証^{あかし}を述べてください。
- モルモン書を使って回復のメッセージを確認する方法を練習してください。
- モルモン書から偉大な宣教師を一人選んでください。この宣教師の持っていた特質について話し合い、それらを書き出します。宣教師一人一人に、その特質の一つを生活の中で応用する目標を立ててもらいます。モルモン書の宣教師を採り上げるこの活動を定期的に行ってください。
- モルモン書が求道者の改宗に役立った経験を分かち合うように言ってください。
- 人生の問題について、モルモン書に記されている最善の答えを分かち合うように言ってください。

伝道部会長

- 回復のメッセージが真実であることを、モルモン書を使ってどのように確認するか宣教師に教えてください。
- 宣教師とともに第一ニューファイ1章を読んで、ジョセフ・スミスの経験と比較してください。
- 宣教師のために新しいモルモン書を準備しておきます。以下の箇所に色別に印を付けさせてください。
 - イエス・キリストについての記述（キリストの名称や代名詞など）。
 - キリストの言葉（キリストが語られた言葉、「主はこのように言われる」で始まる預言者が語ったキリストの言葉）。
 - キリストの特質。
 - モルモン書に記されている教義と原則。

引用されている項目の合計を各ページの下に記入させます。面接やディストリクト・ミーティングにおいて2、3か月ごとにこの活動を行い、学んだことを分かち合うようにします。イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物、そのほか福音の基本的な原則に印を付ける活動を伝道部全体で実施してもよいでしょう。

- 面接の際に、自分の生活に変化をもたらしたモルモン書の聖句を分かち合うよう宣教師に勧めてください。
- モルモン書の中に、レッスンで採り上げられている教義が教えられていることを宣教師が理解できるように助けてください。例えば、テーマが贖い^{あがな}であるとすれば、モルモン書で教えられている贖いのおもな要素を、参照箇所とともに一つの欄に書き出します。それから次の欄に、同じ要素について聖書の中で教えられている事柄を書き出します。その要素が聖書から失われている場合や教えられていない場合は空白にしておきます。モルモン書がわたしたちの教義のかなめ石となっていることがはっきりと分かるでしょう。同じ活動を、宣教師が教えているほかの教義についても行うことができます。
- 伝道部内の人々が抱えている人生の重要な問題を把握します。宣教師に、モルモン書から答えを見つけるよう伝えてください。



キリストのような特質を伸ばすには どうしたらよいでしょうか

深く考えましょう

- イエス・キリストの福音の教導者として、どうすればより力強く、効率的に働くために必要な特質を伸ばすことができるでしょうか。
- 宣教師としての目的を成し遂げるうえで、キリストのような特質を伸ばすことはどのように役立つでしょうか。
- わたしはどの特質を最も伸ばす必要があるでしょうか。

イエス・キリストはこの世で教え導く業を始められたとき、ガリラヤの海辺を歩いて、二人の漁師ペテロとアンデレを召されました。イエスは「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました（マタイ4：19。マルコ1：17も参照）。主はあなたも主の業に召してくださいました。そして、主について来るようにと招いておられるのです。キリストについて来るようにとは、キリストの模範に従い、キリストのようになりなさいという意味です。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に収められているいくつかの章では、宣教師としてあなたが何を行う必要があるかということに焦点が当てられています。つまりどのように研究し、教え、時間を賢く管理したらよいかということです。けれども、あなたが何を行うかだけでなく、あなた自身がどのような人物になるかということも非常に大切です。

あなたは、回復された福音によって天の御父やイエス・キリストのようになることができます。救い主はその道を示しておられます。救い主は完全な模範を示して、御自分のようになるよう命じておられます（3ニーファイ27：27参照）。救い主に学び、救い主の特質を生活に取り入れるようにしてください。主の贖いの力によって、あなたはこの目標を成し遂げ、ほかの人々と同じ目標に向かって導くこともできます。

聖文はキリストのような特質について説明を加えています。これらはあなたが宣教師として、また生涯を通じてはぐくんでいくべき大切なものです。本章の聖文を研究し、またほかの聖文を研究する際に、キリストのような特質が示されている例を見つけてください。

キリストのような特質は神から授けられる賜物です。あなたが選択の自由を義にかなって使うときにもたらされるものです。そのような特質を祝福してくださるよう天の御父に願い求めてく

メモ

ださい。神の助けなしに、はぐくむことはできません。神に喜ばれようとする望みを心に抱いて、自分の弱点を認め、積極的に改善に努めてください。

聖文研究

これらの聖句はイエス・キリストの模範に従うことについて何と言っているのでしょうか。

3 ニーファイ 12:48

ヨハネ 13:1-16

1 ペテロ 2:21

3 ニーファイ 27:21, 27

福音の第一の原則とキリストのような特質との間にはどのような関連があるのでしょうか。

モロナイ 8:25-26

本章を研究するためのアイデア

本章の研究に取り組む方法はたくさんあります。以下のアイデアから一つを選んで、実行してください。

- 本章の末尾にある「特質を伸ばすための活動」を完成させて、あなたが伸ばすことを最も必要とする、または最も望んでいる特質を明らかにします。その特質に関する項を研究してから、それを伸ばすための目標を設定してください。
- 聖文を研究しないまま、本章を通読して、詳しく調べたいと思う特質を選びます。それから、その特質に関する主要な聖文を研究します。その特質について本章で採り上げられていないほかの聖文を探します。その特質を伸ばすためのアイデアを学習帳に書き留めておきます。
- 研究したいと思う特質を選びます。それから、本章の最後の「キリストのような特質を伸ばす」の項に記されているパターンに従って実行します。

イエス・キリストに対する信仰

キリストに対する信仰を持っている人は、キリストが神の御子であり、肉における御父の独り子であられることを信じています。救い主、贖い主として受け入れ、キリストの教えに従っています。主の贖いによって自分の罪が赦されることを信じています。キリストを信じる信仰とは、キリストを信頼し、キリストから愛されていることを確信するという意味です。

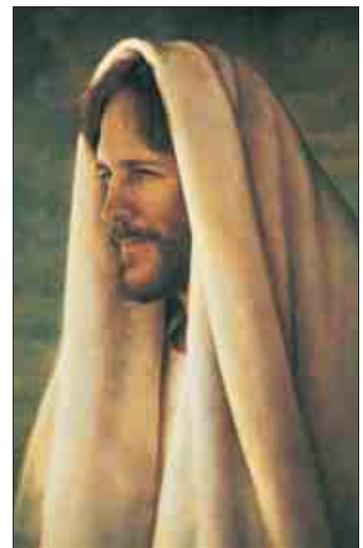
信仰は悔い改め、従順、献身的な奉仕などの行動へと駆り立てます。イエス・キリストを信じている人は、戒めが与えられている理由を完全に理解していなくても主を信頼してその戒めに従います。主が望んでおられることを成し遂げようとし、自分と人々の生活の中で善いことが起きるよう力を尽くします。主の御心によって奇跡を成し遂げることができます。勤勉に働くことによって信仰を表すのです。

信仰は力の源です。神は力によって働かれますが、神の力は普通、信仰に応じて行使されます（モロナイ 10:7 参照）。神は人の子らの信仰に応じて働かれるのです。疑いや恐れは信仰とは反対のものです。

勤勉な研究と祈り、戒めに従うこと、献身的な奉仕、聖霊の導きと戒めに従うことによって信仰は強められます。

イエス・キリストを信じる信仰は主と主の教えをよく理解するにつれて強くなります。聖文を調べることにより、主の方法、全人類に対する主の愛、主の戒めを学ぶことができます。

聖霊の使命と力を信頼することも信仰の一つです。信仰によって、祈りの答えを受け、主の業において導きとなる個人的な靈感を受けます。



© 1989 Conceptions Unlimited Investments, Inc. 複製は禁じられています。

聖文研究

信仰とは何ですか。

アルマ32：21

エテル12：6

ヘブル11：1（末日聖徒版の

欽定訳聖書〔英語〕のヘブル11：1の脚注b参照）

『聖句ガイド』「信仰」の項

『真理を守る』「信仰」の項、109-111

どうすれば信仰が得られますか。信仰によってどのようなことができるのですか。

2ニーファイ25：29

2ニーファイ26：13

モーサヤ4：6-12

アルマ32章

ヒラマン15：7-8

エテル12：7-22

モロナイ7：33

ローマ10：17

ヘブル11章

信仰によってどのような祝福が与えられますか。

モーサヤ3：17

モーサヤ5：1-15

ヒラマン5：9-12

ヨハネ14：6

希望

希望とは主が約束を果たされることについて揺るぎない信頼を寄せることです。それは信頼、樂觀主義、熱意、粘り強さの中に表されます。何かが起きると信じ、期待することです。希望を持つとき、すべてのことが自分のためになると信頼し、確信をもって試練や問題に立ち向かえます。希望によって落胆を乗り越えることができます。聖文の中ではしばしば、イエス・キリストに対する希望とは、日の栄えの王国において永遠の命を受け継ぐと確信することであると述べられています。

ジェームズ・E・ファウスト管長はこのように教えました。

「希望、それは心の^{いかり}錨です。……

希望は神の約束を信頼することです。今行動すれば、願っている祝福が将来成就するという希望です。……

希望の揺るぎない源は、わたしたちが神の息子、娘であり、御子である主イエス・キリストがわたしたちを死から救われたということです。」（「希望、それは心の錨」『リアホナ』2000年1月号、70-72）

「希望という祝福を受けて
いるわたしたちは
弟子として、『福音の望みから移』（コロサイ1：23）って
行ったすべての人々に
手を差し伸べましょう。
希望を失って垂れた腕を引き
上げようではありませんか。」

——ニール・A・マックスウェル長老
「完全な希望の光」『聖徒の道』
1995年1月号、41参照）

聖文研究

希望とは何ですか。わたしたちは何について希望を持っているのですか。

2ニーファイ31：20

アルマ58：10-11

エテル12：4、32

モロナイ7：40-48

教義と聖約59：23

教義と聖約138：14

ローマ8：24-25

ヘブル6：10-20

『聖句ガイド』「希望」の項

慈愛と愛

あるとき一人の男がイエスに尋ねました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』（マタイ22：36-39）

慈愛とは「キリストの純粋な愛」です（モロナイ7：47）。神のすべての子供たちに対する神の永遠の愛も慈愛です。わたしたちはそのような愛をはぐくむよう努めなければなりません。心に慈愛が満たされていると、神の戒めを守ります。また、人々に仕え、回復された福音を受け入れるよう助けるためにできることをすべて行います。

慈愛は神から授けられる賜物です。預言者モルモンは「この愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい」と語りました（モロナイ7：48）。この勧告に従い、義にかなった業を行おうとするときに、あらゆる人、特にあなたが働いている地の人々に対する愛が深まります。人々が永遠の幸福にあずかれるよう心から願うようになります。ほかの人々を、天の御父のようになる可能性を持った神の子供として見るようになって、彼らのために力を尽くすようになります。怒りや嫉妬、情欲、貪欲など、邪悪な気持ちを追い払うようになります。人々を裁いたり、批判したり、だれかに対して否定的なことを言わなくなります。人々を理解し、彼らの見解が理解できるよう努力するようになります。人々に対して忍耐を示し、彼らが苦しんだり落胆していたりするときに助けようとします。慈愛は信仰と同じように行動へと駆り立てます。人々に仕え、自分自身を与える機会を求めるときに、慈愛を伸ばすことができます。



© 2001 Simon Dewey. 複写は禁じられています。

聖文研究

慈愛とは何ですか。

モロナイ7：45-48

1コリント13章

『聖句ガイド』「慈愛」の項

イエス・キリストはどのようにして慈愛を示されましたか。

1ニーファイ19：9

エテル12：33-34

ルカ7：12-15

アルマ7：11-13

これらの聖句は慈愛についてどのようなことを教えていますか。

2ニーファイ26：30

エテル12：28

1ペテロ4：8；『聖句ガイド』

モーサヤ2：17

教義と聖約88：125

ジョセフ・スミス訳 1ペテロ

モーサヤ28：3

1テモテ4：12

4：8参照

アルマ7：24

徳

徳は心の奥底にある思いと望みから生じるものです。徳は道徳的に高い標準に基づいた思いと行動のパターンです。聖霊は清くない幕屋には住まわれないので、御霊の導きを受けるには徳を身に付けることが前提条件となります。一人でいて、だれからも見られていないとされているときに考え、行うことによって自分の徳を的確に測ることができます。

徳高い人は霊的に清く純粹です。義にかなった高尚な考えに心を向け、不適切な行動につながるふさわしくない考えを心の中から追い払います。神の戒めを守り、教会指導者の勧告に従います。誘惑を退け、義を行うために、強さを求めて祈ります。罪や悪い行いを速やかに悔い改めます。徳高い人は神殿推薦状を受けるにふさわしく生活します。

人の心は劇場の舞台にたとえることができます。けれどもこの舞台に立つ役者は一時に一人だけです。舞台にだれも立っていないと、暗黒と罪の思いがしばしば舞台上がって誘惑します。けれども、誘惑を受けたときに、暗唱している賛美歌や聖句など健全な思いを呼び出して、それが心の舞台を占めるようにしたら、暗黒と罪の思いが力を持つことはありません。心の舞台を支配する力を得るならば、誘惑に負けたり、罪に陥ったりする衝動を首尾よく抑えることができます。このようにして、あなたは清くなり、徳高い人になることができます。

聖文研究

徳高くあるとはどのような意味ですか。

教義と聖約4：6

教義と聖約46：33

2ペテロ1：3-8

教義と聖約25：2

教義と聖約121：45-46

『聖句ガイド』「徳」の項

教義と聖約38：24

信仰箇条1：13

知識

主は「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」と命じられました（教義と聖約88：118）。主はまた「人が無知で救われることは不可能である」と警告されました（教義と聖約131：6）。知識、特に霊的な知識を求めてください。毎日聖文を研究するとともに、生ける預言者の言葉も研究してください。研究と祈りを通して具体的な疑問、課題、機会について助けを求めてください。回復された福音について教えたり、質問に答えたりするときに、どの聖句を使うことができるかに特別な注意を払ってください。

どうすれば福音の原則を生活の中で応用できるか考えてください。勤勉に、祈りの気持ちと清い動機をもって研究するときに聖霊は思いを照らし、教え、聖文と生ける預言者の言葉の意味を理解できるように助けてくださいます。またほかの人々、特に教会指導者に目を向け、耳を傾けることによっても知識を得ることができます。あなたもニーファイのように、「わたしは聖文に喜びを感じる〔。〕わたしは聖文について心に深く考え〔る。〕……見よ、わたしは主に関することに喜びを感じる。わたしの心は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている」と言うことができるようになるでしょう。（2ニーファイ4：15-16）

聖文研究

知識は主の業をするためにどのような助けとなるでしょうか。

アルマ17：2-3

教義と聖約88：77-80

どうすれば知識を得ることができるでしょうか。

2ニーファイ32：1-5

教義と聖約42：61

教義と聖約88：118

モロナイ10：5

教義と聖約76：5-10

『聖句ガイド』「知識」の項

メモ

忍耐

忍耐とは、遅れや問題、反対、苦しみを、怒りや落胆、不安を募らせることなく耐える能力です。神の御心みこころを行い、神の定められた時を受け入れる能力です。忍耐する姿勢があれば、試練に耐え、穏やかにまた希望をもって逆境に立ち向かうことができます。忍耐は希望と信仰に関連があります。すなわち、主の約束された祝福が成就するのを待つということです。

日常の経験や人間関係の中で、特に同僚との関係においては忍耐することが求められます。欠点や弱点を克服するために、自分も含め、すべての人に忍耐しなければなりません。

「人生に満ちている苦難は、ささいなものもあれば、重大なものもあります。チャレンジは、すべての人に果てしなく与えられるように思えます。問題は、チャレンジに対して即座の解決を期待し、天の徳である忍耐が必要なことを忘れることです。」

—トーマス・S・モンソン管長

「忍耐—天の徳」『聖徒の道』

1996年1月号、63

活動—個人学習

- モーサヤ28：1-9を研究してください。モーサヤの息子たちはどのようなことを望んだでしょうか。
- 主はこの宣教師たちにどのような勧告をお与えになったのでしょうか。（アルマ17：10-11および26：27参照）
- 彼らの忍耐と勤勉はどのような結果をもたらしたのでしょうか。（アルマ26章参照）
- 答えを学習帳に書いてください。

聖文研究

なぜ忍耐することは大切なのでしょう。忍耐と信仰はどのような関係にあるのでしょうか。

モーサヤ23：21

アルマ34：40-41

2コリント6：1-10

モーサヤ24：9-16

教義と聖約101：38

ヤコブの手紙5：10-11

アルマ31：31

ローマ5：3-5

詩篇46：10

アルマ32：41-43

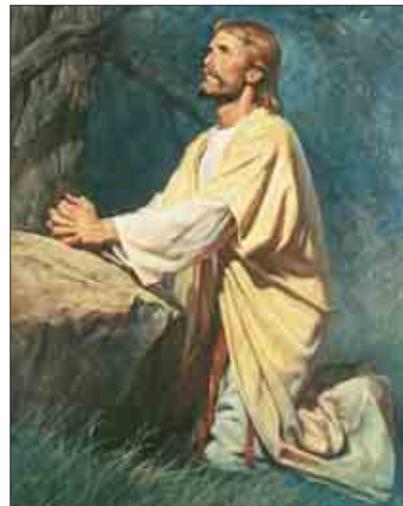
ローマ8：24-25

『聖句ガイド』「忍耐」の項

謙遜

謙遜けんそんとは主の御心みこころに進んで従い、達成したことについて主に誉れを帰すことです。謙遜であれば、主の祝福に感謝し、主の助けがいつも必要であることを認めます。謙遜は弱さのしるしではなく、霊的な強さのしるしです。へりくだって主に頼り、主の力あわと憐れみが必要であることを認めるなら、主の戒めが自分のためにあるということが確信できるでしょう。主に頼るなら、主から求められることは何でもできると確信できるでしょう。また主から選ばれた僕たちしもべを心から信頼し、彼らの勧告に進んで従うことでしょう。従順になろうとするとき、熱心に働こうとするとき、自分を忘れて奉仕しようとするときに、謙遜さが助けになるのです。

謙遜の反対は高慢です。高慢は聖文の中で非難されています。高慢とは神や神の僕たちしもべよりも自分をもっと信



頼ることです。神に関するよりもこの世のことを優先させるという意味もあります。高慢な人は、人と競争します。高慢な人は、人よりも多くのものを求め、自分が人よりも優れていると思ひ込みます。普通、高慢は怒りと嫌悪感をかき立てます。それは大きなつまずきの石です。

聖文研究

謙遜とはどのような意味ですか。

2 ニーファイ 9:28-29

アルマ 5:26-29

マタイ 26:39

モーサヤ 4:11-12

アルマ 26:12

『聖句ガイド』「謙遜」の項

謙遜であることによってどのような祝福を受けますか。

アルマ 32:1-16

教義と聖約 67:10

マタイ 23:12

エテル 12:27

教義と聖約 112:10

教義と聖約 12:8

教義と聖約 136:32-33

どうしたら高慢な自分に気づくことができますか。

1 ニーファイ 15:7-11

2 テモテ 3:1-4

箴言 15:10

1 ニーファイ 16:1-3

箴言 13:10

箴言 28:25

勤勉（熱心）

勤勉とは堅実に、一貫して、熱心に、精神的に主の業に励むことです。主は勤勉（熱心）に働くよう望んでおられます。粘り強く、努力と注意を傾けて働くことです。勤勉な宣教師は効果的に、また効率よく働きます。勤勉に伝道活動を行うことは主と主の業に対して愛を表すことです。勤勉であるなら、自分の働きに喜びと満足を見いだすことでしょう。

自由意志によって多くの善いことを行ってください（教義と聖約 58:27 参照）。何を行うべきか指導者が言うのを待たないでください。疲れていても、できるすべてを行うまで続けてください。最も大切なことに焦点を当てて、時間を無駄にしないでください。導きと強さを求めて祈ってください。定期的に、また効果的に計画を立ててください。思いや行いをそらすことをすべて避けてください。

「しばしばお話ししてきたことですが、伝道を成功に導く最大の秘訣の一つは、働くことです。働く宣教師は御霊を受け、御霊を受ける宣教師は御霊によって教えます。そして御霊によって教える宣教師は、相手の心の琴線に触れ、自らも喜びを得ることができるのです。時間、能力、関心のすべてを注ぐのですから、ホームシックも家族への心配もありません。働いて、働いて、働く——これが秘訣です。特に伝道に関しては、これに代わり得るものはありません。」

—エズラ・タフト・ベンソン大管長

The Teachings of Ezra Taft Benson

(1988年), 200

メモ

聖文研究

勤勉（熱心）とはどのような意味ですか。

モロナイ9：6 教義と聖約107：99-100 『聖句ガイド』「熱心」の項
教義と聖約10：4

主はなぜあなたに勤勉（熱心）であるよう望んでおられるのですか。

教義と聖約75：2-5 教義と聖約127：4 教義と聖約130：20-21
教義と聖約123：12-14

勤勉（熱心）は選択の自由とどのような関係にあるでしょうか。

モーサヤ4：26-27 教義と聖約58：26-29

従順

あなたは宣教師として、進んで戒めを守り、伝道部の規則に従い、指導者の勧告に従うことを求められています。従順は天の第一の律法であり、信仰に基づく行為です。時々、完全には理解していないことを行うよう求められるかもしれません。従順であるならば、信仰、知識、知恵、証、^{あかし}守り、自由が増し加えられます。主と生ける預言者、伝道部会長に従順であるよう努めてください。

「日々従順に従い、
清く健全な生活を送るよう
自らを訓練することにより、
地上での生活に付きまとう
誘惑から自分を守る武具を
身に着けることが
できるのです。」

—L・トム・ベリー長老
「奉仕の召し」『聖徒の道』
1991年7月号, 41

聖文研究

従順とはどのような意味ですか。

1ニーファイ2：3 教義と聖約82：8-10 ヨハネ14：15
モーサヤ5：8 マタイ7：24-27 『聖句ガイド』「従順；従う」
モーサヤ15：7 ヨハネ7：17 の項

これらの聖句から従順について何を学ぶことができるでしょうか。

1ニーファイ3：7 教義と聖約105：6 列王下5：1-14

ヒラマンの軍の若い兵士たちはなぜ完全に従順だったのですか。

彼らはどのような祝福を受けましたか。

アルマ56：45-48 アルマ57：21-27

キリストの持つておられるような特質をはぐくむ

本章で説明されている特質や、聖文に見られるほかの特質を研究し、伸ばすよう努力するときに、以下のパターンに従うとよいでしょう。

- 伸ばしたいと思う特質を選ぶ。
- その特質の定義と説明を書く。
- 勉強するときに質問と答えを記録しておく。
- その特質について教えている聖句をリストにして、詳しく研究する。
- 感じたことや印象を記録しておく。
- 目標を決めて、生活の中でその特質を応用する計画を立てる。
- その特質を伸ばせるよう主の助けを祈り求める。
- 個々の特質について定期的に進歩状況を評価する。

活動—個人学習

本章または聖文から特質の一つ選びます。上記のパターンに従って、その特質をよく理解し、伸ばすための計画を立てます。

宣教師の名札を見てください。企業の従業員が着けている名札とどこが違うでしょうか。最も目を引く二つの特徴は自分の名前と救い主の名が記されている点です。主の弟子として救い主を代表していることをどのように証明できるでしょうか。人々があなたの名前を見たり聞いたりするときに救い主を思い出すくらいの人物になることはなぜ大切ですか。考えたことを学習帳に書き留めてください。



聖文研究

以下の聖文にはどのような特質が列挙されていますか。

モーサヤ3：19

教義と聖約121：41-45

ピリピ4：8

アルマ7：23

信仰箇条1：13

2ペテロ1：5-8

教義と聖約4章

記憶にとどめましょう

- 宣教師的なことをするよりも、キリストのような宣教師になることが大切である。
- キリストのようになるための学習は生涯の課題である。
- キリストの模範に従い、キリストの特質を身に付けていく。行動目標や決意は一時に一つずつ実行する。
- キリストのようになるために自分を変えるには、信仰を行使し、悔い改め、聖約を守り、いっそう豊かに聖霊を受け、最後まで堪え忍ぶことが求められる。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 本章で説明されている特質の一つについて5分間の話を準備してください。
- 『聖句ガイド』を使って、本章で説明されている特質について救い主がどのような模範を示されたか探してください。学んだことを学習帳に記録します。
- 本章の最後にある「特質を伸ばすための活動」を定期的に完了してください。
- 本章で採り上げている特質の一つを選んで、次のように自問します。
 - どうすればこの特質をはぐくむことができるだろうか。
 - この特質をはぐくむためにわたしの心、思い、行動の中で何が変わらなければならないだろうか。
 - 聖約を守ることは、この特質を伸ばすうえでどのように助けとなるだろうか。
 - 聖なる御霊みたまを受けるにふさわしくなり、イエス・キリストの福音のいっそう力強い教導者となるために、この特質を伸ばすことはどのように役立つだろうか。
- 生活の中でキリストのような特質を示した男女の例を聖典から探します。感じたことを学習帳に書き留めてください。

同僚との勉強会

- 宣教師基本図書からキリストのような特質に関する箇所を研究してください。
- 様々な特質の相互関係について話し合ってください。例えば、
 - 信仰は勤勉さとどのような関係にあるでしょうか。
 - 謙遜けんそんさは愛とどのような関係にあるでしょうか。
 - 知識はどのように忍耐力を強めてくれるでしょうか。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- ディストリクト・ミーティングかゾーン大会の数日前に、宣教師一人一人に本章で採り上げられている特質の一つを選んで、その特質について5分間の話を準備してもらいます。自分にとって役立つ聖句を引用してもらってください。
- 集会の中で何人かの宣教師に話を分かち合う時間を取ってください。
- 宣教師を3つのグループに分けて、各グループに以下の割り当てを与えます。

グループ1——1ニーファイ17：7-16を読んで、以下の質問に答えてください。

- ニーファイはどのように信仰を行使したでしょうか。
- ニーファイのどのような行為がキリストのようだったでしょうか。
- ニーファイが忠実であって、戒めを守ることを条件に、主はどのような約束を与えられたでしょうか。
- この出来事は伝道活動にどのように応用できるでしょうか。

グループ2——モルモン書ヤコブ7：1-15を読んで、以下の質問に答えてください。

- ヤコブの信仰がシーレムの攻撃をもともしないほど強かったのはなぜでしょうか。

メモ

- ヤコブはシーレムと話すときにどのように信仰を行使したでしょうか。
- ヤコブの行動はどのような点においてキリストのようだったでしょうか。
- ヤコブのような信仰をはぐくむにはどうすればよいでしょうか。

グループ3—ジョセフ・スミス—歴史1：8-18を読んで、以下の質問に答えてください。

- ジョセフ・スミスはどのような方法でイエス・キリストへの信仰を行使したでしょうか。
- ジョセフの信仰はどのように試されたでしょうか。
- ジョセフのどのような行いがキリストのようだったでしょうか。
- ジョセフ・スミスの模範に従うためにわたしたちはどのようなことができるでしょうか。

各グループが割り当てを終えたら、集合して、話し合ったことを発表してもらいます。

- ほかの人の信仰によって祝福を受けた経験、または鼓舞された経験を分かち合ってください。
- 宣教師に「特質を伸ばすための活動」を開いてもらいます。白紙を1枚ずつ配って、答えを書いてもらいます。

「特質を伸ばすための活動」が終わったら、個人の目標を立ててもらいます。

何人かの宣教師にこの活動で学んだことや感じたことを発表してもらいます。

キリストのような特質をはぐくむことの大切さについてあなたの^{あかし}証を分かち合ってください。

伝道部会長

- 宣教師に、新約聖書の四福音書の一書または第三ネーファイ11章-28章を読ませ、救い主が行われたことの中で自分たちにも実行できる事柄に傍線を引かせてください。
- 目標設定と計画を使って、宣教師に勤勉（熱心）について教えてください。熱心に人々に関心を向けることは、どのように愛を表しているかを教えてください。
- 面接において、宣教師が伸ばそうと努力している特質について話させてください。
- ゾーン大会で、同僚が持っているキリストのような特質について宣教師に話させてください。

特質を伸ばすための活動

以下の各項目を注意して読み、現在のあなたがどの状態にあるかを判断して、該当するレベルの番号を学習帳に記入してください。霊的な成長は段階を追って成し遂げられるものであり、また、完全な人はいません。このため項目によって高い評価と低い評価のばらつきが出ることでしょう。

自分に該当するレベル 1=まったくない 2=ときにはある 3=しばしばある 4=ほとんどいつもある 5=常にある

信仰

- ___ 1. わたしはキリストを信じ、キリストをわたしの救い主として受け入れています。(2ニーファイ25:29)
- ___ 2. わたしは神から愛されていることを確信しています。(1ニーファイ11:17)
- ___ 3. わたしは救い主の御心を受け入れ、救い主が命じられることなら何でも行うほど、救い主を信頼しています。(1ニーファイ3:7)
- ___ 4. イエス・キリストの贖いによって、わたしのすべての罪が赦されることを固く信じています。(エノス1:5-8)
- ___ 5. わたしのキリストに対する信仰は、祈りがこたえられるのに十分です。(モーサヤ27:14)
- ___ 6. わたしは一日中救い主について考え、救い主がわたしのためにしてくださったことを思い起こしています。(教義と聖約20:77, 79)
- ___ 7. 自分や人の生活ですばらしいことが実現するために必要な信仰を持っています。(エテル12:12)
- ___ 8. わたしはモルモン書が真実であることを聖霊の力によって知っています。(モロナイ10:3-5)
- ___ 9. わたしのキリストに対する信仰は、主が望まれることなら何でも、すなわち必要であれば奇跡をも行うのに十分です。(モロナイ7:33)

希望

- ___ 10. わたしの最大の望みの一つは神の日の栄えの王国で永遠の命を受け継ぐことです。(モロナイ7:41)
- ___ 11. わたしは幸せに満ちた、実りの多い伝道ができることを確信しています。(教義と聖約31:3-5)
- ___ 12. わたしは将来について心穏やかであり、楽観的です。(教義と聖約59:23)
- ___ 13. わたしはいつの日か神とともに住み、神のようになることを固く信じています。(エテル12:4)

慈愛と愛

- ___ 14. わたしは人々の永遠の福利と幸福を心から願っています。(モーサヤ28:3)
- ___ 15. わたしは祈るとき、慈愛すなわちキリストの純粋な愛を願い求めています。(モロナイ7:47-48)
- ___ 16. わたしは人の感情を理解し、彼らの見解を理解するように努めています。(ユダ1:22)
- ___ 17. わたしに攻撃を加える人や不当な扱いをする人を赦しています。(エペソ4:32)
- ___ 18. わたしは苦しんでいる人や落胆している人を助けるように努めています。(モーサヤ18:9)

- ___ 19. 適切である場合、わたしは人々を愛し、関心を持っていることを伝えます。(ルカ7:12-15)
- ___ 20. わたしは人々に仕える機会を求めています。(モーサヤ2:17)
- ___ 21. わたしは人々について前向きな言葉を口にしてしています。(教義と聖約42:27)
- ___ 22. 協調していくのが難しいときでもわたしは人々に親切にし、忍耐しています。(モロナイ7:45)
- ___ 23. わたしはほかの人のすぐれた働きに対して喜びを感じています。(アルマ17:2-4)

徳

- ___ 24. わたしの心は清く、純粋です。(欽定訳詩篇24:3-4から和訳)
- ___ 25. わたしは悪を行うことを望んでいません。善いことを行いたいと望んでいます。(モーサヤ5:2)
- ___ 26. わたしは信頼に足る人間です。行うと言ったことを必ず行っています。(アルマ53:20)
- ___ 27. わたしは義になかった、人を高めるような考えに心向け、ふさわしくない考えを追い出しています。(教義と聖約121:45)
- ___ 28. わたしは自分の罪を悔い改め、弱点を克服するよう努力しています。(教義と聖約49:26-28)
- ___ 29. わたしは生活の中で聖霊の影響を感じています。(教義と聖約11:12-13)

知識

- ___ 30. わたしは福音の教義と原則を確実に理解しています。(エテル3:19-20)
- ___ 31. わたしは毎日聖文を研究しています。(ヨハネ5:39)
- ___ 32. わたしは真理を理解し、疑問の答えを見いだすために熱心に努力しています。(教義と聖約6:7)
- ___ 33. わたしは御霊を通して知識と導きを受けています。(1ニーファイ4:6)
- ___ 34. わたしは福音の教えと原則を愛し、大切にしています。(2ニーファイ4:15)

忍耐

- ___ 35. わたしは主の祝福と約束が成就されるのを忍耐強く待っています。(2ニーファイ10:17)
- ___ 36. わたしは憤慨したり、失望したりせずに、待つことができます。(ローマ8:25)
- ___ 37. わたしは宣教師として受けるチャレンジを忍耐し、堪えています。(アルマ17:11)

- ___ 38. わたしはほかの人の過ちや弱点を忍耐しています。(ローマ15:1)
- ___ 39. わたしは弱点を克服するために努力するとき、自分に対して忍耐し、主にすがっています。(エテル12:27)
- ___ 40. 逆境や苦しみに遭うときは、静かに希望をもって立ち向かっています。(アルマ34:40-41)

謙遜

- ___ 41. わたしは柔和で心のへりくだった者です。(マタイ11:29)
- ___ 42. わたしは主の助けに頼っています。(アルマ26:12)
- ___ 43. わたしは主から受けている祝福に心から感謝しています。(アルマ7:23)
- ___ 44. わたしは熱意を込めて心から祈っています。(エノス1:4)
- ___ 45. わたしは指導者や教師から受ける指示に感謝しています。(2ニーファイ9:28)
- ___ 46. わたしはどのようなことでも主の御心に従うよう努力しています。(モーサヤ24:15)

勤勉(熱心)

- ___ 47. わたしはせかさされなくても、近くで監督されていなくても熱心に働きます。(教義と聖約58:26-27)
- ___ 48. わたしは最も大切なことに力を注いでいます。(マタイ23:23)
- ___ 49. わたしは1日に少なくとも2度、個人の祈りを行っています。(アルマ34:18-27)
- ___ 50. わたしは思いを宣教師としての召しに向けています。(教義と聖約4:2, 5)
- ___ 51. わたしは定期的に目標を設定し、計画を立てています。(教義と聖約88:119)
- ___ 52. わたしは務めをうまく果たすまで熱心に働きます。(教義と聖約10:4)
- ___ 53. わたしは自分の務めに喜びと満足を感じています。(アルマ36:24-25)

従順

- ___ 54. わたしは祈るとき、誘惑を退けて、正しいことを行う力が与えられるようお願い求めています。(3ニーファイ18:15)
- ___ 55. わたしは神殿推薦状を受けるにふさわしい状態を維持するために、求められている戒めを守っています。(教義と聖約97:8)
- ___ 56. わたしは進んで伝道部の規則を守り、自分の指導者の勧告に従っています。(ヘブル13:17)
- ___ 57. わたしは福音の律法と原則に従って生活するよう努力しています。(教義と聖約41:5)



伝道地で使用される言語を 習得するには どうしたらよいでしょうか

深く考えましょう

- なぜ語学力を伸ばし続ける必要があるのでしょうか。
- 伝道地の言語で話し、教える能力を向上させるにはどうすればよいでしょうか。
- 異言の賜物^{たまもの}を得るにはどうすればよいでしょうか。

自身を靈的に備える

主は次のように宣言されました。「この力を有する職に聖任される者たちを通じて、すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう。」(教義と聖約90:11) あなたの口から人を改宗に導く力が出てくるようになるには、あなた自身の証^{あかし}を強める必要があります。教義とレッスンの勉強は最初、母語で行います。母語で理解すると証が強められ、説得力のあるレッスンや証^{あかし}をする力が増してきます。それから、回復のメッセージを、伝道地の言語で、御霊に導かれるままに述べることを学ぶのです。

あなたが伝道地の言語で教え、証^{あかし}するときに主が助けてくださるという信仰を強めるには、次のような方法があります。

- 自分が預言者によって神から召されていることを自覚する。
- 聖霊を伴侶とすることができるようにふさわしい生活を送る。
- 戒めと宣教師の標準を守る。
- 神の助けを求めて心から祈る。
- 毎日、伝道地の言語を勉強し、練習し、使う。

メモ

自分をささげ、熱心になる

伝道地の言語を使って効果的に教えるには、熱心に努力する必要があります。最初は難しく感じられても驚かないでください。言語を習得するには時間がかかります。自分に忍耐することが必要です。同僚や会員、求道者、ほかの宣教師に助けを求めてください。

人々があなたの言葉を理解し始めたからといって、向上する努力をやめないでください。話す能力が向上すると、人々はあなたの話し方よりも、話す内容に関心に向けるようになります。心の思いを伝えることについての不安が和らいでできます。そうすると、求道者の必要や御霊のささやきに、もっと敏感に応じることができるようになります。

伝道期間を通じて、また伝道を終えた後も言語を習得するための努力を続けてください。主はあなたに多くの祝福を注いでおられます。主はあなたの後の人生であなたの言語力をお使いになるかもしれません。ジェフリー・R・ホランド長老はこのように説明しました。「伝道地で新しい言語を学ぶすべての宣教師が、可能なあらゆる手段を使ってその言語に磨きをかけるよう……わたしたちは願っています。……言語力が向上すると、福音を宣べ伝え、証する力が強められて、求道者からいっそうよく受け入れられ、彼らに霊的な感動を与えることができるようになります。……いわゆる伝道用の語彙を習得するだけで満足しないでください。言語を習得するために大いに努力してください。そうすれば、人々の心を引き寄せる力がいっそう強められるのです。」(宣教師訓練衛星放送、1998年8月)

あなただけが伝道地の言語を学んでいるわけではありません。主は戒めを与えるときに必ずそれを成し遂げるための道を備えてくださいます(1ニーファイ3:7参照)。主の助けを求めてください。自分をささげて勉強してください。やがて、宣教師としての目的を果たすのに必要な言語を習得できるようになります。

英語を学ぶ

もしあなたが英語を話せなければ、宣教師として英語を勉強する義務があります。それは伝道中と生涯を通じてあなたの祝福となります。英語を学ぶことによって様々な方法で主の王国の建設を助けることができるだけでなく、それはあなた自身とあなたの家族にとっても祝福となります。本章で提案されている多くの事柄が役立つはずですが、特に以下の事項に努力を傾けてください。

- 同僚と英語で話す目標を設定する。英語がすでに話せて、今はあなたの国の言語を学んでいる人が同僚の場合は、アパートでは英語で話し、外出したら伝道地の言語で話すようにしてもよいでしょう。
- 同僚とともに英語でモルモン書を読む。交互に読む方法を取ることもできます。つまり、あなたが英語で1節を読むと、次の1節を同僚が伝道地の言語で読むのです。互いに発音や抑揚を直してください。
- もし英文法の簡単な参考書を持っていないければ、伝道部会長に相談してください。

言語学習の原則

ここでは言語をより効果的に研究し、学ぶための原則を説明します。

- **責任を持つ。**言語学習の目標と学習計画を定期的に設定し、調整します。あらゆる機会を捕らえて、学習している言語を使うようにします。
- **有意義な勉強をする。**次のように自問します。わたしはなぜこれを勉強しているのだろうか。意志の疎通を改善するために、どれほど役立つだろうか。勉強している事柄を実際の状況や日常の活動に関連づけます。言いたいことを言う助けになる言葉を部分的に勉強します。例えば、レッスンを教えるときに取り入れたいと考えている聖文の物語があれば、それを話すために必要な語彙と文法を勉強します。
- **意思の疎通を図る努力をする。**文法や構文の研究と日常生活の中で学習をバランス良く織り交ぜます。その言語を母語とする人々と話すこと以上に優れた方法はありません。

- **新しい概念を十分に把握する。**勉強したことを定期的に復習し、新しい状況で繰り返し練習していれば、言語上の原則を思い出して、効果的に使うことができます。

言語学習の計画を作成する

伝道地の言語で話す能力を向上させるために、その日何ができるかを明確にするため、言語学習計画を作成するとよいでしょう。これは新任の宣教師にとっても、経験豊かな宣教師にとっても有効です。計画する際、言語学習の時間に行くことと、一日を通じて行うことを決めます。

必要に応じて、言語学習の時間を使って学習計画を作成し、調整します。そのうえで、毎朝の言語学習の時間に、その日の活動に必要な言葉や表現を学習します。以下の指針を参考にして言語学習計画を作成するとよいでしょう。

1. **目標を設定する。**1週間分の、また毎日の目標を設定すると、伝道地の言語の習得に役立ちます。例えばレッスンを教える、求道者を見つける、ワード評議会に出席するなど、すでに予定されている活動の中で、より良く意思の疎通を図り、教えるために目標を設定します。目標に対する進歩の度合いを検討します。予定されている活動の中で、もっと明確で力強い意思の疎通が図れるようにするには、どうしたらよいか考えてください。

2. **活用するツールを選ぶ。**以下の言語学習ツールを検討して、目標を達成するためにどれを使うかを決めます。

- 伝道地の言語の標準聖典
- 伝道地の言語のレッスン
- ポケットサイズの辞書
- 小型の文法書
- 宣教師訓練センターの言語資料
- 単語カード
- 小型のノート
- 伝道地の言語に翻訳された、教会のその他の資料



3. **語彙と慣用句を暗記する。**目標を達成するために役立つ語句を選び出します。以下のアイデアを言語学習計画に取り入れるとよいでしょう。
 - レッスン、パンフレット、聖典、教会のその他の出版物から、教える際に使える語句を選び出す。
 - 知らない語句をノートに記録する。小型の辞書を携帯して、それらの語句を調べる。
 - 単語カードを携帯して、一日中勉強する。表に語句を、裏に定義を書く。暗記したカードは別にまとめておき、残りのカードを勉強して、すべて暗記するまで続ける。
 - 個人学習の時間やレッスンを教えるとき、また一日中、新しい語句を使う。
 - 新しい語句を声に出して発音の練習をする。
 - 大切な聖句を伝道地の言語で暗記する。
 - レッスンやパンフレットから福音の主要な原則を伝えている簡単な文章を暗記する。同じことを伝える別の表現を見つける。

4. **文法を学ぶ。**言語ツールを使って、目標達成に役立つ文法の原則を見つけます。必要に応じて、同僚や経験豊かな宣教師、あるいは会員に助けを求めます。以下のアイデアを取り入れることを検討してください。
 - 宣教師訓練センターで使用した文法書、あるいは伝道部会長の承認を得た参考書を使って、レッスンやパンフレット、聖典で用いられている文法と文章の形式を理解する。
 - すでに予定されている活動の中で使うために、今学んでいる文法の原則を応用した文章を作る。その文章を話し、筆記する練習をする。
 - 語順や品詞など、文の中で語句を正しく使っているかどうかに注意する。
 - その日に勉強した文法を練習し、応用する機会を見つける。

5. **意欲的に耳を傾ける。**以下のアイデアを取り入れることを検討してください。
 - 伝道地の言語を母語とする人々の話に注意して耳を傾ける。聞いたことをまねて言う。
 - 理解できない言葉を聞いたら、書き留めておいて、その意味を調べる。単語や文章パターンを使う練習をする。
 - 話を聞いているときに、最近学んだ単語やパターンを見つけるようにする。
 - 自分の表現方法と違う言い方を耳にしたら、書き留めておいて、練習する。けれども、主の僕として常に適切な言葉を使う。俗語は使わない。
 - すでに予定されている活動の中で、人々が話すと思われる語句を書き出しておく。関連する語句を辞書で探す。その語句を使った受け答えを計画し、練習する。

6. **読み書きの能力を向上させる。**伝道地の言語でモルモン書を読んで、語句を学び、文法、発音、なめらかに話す技術を身に付けます。言語の学習に聖文を使うのには大きな力があります。以下のアイデアも検討してください。
 - 伝道地の言語の文字、筆記体、漢字などの読み書きを学習する。漢字を基本とする言語については、聖典を読む力など、教える際に役立つ技術の習得に力を注ぐ。
 - モルモン書、その他の聖典、教会機関誌を伝道地の言語で声に出して読む。なじみのない語句、文法に注意を払う。単語を理解できない場合は、辞書を引く前に文脈から理解するようにする。その語を単語カードに記入する。必要に応じて、母語の聖典と伝道地の言語の聖典を併用する。
 - あなたが読むときに、発音、抑揚、間の取り方についてだれかに指導してもらう。
 - 伝道地の言語で書く練習をする。例えば、個人的なメモ、覚え書き、手紙、感謝状、励ましの言葉を書いたメモなど。配付するモルモン書にあなたの証^{あかし}を書く。

7. ほかに人々に助けを求める。以下のアイデアを検討してください。

- 同僚が伝道地の言語を母語とする人であれば、そのすばらしい機会を最大限に生かして、しばしば質問し、フィードバックを求める。
- 同僚や、伝道地の言語を母語とする人に、あなたの言葉を訂正し進歩に役立つ提案をしてもらう。彼らがあなたの理解できない言葉を使ったら、意味を説明してもらいましょう。子供や年配者は、しばしば喜んで助けてくれます。
- あなたが教えている人々に助けてもらう。次のように説明します。「わたしは今あなたの国の言葉を勉強しています。どうか助けてください。単語が思い出せないときは助けてください。」
- ためらわずに具体的な助けを求める。「_____はどう言ったらいいのですか。」「_____はどう発音するのですか。」「_____はどういう意味ですか。」「もう一度言ってくださいませんか。」教えてもらったことを書き留めて、勉強する。
- あなたが作った単語カードや単語リストを使って、会員にクイズを出してもらう。また、あなたが声を出して聖典を読むときに、助けてもらう。



8. 学習計画を評価し、修正する。学習計画によって成果が上がっているかどうかを毎週検討してください。改善の必要な分野について同僚や伝道部の指導者に提案を求めます。

あらゆる機会をとらえて伝道地の言語を使ってください。一日を通して、同僚との会話ができるだけ伝道地の言語で行います。祈りにふさわしい言葉を学び、心にある思いを伝道地の言葉で祈れるようになるため、個人で祈るときにも、人と一緒に祈るときにも伝道地の言葉で祈ってください。

間違いを恐れてはなりません。新しい言語を学ぶ人はだれでも間違えます。人々は理解してくれますし、自分たちの言語を学ぼうと努力しているあなたを評価してくれます。決まった言い方や聖句を暗記することによって間違いを防ぐことができます。けれども、間違いを防ごうとするあまり、暗記した言葉や事前に用意したせりふを長々と話すことのないようにしてください。

活動—個人学習

上記の指針を使って、学習計画を作成します。同僚か伝道部の指導者と計画の内容を検討してください。

同僚とともに学ぶ

同僚ができるだけ早く言語を習得して、成功を味わい、自信が持てるように助けます。同僚やほかの宣教師の進歩を、心から、しばしば褒めてください。自信を失わせるようなことを言ったり、行ったりしないように注意してください。けれども、進歩できなくなるほど、かばいすぎてはなりません。必要なときにはためらわずに助けます。同僚が上手に教えたり、証したりできるような機会をたくさん与えます。同僚とともに学ぶことについて以下のアイデアを検討してください。

- 学んだ文法と単語を互いに教え合う。
- 伝道地の言語で教える練習をする。新任の宣教師は最初、非常に簡単なことを教え、短い^{あかし}証を述べ、暗記した聖句を暗唱するだけかもしれません。けれども自信と能力が高まってくると、求道者に教える際に受け持つ部分が多くなります。
- 宣教師がよく遭遇する場面で、意思の疎通を図る練習をする。
- 互いに、親切で、簡潔で、実際的なフィードバックをする。感情を害することなく相手の指摘を受け入れることも大切です。

経験豊かな宣教師が同僚をどのように助けたかに注目しながら、以下の実話を読んでください。

2番目の任地となる区域に到着して間もなく、招かれている夕食の席でわたしが霊的な話をするようになっていると同僚から告げられました。とても戸惑いを覚えました。前の区域では、ほとんど同僚が教えていました。わたしはレッスンのごく一部を教えるだけで、あとは同僚が内容を深めたり、質問に答えたりするのをじっと聞いているだけでした。

わたしは同僚に、彼自身が霊的な話をした方がいいことを納得させようとしようとしたのですが、同僚はわたしに責任を受け入れるよう勧めました。わたしは同僚の助けを借りて練習しました。

そして、その時がやって来ました。わたしは聖典を開いて、第3ニーファイ第5章と第7章から聖句を読みました。苦心しながら、なぜわたしは自分が選んだ聖句が大切だと感じているかを説明しました。そして話を終えて、やっと開放されたつもりでいました。すると質問されました。同僚を見て、彼が答えるだろうと思っていましたが、彼は口を開きません。わたしはフランス語で答えました。驚いたことに、わたしのフランス語は相手に理解されていたのです。もっと驚いたことに、その会員はわたしが言語に自信がないことに気づいていないようなのです。自分で考えていたよりもわたしのフランス語は理解できるのだと知って、自信を持ちました。

それから数週間が過ぎました。同僚はずっとわたしに教えさせてくれました。——たとえわたしが自分にはできないと思っているときでも、そして、わたしにはできないかもしれないと、同僚もきっと思っているに違いないようなときでさえもです。話し、耳を傾け、教えるように同僚から励まされたおかげで、わたしの言語力は急速に進歩し始めました。そして、自分はほかの長老のおとなしい同僚ではなく、天の御父に使われる者となったのだと実感しました。

活動—個人学習または同僚との勉強会

- もしあなたの同僚が新任の宣教師だとしたら、同僚が言語を学ぶのをどのような方法で助けることができるでしょうか。
- もしあなたが召されたばかりの宣教師だとしたら、先輩の同僚にどのような助けを求めらるでしょうか。

文化と言語学習

文化と言語には密接な関係があります。文化を理解していれば、言語をなぜそのように用いるかについての理由が分かります。回復のメッセージが特別である理由を明確に伝えることができるように、相手の文化を理解するように努力してください。

人々の信頼と愛を勝ち取るための優れた方法の一つは、相手の文化を適度に身に付けることです。多くの偉大な宣教師はそのようにしてきました（1コリント9：20-23参照）。あなたとあなたの言葉を人々に心地よく感じてもらえるように努力してください。

活動—個人学習または同僚との勉強会

- あなたはアジアで伝道しているとします。復活について教える準備をしていますが、仏教徒は輪廻りんねを信じていることが分かっています。この教義が輪廻思想とはまったく別のものであることを求道者に理解させるには、どのような方法で復活を教えたらよいでしょうか。そのためには、どのような語句を習得する必要があるでしょうか。
- あなたが教える人々の文化と宗教の背景について考えてください。その背景の中から、福音の教義を誤解する原因になりやすいものを一つ選んでください。それを踏まえて、教義を明確に教える方法を計画してください。

異言たまものの賜物

異言たまものの賜物や異言の解釈の賜物などの、御霊みたまの賜物を求めてください。伝道地の人々の言語を話し、理解するために、これ以上に助けになるものはありません。この賜物は努力しなければ受けることができません。積極的に求める必要があります。異言の賜物を求めるためには、言語を習得するために努力し、苦しみ、自分にできるすべてを行わなければなりません。あなたが正しく生活し、最善を尽くすときに、御霊が助けてくださることを信じてください。ほんとうの意味で、また、最も広い意味において、あなたに異言の賜物が与えられるということに信仰を持ってください。

望んでいるほどはっきりと思いを表現できなと感じるときには、御霊みたまは神のすべての子供たちの心に語ることがおできになるということを思い出してください。トーマス・S・モンソン管長はこのように教えました。「すべての宣教師に共通した言語があります。それは御霊の言葉です。それは学者が記した手引きから学べるものではありませんし、読んだり暗記したりすることから得られるものでもありません。御霊の言葉は、神を知ってその戒めに従いたいと心の底から願い求める人に与えられます。この言語に精通した人は様々な障害を打ち破り、問題を克服して、人の心に触れられるようになります。」（「霊は人を生かす」『聖徒の道』1997年6月号、3-4）

記憶にとどめましょう

- 教える教義とレッスンをまず母語で研究する。
- 教える教義とそれに対するあなたの気持ちを伝道地の言語で表現できるよう学ぶ。
- 言語学習計画を作成して、伝道地の言語に磨きをかけるために定期的に新しいアイデアを試す。
- 伝道地の人々を理解し、意思疎通ができるように御霊みたまの導きを求める。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 本章で提案されている事項を復習します。まだ試したことのない提案を一つ選んで、今後数日間それに取り組む目標を立ててください。
- 次回のディストリクト・ミーティングで、言語能力の高い経験豊かな宣教師に、どのような方法で学習してきたか尋ねてください。
- リチャード・G・スコット長老が語った以下の話を読んで話し合ってください。「国家の伝統や習慣が神の教えに反するときには、どうぞ、そのような伝統や習慣を捨ててください。伝統や習慣が神の教えと一致しているなら、どうぞ、それを大切にしてください。」（「幸福に至る障壁を取り除く」『聖徒の道』1998年7月号, 95）奉仕している地域の文化とあなたの文化がどのように異なっているかについて考えましょう。違いを一覧表にしてください。次に福音の教えと相いれない文化に線を引いて消します。残っている文化について深く考え、それらをどうすれば自分の文化にすることができるかを考えます。
- 伝道地の言語で以下の中から一つを選んで、実行する計画を作成してください。
 - ジョセフ・スミスの物語を話す。
 - 3ニーファイ11章を要約する。
 - アルマ32章を要約する。
 - ニーファイと真鍮版しんちゆうばんの物語を話す（1ニーファイ3章-5章参照）。
 - 神権時代について説明する。
 - 個人的な経験を一つ分かち合う。
- 一つのレッスンの中から、あなたの知らない語句を書いた単語カードを作り、すべてを覚えるまで持ち歩いてください。

同僚との勉強会

- 伝道地の言語で互いにレッスンを教える練習をしてください。
- 同僚にあなたのアクセントを聞いてもらい、改善できるよう助けてもらいます。
- 教える際に使いたいと思う聖典の物語か聖句を選んでください。自分の言葉でまとめる練習をします。
- 本章に記されているアイデアを復習してください。次週の同僚との勉強会でどの提案を行うかを話し合います。
- もしあなたが新任の宣教師を訓練していれば、同僚の言葉が理解できないときにメモしておきます。同僚の助けになりそうなふさわしい単語、表現方法、文法のリストを作成します。リストに挙げられた事柄を、レッスンや訪問など、近々予定されている活動で実際に使う方法を説明し、練習します。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 伝道地の言語を母語とする人を何人か集会に招いてください。小グループに分かれ、宣教師に教えさせます。招いた人にメモを取り、宣教師の言葉について評価してもらいます。
- 前もって、一人か二人の宣教師に言語の学習で成功した方法について話す割り当てを与えておき、幾つかのアイデアを紹介してもらいます。

メモ

- 宣教師にとって普通難しく感じられる言葉について、経験豊かな宣教師に簡単なプレゼンテーションを行ってもらいます。正しい使い方の例を紹介して、宣教師たちに練習させます。
- 伝道地出身の宣教師に有益な地元の文化情報を紹介してもらいます。

伝道部会長

- 宣教師が学んでいる言語を使って定期的に面接を行ってください。
- 宣教師が言語を向上させる方法について地元の神権指導者の意見を求めてください。
- 伝道地の言語を学んでいる宣教師が最も犯しやすい共通の誤りを見つけてください。ゾーン大会でこれらの誤りを直すことについて指示を与えてください。
- 霊的な賜物たまものの教義について宣教師に教えてください。
- 宣教師が伝道地の言語で教えているところを観察してください。
- 宣教師とともに伝道地の言語を使う機会を探してください。



時間を賢明に使うには どうしたらよいでしょうか

メモ

深く考えましょう

- 目標を設定することは、より優れた宣教師となるためにどう役立つでしょうか。
- 何に焦点を当てて目標を立てるべきでしょうか。
- 計画に役立つツールや資料にはどのようなものがありますか。それらはどのように利用するのでしょうか。
- 『区域伝道記録（エリアブック）』はなぜ大切なのでしょうか。
- 毎日および毎週開く計画会は、どのように進めたらよいでしょうか。
- 目標と計画が主の業を前進させるうえで役立っているかどうかを知るにはどうすればよいでしょうか。

あなたは指定された区域で主の業を行うよう割り当てられています。主はあなたが愛と大いなる関心をもってその区域を見守るよう望んでおられます。あなたの目的は、バプテスマと確認の儀式を通して人々が主のもとに行くよう助けることです。

赴任したときよりも良い状態にしてその区域を離れられるよう全力を尽くしてください。主が求めておられることを成し遂げるには、有意義な目標を設定し、入念な計画を立てる必要があります。担当する区域の人々に関心を寄せることで、主と伝道部の指導者に対する責任を果たすことができるのです。

宣教師の召しの手紙にはこう記されています。「あなたは個人的な事柄をすべて後にして、主に仕えるために全時間を注ぎ、注意を傾けるよう期待されています。このようにするなら主の祝福があり、あなたは真理の力ある提唱者となり、使いとなることでしょう。あなたを信頼しています。また、この神聖な務めを果たすときに主の助けがあるよう祈っています。」本章では、目標を設定し、計画を立てることが、多くの人が回復された福音を受け入れるうえでどう役立つかを説明します。

活動—個人学習または同僚との勉強会

モルモン書ヤコブ5：11–13, 61–64, 74–75を読んで、以下の質問に答えてください。

- 主は御自身の子供たちのことをどう思っておられるでしょうか。
- 主は僕たちにどのような働きを求めておられるでしょうか。

人々を改宗に導くためのおもな指標（キーインディケーター）

あなたは恐らく、多くの義務の中でいちばん大切なのは何だろうかと考えたことがあるでしょう。この疑問に答えるには、自分の目的を理解して、効率良く時間を使うことが目的を果たすうえでどう役立つかを知らなければなりません。

あなたの目的は、キリストのもとへ来るよう人々を招くことです。そのために人々はイエス・キリストと主の贖い^{あがな}を信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}を受けること、そして最後まで堪え忍ぶことによって回復された福音を受け入れる必要があります。教会指導者はおもな指標を設け、あなたがこの目的に焦点を当てられるよう助けています。これらの指標に集中するなら、あなたは人々がバプテスマと確認を受け、活発な会員として生活し、真の改宗に向かって歩めるよう助けることができます。

おもな指標（キーインディケーター）の記録と報告

- バプテスマと確認を受けた求道者
- バプテスマの日を設定した求道者
- 聖餐会^{せいさん}に出席した求道者
- 会員同席のもとで求道者に教えたレッスン
- その他のレッスン
- 進歩している求道者
- リフェローを受けた数、コンタクトした数
- 新しい求道者
- 最近の改宗者およびあまり活発でない会員に教えたレッスン

これらの指標は、人が真の改宗をするために必要な経験や状態を示しています。以下は各指標の説明です。

バプテスマと確認を受けた求道者——バプテスマと確認の儀式を受けた各求道者

バプテスマの日を設定した求道者——具体的に日付を決めてバプテスマと確認を受けることに同意した各求道者

聖餐会^{せいさん}に出席した求道者——聖餐会に出席した各求道者

会員同席のもとで求道者に教えたレッスン——会員同席のもとで求道者に教えたレッスンの数。レッスンとは通常、本書第3章のレッスンから一つまたは複数の福音の原則を教え、開会と閉会の祈りと決意の勧めを行った場合を指します。レッスンとして記録するために、すべての原則を教える必要はありません。レッスンの効果は、求道者が救い主への信仰を培い、罪を悔い改め、バプテスマと確認を受けるために熱心に準備しているかどうかによって判断します。

その他のレッスン——会員の同席なしに求道者に教えたレッスンの数。

進歩している求道者——2回以上教えた求道者で、祈り、モルモン書を読み、教会に出席し、バプテスマと確認に備えるなどの決意を守っている人の数。福音を続けて学ぶ意思があっても、戒めを守るのが難しい求道者は、ここで定義する進歩している求道者ではありません。このような人々は、新しい求道者またはその他の求道者に分類されます。

リフェローを受けた数、コンタクトした数——コンタクトしたリフェロー、またはレッスンを教えるか、再訪問する約束を取り付けたリフェローの数。コンタクトした人は、新しい求道者また

は再訪問する人のリストに入れるか、リフェローのリストから除外します。何度も接触を図ったにもかかわらず本人と連絡が取れない場合、または住所が間違っていることが分かった場合でも、コンタクトを取ったとみなします。これらのリフェローは接触できなかった理由を書いて伝道本部へ返送します。

リフェローを受けた数とは、まだコンタクトしていないすべてのリフェローを指します（会員、求道者、教会本部、その他からのリフェロー）。報告では、まだコンタクトしていないリフェローの数は翌週に繰り越します。新しく受けたリフェローはこの数字に足していき、コンタクトをしたらこの数字から引いていきます。ただし、「コンタクトした数」は報告の対象となっている週の内コンタクトした数であることを忘れないでください。

新しい求道者——レッスンを受けて、再訪問を承諾した人の数。

最近の改宗者およびあまり活発でない会員に教えたレッスン——会員として1年未満の改宗者とあまり活発でない会員に教えたレッスンの数。

目標を設定し、計画を立てる際、自分たちの活動を評価して、おもな指標（キーインディケーター）の各項目の数をどのように増やせるかを考えてください。おもな指標のすべての項目の数を増やすことを目標としなければなりません。

おもな指標（キーインディケーター）に挙げられている項目以外にも、あなたは街頭伝道や個人学習、同僚との勉強会など多くのことを実行します。これらは幾つかのおもな指標の助けとなる大切な活動です。例えば、自分自身で見つけた人を教えるなら、教える人々のグループに新しい求道者を加えることになります。また、個人学習と同僚との勉強会の内容を向上させることによって、御霊によって教える能力が高められます。それは新しい求道者や進歩している求道者に祝福をもたらします。見つけたり、教えたりする能力は、おもな指標のすべての項目に影響を与えます。これらの項目の数を考慮しながら、自分たちのすべての働きを評価してください。行おうとしている伝道活動が、おもな指標の項目に影響を与えないようであれば、その活動を実施すべきかどうか考える必要があります。

活動——同僚との勉強会

過去3日間に行ったすべての伝道活動を学習帳に書き出してください。それぞれの活動が、おもな指標（キーインディケーター）に影響を及ぼしているかどうか考えます。もし影響を与えていれば、横に「はい」と記入します。影響を与えていなければ、「いいえ」と記入します。「はい」と記した活動について、それぞれどのような影響を与えたかを説明します。「いいえ」と記した活動について、どのような理由からそれを実施したかを考えて、今後もその活動を続けるかどうかを決めます。作成したリストについて同僚と話し合い、それぞれ「はい」または「いいえ」と記入した理由を説明してください。中止すべき活動があれば、それについて話し合ってください。

『区域伝道記録（エリアブック）』と計画および報告ツール

モロナイはバプテスマと確認によって教会に加わった当時の人々について次のように教えました。「その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため……である。」（モロナイ6：4）

あなたには教える人々の大切な情報を記録するためのツールが与えられています。また次ページの図のように、これらのツールによって、必要とする人々に十分な情報を伝えることができます。

メモ

情報のピラミッド	ツール:
伝道部長	『宣教師週間報告書 (ウィークリーレポート)』
伝道部の指導者	『電話による概要報告書 (コールイン・サマリーレポート)』
ワード評議会	『進捗状況報告書 (プログレスレコード)』
宣教師	『宣教師デイリープランナー』 『区域伝道記録 (エリアブック)』

伝道活動に必要とされるこれらのツールとすべての情報は、『区域伝道記録 (エリアブック)』と『宣教師デイリープランナー』に収められています。『区域伝道記録』の構成は以下のとおりです。

- 区域地図 (エリアマップ)
 - － 区域の地図, 境界線が記されている
- 『進捗状況報告書 (プログレスレコード)』
 - － 進捗状況記録用紙
- バプテスマと確認の日を設定した求道者
 - － 教授記録用紙
- 進歩している求道者
 - － 教授記録用紙
- 新しい求道者, その他の求道者
 - － 教授記録用紙
- 『見込み求道者 (ポテンシャル・インベスティゲーター)』
 - － 見込み求道者記録用紙
 - － メディア, その他からのリフェローの記録
- 以前求道者だった人
 - － 教授記録用紙
- 最近の改宗者およびあまり活発でない会員
 - － 教授記録用紙
 - － 改宗者対応リスト
- ワードおよび伝道部の情報
 - － ワード住所録
 - － ワード責任者一覧表
 - － ワードの集会と宣教師の集会の予定
 - － パートメンバーの家族の一覧表
 - － ディストリクトまたはゾーン内の宣教師住所録
- 指導者
 - － 『電話による概要報告書 (コールイン・サマリーレポート)』
- 区域に関する情報
 - － アパートの情報
 - － 公共の交通機関
 - － 床屋/美容院
 - － クリーニング店
 - － 買い物ができる場所
 - － 避けるべき場所
 - － コンタクトすべき人々

『区域伝道記録 (エリアブック)』

すべての伝道区域には『区域伝道記録 (エリアブック)』があります。これは宣教師の毎日の働きを記録し、保存しておくものです。重要な情報を毎日更新して、この情報を参照しながら毎週の計画会で日程を調整します。次に赴任する宣教師があなたの実施してきた霊感あふれる働きを基盤とできるように、丁寧かつ正確に記録し、常に最新の状態を保ってください。求められた場合には、面接やゾーン大会に『区域伝道記録』を持参してください。伝道部の指導者は『区域伝道記録』を検討して、効果的な利用方法を指導してくれます。

毎日、『区域伝道記録 (エリアブック)』のいずれかの分野に目を通して、計画を更新し、調整します。伝道部の指導者が検討できるように、要請がある場合は『区域伝道記録』を面接やゾーン大会に持参してください。転任するときはこの資料をアパートに残し、後任の宣教師が情報を活用できるようにします。

目標の設定方法

目標は、心の望みと達成可能なビジョンを反映するものです。心の望みは目標と計画を通して行動へと変わります。目標設定と計画は信仰に基づくものです。祈りをもって、「すべての国民〔に教え〕、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい〕」とおっしゃった救い主の戒めと調和した目標を設定してください（マタイ28：19）。

おもな指標（キーインディケーター）の各項目に対する目標を設定します。個人の成長に対する目標を設定してもよいでしょう。人々の選択の自由を尊重しながら、目標を達成するために全力を尽くしてください。最終的に成功したかどうかは目標を達成することだけでなく、あなたがどのような奉仕を行い、人々がどのような進歩を遂げたかによっても見極めなければなりません。目標というのは天の御父の子供たちの間に多くの善いことをもたらすための手段であって、賞賛を受けるための手段であってはなりません。

慎重に検討した目標は方向性を明確にします。そして一日の大半を、求道者が救い主に対する信仰を強め、バプテスマと確認を受け、活発な教会員へと進歩するための活動に費やすことができます。やりがいのある目標は、宣教師が効果的に働き、能力を最大限に発揮し成長するうえで役立ちます。目標を設定する際は、以下の指針に従ってください。

- ^{みたま}御霊に従う。
- おもな指標（キーインディケーター）に焦点を当てる。
- 人に焦点を当てる。統計は重要だが、可能なかぎり統計と人々の名前が結びつくようにする。
- 具体的かつ現実的でありながらも、自分の能力を最大限に発揮できるような目標を立てる。
- 1週間の目標、一日の目標を立てる。
- 個人学習と同僚との勉強会の目標を立てる。もし外国語を学んでいれば、言語の習得を目標に含める。
- 日、週、6週単位で自分の進歩を測る。目標に達していなければ、努力した内容を検討してから、改めて目標を達成する方法を見つける。必要であれば、目標を修正する。

時折、伝道部会長は、あなたのビジョンを広げ、信仰を増し加えるために、評価の基準や伝道部の目標を設けることがあります。ディストリクト、ゾーン、伝道部で設けられた基準は、あなたが最大限に能力を発揮し、効果的に働き、さらにすばらしい働きをするために役立ちます。けれども、これらはあなたと同僚に一定の目標を押し付けるものではありません。

「はっきりと分かることは、
この世において
目標を設定することなく、
目標を達成するための知恵を得る
方法を学ばないとしたら、
やがて年老いて
半生を振り返るときに、
自分の持つ可能性をごく一部しか
使わなかったことに気づく
ということです。
目標設定の原則を学んでいる
ならば、この世で成し遂げる
事柄に大きな違いを生じさせる
ことができます。」

—M・ラッセル・バラード長老
ソルトレーク地域のヤングアダルトに向けた話、
1981年10月18日

活動—同僚との勉強会

おもな指標（キーインディケーター）の各項目に対する週間目標を立ててください。一つ一つの目標に対して次のように自問します。

- 統計は人々の名前と結びついているだろうか。
- 目標は具体的だろうか。
- 目標は現実的だろうか。
- この目標はわたしたちの能力を最大限に発揮させるものだろうか。
- わたしたちはこの目標に向かって努力することを決意しているだろうか。

各目標について話し合います。必要であれば、それらをどのように修正すべきか、またその理由を話します。

週間計画会

目標を設定したら、次にどのように達成するかを決めます。木曜や金曜の午前中など、伝道の成果が上がりにくい日や時間帯に週間計画会を開きます。週間計画会を開く日と時間は伝道部長が指定します。計画会には2, 3時間かかるでしょう。

話し合いでは、人々の必要と彼らの進歩成長を助ける方法に焦点を当てるべきです。週間計画会ではそれまでの目標を見直して、翌週のために新しい目標を設定します。伝道活動のあらゆる面を検討してください。

電話による1週間の概要報告は日曜の夕べに行うとよいでしょう。日曜の夕べに報告するなら、伝道の状態を最も正確に、また最適のタイミングで伝えることができます。なぜなら、バプテスマと確認はほとんどが土曜か日曜に行われるからです。

週間計画会を開く日は、報告日とは別の日に行われることが多いため、10日間を単位として考えながら週間計画会に臨んでください。例えば、週間計画会を木曜に開くのであれば、まず木曜までの目標達成状況を検討し、それから日曜までの達成計画を立てます。次に、翌週の月曜から日曜までの目標を設定し、計画を立てます。日曜の夕べに合計を集計して、1週間の結果を報告します。この時点で、翌週の計画はすでに完成していることになります。計画のための指針の要約を週間計画会に応用する方法を以下に説明します。

1. **靈感を求めて祈る。**始める前に『宣教師デイリープランナー』と『区域伝道記録（エリアブック）』を用意します。祈りによって計画会を始めてください。靈感を求めながら、人々の必要について話し合い、彼らが福音の中で成長するために奉仕し、助ける方法を計画してください。求道者のことを具体的に祈ります。祈りがこたえられ、教会に出席する望みを持つようになるなど、天の御父が求道者を祝福してくださるよう信仰をもって祈り求めてください。
2. **求道者が翌週にバプテスマと確認を受けるための目標を設定し、計画を立てる。**『教授記録（ティーチングレコード）』に目を通し、翌週にバプテスマと確認を受ける決意をしている求道者一人一人を確認します。バプテスマの面接やバプテスマ会、確認の儀式のために手配すべき事柄を話し合ってください。『教授記録』を基に、バプテスマを受ける求道者が守り切れていない決意事項について、また彼らを助ける方法について話し合います。毎日彼らと接触するよう計画します。また聖餐会^{せいさんかい}で行う確認の儀式をビショップと調整するに当たって、伝道主任をどのように支援できるか話し合います。

3. バプテスマの日を設定している求道者のために目標を設定し、計画を立てる。『教授記録（ティーチングレコード）』に目を通し、翌週以降にバプテスマを受ける人々を確認します。教える必要のあるレッスンについて話し合ってください。また彼らがバプテスマと確認に備えるに当たって、どのように支援できるか検討します。予定された日にバプテスマを受けなかった求道者についても話し合います。彼らの必要についてよく考え、検討してください。求道者が具体的な日時を目指して進歩し、バプテスマの聖約を交わして確認の儀式を受けられるよう、新たな目標を設定し、計画を立ててください。『教授記録』を見て、これから教える原則と求道者に勧める決意事項に鉛筆で印を付けます。求道者がこれらのレッスンを受け、決意を守れるよう助けるために何ができるかを考えてください。

4. 求道者が^{せいさん}聖餐会に出席できるよう目標を設定し、計画を立てる。『教授記録（ティーチングレコード）』に目を通し、各求道者の聖餐会の出席状況について話し合います。聖餐会に定期的に出席している求道者については、続けて霊的に鼓舞される経験をするためにはどのような助けが必要かを話し合います。聖餐会に出席したことのない求道者、あるいは一度出席した、または時々出席する求道者については、その原因を確認します。例えば、交通手段の助けを必要としているかもしれません。また参加することに恐れを抱いているか、末日聖徒の礼拝行事についてよく知らないためかもしれません。過去に不快な経験をしていることもあります。これらの障害を取り除くためにどのような助けができるか話し合います。次の聖餐会にどのくらいの求道者に出席してほしいか目標を設定してください。そして彼らを教会へ連れてくる人や、歓迎する人、集会の間に一緒に座る人を計画します。求道者が参加するクラスを教える定員会と扶助協会の指導者、教師と連絡を取ります。ビショップに情報を提供してください。ワード評議会が支援できる事柄を『進歩状況報告書（プログレスレコード）』に書き出してください。求道者が集会に出席できるよう、あなたが毎日すべき事柄を計画します。



5. 進歩している求道者に教えるレッスンの目標を設定し、計画を立てる。『教授記録（ティーチングレコード）』に目を通し、会員同席のもとでレッスンを受けた、進歩している求道者一人一人について検討します。彼らがメッセージをどの程度受け入れているかと思うかを話し合ってください。『教授記録』から、求道者が守ろうとしている決意事項や、達成できるよう努力している活動を確認してください。求道者が進歩を続けるうえでかわりを持ち続けることができるように、ワード会員とワード評議会をどのように支援できるか話し合います。レッスンの目標を立ててください。また求道者が決意事項を守れるように助けるための目標、特に教会の集会への出席に関する目標を立てます。また求道者が今後数週間にわたって重要な経験ができるよう目標を設定します。

『教授記録（ティーチングレコード）』に目を通し、会員の同席なしにレッスンを受けた、進歩を続けている求道者一人一人について検討します。彼らは宣教師が自ら見つけた求道者かもしれません。神権指導者と補助組織指導者の中に、レッスンに同席し、彼らと親しくなってくれる人がいるかどうか話し合います。今後教えるレッスンと求道者に勧める決意事項を検討してください。そして、今後のレッスンの目標を立て、どのように会員に参加を促すか、また求道者が^{せいさん}聖餐会に出席できるよう助ける方法について計画します。これらの目標を『教授記録』に記録し、必要な計画を立てます。

6. そのほかすべての求道者に教えるレッスンの目標を設定し、計画を立てる。『教授記録（ティーチングレコード）』から、進歩していない求道者一人一人について検討します。彼らがなぜ決意事項を守っていないのか話し合います。これらの求道者と親しくなってもらうために、どのように神権指導者や補助組織指導者の助けを得ていくか検討します。項目5で提案されている事柄をここでも話し合ってください。求道者が進歩できるよう助けるための目標と計画を立てます。これらの目標を『教授記録』に記録します。
7. 教会員、求道者、教会員ではない人、および教会本部からリフェローで寄せられた人とコンタクトし、福音を教える目標を設定し、計画を立てる。『見込み求道者（ポテンシャル・インベスティゲーター）』の用紙に目を通します。リフェローで寄せられたすべての人を確認し、まだコンタクトしていない人がいないか確かめます。1週間のうちにできるだけ多くのリフェローにコンタクトするための目標を設定し、計画を立てます。すべてのリフェローにコンタクトできるようにします。教会本部からのリフェローはできるかぎり、24時間以内にコンタクトします。個人や家族一人一人に対して、どのように接触し、どのようなメッセージを伝えるか話し合います。教会本部からのリフェローについては、その人が請求したビデオ、書籍、その他の資料を使って福音のメッセージを教える方法を検討してください。請求された資料が手もとにあることを確かめます。適切であれば、リフェローの相手に電話し、約束を作ります。どのようなフォローアップを行うべきかを話し合ってください。
8. 教会員、求道者、および教会員ではない人からさらに多くのリフェローを受けるための目標を設定し、計画を立てる。訪問できる会員や求道者を祈りによって見つけます。彼らが友人や家族に回復された福音について学ぼう勧めるに当たって、宣教師としてどのように助けたらよいか計画します。彼らを伝道活動に参加するよう勧める方法を話し合ってください。約束を作り、必要な計画を立てます。
9. 最近の改宗者とあまり活発でない会員に教えるレッスンの目標を設定し、計画を立てる。『教授記録（ティーチングレコード）』から、あなたが教えている最近の改宗者とあまり活発でない会員一人一人を検討します。今後教えるレッスンについて目標を設定し、計画を立てます。彼らが聖餐会せいさんに出席し、そのほかの決意事項を守るよう助けるための方法を決めます。
10. 新しい求道者を見つけるための目標を設定する。リフェロー、奉仕の機会、自ら見つける活動を通して新しい求道者を見つけるために、先週どのような働きをしたか検討します。また『区域伝道記録（エリアブック）』の「見込み求道者」の欄に記されている情報を参照します。福音を学び始めた人とそうでない人の違いについて話し合い、今週新しい求道者を何人見つけるか目標を立てます。求道者となりそうな人を把握し、訪問したい会員とパートメンバーの家族、訪問予定のリフェロー、奉仕の機会に関する情報を整理します。新しい求道者を見つけるために、パス・アロング・カード、ビデオテープ、DVD、聖典、パンフレットなど、どのようなツールを使うか計画します。また人々にコンタクトする場所、1日のコンタクト数、友人や家族を紹介してもらう求道者、訪問を予定している以前の求道者、ワード評議会に要請する支援などについても話し合います。翌日のために具体的な計画を立て、残ったすべての時間を教える人を見つける時間に使い、目標を達成できるようにします。主があなたに示される人と話すための目標を設定し、できるだけ多くの人と話せるように計画します。新しい求道者を見つけるための努力を常に行ってください。
11. ワード評議会と協力して働く方法を計画する。ビショップは管理役員です。ビショップの権能を敬ってください。ビショップの指示の下、前回の伝道調整集会やワード評議会集会で使った『進歩状況報告書（プログレスレコード）』を見直します。ビショップや伝道主任から受けている割り当てについて話し合い、達成状況を報告します。ワード伝道主任、神権指導者と補助組織指導者、そのほかの会員に、伝道への参加を促すにはどうしたらよいか話し合い

ます。次回のワード評議会集会、神権役員会集会、伝道調整集会のために『進歩状況報告書』を丁寧に作成します。『進歩状況報告書』は、読みやすい文字で丁寧に作成してください。ワードの指導者たちと一致して働く目標を設定し、計画を立てます。できれば、出席するワードの指導者に『進歩状況報告書』を配付します。

12. **定期的に関われる集会の予定を組む。** ディストリクト・ミーティング、ゾーン大会、面接、教会の集会など、定期的に関われる集会を『宣教師デイリープランナー』に書き込みます。当日までに果たすべき割り当てについて話し合い、それらを「メモ／すべき事柄のリスト」に書き加えてください。
13. **同僚関係の評価を行う。** 毎週の計画会の最後に個人の目標で適切なものを同僚に伝え、達成するために助けを求めてください。現在の同僚関係の長所や、同僚間に一致した働きや従順の妨げとなっている問題がないか話し合います。意見の不一致を解決してください。相手の長所を互いに伝えます。またどうすれば改善できるか意見を求めます。必要であれば二人の関係性を改善するための目標を設定します。話し合いは祈りで終わめます。

毎日の計画会

一日の終わりに計画会を開きます。レッスンがあるため、午後9時半までアパートに戻れないこともあるかもしれません。それ以外の日は、午後9時までに戻って、午後9時から9時半まで計画会を開きます。（伝道部会長は地元の状況に応じて日程を調整することができます。）毎日の計画会では、週間計画会と同じ原則と指針を適用しますが、もっと簡潔に行います。祈りをもって、個人学習、同僚との勉強会で学ぶレッスンやテーマについて話し合ってください。これらは毎日の計画に役立ちます。一日のスケジュールの空欄にこれらのテーマを書き留めておきます。一日のスケジュールを見直して、いつでも有益な活動ができるよう計画します。日曜の夜の計画会では、1週間の『電話による概要報告書（コールイン・サマリーレポート）』を集計して報告し、伝道部会長あてに週間報告の手紙を書き、翌週の目標を最終的に決めます。

翌日アパートを出る前に、目標、計画、スケジュールを見直してください。必要であれば修正します。アパートを出る前に必ず祈ります。「これからどうしようか」と同僚に尋ねずに済むようであれば、しっかりした一日の計画が立てられていると考えてよいでしょう。

報告の責任

報告責任の原則は神の永遠の計画の基本となるものです。わたしたちは皆、最後の裁きにおいて主の前に立ち、主から与えられた機会を使って何を行ったか報告します（アルマ5：15-19；教義と聖約137：9参照）。伝道の報告責任から学べることはたくさんあります。それらは生涯を通じて益となるものです。以下を実行するなら、報告責任の原則によって祝福を受けることができます。

- 目標を設定し、計画を立てる際は、自分の働きについて伝道部の指導者に報告し、また祈りによって主に報告するという意識を持つ。
- 主から寄せられている神聖な信頼に対して責任を感じる。
- 有意義な目標を設定する。
- 自分の働きを主と伝道部の指導者に率先して報告する。求められるまで待ってはいらない。指導者が頻繁にフォローアップしてくれると思っはならない。自分の働きについて報告したいという望みを持つ。

「評価することにより、
業績は向上します。
しかし、
評価し、さらに報告する
ならば、業績は
飛躍的に改善されます。」

—トーマス・S・モンソン管長
“Thou Art a Teacher Come from God”,
Improvement Era, 1970年12月号, 101

- 自分の働きに対するすべての責任を受け入れる。困難な状況や進展がないことを周りの人のせいにはしない。
- 指導者から学び、改善のための提案を求める。
- 最善の働きをしたいと望む。

報告するのは伝道を終えるときだけではありません。報告責任の原則は、主から与えられた責任にどのような気持ちで取りかかるかに、また責任に対する考え方や感じ方に影響を及ぼします。また自分の務めに対する取り組み方や、堪え忍ぶ力にも影響を与えます。あなたが伝道中の経験にどう対応するかは、天の御父と御子に対する愛、神権を尊ぶ気持ちを反映します。

個人として、また同僚と一緒に祈り、毎日何を行うべきか靈感を求めてください。主に導きを祈り求めながら計画を実行します。どこへ行き、何をを行い、何を言うべきか御霊の導きを受けられるように、一日中心の中で祈ってください。そして「もっとできることはないだろうか」と自問します。一日の終わりに、自分の働きについて祈りの中で主に報告します。

あなたは『電話による概要報告書（コールイン・サマリーレポート）』を使って、毎週伝道部の指導者に報告します。もしあなたが伝道部の指導者であれば、ほかの宣教師からこの情報を受けることとなります。単に数字を見るのではなく、宣教師の生活と彼らが教えている人々の生活に関心を示してください。あなたが受け取るこれらの報告書や情報を使って、宣教師をコントロールしようとしたり、操ろうとしたりはなりません。あなたはこれらのツール（記録や報告書）から得る情報を使って、献身的に働く宣教師たちを称賛し、将来訓練するときに何を行うべきかを理解するのです。

聖文研究

責任を負うとはどのような意味でしょうか。

教義と聖約58：26-33 教義と聖約101：78 エゼキエル33：1-6

報告責任において選択の自由が大切なのはなぜでしょうか。

2ニーファイ2：26-29 ヒラマン14：30-31

宣教師と伝道部の指導者はどのように協力すべきでしょうか。

教義と聖約38：23-25 ヘブル13：17-18

記憶にとどめましょう

- 宣教師の目的に焦点を当てながら働く。
- おもな指標（キーインディケーター）に基づいて目標を設定する。
- 目標と計画について熱心に祈る。
- 人々が信仰をはぐくみ、悔い改め、バプテスマと聖霊の賜物を受け、最後まで堪え忍ぶことができるよう、『区域伝道記録（エリアブック）』と『宣教師デイリープランナー』を活用する。
- おもな指標（キーインディケーター）の各項目に対して、あなたが能力を最大限に発揮し、信仰を働かせ、効果的に働けるよう助けてくれる目標を設定する。
- 人々が福音の中で進歩することに焦点を当てながら、週間計画会と一日の計画会を開く。
- 主と伝道部の指導者に自分の働きを報告する。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 「深く考えましょう」に挙げられている各質問の答えを学習帳に簡潔に記してください。
- 伝道最終日についてしばらく考えてください。その日を迎えるときに、
 - あなたは宣教師として何を行ってきたと言いたいですか。
 - 何を成し遂げていたいですか。
 - 自分のどのような点が変わったことに気づいてもらいたいですか。
 以上の質問の答えを学習帳に書いてください。これらの目標を達成するために、今何をする必要があるか考えてください。心に浮かんだ計画を書き留めてください。

同僚との勉強会

- 『区域伝道記録（エリアブック）』を使って以下の質問に答えてください。
 - 記録はすべて最新の情報であり、正確で、読みやすいですか。
 - 地域に初めて赴任する宣教師は、その『区域伝道記録（エリアブック）』を読んで、人々の霊的な進歩状況、彼らを助けるために今後何をすべきか把握することができますか。
 - あなたが新しい求道者を見つけるために行っていることは、新しく赴任する宣教師の役に立ちますか。
 - 『区域伝道記録（エリアブック）』を主に差し出し、地域に住む人々に対して何を行ってきたか報告している姿を思い描いてください。主はあなたの働きを喜ばれるでしょうか。
- 新しく求道者となった人について話し合ってください。『宣教師デイリープランナー』から「バプテスマと確認を受け、活発な会員として教会に定着するうえで助けとなる事柄」のページを開きます。項目の一つを選んで、それを実現させるためにあなたが実行すべき事柄をすべて書き出してください。次に、できるだけ早く実現させるために、それぞれの働きをどのように計画したらよいか話し合います。
- 以下のたとえについて同僚と話し合ってください。あなたは毎日どれほど長く釣り糸を水中に垂らしているでしょうか。

「一日中魚をとろうとしているつもりが、実はほとんどの時間を漁場までの往復、昼食、自分の道具に不平を並べ立てることに費やしている釣り人がいます。わたしたちはそのような人であってはなりません。魚を釣るために大切なのは、釣り糸がどれほど長い間水中に垂れているかであって、どれほど長くアパートから出ているかではありません。ある釣り人は12時間家を空けて、そのうち釣り糸を水中に垂らしているのは10時間です。別の釣り人も12時間家を空けていましたが、釣り糸を水中に垂らすのは、わずか2時間です。後者のタイプの人たちは、なぜほかの人のように釣れないのだろうかと思っているかもしれません。

この原則を、主から『人間をとる漁師』と呼ばれている宣教師に当てはめることができます。宣教師の釣り糸はアパートを出た瞬間には漁場の水中に投げ入れられていなければなりません。」(ダリン・H・オークス, 新任伝道部会長セミナー, 2000年6月20日)

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 以下の状況から一つを選んで読み上げます。宣教師は小さなグループに分かれて、これから読み上げる人をバプテスマと確認の聖約に向かって成長させる目標と計画について話し合います。各グループからアイデアを発表してもらいます。

状況1—あなたは食料配給所で働くラリーとベスに会いました。最初のレッスンを教えたとき、彼らは詳しく知りたいと言いました。二人には教会員の知り合いがいません。ベスはクリスチャンですが、ラリーは特に宗教を持っていません。二人は結婚していません。ラリーは午後4時から深夜12時まで働き、ベスは昼間働いています。

状況2—スティーブはすべてのレッスンを受け、月に少なくとも2回は教会の集会に出席しています。彼はジョセフ・スミスが預言者であり、モルモン書が真実であることを信じています。家族は熱心なカトリック教徒で、スティーブがモルモンの宣教師と会うことを認めていません。

状況3—ジルは大学生で、教会員の友人がいます。ジルはその友人からあなたと会うように勧められました。あなたはこれまで2回レッスンを教えました。会員である友人は2回とも出席してくれました。ジルはまだ教会に来たことがなく、また大学の勉強で非常に忙しいため、モルモン書を読む時間が取れません。

- 目標を設定し、計画を立てることによって、求道者が以下のいずれかの状態になったときの経験を話すよう宣教師に頼んでください。

- 救い主に対する信仰を強める。
- 悔い改めて自分を変えることによって、神に近づく。
- バプテスマと確認の聖約を受ける。
- 教会に戻って、バプテスマの聖約を新たにします。

- 宣教師を3つのグループに分け、各グループには大切な任務があることを説明します。以下の任務を各グループに与えます。

- 新しい伝道地を開く。
- モルモン書を求道者に紹介する方法についてゾーン大会で訓練を行う。
- 求道者の家族がワードに溶け込めるようにする。家族には、8歳と12歳の女の子、16歳の男の子の3人の子供がいる。

計画時間は8分間あることを伝え、一人の宣教師が毎日の活動を組み込んだ計画を書きます。

各グループに計画を発表させます。全グループの発表が終わったら、次のように質問します。

- 宣教師はそれぞれの状況について何を知る必要があったのでしょうか。
- 有意義な活動を計画していないと、どのような結果を招くのでしょうか。計画をまったく立てなかったとしたらどうでしょうか。

すべての活動が終わったら、次のように質問します。

- 計画と目標設定は、どのような意味で愛と信仰に基づく行為なのでしょうか。

伝道部会長

- 宣教師に『区域伝道記録（エリアブック）』をゾーン大会か面接に持参するよう求めてください。自分自身で『区域伝道記録』を検討するだけでなく、伝道部の指導者やあなたの妻が『区域伝道記録』を検討することも考えてください。
- 時折、宣教師の週間計画会や一日の計画会の様子を見てください。
- 時折、宣教師のアパートで面接を行ってください。そのときに、あなたの妻か伝道部会長補佐が『区域伝道記録（エリアブック）』と『宣教師デイリープランナー』に目を通すようにします。
- 『宣教師デイリープランナー』にしばしば目を通してください。
- 時折、ワード評議会集会に出席してください。



教える人々を見つけるには どうしたらよいでしょうか

深く考えましょう

- 「あなたがたを受け入れる人々を見いだ〔す〕」とはどのような意味でしょうか（教義と聖約42：8）。
- 教える人々を見つけるための信仰を強めるにはどうすればよいでしょうか。
- 教える人々を見つける活動になぜ会員たちを参加させる必要があるのでしょうか。
- メディアと教会本部からのリフェローはどのような役割を果たしているのでしょうか。
- 見つけることと教えることの間にはどのような関連があるのでしょうか。
- 教える人々を見つけるうえで、奉仕活動はどのような役割を果たすのでしょうか。
- 教える人々を見つける方法の中で、まだ試したことがない方法にはどのようなものがあるのでしょうか。

見つける信仰をはぐくむ

本章の教義と原則を学ぶことにより、あなたと回復された福音とを受け入れるように主が人々を備えておられる、という信仰が強められるでしょう。主はあなたを彼らのもとへ導いてくださるか、彼らをあなたのもとへ導いてくださいます。教える人々を見つける活動は世界各地でそれぞれの方法で行われています。宣教師と伝道部会長は周囲の状況に順応することが必要です。違いがあるのは事実ですが、見つけるための原則は世界共通です。

神の家族。地上のすべての人は前世で神の家族の一員でした（使徒17：26－29；ヘブル12：9参照）。わたしたちはこの世で神の家族に属しており、来世で神の家族の一員としてさらに大いなる祝福にあずかることができます。わたしたちは皆神の家族にあって兄弟姉妹です。この知識により、自分が何者で、何に属しているのかについて、実感することができます。また、神の前での永遠の命を望むことができるのはなぜか、その理由も分かります。わたしたちがこの基本的な真理を理解しているのは福音が回復されたおかげです。回復された真理を兄弟姉妹に教えるのはあなたの責任であり、祝福です。背教したゾーラム人を助けることを願い求めたアルマのように、あなたも次のように祈ることができます。「おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を取められるようにしてください。まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々で〔す。〕……ですから、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」（アルマ31：34－35）

メモ

「あなたがたを受け入れる人々を見いだ〔す。〕」あなたは「あなたがたを受け入れる人々」を見いだすことによって教会を築かなければなりません（教義と聖約42：8）。このような人々はあなたが主の僕であることに気づくことでしょう。彼らは進んであなたのメッセージにこたえます。多くの人々は「〔ただ〕見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる」のです（教義と聖約123：12）。

普通、あなたはだれがそのような人々なのかを知りませんし、彼らもあなたが主の僕であることにすぐには気づかないかもしれません。人生における大きな平安、指針、目的が、ほかの何よりも回復された福音から得られることを彼らはまだ理解していないかもしれません。回復された福音を実際に見いだすまで、それを探し求めているという意識すら持っていないことがしばしばあります。例を挙げると、ある改宗者はこう言っています。「福音について聞いたとき、心に開いていた穴がふさがりました。けれども、心に穴が開いていたことをそれまで知りませんでした。」別の改宗者はこう言っています。「探し求めているものを見つけて初めて、自分がそのようなものを探し求めていたことに気づきました。」

どこで奉仕するよう割り当てられたかにかかわらず、主の次の言葉を忘れてはなりません。「主なるわたしは、あなたがたがこの場所に来るのを許した。わたしは人々の救いのためにこれを必要としたからである。」主の次の言葉を果たすため効果的に働いてください。「この民に向かって声を上げなさい。〔主が〕あなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。」そうするならば、あなたは次の約束を受けることでしょう。「あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。」そして「あなたがたの言うべきことは、……まことにその瞬間にあなたがたに授けられる……。」（教義と聖約100：4-6）御霊によって見つけることは御霊によって教えることと同じように大切です。見つけるための努力は、教えるときの努力と同じように、御霊によって導かれるときに大きな成果を生じます。あなたを受け入れる人々を見つめるために、何を教え、何をすべきかが示されるという信仰を持ってください。

活動—同僚との勉強会

あなたが訪問する教会員の多くは改宗者かもしれません。どのようにして教会と出会い、どのようにして宣教師が真理を教えていることを知るようになったかを尋ねるための時間を計画してください。彼らの経験を要約して、学習帳に書き留めておきます。

聖文研究

神の子らはどのような方法で回復された福音に備えられ、導かれるのでしょうか。

アルマ13：24

教義と聖約29：7

教義と聖約84：45-47, 88

アルマ16：16-17

教義と聖約33：6

教義と聖約136：32-33

あらゆる人と話す

預言者ジョセフ・スミスが宣教師の一行とともにミズーリ川を旅していたとき、主はこのように教えられました。「川の兩岸に住む者たちが不信仰で滅びつつあるときに、わたしの長老たち……が……速く進んで行くことは必要ではない。」（教義と聖約61：3）予定している活動に向かって速く移動している間、「不信仰で滅びつつある」かもしれない人々に仕え、教えるための予期せぬ機会に気づくことができるよう祈ってください。霊的な感覚を研ぎ澄ませて、機会を捕らえることができるように祈るのです。そうするならば、神が、あなたが移動する途中で、回復された福音を受け入れる備えのできた神の子供たちに出会えるようにして下さることに、あなたは気づくことでしょう。



伝道活動というものは、教える人を見つけるまでは何も起こりません。毎日できるだけ多くの人々に話しかけてください。人々に話しかけることに多少の不安を感じることは自然です。けれども回復された福音を宣言するため、もっと大胆にあなたの口を開く信仰と力を祈り求めることができます。出会うすべての人に話しかけるために、以下のアイデアを実行してみてください。

- その人の家族について話します。回復された福音が彼らの家族をどのように祝福するかを理解できるように助けてください。
- どのように話しかけたらよいかを知るためにきっかけを見つけます。(家や庭にあるもの、衣服に印刷された文字、子供用品など)
- 人々があなたに話していることに誠実に耳を傾けます。
- 温かく、親しみやすく、快活な表情を示します。手伝いを申し出てください。
- 教えるべきことは御霊が心と思いに告げてくれるので、それを信頼してください。
- 回復された福音について学ぶようあらゆる人に勧めます。
- パス・アロング・カードを渡します。
- あなたのメッセージに関心がありそうな知人の名前を尋ねます。

以下の実話を読んで、この男性がどれほど宣教師を受け入れる備えができていたか、また、突然訪れた福音を教える機会を宣教師がどのように活用したかを見つけてください。

わたしは子供のころから、聖書を読むように教えられたことは一度もありませんでした。日曜日には教会へ行っていました。教会に貢献したこともないし、逆に教会から心の糧を得たこともありませんでした。わたしは自分の宗教に幻滅していました。……わたしは……神を探していました。——神が存在しているのかどうか知りたかったのです。神を知りたいとしまりに願い、神の言葉に飢え渴いでいました。けれども見いだせそうにありませんでした。

渴きが癒されそうな気持ちを覚えた瞬間がありました。初めて生まれたわが娘を、初めて腕に抱いたとき、神はほんとうにいらっしやると感じました。何年も後で次の娘が生まれたときも、同じ気持ちを覚えました。……けれども、四六時中、説明のつかないけだるさが心に重くのしかかっていました。霊的に渴いていたにもかかわらず、どこでその渴きを癒すことができるのか分かりませんでした。

1994年4月、メキシコのモンテレー市に住んでいたわたしはタクシーの運転手をして生計を立てていました。ある日、何時間も雨が降り続いたため、雨水が滝のようになって山腹を流れていました。雨の中を数時間運転した後で、ふと気がつくともんてレーから8キロ（5マイル）ほど離れた小さな町に来ていました。……そろそろ帰宅する時刻になっていました。突然、二人の若い男性が歩いているのが目に入りました。黒っぽいズボンをはき、白いシャツを着ていました。二人とも頭からつま先までずぶ濡れになっているようでした。

わたしは二人に近づくと、タクシーのドアを開いて、「乗ってください。モンテレーまで行くところですから」と声をかけました。

背が高い方の、とても色白の青年が答えました。「わたしたちはお金を持っていません。」

わたしは「お金はいりません」と言いました。

二人はすぐに乗り込んできました。

出発すると話が始まりました。二人はイエス・キリストについてのメッセージを紹介してもよいでしょうかと聞いてきました。わたしは承諾して、住所を教えました。

帰宅すると妻を起こして、二人の青年の話をしました。「何という偶然だろう。一人はメキシコ人で、もう一人はアメリカ人だけど、二人とも下の名前がエルダーっていうんだよ。」

「エルダーっていうのは宣教師ってことよ」と妻は言いました。妻はこの教会について多少の知識を持っていたのです。

わたしは心の奥底で何か強く動かされるものを感じました。二人の青年はわたしの心に心地よい驚きを残していきました。渴きを癒してくれる水がもうすぐ見つかるのでは、すぐそこまで来ているのではないかと感じました。

宣教師が我が家を訪れたのは6月5日でした。わたしは喜んで耳を傾けました。2週間後の6月19日にバプテスマを受けました。妻は4か月後の10月にバプテスマを受けました。長女は学校で宗教教育を受けていました。彼女は初めて教会へ行ったとき、叫び声を上げました。「パパ、学校で勉強していることよりももっとすばらしいわ。」彼女も10月にバプテスマを受けました。

メモ

1995年12月にわたしたちはメキシコ・メキシコシティー神殿でこの世から永遠にわたる家族として結び固められました。今では一致と平安と幸福を家族で満喫しています。わたしたちは礼拝すべき御方を知っています。わたしたちがどこから来て、どこへ行くのかを知っています。神の言葉、特にモルモン書を愛しています。神の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会が好きです。わたしたちはこれらの賜物を通して、救い主がサマリヤの女に言われた生ける水の井戸を見つけました。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4:14) [Victor Manuel Cabrera, “Thirsting for the Living Water”, Ensign, 2001年8月号, 60-61]



© 2001 Simon Dewey. 複製は禁じられています。

活動—個人学習または同僚との勉強会

- この人は回復された福音のためにどのように備えられてきたでしょうか。
- もし長老たちが口を開いて福音のメッセージを伝えようとしなかったら、どうなっていたでしょうか。
- あなたが昨日したことを思い出してください。できるかぎり多くの人と話したでしょうか。もし話していなければ、それを今日実行するための計画を立て、目標を設定してください。

聖文研究

口を開くべきことについて主は何とっておられるでしょうか。あなたは何を教えるべきでしょうか。あなたはどのような約束を受けているでしょうか。

教義と聖約24:12

教義と聖約33:7-15

教義と聖約60:2-3, 7-8

教義と聖約28:16

見つけながら教え、教えながら見つける

見つけることと教えることの間には密接な関係があります。人々と会っているときに回復された福音の簡単な概要をあなたが教えるならば、聖霊はあなたが主の僕であることを証することがおできになります。多くの場面で、メッセージを1分以内で伝える必要に迫られるでしょう。人々は簡潔で力強い言葉に慣れ親しんでいるからです。例えば、次のような短い文章で回復のメッセージを提示することができます。

神から直接与えられた真理（イエス・キリストの福音）は何世紀にもわたって失われていました。けれども、愛にあふれる天の御父は生ける預言者を通して地上に福音を回復されました。わたしたちにはその証拠があります。あなたはそれを手にとって読み、心の中で深く考え、真実であるかどうか自分で知るために祈ることができます。もしよろしければ、……させていただけますか。

もう少し時間があれば、次のように言うことができます。

わたしたちのメッセージは簡潔です。神はわたしたちの御父です。わたしたちは神の子供です。わたしたちは神の家族の一員なのです。神はわたしたちを愛しておられます。神は世の初めから人に愛と関心を寄せてこられました。神は幾度となく愛の手を差し伸べて、御自分のもとへ戻る方法を子供たちに理解させるために、イエス・キリストの福音を明らかにしてこられました。神はアダム、ノア、アブラハム、モーセなどの預言者に福音を啓示されました。けれども人々は繰り返し福音を拒んできました。2000年前にはイエス・キリスト御自身が福音を教えられました。驚いたことに、人々はイエ

スさえも拒みませんでした。人々がまことの教義と儀式を軽んじたり、ゆがめたりする度に、神は教会を管理する権能を取り上げられました。

わたしたちがお勧めしたいのは、すでに大切にしておられる真理に新しい真理を付け加えていただくことです。天の御父は再び神の子供たちに愛の手を差し伸べて、一人の預言者に、まことの教えと儀式を明らかにされました。このことについて、わたしたちがご紹介する証拠を深く考えていただきたいのです。この預言者はジョセフ・スミスといいます。このすばらしい真理の証拠はモルモン書と呼ばれる書物の中にあります。この書物を手に取り、読み、それが真理かどうかについて祈り、頭と心で深く考えることができます。

次のような問いかけをしないようにしてください。「……についてのメッセージをお教えしたいのですが、数分だけ時間を取ってくださいますか。」このように問いかけるよりも、人々に会ったらすぐに教え始める習慣を身に付けてください。証^{あかし}をして、人々が聖霊の力を感じられるような状況を作ることによって、教える人々をもっと多く見つけることができます。

どのようなきっかけから話し始めるのであれ、福音の回復について素早く手短かに話す必要があります。なぜなら、これは世界に向けて伝えるわたしたちの特別なメッセージだからです。あなたが教える人々には、往々にして、回復された福音を受け入れる備えのできた友達や親戚がいます。見つける、求道者に教える、会員たちと協力するなど、あなたが教えているほとんどの場面で、次のように問いかけてください。「このメッセージに関心のありそうな人や、このメッセージが役に立つ人をどなたか御存じですか。」リフェローを受けたら、次のように尋ねます。「このメッセージを聞いたらいいと思う方がほかにいらっしゃいませんか。」会う度にこの問いかけをためらわず何度も行ってください。あなたの教えている人々は福音の祝福を経験すると、それを分かち合いたいと願う気持ちが強くなります（1ニーファイ8：12参照）。福音を学んでいる間にも新しい友達ができます。この原則を応用している宣教師は、たいいてい多くの人を教えています。

活動—同僚との勉強会

- レッソンのどれか一つについて、1分間のメッセージを準備します。見つける状況を一つ設定し、その中でそのレッスンを教えるにはどうしたらよいか考えてください。
- そのメッセージを素早く回復のメッセージに結びつける方法を決めてください。
- 同僚を相手に、メッセージを伝える練習をします。
- ティーチングプールに新しい求道者を加えるために、今日のいつ、このメッセージを伝えるのが適切かを考え、実行する目標を設定してください。
- 現在教えている人々のリストを検討します。リフェローを頼んだ人、頼んでいない人に分けたリストを作成します。それぞれのグループの人々にリフェローを頼む方法を練習します。次回の訪問で、この勧めを行うことをプランナーに書き込んでください。

家族の大切さについて話す

回復されたイエス・キリストの福音は家族に祝福をもたらします。回復された福音の原則に従って生活することにより、家族は強められ、平安と喜びを得ます。また、居場所と存在理由があると感じるすることができます。

あなたが毎日出会う人々に家族の大切さを話すことによって、教える人々を見つけることができます。ほとんどの人は普通、家族に関心を持っています。見つける状況の多くで、家族についての常識を回復のメッセージに結び



つけて話すことができます。見つけているときに、次のようなことを言うとよいでしょう。

家族ほど大切なものはありません。家族は人を結びつけ、人に名前を与え、必要とされ愛されると感じさせてくれます。家族から受け継いだ個性、資質、身体的特徴のおかげで、人は各自が唯一無二の存在となっているのです。

世界中で多くの人々が、固く結ばれた、幸福な家族を築くことをいちばん大切にしています。けれどもこれはとても難しいことでもあります。邪悪に取り囲まれている今日の世の中で子供を育て、夫婦のきずなを強めることは、ほとんど不可能なことにすら思われます。

それから回復のメッセージへと移ります。

家族に対する愛と関心は永遠のものであって、わたしたちの心の奥深くに根ざしています。それは神とわたしたちの関係を土台としています。あなたはこの世に生まれる前から神の家族の一員として生活していました。神はわたしたちのお父様です。ですから、わたしたちは兄弟姉妹です。天の御父はわたしたちに、戻って来て家族の一員としてともに生活することを望んでおられます。この世のすべての家族は神の家族とつながっています。この世の生活を終えた後も家族はともに住むことができます。わたしたちがそのことを知っているのは、水に沈めるバプテスマなど、何世紀もの間失われていた真実の教義と儀式が、愛にあふれる天の御父によって、一人の生ける預言者を通して地上に回復されたからです。この真理が回復されたことによって、神の家族とわたしたちの関係が理解できるだけでなく、この世において固く結ばれた幸福な家族を築くうえで、大きな希望を得ることになります。……について、さらに詳しくお教えしてもよろしいでしょうか。

このほかに幸福、逆境、人生の目的、死などのテーマについても同じように話を展開することができます。見つけるための話の切り出しがどのようなテーマであったとしても、すぐに、教会が世に発している、他に類を見ないメッセージにつなげることを忘れてはなりません。

会員たちの重要性

会員と力を合わせて教える人々を見つけてください。福音を教えるために会員がだれかを自宅に招いて、同席してくれるのが理想的です。会員がこのように行くと、バプテスマを受けて、その後も教会で活発であり続ける割合が高くなります。会員の同席が大切な理由は、その方が聞く人の心が和み、回復された福音を研究してみようとする人が多いからです。こうすることにより、しばしば教会員の友情の輪（活発な会員、あまり活発でない会員、最近の改宗者、パートナーの家族）の中に人々を招き入れることができます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように教えました。「宣教師の活動とは単にチラシを配ることだと考えている会員が大勢います。しかし、宣教師の活動を知っている人は、もっと良い方法があることを知っています。それは教会員を通じて行う方法です。教会員が求道者を紹介すると、そこには即座に対応できる支援体制があります。教会員はこの業が真実であることを証します。求道者である友達の幸せを心から願っています。そして、友達が福音を学んで進歩するのを見て、感動するのです。

実際に教えるのは専任宣教師かもしれませんが、教会員は、宣教師が教える際に家庭を提供することによって支援することができます。教会員はこの業が神の業であることについて心からの証を述べます。会員は宣教師が近くにいないときに、求道者の質問に答えます。会員は、大きな、時には難しい変化を遂げようとする求道者の友達になるのです。……新しい人を教会に連れて来るのは宣教師だけの責任ではありません。教会員が中心になって新しい求道者を見つけるときに、宣教師は最大の成功を収めることができます。」（「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、121-122）

会員たちとの間に強いきずなを築くための第一歩はビショップです。支援を申し出て、ビショップから要請される義にかなった奉仕は何でも行ってください。いつも次のように自問してくだ

「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです。」

— 預言者ジョセフ・スミス
Teachings of the Prophet Joseph Smith, 113

さい。「わたしはビショップにとって祝福となっているだろうか、それとも重荷となっているだろうか。」「お手伝いさせてください」という姿勢をはぐくんでください。愛し、仕え、教える機会を探し求めているならば、ビショップとワードの会員はあなたを信頼して自分の家族や友人を紹介するようになるでしょう。

ある宣教師が伝道部長に送った以下の手紙の抜粋を読んで深く考えてください。

愛する会長、

本日伝道部長補佐から、わたしの転任について電話で連絡を受けました。この地域へ送ってくださったことに対して感謝の気持ちをお伝えするために、ペンを取りました。会長が、待ち受けているチャレンジについて話されたのがまるで昨日のように感じられます。

任地で迎えた最初の日曜に会長のおっしゃった意味が分かりました。ワードから気のない歓迎を受けました。最初の日曜に見つけた希望の光はワードの新しい伝道主任のスコットだけでした。1か月前に空軍基地に配属された彼は、2週間前からワードの伝道主任として働いていました。最初の日曜の夕べはスコットの家で夕食の招待を受け、伝道を進める方法について話し合いました。食事を終えてから、わたしたちはひざまずいて祈り、天の御父に導きを願い求めました。祈っている間に一人一人が平安を感じ、決意が固まりました。祈りを終えると、御業を前進させる最も良い方法は会員たちの信頼を得ることだという結論に達しました。そこで、アンモンの模範に従って、会員たちに仕えることに決めました。

まずビショップに働きかけることにしました。しばらくバプテスマがありませんでしたし、以前の宣教師が力を尽くさなかったので、わたしたちが話をしたいと言っても、当然ですが、ビショップはあまり喜ばませんでした。しかし、結局わたしたちを夕食に招待してくれました。ビショップは居間のカーペットをはがして、木の床を修繕するために準備をしているところでした。手伝いを申し出たところ、受け入れてくれました。作業が終わるころに、ビショップはわたしたちに聖餐会で話をするように言ってくれました。わたしはビショップがわたしたちを信頼し始めているのだと感じました。

ほかの会員たちにも、このような方法で奉仕をしました。様々な方法で小さな助けをする機会に恵まれました。会員と会っていないときは戸別訪問をして、できるだけ多くの人々に回復された福音について話しました。祝福されて、教える人々を見つけることができました。ワードの会員たちはわたしたちが自分で見つけた人々を教会へ連れて来るのを目にしました。ワード全体の雰囲気が変わり始めました。伝道活動にどんどん活気が出てきました。いったん会員の信頼が得られたら、伝道活動は急速に展開し、多くの人々がバプテスマを受けました。

多くの教会員は伝道活動を行うことに恐れを感じています。何から始め、何を話したらよいか不安を感じているのです。福音を分かち合うことによって親しい友人を失くすのではないかと考えています。会員たちを助ける方法はたくさんあります。例えば、回復のメッセージやレッスンの中のそのほかの教義を会員に教えて、彼らが信仰を築くのを助けることができます。会員が御霊を感じたり、宣教師のメッセージの力を感じたりできるように助けることもできます。キリストの教義に対する会員の理解を補強すること、これこそが、会員から強い信頼を得る最も効果的な方法です。またそれは、会員に伝道活動のすばらしさを味わってもらい最も効果的な方法でもあります。回復された福音を伝える機会は、家族や友人を愛し、仕えようとしているときに、自然にやって来ることを、会員たちが理解できるように助けてください。本章の「よい働きをしながら巡回する」の項にある原則を会員に教えてください。「神を知らない者たちの幸いのためにも断食し、熱烈に祈る」ように会員を励ましてください（アルマ6：6）。会員に働きかけるときはいつも、会員が伝道活動を行えるように、彼らの信仰を増し加え、堅固にする努力をしてください。



活発な会員と力を合わせる以外に、長老見込み会員、あまり活発でない会員、新会員を通して教える人々を見つけるよう努力します。これらの会員にはほかの宗教を信じている友達がたくさんいる場合があります。家族や友達に回復された福音を紹介することによって、彼らは祝福を受けます。

会員が以下の事柄を行えるよう、会員と会うときにはいつも、あらゆる方法を尽くして励ましてください。

- 祈り、御霊みたまに従う。
- 奉仕を行う。
- 友情をはぐくむ。
- 口を開いて、回復された福音を分かち合う。
- キリストを信じる信仰を強めるのに役立つことを行うよう人に勧める。

会員から受けるリフェローはすべて、大切に扱ってください。会員が友人の名前を渡して電話か訪問をするよう頼んできたなら、すぐに対応して、結果をその会員に報告します。

会員を助けるためのアイデア

伝道活動にもっと積極的に参加するよう会員を励ます方法はたくさんあります。以下のアイデアを検討してください。

- ビショップやワードのほかの指導者から助言を求めます。この点に関しては13章を参照してください。
- 回復のメッセージとそのほかのレッスンを教会の指導者と会員に教えます。
- 隣人や友人を愛し、奉仕することを教えます。
- 伝道の機会が訪れるように断食して祈るよう励まします。
- 最近人生が大きく変化した（誕生、家族の死、結婚、転居）知人を訪問するよう勧めます。
- 教えるのを手伝ってもらいます。求道者が信じている宗教にかつて所属していた会員に同席してもらうことができれば理想的です。
- 友人にいつ回復のメッセージを聞くように勧めるかを決められるよう会員を助けます。
- モルモン書、ビデオ、パス・アロング・カードなど、人々に配付できる資料を見せます。
- 教会のビデオを見るか、福音の話聞くために、教会や家庭の夕べに友人を招待するよう勧めます。
- 友人に話すための練習相手になります。
- 結果がどうであれ、福音を分かち合うことの価値を教えます。

会員の積極的な参加を促す方法はほかにもたくさんあります。伝道期間を通じて、ほかの方法をこのリストに加えてください。ほかの宣教師にあなたのアイデアを紹介してください。

活動——同僚との勉強会

過去1か月にビショップや指導者、会員に仕え、助けるために実行してきたことを同僚とともに評価してください。これからの1か月間で彼らとの関係を強めるためにできることを話し合い、計画してください。

「会員を助けるためのアイデア」に挙げられているアイデアを検討します。まだ実行したことのないアイデアをいくつか見つけます。デイリープランナーを使って、次の週のために、幾つかのアイデアを実行する計画を立てます。

メディアと教会本部からのリフェロー

リフェローは回復された福音を学ぶ備えのできた人々を見つけるもう一つの源です。会員からのリフェローに加えて、教会は神の子供たちに積極的に手を差し伸べるために様々な方法を使っています。メディアを使っての広告、訪問者センター、史跡地、福祉と人道支援、インターネット（www.mormon.org, www.lds.org, www.familysearch.org）などを通して、教会は人々の関心を高めています。メディアや教会本部からのリフェローとは、教会の代表者の訪問を受け、資料（聖書やモルモン書など）を受け取り、教会についてさらに学ぶことを了承した人々のことです。宣教師はこの教える機会を神聖な責任として受け止めなければなりません。

リフェローとして紹介された人々を訪問する前に、彼らが求めている資料によく慣れ親しんでください。資料を渡してから回復のメッセージを教えるまでの橋渡しとなるように、簡単なレッスンを計画します。時には、リフェローとして紹介された人をきっかけにして、神が備えておられるさらにほかの人々に会えることがあります。リフェローとして紹介された人々に接触した結果、相手に関心を示さなければ、興味を持つかもしれないほかの人を知っているかどうかを尋ねます。さらに、その家のほかの家族や近所の人に話をしてください。あなたのメッセージに関心を持つかもしれない人に心当たりがあるかどうかを一人一人に尋ねてください。あなたがその人に導かれたのは、その人の家のほかの家族か近所の人々が福音を聞く備えができていたからかもしれません。

リフェローに対応するときに、以下の事項を記憶にとどめてください。

- 24時間以内に連絡してください。
- できれば、事前に電話で訪問の約束を取り付けます。電話が通じなければ、その日のほかの時間帯に電話してみます。
- 請求された資料を手渡して、あなたは彼らの要請を受けて訪問していることを確認します。同居の家族全員に聞いてもらいます。
- 回復のメッセージを教えてください。
- キリストを信じる信仰を築くような事柄を勧めてください。
- ほかの人々を紹介してくれるよう依頼します。
- 次回の訪問予定を決めてください。
- 訪問を終えたら、その近所で働くことを計画します。
- 本人が家にいなければ、近所の人たちに話をします。

活動—同僚との勉強会

過去1か月間に受けたリフェローをすべて確認して、まだ接触できていない人を探し、訪問してください。すでに訪問した人々の中からもう一度訪問すべき人を決めます。

家族歴史

家族歴史すなわち系図は教える人を見つけるもう一つの手段となります。家族歴史は現在、世界で最も広く行われている趣味の一つです。エリヤの霊は世界中の数百万の人々の心を先祖の探求に向けさせています。親戚とのつながりを強めたいと考えている人はたくさんいます。そのような人々は、神の家族と自分とのつながりや、神の家族の中で自分が何者であるのかを知りたいと望むようになる可能性があります。

地域にどのような家族歴史資料施設があるか調べてください。例えば、地元の家族歴史センターへ案内するか、先祖の系譜を調査する最初の段階を助けてくれる会員たちを紹介するとよいでしょう。教会員の助けがあれば、あなた自身が家族歴史についてそれほど多くの知識を持っている必要はありません。家族のルーツ探しを助けることのできる会員が世界中のほとんどの地域にいます。会員の参加を求めて、求道者になる見込みのある人が会員と親しくなれるよう手配してください。家族歴史センターは無料で利用できることを説明しておきます。

チラシ配りをしているときに、地元の家族歴史センターの電話番号と、家族のルーツ探しが無料でできることを記した家族歴史用のパス・アロング・カードを配るとよいでしょう。カードを配ったら、1, 2 日のうちにその家を訪問してフォローアップします。このカードを友達や親戚しんせきに配ることのできる求道者に、カードを渡します。あなたの4代系図表をサンプルとして持って行き、あなたと同じ姓の人に会ったらそれを見せるとよいでしょう。

まず、以下を実行することについて深く考えてください。

- もし地域内に設置されていれば、家族歴史センターを訪れる。
- 毎日、出会う人々に家族歴史の手伝いをしたいと申し出ることについて、ビショップやワード評議会の会員と話し合う。
- この活動を調整する最善の方法についてワードの指導者と話し合う。
 - ワードの会員から家族歴史に関する援助が得られる、とあなたが出会う人に申し出ることについて、ビショップは快く思っているでしょうか。
 - どの会員が家族歴史センターで奉仕しているでしょうか。また、どの会員が家族歴史活動の経験を持っているでしょうか。
 - これらの会員に援助を求めるにはどうするのがいちばんよいでしょうか。
 - 系図表や家族の記録を渡すとき、同行してくれる会員はいるでしょうか。

ある年配の宣教師が語った以下の物語を読んでください。この夫婦の改宗に家族歴史が果たした役割に注目してください。

ミルドレッド・シュルツは自分の教会を固く信じていました。宣教師が彼女の家のドアをノックしたときに、彼女が宣教師をすぐに招き入れて、彼女が信じていた「真理」を教えようとしたのも不思議なことではありませんでした。宣教師の教えを聞いた彼女は、回復された福音の真理に心を動かされ、バプテスマを受けました。妻へのレッスンがどんどん先に進んでいく間、夫のフランクは参加しようとしませんでした。

ここでわたしの出番が来ました。長老たちはわたしたちにシュルツ姉妹を紹介してくれました。わたしたちは彼女が家系図作りを始められるように助けました。そして、家族歴史センターで会いましょうと誘いました。約束した日になりました。フランクが自分も行って、先祖を調べたいと言いました。もちろん、彼女は期待に胸を膨らませました。そして、二人そろってセンターへ向かいました。

長老たちはその日の午後にわたしたちに合流する計画でした。長老たちが来る前に、わたしたちはフランクとミルドレッドを図書室に案内し、ライト姉妹を紹介しました。ライト姉妹は家族歴史スペシャリストで、フランクの父親についての情報を見つける手伝いを申し出ました。ライト姉妹は資料の中から父親の名前を見つけ、さらに父親の出生地を示すためにドイツの地図を出してくれました。フランクはこの発見を大変喜んで、長老たちがやって来たとき、彼らを夕食に招待して、写真を見せ、自分の家族の歴史を紹介したいと言いました。エリヤの霊は彼の心に触れ、和らげ、生活を福音で満たすための扉を開いたのでした。

その日の晩、ミルドレッドはフランクにどんな言葉をかけたらもっと福音に興味を示すようになるだろうかと深く考えていました。一つの質問が心に浮かんできました。「フランク、この世の生涯が終わった後も、永遠にわたしと一緒にいたいと思っている？ 永遠の家族を持ちたい？」フランクはす

「伝道活動と神殿と系図活動の間に、かつてに境界線が引かれることがよくありますが、そのような線は消してください。どれも救いにかかわる重要な業なのですから。」

— スペンサー・W・キンボール大管長
「永遠の事柄」『聖徒の道』1977年5月号、246参照

ぐに答えました。「おお、ミルドレッド、もちろんさ。どうすれば永遠の家族を持てるんだろう？」この質問こそ、彼女が祈っていた言葉でした。「宣教師のお話を聞くのよ。」フランクは承知しました。長老たちが教えると、回復のメッセージのぬくもりが彼の疑いと恐れを溶かしていきました。フランクは教えられた真理をすぐに受け入れました。そしてバプテスマの勧めを受け入れました。フランクとミルドレッドはそれ以来、ずっと強く活発な会員です。

フランクとミルドレッドは家族に救いの儀式を執行するために必要な作業を熱心に行いました。二人が家族の身代わりとしてバプテスマを受けたときは感動的でした。神殿の儀式を行っていた間のことでした。ある晩、シュルツ兄弟は父親の夢を見ました。夢の中で、父親はフランクが子供のころに暮らしていた牧場にいました。父親は白い服を着て、玄関先の揺りいすの横に立ち、フランクに両手を差し出していました。フランクは泣きながら目を覚ましました。フランクはそのとき、自分たちが行った儀式を、父親が受け入れていると知ったのでした。

活動—同僚との勉強会

- フランクはどのようなきっかけから宣教師のレッスンを受ける決意をしましたか。
- 家族歴史活動と家族に関する神の計画をより良く結びつけるには、どうしたらよいでしょうか。
- 教える人を見つける手段として家族歴史をどのように活用していますか。毎日、出会う人々に家族歴史について話すには、どのような方法があるでしょうか。教える人を見つける活動の主力の一つとして家族歴史を活用する計画を立ててください。

家族歴史は、回復された福音を受け入れるよう神が備えておられる人々を見つける強力な手段です。見つける努力をしているときに、家族歴史を使う機会に気づくことができるよう祈ってください。人は家族について話すとき、霊的な気持ちになるものです。家族歴史活動の根拠となる教義を学ぶときにも、人々は御霊を感じます。それに加えて、新会員が皆、家族のルーツを探求し、先祖のために身代わりの儀式を行うことができるならば、改宗者の定着率は高まります。

聖文研究

主はエリヤを通して地上に何を回復されましたか。

教義と聖約110：14-16 教義と聖約138：32-34 マラキ4：5-6

教義と聖約128：16-18

活動—個人学習および同僚との勉強会

家族歴史の経験を持つ会員とともに地元の家族歴史センターを訪問する計画を立ててください。家族歴史センターを見学するときに、どのようなサービスが提供されているかを確かめます。開館日と時間、センターで働いている人、あなたが毎日出会う人々にどのようなサービスを提供できるかなどについて情報を入手してください。

出会う人々に家族歴史に関して支援を申し出る方法を練習してください。見つける活動の中で家族歴史について話す計画を幾つか立てます。

家族歴史活動について理解を深めるために『真理を守る』から「家族歴史活動と系図」の項を読んで話し合います。学んだ事柄を学習帳に書き留めておきます。

以前の求道者

教える人々を見つけるうえで以前の求道者は貴重な源となります。人々が教会の研究をやめてしまう理由は、宣教師が転任する、求道者が長期の休暇を取って出かける、求道者は訪問を望んでいるにもかかわらず宣教師が訪問を中止する、求道者が宣教師の教えに新しいものを感じないなど、様々です。以前に求道者だった人の多くはもう一度宣教師と話したいと言います。

区域伝道記録（エリアブック）にしばしば目を通して、以前に求道者だった人々を把握してください。区域伝道記録に記されている情報について祈りの気持ちで深く考えます。彼らは最初、どのようにして教会と出会ったか、何についてのレッスンを受けたか、どのような反応を示したか、なぜ福音の研究をやめたかなどの記録に注目します。もし、これらの求道者のレッスンやフェローシップに参加していた会員が見つければ、その会員に当時の様子を尋ねます。この情報を基にして再度求道者との接触を図る計画を立てます。

もしあなたの教えている人が福音の研究をやめると言ってきたら、将来、接触を図る宣教師にとって役立つ情報を区域伝道記録（エリアブック）に記録しておいてください。

以下の経験を読んで、以前の求道者に接触を図ることの大切さを考えてください。

驚いたことにわたしが召されたのは、1年前に姉が働いていた伝道部でした。伝道部に着任してから数か月後に、姉が働いたことのある区域に配属されました。わたしの転任を知った姉は、手紙を書き送ってきて、同僚とともに教えたある家族を訪問するよう頼んできました。ノーマン家族に愛と親しみを感じたこと、そして彼らが教会について学ぶのをやめたときに味わった失望について書かれていました。

同僚とともにノーマン家を探して訪れたところ、温かい歓迎を受けました。回復された福音をもう一度聞いてほしいという勧めを受け入れてくれました。前回とどのような違いがあったか分かりませんが、彼らはメッセージを受け入れる備えが完全にできていました。そして家族全員がバプテスマと確認の儀式を受けました。

この経験をしてから、わたしは姉が働きかけたほかの求道者にも関心を持ちました。「ノーマン家で成功したのだから、姉が教えたほかの求道者への働きかけも成功するかもしれない」と思いました。そこで姉が教えたほかの人々に接触を図りたいと思っていることを手紙に書きました。姉は当時の日記を調べて、地域内に住む以前の求道者の名前を送ってくれました。

同僚とともに翌週、その人々に連絡を取りました。うれしいことに約半数の人々がもう一度回復された福音について聞くことを承知してくれました。その中の数人がバプテスマと確認の儀式を受けました。姉の以前の求道者と会うときに、わたしたちのメッセージに関心を持つかもしれない友人や知人を紹介してくれるよう頼みました。これによってさらに教える人々を得ることができました。このときがわたしの伝道期間中、最も忙しい時期でした。



© 2001 Del Parson 複製は禁じられています。

活動—同僚との勉強会

- 区域伝道記録（エリアブック）から以前の求道者を明らかにしてください。
- 24時間以内にできるだけ多くの人と接触を図る計画を立ててください。

自分の努力によって教える人々を見つける

回復のメッセージを聞く子供たちを神が備えておられることについての信仰を強めるよう努力してください。聖霊の導きの下で、教える人を見つけるために全力を尽くすとき、主はあなたを受け入れる人々をあなたの行く道に連れて来られるでしょう。

回復された福音に対する備えのできた人々を見つける立派な方法はたくさんあります。準備されている人々の前に導かれるために、できる限りのことを行う必要があります。自分の努力によって見つける以下の方法は、宣教師たちが実際に試して有効であることが分かっています。リストに目を通して、まだ試したことのない方法を実行する計画を立ててください。このリストはまた、教える人々を見つけるためのそのほかの正しい方法を考えるきっかけとして利用することもできます。

- 子供が生まれたばかりの家族や引っ越して来たばかりの家族、身内に不幸があった家族について知り、接触を図るために、ビショップやワード評議会と協力して働く。
- 簡単な奉仕を行う機会を探す。
- 活発会員、あまり活発でない会員、最近改宗した人、パートメンバーの家族など、会員たちに回復のメッセージを教える。あなたがレッスンを教えることのできる人を紹介してもらうようにする。
- 会員が友人を誘えるような会員によるファイヤサイドを手配する。この機会を利用して福音を教え、リフェローを求める。
- どのように家庭の夕べを開いたらよいか教えることを人々に申し出る。
- 会う人々に、地元の集会所を案内することを申し出る。
- ビショップとの面会を手配する。
- www.mormon.org にアクセスするよう人々に勧める。
- 聖文研究のクラスを組織する。
- 第2言語として英語を教える。
- 該当する年齢の人々にセミナーやインスティテュートへの出席を勧める。
- 戸別訪問または街頭伝道をする。
- パス・アロング・カード、DVD、ビデオ、パンフレットなどの教会の資料を使う。
- 現在の求道者、以前の求道者、あまり活発でない会員、長老見込み会員、そのほか会うすべての人にリフェローを求める。
- 地元の教会の広報担当者と密接に働き、地元の新聞にあなたの伝道活動に関する記事を掲載できるようにする。
- 教会の集会、活動、オープンハウスに人々を招待する。
- バプテスマ会に人々を招待する。これは教会を紹介する絶好の機会であり、求道者に^{みたま}の影響力を感じてもらい良い機会となる。



善い働きをしながら巡回する

教える人々を見つける信仰は、行いの中に表れます。救い主は地上で務めを果たしておられたとき、「僕のかたち」をとられました（ピリピ2：7）。主は「よい働きをし」（使徒10：38）、「福音を宣べ伝え」ながら巡回されました（マタイ4：23）。あなたはこの模範に従うときに、あなたを受け入れる人々を見つけるでしょう。

回復のメッセージを受け入れるために備えられた人々は、あなたの奉仕を通して、力強く、また靈感あふれる方法であなたと出会います。あなたが善い働きをしていれば、人々はいずれあなたが神の僕であることを認めるので、やがて回復された福音を教える機会があなたに訪れます。

多くの宣教師は伝道に出る前に、計画された「奉仕活動」（例えば、引っ越しの手伝い、教会の農場での奉仕、庭の清掃など）に参加した経験を持っています。あなたは宣教師として毎週そのような奉仕活動の予定を組んで行います。（詳しくは『宣教師の手引き』を参照）。

本章で説明している奉仕活動は、不意に訪れる奉仕の機会に焦点を絞っています。この種の奉仕を行うには、御霊に耳を傾けることによって、小さく簡単な親切を神の子供たちに行う機会に気づくことが必要です。毎日善を行う機会に気づけるように祈ってください。善い働きをしようと努めていれば、回復された福音のために備えられた人々のもとへ導かれます。

以下の物語を読んで、宣教師たちがどのように「よい働き」をして、福音を宣べ伝えたかに注目してください。



パブロは毎週の英会話クラスに欠かさずやって来ました。彼はすでに社会の第一線を退いており、病弱な妻への心配から少しでも解放されるために英語を学んでいました。ところが、ある週に境に彼は姿を見せなくなりました。だれにもその理由を知らせていないようでした。1か月ほどして、パブロは再びクラスに姿を見せました。様子が以前とは違いました。すっかりやせて、沈んでいました。クラスでも以前のように積極的ではありませんでした。話しかけようとしたのですが、その前に彼は帰ってしまいました。

それから1週間、同僚とわたしはパブロが戻って来て、話し合えるようにと祈りました。わたしたちの祈りはこたえられました。翌週のクラスに彼はやって来ました。クラスが終わってから話をすると、奥さんが亡くなったことを打ち明けてくれました。そのときの様子について少し話してくれました。わたしたちは慰めの言葉をかけました。それから、再び奥さんと一緒に暮らせる方法をお知らせしたいと言いました。彼は顔を上げるとわたしの目を見ました。怒りと悲しみの涙を目にためて、こう言いました。「もしほんとうに助けたいなら、わたしの家に来て、以前の生活を取り戻せるようにしてください。それが宣教師の務めではないのですか。家やいろんなことをきちんとするのに助けが必要なのです。」

わたしたちはパブロの言葉に驚き、謙遜になりました。そしてわたしたちは、彼が必要とすることは何でもすると申し出ました。彼がわたしたちに信頼を寄せ始めたのはこのときだったと思います。彼は、翌日家に来て、木の刈り込みを手伝ってほしいと言いました。約束した時刻に行って、彼の横で働き始めました。病気の妻の世話に追われた何か月かの間、庭や家の掃除がまったくできなかったのです。3人で行うにはたっぷりの仕事がありました。これは毎週の奉仕活動になりました。木を刈り込み、雑草を抜き、実を収穫しました。レッスンは始めませんでした。その話題になると、パブロは

「あなたは幸福になりたいですか。そうであれば、自分を忘れてこの大いなる大義に携わりましょう。人々を助けるために力を注ぎ、……背筋を伸ばし、弱ったひざを上げ、垂れた腕を支えましょう。そしてイエス・キリストの福音を実践するのです。」

—ゴードン・B・ヒンクレー大管長
Teachings of Gordon B. Hinckley, 597

口をつぐんでしまうのです。彼の生活や家族について話をしている間は満足しているようでした。ほとんどの場合、わたしたちはじっと耳を傾けていました。

約1か月半後に、パブロの口をついて出た質問に驚きました。「ほんとうに妻ともう一度会えるのですか。」わたしたちは喜びを感じながら、そうですと答え、永遠の家族について証しました。そして彼の質問に最善を尽くして答えました。

こうして救いの計画を教え始めました。パブロは教えに心を動かされました。わたしたちが帰る前に、彼は多くの質問をしました。例えば、「もう一度会うとき、妻には体があるのですか」とか「わたしたちは病気や苦痛から解放されるのですか」というような質問でした。わたしたちは質問に答えると、回復されたイエス・キリストの福音の原則について話し合うために次の約束を作りました。

それから間もなく、パブロの表情に変化が見えてきました。しばしば笑顔を見せるようになり、心が安らいているようでした。彼は実際に「もっと良い世界への望み」を得ていました（エテル12：4参照）。わたしたちの行った奉仕のおかげで、わたしたちの教える事柄を信頼しようという気持ちが育ったのです。

活動—個人学習または同僚との勉強会

- この物語の中で宣教師はどのような「よい働き」をしたでしょうか。
- パブロが福音を学ぶ決意をするために奉仕はどのような役割を果たしたでしょうか。
- あなたは毎日、善い働きをする機会を常に探しているでしょうか。このことをより良く行うために、何かできるでしょうか。

教える人々をさらに多く見つけるために、一日を通じてより良い働きを行う方法を学習帳に書き出すか、同僚と話し合ってください。

回復のメッセージを聞く備えのできている人々があなたの行く道に連れて来られることを信じてください。あなたの善い働きと言葉によって、宣教師と会員を受け入れるよう備えられる人々もいます。神はそのような人々のもとへあなたを連れて行かれます。教える人々を見つける働きをするときは常に、奉仕し、助け、元気づける機会を求めて祈り、探してください。奉仕を行っているときは、出会うすべての人に話しかけてください。回復された福音を分かち合うことができるという信仰を持ってください。

あなたは兄弟姉妹を愛するがゆえに、回復された福音を教えることを望み、祈り、心から願っています。奉仕を行うときは常に、それが動機となっていないければなりません。



指針

善い働きをしようと努力するときに、以下の指針を記憶にとどめましょう。

- 常に同僚とともに行動する。
- あなたの召しの神聖さを保つ。
- 宣教師規則を守る。金銭を寄付したり、自分のお金を使ったりしない。
- 地域社会での毎週の奉仕活動についての指針は『宣教師の手引き』を参照してください。

聖文研究

救い主の生涯において奉仕はどのような役割を果たしていたでしょうか。

3ニーファイ17：7、21 マタイ9：1-8 ヨハネ4：46-54
 マタイ8：1-4 マルコ1：21-28

アンモンとアロンの伝道において奉仕はどのような役割を果たしたでしょうか。

アルマ17：19-25 アルマ18：8-10 アルマ22：3

主はあなたに何をしよう求めておられるでしょうか。

3ニーファイ27：21

努力は決して無駄にならない

回復された福音を学ばないことを選ぶ人がいても、あなたの働きが無駄になるわけではありません。できるかぎり多くの人々に奉仕し、教えるために絶えず宣教師が努力するのは大切です。なぜならそれは、御自分の子供たちが、いつか御自分の僕を受け入れられるように備えるために、神が行っておられることの一つだからです。神はしばしばあなたを通して人々に手を差し伸べられます。たとえ人々が福音を学ぶ機会を受け入れなくても、あなたの奉仕と言葉は、神が彼らを愛しておられることの証であり、将来の宣教師や教会員が刈り取るためにまく種となるのです。

福音が受け入れられなくても落胆してはなりません。あなたは警告の声を上げました。人々に明確な選択の機会を与えました。キリストの弟子は人々が悔い改めを決意しないときに悲しみを覚えますが、自分が何者であって、何を行っているかについて見失うことはありません。キリストの弟子は、熱心に前進し続けるのです。

記憶にとどめましょう

- 「あなたがたを受け入れる人々」を見いだすことによって教会を築き上げる（教義と聖約42：8）。
- 教える人々を見つけるときに御霊を求め、御霊に従う。
- 地域の人々は回復された福音を受け入れる備えをしている。
- 活発会員、あまり活発でない会員、長老見込み会員、最近の改宗者などの教会員は、あなたが教え、バプテスマと確認の儀式を施す人々を見つける最良の情報源である。
- ビショップや会員との間にしっかりした関係を築く。
- 見つけながら教え、教えながら見つける。
- 見つける機会が不意に訪れたときに、気づく。
- 善い働きをし、イエス・キリストの福音の回復のメッセージを宣べ伝える機会が訪れるように祈る。
- 教える人々を見つける方法はたくさんある。一つか二つの方法だけに集中しない。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 一人の宣教師が両親にあてた以下の手紙を読んでください。

「バスの中ですばらしい女性に教えました。ディストリクト・ミーティングの帰り道、宣教師たちと一緒にバスに乗ったわたしは唯一空いていた席に座って、手紙を読み始めました。もちろん、赤ちゃんのエバンの写真が入っていたお父さんとお母さんからの手紙を最初に読みました。隣に座っていた人が写真に見入っているのに気づきました。横を向くと年配の婦人と目が合いました。彼女は少しほほえむと窓の外に視線を向けました。それから目を閉じました。眠ろうとしているようでした。わたしは『天のお父様、彼女とお話したいのです。どうか助けてください』と祈りました。1分ほど過ぎると、彼女は目を開けて、座り直しました。わたしはすぐに言いました。『かわいいと思いませんか。』赤ちゃんのエバンの写真を見せると、家族について話し始めました。子供たちについて尋ねると、彼女は涙ぐみ、娘から嫌われていて、かかわりたくないと言われていたと話してくれました。彼女は泣き、わたしも一緒に泣きました。わたしは救いの計画について話し、天のお父様は彼女を御存じであり、つらい経験も知っておられると言いました。わたしは泣きながら、娘さんはあなたを愛しているに違いないと言いました。なぜなら、わたし自身母から愛されている娘であり、母を愛しているからです。人は時々間違っただけの選択をしてしまうこと、娘さんには選択の自由があることを説明しました。彼女は笑みを浮かべながら言いました。『あなたがいなくてお母さんはきっとお寂しいでしょうね。あなたが戻ったら、もう決して手放さないでしょうね。』彼女は話しかけてくれたことに感謝すると、住所を教えて、福音について話を聞くと行ってくれました。そしてバスを降りるときに、こう言いました。『実はバスを間違えて乗ってしまったけど、降りなかったの。あなたが来るまでだれも隣に座らなかったのよ。……そしてこんなすばらしいことが起きたのよ。』神の計画は完全です。」

この物語には本章で採り上げているどの原則が含まれているでしょうか。章を復習し、この物語から見つけた原則を学習帳に書き出します。その原則の中から、今日、どれを応用して（きょう）みることができるでしょうか。

- ヨハネ15：12-13；21：15-17；1テサロニケ2章；モーサヤ18：8-10を読んでください。人々を愛し、仕える責任をあなたはどれほどよく果たしているでしょうか。どうすればさらに良くなるでしょうか。答えを学習帳に書いてください。
- 人々はあなたが主の僕であることをどのようにして理解するでしょうか。この質問について考えながら、モロナイ7：3-5；マタイ7：20；ヨハネ13：34-35を研究します。あなたの考えを学習帳に書いてください。
- 第3ニーファイ18：31-32；アルマ8：16；アルマ24：7-8；アルマ32：41を読んでください。以前の求道者に働きかけることについて、これらの聖句はどのようなことを教えているでしょうか。学んだことを学習帳に書き留めて、それを同僚に教えてください。

同僚との勉強会

- デイリープランナーを使って、最近の改宗者と会う計画を立てます。福音を受け入れるためにどのように備えられたかを彼らに尋ねてください。以下のような質問をします。「教会との最初の出会いはいつのことでしたか。」「どのようなことから最終的に宣教師と話す決意をしましたか。」学んだことを学習帳に書き留めてください。
- 以下の話題を検討してください。レッスンを使いながら、見つけるための簡単なアプローチを考えます。教える人を見つける場面を設定して、教えながらそれぞれの話題を回復に結びつける練習をしてください。
 - 人生に方向性や目的が必要であると感じている。
 - 神に近づきたいと願っている。
 - 大切な決断を下すために助けを必要としている。
- 『幸福の探求』(Our Search for Happiness) の66-68ページと『真理を守る』の「家族」と「家族歴史活動と系図」の項、38-43を読み、家族歴史活動の教義上の基礎をより深く理解します。家族歴史活動についての話を準備して、同僚と分かち合ってください。
- 同僚とともに新しい地へ赴任したと仮定します。区域伝道記録はきちんと記されているのですが、求道者が一人もいません。できるだけ早く求道者をティーチンググループに加えるにはどうすればよいでしょうか。アイデアの幾つかを今日、実行する計画を立ててください。
- 以下のアイデアは多くの宣教師と会員が成果を挙げているものです。同僚とともに読んで検討してください。
 - 福音を分かち合うことのできる友人、親戚^{しんせき}、知人のリストを会員たちに作ってもらう。会員とともにそのリストを検討して、福音を聞く備えをさせたいと思う人を祈りの気持ちで選んでもらう。
 - 会員が次の (a) と (b) を何日までに行うか決めるのを助ける。(a) 会員が選んだ個人や家族が、会員の家で福音を学ぶ備えができるように働きかける、(b) その個人や家族を備えるために、そのほかのフェローシップ活動を行う。期日を決めることによって、会員たちは目標を持ち、信仰を行使することができる。
 - 会員が今からその期日までに行うことを計画するのを助ける。
 - 支援し、励ますために定期的にフォローアップを行う。うまくいっている事柄や心配している事柄を話してもらう。
 あなたが働いている地域でこの方法をどのように応用できるかを話し合います。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 「自分の努力によって教える人々を見つける」の項を読んで、話し合ってください。
 - これらのアイデアが、宣教師たちが教える人々を見つけるのにどのように役立ってきたかについて話し合います。
 - 教える人々を見つけるほかのアイデアを黒板に書き出します。宣教師たちにアイデアを実演してもらいます。
 - 教える人々を見つける活動を改善するために、宣教師に個人の目標を立ててもらいます。

- 見つける状況のリストを作成します。
 - －各宣教師に一つの状況を割り当てます。その状況で回復のメッセージを教える方法を5分間で考えてもらいます。必要であれば、「イエス・キリストの福音の回復のメッセージ」のレッスンを参照させます。
 - －状況に合わせてメッセージの長さを調節することの大切さを強調してください。例えば、店の中で話すよりも会員の家で教えるときの方が多くの時間を使うことができます。
 - －時間の許すかぎりできるだけ多くの宣教師に、指定された状況の中で回復のメッセージを教えさせてください。
- 「見つけながら教え、教えながら見つける」の項で説明されている原則を教えてください。
 - －見つける状況で教えるために1分間のメッセージを準備するように、各宣教師に割り当てます。そのメッセージは宣教師のレッスンに基づいたものでなければなりません。
 - －宣教師同士で、1分間でメッセージを伝える練習をさせます。会員の家で教える、玄関口で教える、道端で教える、リフェローとして紹介された人と接触するなど、様々な場面を設定するとよいでしょう。これら一つ一つの場面で教える練習をさせます。

伝道部会長

- あなたの家族の中で会員伝道活動の模範を示してください。あなたが経験したことを宣教師や会員たちに紹介してください。
- あなたの伝道部において教える人々を見つける最善の方法について、神権指導者と協議してください。
- 伝道部の求道者に対してあなたが話すことのできる、宣教師のためのファイヤサイドを計画してください。友人を連れて来ることのできる会員も参加できるように地元の神権指導者と調整します。ファイヤサイドの中で、あなたの話の前に、最近改宗した人から証と改宗談を分かち合ってもらいます。あなたは回復のメッセージを中心に話してください。
- 宣教師にあなたの4代系図表を紹介して、見つける活動の中で活用する方法を説明してください。
- 時々、教える人々を見つける宣教師に同行してください。



教える技術を向上させるには どうしたらよいでしょうか

メモ

深く考えましょう

- 聖文から教えるにはどうすればよいでしょうか。
- 教えるときになぜ質問をする必要があるのでしょうか。
- どのような質問をすべきでしょうか。
- 教える人々や御霊の^{みたま}声によく耳を傾けるにはどうすればよいでしょうか。
- 人々が問題を解決できるよう助けるにはどうすればよいでしょうか。
- どうすれば悪い習慣や常習癖を克服するように人々を助けることができるのでしょうか。

あなたは、あなたを受け入れるできるだけ多くの人々に、回復された福音を教えるために召されています。あなたの行動はすべて教えることが中心となっています。キリストのような特質を伸ばし、求道者に教えるレッスンを研究し、伝道地の言語で話す能力を向上させ、また説得力をもって教えるために御霊^{みたま}に頼ります。主は約束を伴う一つの戒めとして非常に簡潔にこのことを述べておられます。

「わたしの言葉を告げようとしないうで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊^{みたま}とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11：21)

「また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84：85)

大管長会と十二使徒定員会は次のように言明しています。「わたしたちの目的は、宣教師と教える人々がともに御霊^{みたま}に導かれるような方法によって、回復された福音のメッセージを教えることである。〔宣教師のレッスン〕を学ぶことは必要不可欠であるが、暗記したことをそのまま教えるてはならない。御霊によって促されたときに、宣教師はためらわずに自分の言葉で話すべきである。暗記した言葉をそのまま言うのではなく、心を込めて自分の言葉で話す。レッスンの順序から離れて、求道者の関心と必要に応じて、御霊に導かれるままに進めてもよい。自分自身の確信とともに自分の言葉で話し、教えていることが真実であることを証する。」(「伝道活動に関す

る声明」大管長会からの手紙、2002年12月11日付)

何を話し、何をなすべきかを知るために御霊に頼ることを学んでください。本章の教授技術を研究し、応用し、活用することによって、あなたはいつそう優れた、主の手に使われる者となることでしょう。培ってきた知識と技術を使って、いつそう力強く教えられるよう、御霊はあなたを助けてくれます。あなたの教え方の質と力は、回復されたメッセージが大切であることを人々に理解させ、感じさせることに影響を与えます。また、あなた自身がふさわしいかどうかが人々の理解に影響を与えます。さらに、福音をどのように説明するか、どれほど人々に気持ちを集中させているか、福音をどれほど巧みに説明し、聖文を使い、証を分かち合い、質問し、決意をしてそれを貫くよう勧めるかということも、人々の理解に影響を及ぼします。

御霊に従う

「この業において最も大切な要素は御霊です。御霊によってあなたの召しを尊んで大いなるものとするならば、あなたは伝道地において、主のために奇跡を行うことができます。御霊の助けがなければ、あなたにどれほど多くの才能や能力があったとしても、決して成功することはできません。」(エズラ・タフト・ベンソン、新任伝道部会長セミナー、1986年6月25日)

御霊を招く

教えるときに御霊を招くために、以下の提案を活用することができます。

- 祈る。
- 経験を分かち合う。
- 聖文を活用する。
- 主と人々に対して愛を示す。
- 証を述べる。

レッスンを始める方法

求道者と出会ってから最初の数分間が非常に大切です。求道者からの信頼を得なければなりません。相手を尊敬する気持ちを表し、温かみのある、誠実な態度で最初の訪問を行います。相手の宗教的背景、あなたの訪問に対して寄せている期待を理解するために、幾つかの簡単な質問をします。例えばこのように質問します。「あなたの生活の中で宗教はどのような役割を果たしていますか。」しかし、相手に不快感を与えるような個人的な質問は避けます。

始める前に、その場にいる全員がレッスンに参加するよう求めます。主の御霊を妨げることのないように、テレビを消し、そのほか障害になるものを片付けるようお願いします。

毎回のレッスンは祈りによって始め、祈りによって終えることを説明します。あなたが開会の祈りをささげることが申し出てください。あなたの教える人々が生活のあらゆる面で主の祝福を受け、特にあなたの教えることが真理であることを感じられるように、簡潔ながら、熱心な祈りをささげます。

求道者に対して心からの関心と愛を示し、改宗をもたらす福音の力に対して信仰を表します(モロナイ7:43-48参照)。御霊に導かれるままに、あなたが求道者に対して抱いている以下のような思いを話すとよいでしょう。

- 神はわたしたちの天の御父なので、わたしたちは皆兄弟姉妹です。わたしたちはあなたを兄弟、姉妹と呼びたいと思います。
- わたしたちが教える人々はそれぞれに問題や心配事を持っています。あなたがどのような必要や心配事を抱えていても、救い主はあなたを助けてくださり、その教えである福音はあなたを力づけてくれます。
- わたしたちのメッセージは、あなたの生活を質的に向上させ、だれもが生活の中で直面する問題やチャレンジに対処するための助けを与えてくれます。
- イエス・キリストを中心とするわたしたちのメッセージには大きな価値があり、非常に大切です。

- わたしたちは皆、生活の中で過ちを犯します。そしてこれらの過ちは罪悪感と羞恥心しゅうちしんをもたらします。このような気持ちを取り除くには、悔い改めて赦しゆるを受けなければなりません。キリストの贖あがないを通して完全な癒しいやを受けることができます。
- わたしたちのメッセージは一度聞いただけですべてを学び取ることはできません。祈り、研究し、経験し、神の戒めを守ることによって徐々に理解を深めていくことができます。
- すべての人と同様に、わたしたちにも弱点があります。言葉を上手に話せなかったり、すべての質問に答えられなかったりすることがあるかもしれません。しかし、わたしたちは、知っていることを分かち合うよう、神の預言者から召されています。わたしたちはメッセージが真実であることを知っています。
- メッセージが真実であることを自分で知っていただくために、わたしたちは案内役を務めているのです。メッセージを受け入れて、実行するかどうかを決めるのはあなたです。ですから、分からないことがあれば自由に質問してください。
- わたしたちのメッセージを理解しようと誠心誠意努力するときに、チャレンジに出遭うことがあるかもしれません。しかし神はあなたを助けてくださいます。
- あなたは、わたしたちのメッセージを受け入れるとき、神と聖約を交わす、つまり約束する方法を学びます。神の教えに従って生活するためにはどのような変化を遂げる必要があるかを学ぶのです。あなたはイエス・キリストの教えに従って、正しい権能を持つ人からバプテスマを受けたいと思うようになることでしょう（ヨハネ3：5参照）。

レッスンで教義を教える前に、これから教える事柄の簡単な概要を説明するとよいでしょう。求道者自身と直接関係のある事柄だということを理解してもらうことが大切です。あなたが教える求道者の多くは、すでに主によって準備されています（アルマ16：16-17参照）。最初の集会で霊的な経験を分かち合うことによって、あなたが主しもべの僕であることを知ってもらうことができます。

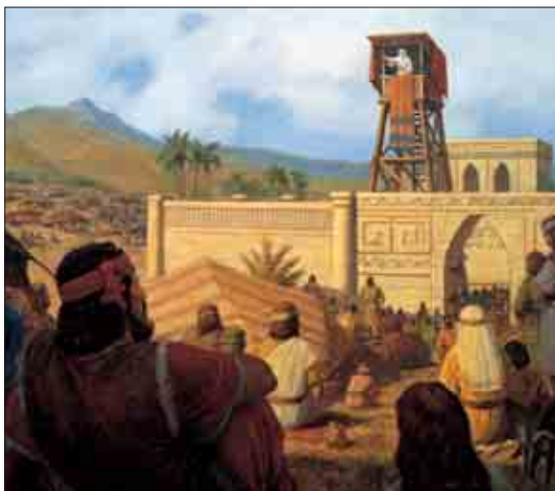
活動—同僚との勉強会

これらの提案を使って、レッスンを始める様々な方法を同僚と一緒に練習してください。

相手の必要を満たせるよう、教え方を調整する

あなたが教える個人や家族はそれぞれに異なっています。彼らの関心、成し遂げてきたこと、必要、問題をすべては理解できないとしても、彼らが置かれている状況に配慮するよう心がけなければなりません。どのような必要や問題を抱えているのであれ、だれでも福音を受け入れ、従うことによって最善の助けが得られます。あなたは御霊みたまの促しに耳を傾けるならば、教え方を調整することができます。

求道者の関心と必要に合わせるよう導きを受けたときは、レッスンの順序を変えることができます。一つのレッスンに含まれる原則を1回の集会では教えられないことがあるかもしれませんが、二つのレッスンの内容を1回の集会で教えられることがあるかもしれません。天の御父は御自身の子供たちをよく御存じです。ですから、教える際のこれらの判断については導きに従ってください。識別の賜物たまものを祈り求め、何を教えるべきかについて浮かんでくる考えやアイデア、感じる気持ちに注意を払ってください。



求道者にとって守りにくい決意事項に、より多くの関心を寄せるため、レッスンを調整する必要性を感じるかもしれません。例えば、ある人はモルモン書が真実であることを容易に受け入れませんが、聖書以外の聖典を受け入れにくい人もいます。たばこをやめることに問題があるものの、^{じゅうぶん} 十分の一の律法は容易に受け入れられる人もいます。

特定の教義をいつ教えるかを計画する際に、与えようとしている新しい情報の量にも配慮する必要があります。求道者一人一人に合ったペースで教えます。進歩する速度は人によって違います。伝えようとする教義を求道者一人一人がどれほどの速度で、またどれほどよく学んでいるかをあなたがきちんと把握できるように、十分に質問し、答えによく耳を傾けてください。

時間的な制約に配慮してください。ほとんどの場合、レッスンの時間は45分を超えてはなりません。レッスンの時間は、必要に応じて15分から20分で終わらせることができます。もし求道者にあなたと会う時間が15分しかなければ、その制約を尊重して、レッスンを調整してください。

「あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間に」あなたがたに授けるという御霊の約束を信頼してください（教義と聖約100：6）。

活動—個人学習

仮に、あなたが道を歩いているとき、一人の老人が重そうなごみ袋を手にして、ごみ収集箱に入れられずに苦心している様子に気づいたとします。あなたが同僚と一緒に手伝ったところ、その老人はあなたが何をしている人かと尋ねました。しばらく話をしてから、彼はあなたを自宅に迎えて、メッセージを聞いてくれることになりました。話を始めたとき、彼は、次のようなことを打ち明けました。

- 彼は妻を1年前に亡くし、とても寂しい思いをしています。
- 彼は心臓の状態が良くないため、すぐに疲れます。
- 神の存在について以前よりも強い関心を持っています。

あなたはこの老人にどのようなことを教えるでしょうか。彼の必要と問題に合わせるためにレッスンをどのように調整することができるでしょうか。

聖文研究

「それぞれの者に必要な部分」が授けられるとはどのような意味でしょうか。

アルマ29：8 教義と聖約84：85

主は忠実な宣教師に何を約束しておられるでしょうか。

教義と聖約68：2-4 教義と聖約100：5-8 マタイ10：19-20

同僚と一致して教える

主は「あなたがたはわたしの御霊の力をもって出て行き、二人ずつ組んで……わたしの福音を宣べ伝え」るやうにと命じておられます（教義と聖約42：6）。もしあなたと同僚が一致して働くなら、その教えはより力強く、興味深いものとなります。毎日計画を立て、勉強するとき、二人が一致し、同じ方向性をもって教えるための方法について話し合ってください。

あなたと同僚がレッスンを短い部分に区切って交代で担当するなら、教えはもっと力強いものとなります。レッスンの提示が機械的



ならないように注意してください。同僚が証^{あかし}する真理に対して、第二の証人となることにより同僚を支持してください。何かを言うように御霊の促しを受けたら、それに従います。御霊の導きを妨げることのないように、同僚として互いに譲り合うことが大切です。話すときは求道者の目を見て話してください。話していないときは同僚のために祈り、求道者の反応を注意深く観察します。

聖文研究

同僚同士はどのように支持し合えばよいでしょうか。

アルマ12：1

教義と聖約42：6

教義と聖約52：9-10

教えるときに会員の助けを求める

可能であれば、会員にレッスンを手伝ってもらいます。最近の改宗者が望ましいでしょう。求道者と同じ宗教に所属していたことのある教会員が出席できれば理想的です。会員にレッスンの内容のコピーを見せて、教えてほしい事柄について話し合います。どうすれば力を合わせられるかについて話し合ってください。例えば、適切であれば、レッスンで採り上げている原則を会員がどのように学び、受け入れ、それに従うことができたか話してもらいます。また、教会に入ることをどのようにして決意したかについて話してもらおうとよいでしょう。教える過程に会員を参加させることによって、伝道活動の喜びを感じてもらうことができます。また、求道者に友達を与えることにもなります。トーマス・S・モンソン管長はこのように教えています。

求道者はレッスンを受けているとき、最近バプテスマを受けて会員になった夫婦の証^{あかし}の持つ力によって強められることがあります。オンタリオとケベックを管轄するカナダ伝道部に住んでいたことです。わたしは当時その伝道部を管理していました。住民の大部分は三大宗派に所属していることが分かりました。ローマカトリック教会と英国国教会（聖公会）、それにカナダ合同教会でした。わたしたちは伝道部内のすべての都市で、これらの三大宗派から改宗してバプテスマを受けた家族が、求道者を教えている宣教師を手伝えるように手配しました。そしてこれらの会員は、宣教師の2回目か3回目の訪問に夫婦で同行しました。

例えば、ある宣教師がカナダ合同教会からの求道者に教えていました。そのようなときに、カナダ合同教会出身のウィリアム・ストーンマン兄弟姉妹が持っている力強い証^{あかし}を活用できたのは、どれほどありがたいことだったのでしょうか。印刷業を営んでいるストーンマン兄弟はこう言いました。『末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったとき、わたしはカナダ合同教会の印刷物を一手に引き受けていました。わたしは仕事を失いました。しかしもっと良い仕事が見つかりました。それ以上に大切だったのは、永遠の真理を見いだしたことです。きっとあなたも何とかあります。わたしがしたように決心してください。ところで、日曜の朝、わたしたちがお迎えにあがりますから、教会で一緒に座りましょう。そこでゆっくりと会員の話を聞いて、御自分で感じ取ってください。わたしたちはそばにいますから。』

アンソニー・ベルフィグリオ、エディス・ベルフィグリオ夫妻はローマカトリック教会に所属する求道者のフェローシップを担当しました。同じ結果がもたらされました。そのようなことが実際に起こるのです。こうして改宗した人々は教会に活発です。さらに、この割り当てを果たした夫婦は自分たちも福音という豊かな土壌にさらにしっかりと根を張ることができたのです。ストーンマン兄弟とベルフィグリオ兄弟はともに、祝福師に聖任されました。このように宣教師と会員たちが特別な方法で力を結集させることによって、大勢の改宗者を教会に迎えることができたのです（宣教師訓練衛星放送、2003年4月25日）。

活動—個人学習

ある家族にとって初めてのレッスンを会員の家で教える約束ができていると仮定してください。以下の会員に手伝ってもらいながら教えるには、どのような準備をしたらよいか考えてください。

- 伝道から最近帰還したワード宣教師
- 祭司
- 最近改宗した人
- ビショップ

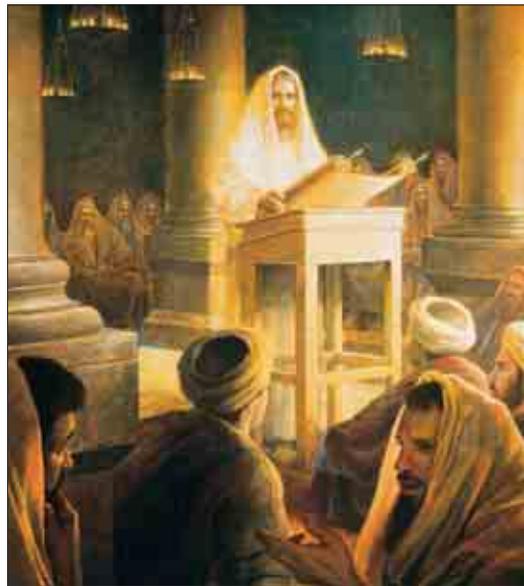
聖文を活用する

回復されたイエス・キリストの福音を教える際に基本となる資料は、教会の標準聖典です。生ける預言者の言葉も活用することができます。レッスンの基盤として聖文を用いることが大切な理由はたくさんあります。例えば、次のようなことが挙げられます。

主と主の預言者はわたしたちにそうするよう指示しておられます（教義と聖約42：12，56－58；71：1参照）。末日の預言者は次のように勧告しました。「わたしたちは主がモルモン書の中で示された言葉や方法を基に、……福音の原則を教えなければなりません。」（エズラ・タフト・ベンソン「モルモン経と教義と聖約」『聖徒の道』1987年7月号，95）

- 聖文はあなたの教えの中に聖霊を招きます。聖文は神の言葉を力強く教えています（アルマ31：5参照）。
- 聖文は人生の重要な問題について答えています（2ニーファイ32：3；モルモン書ヤコブ2：8参照）。
- 聖文は、キリスト教の背景を持たない地域の人々に対してもあなたの教えに権威と正当性を与えてくれます。

聖文を使って力強く教えられるかどうかは、おもに、あなたがどれほどの時間を聖典の研究に注ぎ込んでいるかに懸かっています。毎日聖文の言葉をよく味わっているならば、聖文を使って教える力は増し加えられます。さらに、聖典を研究し、深く考えるように勧めるあなたの言葉に力強さが加わってきます。なぜならば、あなたはそれを生活の中で実行しているからです。聖典、特にモルモン書が、明らかにされている真理の源であることについて信仰を持てるよう人々を助けてください。人々が聖典を信じるようになれば、教義を正しく理解できるよう助けるのはもっと容易になります。以下の提案を参考にしてください。



© Greg K. Olsen. 複写は許されています。

聖句を紹介する。採り上げる聖句の背景と前後関係を簡単に説明してください。求道者に聖句の中から要点を見つけてもらうようにします。求道者が聖典について限られた理解しか持っていなければ、求道者に理解できる言葉を使って聖句の内容を説明することから始める必要があるかもしれません。聖句を紹介する方法を以下に例を挙げて説明します。

- 「ジョセフが祈るために森に入ったときの出来事について、自ら述べた言葉がジョセフ・スミスの歴史の中に記されています。ジョセフはこのように語りました。『わたしは自分の真上に、……光の柱を見た。』」

- 「預言者アルマはこの節の中で、神の言葉に対して信仰を行使するよう貧しい人々に教えています。アルマは神の言葉を、わたしたちの心に植えることのできる種にたとえています。……節から読んでくださいますか。」

聖句を読む。あなたが声を出して聖句を読むか、求道者に声を出して読んでもらいます。読むことがあまり得意でない人には配慮が必要です。聖句が難解であれば、ゆっくりと一緒に読んで、難しい箇所を理解できるように助けます。あるいは、求道者には簡単な聖句を読んでもらいます。また、難解な語句については意味を説明してください。

- 「その人は、とがめもせず〔『とがめもせず』とは、神は非難したり、あら捜しをしたりしないという意味です〕惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」（ヤコブの手紙1：5）

ある聖句は明確で、説明の必要がありません。そうでない聖句については、読んだ箇所を説明する時間を取ってください。

聖文を応用する。原則が現在の状況とどのような関連を持っているかを説明することによって、聖文を自分と求道者に「当てはめて」ください（1ニーファイ19：23参照）。求道者に生活の中で原則をどのように応用できるかを示します。彼らはそうすることによって、教えが正しいことを知るようになるのです。原則について証^{あかし}を述べ、祝福を約束してください。例えば、次のように話します。

- 「アルマの民はあなたと同じように、大きな重荷を背負っていました。それは耐えられないほどの重荷でした。しかし信仰を行使して『神に熱烈に叫び求めた』ため、神は人々を強めて、彼らがチャレンジに耐え、試練から逃れることができるようにしてくださいました。神はこれらの人々になさったと同じように、あなたが……するときに、試練から助け出してくださいます。」
- 「アルマがモルモンの泉で人々に与えた教えは、今日^{こんにち}でも応用することができます。佐藤さん、あなたは進んで、……してくださいますか。」

あなたが教える人々が、神聖な書物に対してどのような考えを持っているか、聖書にどれほど親しんでいるか、聖典の言葉をどれほどよく理解しているか、聖典に神の言葉が記されていることをどれほど深く信じているかは、人によって大きく異なります。すべての求道者が聖文の持つ真の価値を理解できるように助けてください。レッスンの中で聖文を効果的に使うことによって、求道者に自分で聖文を研究し始めるきっかけを与えることができます。訪問を終える度に、課題として特定の章や節を読むことを提案してください。読んでいるときに、考えてほしい質問を与えてもよいでしょう。次回の集会ではその質問について話し合います。このようにすれば、家庭で日々聖文を研究し、また聖文を使う教会の集会やクラスに参加するよう奨励することができます。

聖典の文化的側面

ほとんどの宗教は神聖な書物、つまり聖典を持っていますが、その使い方、認識は、わたしたち教会員が聖典に対して持っている見解と異なっている場合があります。例えば、聖典に印を付けるのは聖文の教えを理解して応用したいと思っていることの証^{あかし}であって、軽んじている証拠ではないことを説明する必要があるかもしれません。標準聖典が大切なのは神の預言者によって記された神の言葉が収められているからであること、また、わたしたちが標準聖典を真理として受け入れていることを、求道者が理解できるよう助けてください。

活動—同僚との勉強会

以下の聖句から一つを読み、次のそれぞれの方法について考えてください。

- 聖句を紹介する。
- 背景と前後関係を説明する。
- 聖句を読んで、その意味を説明する。
- 難解な語句を説明する。
- 求道者が生活の中でその聖句を応用できるように助ける。

モルモン書のタイトルページ；3ニーファイ11章；モロナイ10：3-8；ヨハネ17：3；ローマ8：16-17；1コリント15：29；ヤコブの手紙1：5；1ペテロ3：19-20；アモス3：7

聖文研究

聖文から教えることはなぜ大切なのでしょう。

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1 ニーファイ 19：23 | 教義と聖約 20：7-12 | 2 テモテ 3：15-17 |
| 2 ニーファイ 4：15-16 | | |

理解できるように教える

福音の回復のメッセージを理解すれば、人々はこのメッセージをいっそう信じやすくなります。ジェームズ・E・ファウスト管長は次のように述べました。「聖文、特にモルモン書と新約聖書を学び、深く考え、教えてください。はっきりと伝えられるように、真理に精通してください。B・H・ロバーツ長老はこのように記しました。『真理を知らせるには、^の宣べ伝えなければならない。より明確に、より完全に伝えることができれば、聖なる^{みたま}御霊が人の心にこの業の^{あかし}真実性を証されるのに、いっそう好都合である。』〔New Witnesses for God, 全3巻（1909年）、第2巻、vii〕自分自身が改宗せずに人々を改宗させることはできません。」「伝道に出る前に息子に知ってほしいこと」『聖徒の道』1996年7月号、49)

あなたは教えるときに聖文に基づいて論じ、解き明かすよう命じられています（教義と聖約68：1参照）。解き明かすとは詳しく述べ、はっきりと説明することです。福音を解き明かすとは、語るべきことを御霊に導かれながら、教義と聖文の意味を簡潔明瞭に説明することです。人々が教義の原則を理解できるように、威厳を保ちながらも親しみを込めた口調で説明してください。人々が原則について考えるよう促すため、また教わったことを理解し、受け入れているかどうかを確かめるために質問します。

第3章のレッスン3までの各末尾には、主要な言葉の定義のリストがあります。理解できるように教えることには、人々があなたの話をもっとよく理解できるように、語句や考えを確実に説明することが含まれます。以下の方法によって福音を説明する能力を高めることができます。

- 自分が使う言葉についてよく理解する。
- 人々が理解できないかもしれない言葉を定義します。教会員にとって特別な意味を持つ言葉は『聖句ガイド』と『真理を守る』の中で定義されています。
- 次のような質問をします。「……の意味が分かりますか。」または「今お話ししたことを自分の言葉で言い換えてくださいますか。」

「人にとってまことの英知とは、
奥義や大いなるテーマを
採り上げて、
子供が理解できるように
それを展開し、
単純に表現することです。」

—ジョン・テラー大管長
The Gospel Kingdom,
G・ホーマー・ダラム選（1943年）、270

第3章の教義を研究するとき、求道者に理解しにくいと思われる言葉を見つけるようにします。第3章の教義を教えるときに、求道者が理解できなかった語句や概念をメモしておきます。上記の資料を使ってそれらの言葉の定義を確認します。求道者や最近の改宗者にあなたの定義が理解できるかどうか確かめてください。

聖文研究

なぜ教義を注意深く解き明かし、説明する必要があるのでしょうか。

モーサヤ8：3

アルマ12：1

教義と聖約68：1-5

モーサヤ27：35

3ニーファイ26：1

教義と聖約71：1

わたしたちはどのようにして学んでいくのでしょうか。順を追って情報を示していくことはなぜ大切なのでしょうか。

2ニーファイ28：30

モーサヤ2：9

教義と聖約98：11-12

モルモン書ヤコブ4：13

なぜ分かりやすいことは大切なのでしょうか。

2ニーファイ25：4, 7, 28

アルマ13：23

ネヘミヤ8：8

2ニーファイ32：7

神はどのようにして御自身の子供たちに御心みこころをお伝えになるのでしょうか。

2ニーファイ31：3

教義と聖約1：24

質問する

イエス・キリストは、原則について人々に深く考えさせ、応用させるためにしばしば質問を投げかけられました。主の質問は熟考し、内省し、決意するよう促すものでした。

優れた質問は、人々の関心や心配事、疑問を理解するうえで役立ちます。質問を適切に用いることによって、レッスンの深みを増し、御霊みたまを招き、求道者の学習を助けることができます。

これに対して質問の用い方を間違えると、求道者をおじけづかせ、いらいらさせ、また彼らの気分を害することになります。不適切な質問は、教え学ぶ環境を収拾のつかないものにしてしまいます。以下のような質問をしてください。



- 簡潔で理解しやすい。
- あなたの教えている事柄について人々に考えさせる。
- 求道者が、あなたが教えていることをよく理解しているかどうかを見極める。
- 学んでいることを応用できるようにする。

このような質問を使って教えるとき、求道者は心を開いて話せると感じます。優れた質問をすることによって、求道者は理解できないとき、心配事があるとき、どうすべきかを知りたいときにあなたに尋ねるようになります。また、求道者は自分の気持ちを打ち明けようになり、それによって自分の証あかしが強くなっていることに気づきます。効果的な質問には、次のようなものがあります。

メモ

- これまで学んできたことの中で何か質問がありますか。
- あなたは天の御父から愛されていると思いますか。どうしてそう感じるのですか。
- わたしたちはどうしてこの物語の人々のように時々同じ間違いを犯してしまうのでしょうか。

相手が質問に答えられるように、このような言葉をかけるとよいでしょう。「これまで安息日を聖くすることの大切さを説明してきました。そこで『この戒めはわたしにとってどのような意味があるだろうか』と自問してみてください。」しかし、次のような質問は避けてください。

- 複数の概念を含んでいる。
- まだ教えていない教義に関連している。
- 明確な目的がない。
- 不必要に尋問調で、詮索がましい。

特に初めての訪問であり多くの質問をすると「尋問」しているような印象を相手に与えます。大切でないことや明らかに細かすぎることに限定的な答えを求めるような質問はしないでください。このような質問は、教えるための適切な状況を単なるなぞ解きゲームの場にしてしまいます。特定の答えを求める場合は、事実に基づいた質問をするか、ほかの方法で情報を提示するようにするとよいでしょう。答えを知らなかった場合に、相手が恥ずかしい思いをするような質問をしてはなりません。大切な原則を教え、証した後に質問するのが最も有効です。以下に挙げるのは効果的でない質問の例です。

- 最初の預言者はだれでしたか。(神権時代について教える前に質問した場合。)
- 御霊を受けるために、また神の預言者に進んで従うことを表すために、体を清い状態に保つことはどのように助けになるのでしょうか。(複数の概念を質問している。)
- 神の戒めについて知ることは大切でしょうか。(「はい」か「いいえ」で答えられる質問であり、答えがあまりにも明白である。)
- モルモン書についてどう思いますか。(相手が読む前にこの質問をした場合。)
- 神を身近に感じるために、日常生活の中でどのようなことができるのでしょうか。(「祈り」という具体的な答えを求める場合にはあいまいな質問である。)
- ノアの次の預言者はだれでしたか。(推測を求めている。)

御霊に導かれるままに質問することを学んでください。適切なきに適切な質問をすることは、福音を学び、御霊を感じることを教えるうえで大きな助けになります。これに対して、不適切な質問をしたり、不適切なきに質問したりすることは学習の妨げとなります。適切なきに適切な質問をするには、あなたが御霊に波長を合わせ、教えている人々の話に耳を傾け、教えている間集中していなければなりません。効果的に教えることは大変な仕事であり、そのためにあなたと同僚は集中し、努力しなければなりません。



活動—個人学習または同僚との勉強会

求道者が以下の状況に直面していて、あなたがそのことに気づかないとしたら、求道者の進歩にどのような影響を与えるでしょうか。

- 霊的な事柄をいつも笑いものにする同僚が職場にいる。
- 家族がほかの宗教で熱心に活動している。
- モルモンは非キリスト教のカルト宗教だと信じている友人がいる。
- モルモン書を読んで霊的な経験をしている。

上記の状況をもっと詳しく知るためにどのような質問をしたらよいかを考えてください。質問事項を学習帳に書き出します。この活動で書き出した質問をどうしたらもっと改善できるかについて、同僚と話し合ってください。

耳を傾ける

人々の話に注意して耳を傾けるときに、その人々をよく理解することができます。彼らは自分の考えや気持ちが大切にされていることが分かると、あなたの教えを受け入れようとする気持ちになり、個人的な経験を話し、決意事項を受け入れようとするものです。あなたは耳を傾けることによって、レッスンを彼らの必要と関心に合わせて効果的に教えることができます。

特に御霊^{みたま}のささやきに耳を傾けてください。人々から気持ちを打ち明けられているときに、御霊によって導かれた思いや考えがあなたの心に入り込んで来るかもしれません。また、人々が言おうとしていることを理解することができます。

ほかの人が話しているときに、自分が次に話す事柄について考える傾向を避けてください。相手の話に集中するようにし、返答の仕方をあれこれ考えることのないようにします。ジェフリー・R・ホランド長老はこのように教えました。「話すことよりも大切なのは聞くことでしょう。これらの人々はバプテスマの統計のためにいるのではありません。彼らは神の子供であり、わたしたちの兄弟姉妹であり、福音を必要としている人々なのです。誠実に接してください。心から手を差し伸べてください。この友人たちに、彼らが最も関心を持っていることについて尋ねてください。彼らが最も大切にしているものについて尋ねてください。それから、耳を傾けてください。適切であれば、恐れていることや切に望んでいること、生活の中で欠けていると感じているものについて尋ねてもよいかもしれません。お約束します。彼らの話す事柄に耳を傾けるうちに、皆さんが証^{あかし}を伝えたり、もっと分かち合ったりすることのできる福音の真理が、常に、浮き彫りになることでしょう。……わたしたちが愛をもって耳を傾けるなら、何を言うべきか悩む必要はありません。御霊^{みたま}、そして友人自らが、語るべき言葉を教えてくれることでしょう。」（「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号、16。強調部分は原文のまま）

人々は座り方、顔の表情、手のしぐさ、声の調子、目の動きによっても意思を伝えます。これらの無言のメッセージを観察してください。あなたが教えている人々の気持ちを理解する助けとなります。また、あなたの身ぶりが伝える言葉（ボディランゲージ）にも配慮してください。心から耳を傾けることによって、関心と熱意のメッセージを送ってください。

沈黙を恐れてはなりません。人々は質問と答えについて考え、自分の気持ちを表現するために時間を必要とする場合があります。質問をしたり、霊的な経験を分かち合ったりした後、あるいは人々が自分の気持ちをうまく表現できないときには、少し間を取ります。あなたが次の言葉を話す前に、相手に考えをまとめる時間を与えてください。相手が話しているときに、話の腰を折るようなことをしてはなりません。

相手の話を理解したと感じたら、「つまりあなたのおっしゃることは……ですね」あるいは「あなたは……と感じているということでしょうか」などと、あなたが理解していることを表す言葉を述べます。自分が理解できているかどうか不安であれば、分からない部分を説明してもらうようにします。

また、相手が会話を独占するために、回復された福音を教えられないことがあります。そのよ

うな状況を上手にコントロールするすべを身に付ける必要があります。例えば、「あなたのご意見に感謝していますが、その件については後で話し合うことにしましょう。別の訪問の機会にそのことに触れるのを忘れないように、同僚に書き留めておいてもらいます。」イエス・キリストの福音を教えることが彼らにとっていちばんの助けになることを忘れてはなりません。

注意深く耳を傾けていると、御霊^{みたま}があなたの言うべきことを知らせてくれます。耳を傾けるには努力と集中力が必要です。一人の宣教師は次のような経験を紹介しています（以下、仮名を使用）。

わたしは同僚とともにサンチェス家族を教えていました。室内がとても暑かったのに加えて、子供たちがひどく騒いでいました。わたしはサンチェス姉妹にモルモン書を読んでいるかどうか尋ねました。彼女が説明し始めたとき、男の子が同僚のノートをつかむと、手にかざして部屋中を走り出しました。わたしはサンチェス姉妹に視線を向けていましたが、うわのそらでした。考えていたのは「とても暑い。あの子が静かにしてくれないかな。これではレッスンができやしない」ということでした。そのようなことを考えている間にふと気がつく、サンチェス姉妹は何とかして話そうとしていました。わたしは、耳を傾けなさいという静かな促しを心に感じました。暑さと騒音から心を切り離すよう努力し、話そうとしているサンチェス姉妹の顔に注目しました。彼女はうつむいていました。そしてわたしと同僚に目を向けました。御主人は子供たちを静かにさせるのに手を焼いていました。しばらく間を置いてから、彼女は声を震わせながら言いました。「あなた方から言われたことを実行してみました。言われた聖句を読んで祈ったのです。」再び口を閉ざすと、うつむいてしまいました。子供たちをちらっと見てから、わたしと目を合わせました。そして、「答えを受けました」と目に涙を浮かべてほほえみながら言いました。「それは真実です。確かに真実です。」御霊^{みたま}が部屋中にあふれました。わたしは耳を傾けたことを心から感謝しながら、「はい、そのとおりなのです」と言いました。

活動—個人学習または同僚との勉強会

上記の物語を読んでから、以下の質問の答えを学習帳に書き留めるか、同僚と話し合ってください。

- もしこの宣教師が自分の個人的な感情や同僚のノートにこのまま心を向けていたとしたら、どのようなことになっていたでしょうか。
- この求道者は宣教師が耳を傾けたためにどのような祝福を受けたでしょうか。

以下の質問に答えてください。

A=そのようにしたことがない B=時々そのようにしている
C=たいていそうしている D=常にそうしている

- わたしはほかの人と話しているとき、注意して耳を傾けるよりも、自分にも話すことのできる同じような経験はないか考えています。
- わたしは人々の考えを聞いているとき、自分だったらどう感じただろうかと考えるように努力しています。
- 求道者に教えているとき、次に何を言うべきか、何を教えるべきかとあれこれ考えています。
- 求道者が長話を始めると、うんざりしてしまいます。
- わたしに向かって話そうとしていることに、ついていけなかったり、理解できなかったりすることがあります。
- 同僚が教えている間、よくほかのことを考えてしまいます。
- だれかがわたしに話しかけているときに、ほかの人が割って入ったり、わたしの注意をそらせたりすると、憤りを感じます。
- 何かを言ったり、行^{おこな}ったりするよう霊的な導きを受けたにもかかわらず、無視してしまうことがあります。

耳を傾ける力を伸ばすために何ができるかを考えてください。

求道者と良い関係を築く

当惑するのを避けるため、ある人々はほんとうの気持ちを伝える代わりに、彼らが考えるあなたの求めている答えを口にすることがあります。人々が自分の真意を打ち明けられるような関係を築くよう努めてください。

人々が問題を解決できるよう助ける

あなたが教えている人々の中には決意したことを貫くだけの信仰のない人、反対に遭っている人、あなたが話すことすべてを必ずしも受け入れていない人がいます。彼らは最終的に自分で選択しなければなりません。しかし、あなたは彼らの疑問に答え、問題を解決し、障害に打ち勝つよう助けるためにできる限りのことをしたいと考えることでしょう。

人々の問題を氷山にたとえることができる場合があります。水面上に見えるのはほんの一部にすぎません。複雑で解決が難しい問題もあります。そのため、あなたは御霊の導きに従い、また、状況に最も適した方法で対応する必要があります。識別の賜物を祈り求め、心に感じるものに従ってください。天の御父はあらゆる人の心と、経験していること（氷山全体）を御存じであり、その人にとって最もよいことをあなたに知らせてください。

問題を解決できるよう助けるには、まず質問し、耳を傾けることによって彼らの問題を理解しようと努めてください。彼らの問題を解決する方法が分かるように御霊に頼りましょう。例えば、バプテスマの必要性についての懸念に取り組むには、聖文を活用することができます。あるいは預言者ジョセフ・スミスに対するあなたの証を分かち合うこともできます。

多くの場合、問題となっているのは教義上のことよりも、人間関係の問題です。例えば、求道者は教会に入ったら家族の反対を受けることを恐れているかもしれません。あるいは職場の友人からの反対を恐れているかもしれません。どのようなことを心配しているとしても、求道者にはあなたの知らない心配の原因となっている過去の経験があったり、そのほかの影響を受けていたりすることがあります。多くの場合、彼らの問題を理解し、助けるために会員の力を借りることができます。

求道者が抱えている問題への対処の仕方は、その問題がどのような性質のものかによって異なります。求道者の心の葛藤が、福音の回復の真実性について霊的な確認を受けられないことに起因しているのか、真の原則に従って生活する決心がつかないためなのかを見極めてください。このような方法で問題の核心を理解することにより、証か決意事項のどちらに焦点を絞ったらよいかを知ることができます。

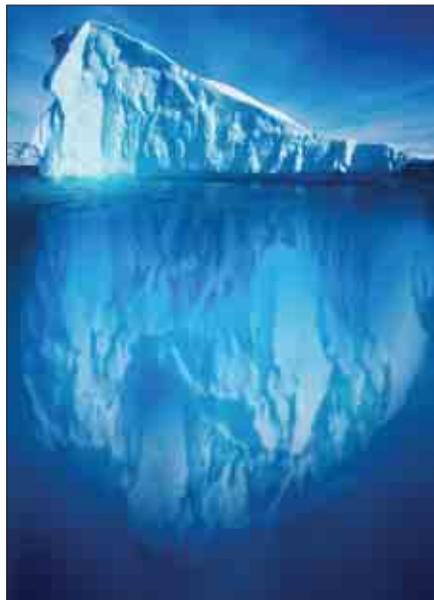
活動—同僚との勉強会

レッスンを教えるときに行う決意の勧めを一つ選びます。次に、その決意を受けたり、守ったりするうえで直面する問題を幾つか思い浮かべます。それらの問題を解決できるよう助ける方法について話し合い、対処方法を練習してください。

悔い改めと常習癖の克服

悔い改めは霊的な変化の過程であって、そこには謙遜^{けんそん}、告白、償い、罪から遠ざかることが含まれます。それは思いと行動を永久に変えることです。特定の罪を一度悔い改めたら、その後は悔い改めを必要としないのが理想的です。しかし、もし再び同じ罪を繰り返してしまった場合、癒しを得る方法としての悔い改めが用意されています（モーサヤ26：30；モロナイ6：8；教義と聖約1：31-32参照）。

悔い改めるために、情緒と肉体の両面での変化を必要とする場合があります。現在も行われて



写真は禁じられていません。

いて、深く身に付いてしまった不適切な行動は、やめなければなりません。望ましくない行動を健全で適切な行動に切り替えなければならないのです。

このように、悔い改めと克服には時間を必要とすることがあります。改宗者がすばらしい意志を持ちながら、自己修養に向かって進歩していく過程で、誘惑に負けてしまうことがあります。そのような場合、誘惑を克服し、完全な悔い改めを行うために、新しい改宗者は、宣教師ではなく神権指導者の助けを仰ぐべきです。

人々はバプテスマと確認を通して、聖霊^{たまもの}の賜物を受けます。聖霊の賜物はこれらのチャレンジに打ち勝つ力を強めてくれます。しかしバプテスマと確認によって、これらの行為に付随する感情的、肉体的衝動は完全には払拭^{ふっしょく}されないかもしれません。最初の段階で、ある程度の成功^{いっせい}を取めたとしても、完全に悔い改めて克服するにはさらなる情緒的な癒しを必要とするかもしれません。

活動——個人学習または同僚との勉強会

- 常習癖を克服しようとしている求道者、最近の改宗者またはあまり活発でない会員を一人思い浮かべてください。
- 第3章の「イエス・キリストの福音」のレッスンから「イエス・キリストを信じる信仰」の項と「悔い改め」の項を復習します。
- この人が常習癖を克服できるよう助けるために、このレッスンまたは章からどのようなことを教えられますでしょうか。
- この人を助けるための計画を立ててください。

求道者と最近の改宗者が悔い改めと常習癖の克服について理解できるように助ける

あなたは、常習癖に関して質問や気にかかっていることについての回答を求められるかもしれません。あなたも、人々がこれらの懸念に関連する難しい問題の答えを見いだせるように彼らを助けたいと感じることでしょう。以下のアイデアを参考にしてください。

- 福音の持つ癒^{いや}しの力、特に贖^{あがな}いについての証^{あかし}を分かち合ってください（アルマ7：11-13参照）。
- 霊^{いや}の癒^{あかし}しという奇跡は神のみがなし得ることを証^{あかし}します（詩篇147：3参照）。
- 癒^{いや}しの賜物^{たまもの}は肉体と霊の両方に及ぼされることを説明します。

精神的な癒^{いや}しの過程にある人々を助けるには、以下のような基本的段階があります。

- 問題を明確にし、問題があることを認めます。これには細心の注意を払って、正直に自己診断を行う必要があります。
- その行為が有害であることを認めます。それは周りの人々に影響を及ぼすものであって、その行為を変える必要があります。
- へりくだり、悲しみを覚えます。
- 害を与えた人々に赦^{ゆる}しを求め、さらに自分で自分を赦すことを学びます。
- 常習的な行為をやめて、健全な事柄を実行し始めます。
- 忠実であり続けるように努力します。バプテスマの聖約を守り、奉仕を行い、聖霊の助けを求めて祈り、神の戒めを守る意欲を示します。



© 2000 Simon Dewey. 複製は禁じられています。

- 主は御自分の子供たちを、たとえ彼らが過ちを犯し、以前の常習癖に戻ったとしても、常に愛しておられることを理解します。悔い改めと回復への道は常に開かれています。

常習癖を克服するための計画

求道者や新会員、あまり活発でない会員から、常習癖を克服するためにはどうしたらよいか尋ねられるかもしれません。彼らは導きと助けを与えるあなたの力を信頼しています。以下の提案を参考にしてください。

- その行為の回数、場所、関係する人々についての概要を聞いてから、その内容について伴侶、ビショップ、ワード宣教師、または、そのほかの信頼できる友人とともに話し合います。本人が変化を遂げるため、あるいはそれら避けるために何を必要があるかを話し合います。
- その行為によって現在失っているもの、もし克服できなければ、その行為によって将来失うものを本人に書き出してもらいます。
- 不適切な行為を避けたり、抑制したりするうえで役立つ様々な事柄を本人に書き出してもらいます。これには、伴侶と話すこと、ビショップや友人に支援を求めること、運動すること、そのほか誘惑を避けるために役立つ活動などが挙げられます。
- 定期的に祈り、聖文を研究し、精神を高揚させる音楽を聴き、健全な書物を読むことを奨励します。
- 神権の祝福を受けることを勧めます。
- 活発に教会の集會に出席し続けることを奨励します。教会は問題を克服できるように、また進歩して主に近づけるように助けてくれる場所です。
- 適切な支援・自助グループに参加するか、専門の助けを受けます。地域によっては末日聖徒ファミリーサービス事務局から支援を受けることができます。
- 決してあきらめないように励まします。たとえ時間がかかっても、主は彼らを助けてくださいます。



活発な末日聖徒は、新会員の友人となることによって、彼らが活発であり続けるうえで何よりの手助けをすることができます。会員たちは温かく積極的な態度で求道者や新会員に手を差し伸べなければなりません。ほほえみをもって歓迎され、現在の状態について尋ねる誠意あふれる言葉をかけられ、集會の間会員たちが隣に座り、夕食や家庭の夕べに招かれるとき、求道者や新会員はそれらを好意的に受け止めます。

一部の求道者や改宗者は常習癖に戻ってしまうことがあります。しかし、神権指導者と会員たちは彼らがそのような問題を抱えていることを知ってもショックを受けたり、落胆したりしてはなりません。改宗者に対して信頼を示すべきであって、たとえ改宗者がかつての習慣に戻っていても裁くようなことをしてはなりません。それは理解できる一時的な後退であると考えてください。常習癖を持つ改宗者を非難しても、それは助けにならないどころか、落胆と失意、そして教会から遠ざかることへと追いやってしまうだけです。突然教会に来なくなった新会員は、かつての常習癖に戻ってしまって、ふさわしくない気持ちと落胆を感じているのかもしれません。すぐさま訪問して、励ましを与え、支援することにより、立ち直す手助けをすることができます。会員たちは言葉と行いによって改宗者を受け入れていることを示さなければならないのです（3ニーファイ18：32参照）。

常習癖の問題を克服するには、教会活動に活発であって、忠実に生活するよう努力することが最も大切です。

活動——個人学習

あなたの持っている癖をいくつか考えてください。関節を鳴らす、メガネの位置を直す、食べすぎる、寝起きが悪いなど、考えずにはばしば行っていることです。その癖を一度も行わずに一日を過ごすよう努力してください。成功したら、それを1週間続けてください。経験したことを同僚と話し合います。それから、たばこやアルコールなどの常習癖を克服することが求道者にとってどれほど大変なことかを想像してください。

何かを残してからレッスンを終える

訪問してレッスンを終えるとき、次回の集会の準備として求道者に読んで、深く考えてもらう資料を毎回渡してください。モルモン書から何章かを読む割り当てを与えてもよいでしょう。今回のレッスンで採り上げた事柄や次回の訪問で教える事柄についてのパンフレットを渡すか、そのほかの印刷物や視聴覚資料を渡すのもよいでしょう。インターネットを利用できるようであれば、www.mormon.org にアクセスしてみるよう勧めてください。必ず何かについて考え、思いを巡らし、祈るようチャレンジしてください。次の訪問の際、それを最初に話題にすることができます。

活動——同僚との勉強会

パンフレットや視聴覚資料を含めて求道者に渡すことのできる資料にはどのようなものがあるか検討します。求道者と分かち合うために入手する必要がある資料がほかにあるでしょうか。注文する必要がある品目をデイリープランナーに書き留めておきます。

今週教える予定の求道者一人一人について考えてください。それぞれの求道者にとってモルモン書のどの章が最も助けになるでしょうか。ほかに役立つ資料はないでしょうか。デイリープランナーの「メモ／行動リスト」に、各求道者に渡す予定の資料、次回の訪問で行う確認事項を記入します。

キリスト教の背景を持たない人々に回復された福音を教える

あなたが教える人々の中には天の御父とイエス・キリストを信じていない人や、キリスト教的な伝統のない人がいるかもしれません。しかしこれらの人々の多くは神聖しもべにしている信条や慣習、場所を持っているものです。あなたは神の僕しもべとして、彼らの宗教上の信条や伝統に敬意を払わなければなりません。それが何であれ、人々が大切にしているものに対して不敬な態度を執ってはなりません。

あなたはこれらの人々にどのような切り口から教えたらいいか戸惑うかもしれません。どのような生い立ちにかかわらず、神のすべての子供たちは改宗するためにイエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、悔い改めて、バプテスマと確認の儀式を受け、戒めを守り、奉仕を行うことによって最後まで堪え忍ばなければなりません。イエス・キリストを信じる信仰を築くための原則は、文化の違いを越えてあらゆる人に共通するものです。これらのことを心に留めておく助けになるでしょう。

人々が神を天の御父として正しく理解し、イエス・キリストを信じる信仰をはぐくむようにするには、神の特質について単に教えることよりも、個人的に霊的な経験をしてもらうことの方が有効です。例えば、人々に以下のような経験をしてもらうとき、天の御父についての正しい理解を与えることができます。

- 父なる神と御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたことについて霊的な確信を得る。
- 福音についてあなたが心を込めて伝える教えと証に耳を傾ける。その際、あなたはイエス・キリストに従っている理由も伝える。
- あなたや会員たちが素朴ながらも心からささげる祈りによって天の御父と話している様子にしばしば耳を傾ける。
- あなたの力強い証を聞く。
- あなたと一緒に、また個人として祈る。
- あなたが聖文を読み、話し合うときに、聖文に対するあなたの気持ちを感じ取る。
- 毎日聖典から神の言葉を読む（特にモルモン書）。
- 教会に出席して、わたしたちがどのように主を礼拝しているか見聞きする。
- 教会員と会って、彼らがどのようにして天の御父とイエス・キリストを信じるようになったかについて説明を受ける。
- 戒めを守る。

以上はあなたが教えるすべての人々にとって有益ですが、キリスト教の背景を持たない人々を教える際は必ず経験してもらう必要がある事柄です。彼らは過去にこのような経験をしたことがないと思われるからです。

キリスト教の慣習とは無縁の生活を送っていた多くの改宗者は、宣教師の話あまり理解していませんでしたが、御霊を感じて、宣教師から勧められたことを実行したいと思ったと報告しています。求道者が福音の教義を理解できるように、あなたは全力を尽くさなければなりません。人々が自分の心の奥底にある気持ちに気づき、それを表現するまでには多少の時間がかかるかもしれませんが、忍耐し、励ましてください。彼らの理解に応じて教えるペースや内容を調整する必要があるかもしれません。キリスト教の背景を持たない人々に教える準備をする際、以下の提案が役立つでしょう。

- 各レッスンについて簡単な概要を説明し、復習をします。
- 彼らが理解したこと、経験したことを話してもらいます。
- 基本的な言葉と原則について分かりやすい言葉で説明する時間を取ってください。あなたの使う言葉の多くは求道者にとってなじみが薄いかもしれないからです。
- 以前に教えたレッスンに戻って、教義をもっと分かりやすく教えます。教える過程で、このことは常に必要です。

メモ

聖典から引用する例

聖典には、神を信じていなかった人々や神の真の特質を誤解していた人々に教えた宣教師の例が記されています。以下の聖文を研究し、これらの宣教師が神の存在について人々にどのように証^{あかし}を得させたかを同僚に説明するか、学習帳に記録してください。

- アルマとアミュレク（アルマ9章－12章；15章）
- アンモンとアロン（アルマ17章－22章）
- アルマ（アルマ30章）
- アルマとほかの宣教師たち（アルマ31章－35章）
- パウロ（使徒17：16－34）

活動—同僚との勉強会

可能であれば、宣教師に会う以前はキリスト教の背景を持っていなかった改宗者を見つけます。その改宗者と会う手配をして、改宗の経緯を話してもらいます。例えば、どのようなことから神を信じるようになったか、最初に祈ったときのこと、祈りの答えを受けたと初めて感じたときのこと、改宗において聖文が果たした役割、日曜の礼拝行事に出席して感じたことなどを尋ねます。学んだ事柄を学習帳に書き留めておきます。

記憶にとどめましょう

- 人々は回復された福音を学び、福音に従うことによって、必要を満たすことができます。
- 同僚と一致し、同じ考えに基づいて教えるために、毎日計画を立て、研究しましょう。
- しばしば証^{あかし}を分かち合しましょう。
- 教える際に基本となる資料は聖典、特にモルモン書です。
- 本章に記されている技術を使うべきときが分かるように、識別の賜物^{たまもの}を祈り求めましょう。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 仮にあなたは以下の状況に置かれているとします。あなたは本章で学んだ原則と技術をどのように使ってこれらの人々の進歩を助けるでしょうか。それぞれの状況でどのように応用するかを計画してください。
 - 公園を歩いていると、小さな男の子を連れて一人の女性が、ベンチに座って泣いているのが見えました。
 - バプテスマの準備をしている求道者の家を訪れたところ、もう訪問してほしくないと言われました。
 - これまで2年以上、何人かの宣教師からレッスンを受けたことのある求道者を訪れています。これがあなたにとって7回目の訪問となります。求道者に進歩している様子はほとんど見られません。
 - 教会員の家族に福音のメッセージを教え始めました。すると家族からこう言われました。「わたしたちはすべての知人に宣教師と会ってくれるよう頼みましたが、ことごとく断られてきました。」
- 求道者に教えるレッスンから、いずれか一つを選んでください。大切な原則それぞれについて一つか二つの聖句を選びます。本章の「聖文を活用する」の項で説明されている方法を使って、これらの聖句を基にして教える練習をしてください。
- 数週間をかけて、四福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）と第三ニーファイに記されている救い主の教えを復習してください。救い主が質問されたことを学習帳に書き出します。あなたのよく問いかける質問と救い主の質問とを比較してください。
- アルマ18章からアンモンとラモーナイ王の出来事を、アルマ22：4-18からアロンの出来事を読んでください。アンモンとアロンは以下のことをどのように行ったか見つけて、書き出してください。
 - 御霊に従い、愛を込めて教えた。
 - 教え始めた。
 - 必要を満たせるよう、教えを適応させた。
 - 証^{あかし}を述べた。
 - 聖文を用いた。
 - 質問し、耳を傾け、問題を解決した。
 - 教える人々に決意するよう励ました。
- 理解するように教えることについてハロルド・B・リー大管長が語った以下の言葉を読んでください。あなたがどれほど明確に福音の教義を教えているかを評価してください。学んだ事柄を学習帳に書き留めま
す。
「聖文の意味するところから離れることなく、文章を分かりやすい言葉に言い換えてください。」（*The Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ選 [1996年], 444）
「さて、教師である皆さんは新しい教義を教えるために遣わされているのではありません。昔からある教義を教えるのです。それは簡単に理解できるほど平明^{へいめい}ではありません。しかし、だれからも誤解されることのないように、はっきりと分かりやすく教会の教義を教えなければなりません。」（*The Teachings of Harold B. Lee*, 458）

同僚との勉強会

- 最近教えたレッスンのレッスン計画を見直してください。計画書に書かれているおもな原則それぞれについて質問を一つ考えます。それから、あなたの質問が本章で教えられている事柄と一致しているかどうか検討します。次に求道者の立場に自分を置いてその質問に答えます。必要に応じて、質問を書き直してください。それらの質問事項について同僚と話し合い、一緒に評価します。

現在教えている求道者の必要について考えます。その求道者はあなたの質問に対してどのように答えると予想されるかを話し合ってください。さらに、これらの質問はどのように御霊を招き、求道者が福音を学ぶうえでどのように役立つかについても話し合います。

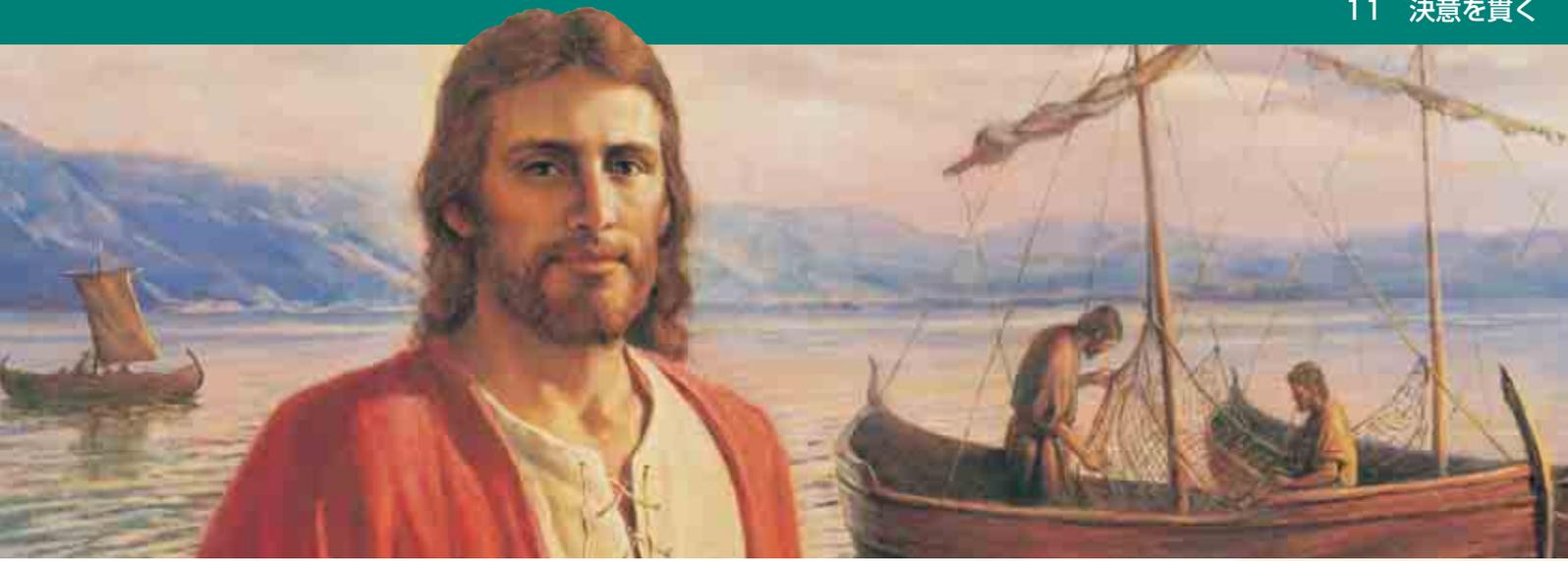
- 新しい求道者一人一人について考えます。彼らが進歩するよう助けるために何ができるかを話し合います。あなたのアイデアを学習帳に書いて、デイリープランナーに計画を記入します。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 会員か現在の求道者を集会に招待します。宣教師が大切なメッセージを分かち合う方法を改善したいと考えていることを招いた人たちに伝えます。レッスンと技術を一つ選びます。あなたが指定する技術を中心にして、会員または求道者を相手に20分間のレッスンを宣教師に行ってもらいます。20分後に同僚と交代します。宣教師たちのレッスンが終わったら、全員に集合してもらいます。会員と求道者から、最も効果があった教え方について意見を求め、改善の余地のある教え方を一つ挙げてもらいます。
- レッスンを行っている宣教師や人々に話しかけている宣教師の様子を描いたビデオを見せます。採り上げる技術を一つ選んでから、ビデオの中の宣教師はその技術の原則をどれほど上手に応用していたかについて話し合ってください。
- 一つの技術または技術の大切な一面を選び、その技術の裏付けとなる教義または聖文を見つけてください。その技術の教義的な根拠を宣教師に教えます。

伝道部会長

- 時々、レッスンを行う宣教師に同行してください。あなたがどのようにレッスンに参加するかを宣教師と計画してください。
- 神権指導者に、レッスンを行う宣教師に同行して、意見を述べるよう勧めてください。
- ゾーン大会や面接で宣教師に教える際、聖文と質問の効果的な使い方、上手に耳を傾ける方法について実演してください。



人々が決意して、それを貫くように助けるにはどうしたらよいのでしょうか

深く考えましょう

- なぜ、人々に決意を勧めることに的を絞るべきなのでしょう。
- 決意することと改宗することには、どのような関係があるのでしょうか。
- どうすれば謙遜^{けんそん}に証^{あかし}を述べることができるのでしょうか。
- わたしはどのような祝福を約束することができるのでしょうか。
- 人々が決意するとき、なぜフォローアップが大切なのでしょう。

決意を勧める

あなたは宣教師として人々の救いを望んでいます（モーサヤ28：3参照）。あなたは、人が悔い改めさえすれば、キリストのもとに来て、救いを得ることができるということを知っています（教義と聖約18：10-16参照）。あなたの望みを実現する一つの方法は悔い改めを叫び（アルマ5：49；教義と聖約15：6；16：6参照）、悔い改めをもたらす信仰を行使して、水と霊によるバプテスマを受け、最後まで忠実に堪え忍ぶよう、大胆に勧めることです（3ニーファイ27：16-20；モルモン7：10参照）。

決意は悔い改めに欠かせない要素です。決意とは、ある行動方針を義務として引き受け、その決意を熱心に貫き通すことです。ほんとうに決意した人は本気になります。つまり、決意したことを本気で実行するのです。自分は変わるのだという、揺るぎない、まじめな決意をします。キリストだけに心を注ぎ、主の福音に献身します。決意を貫くとは「自分の罪の赦しを得るよう^{ゆる}にキリストの御霊^{みたま}を受けたことをその行いによってまことに明らかにする」行為です（教義と聖約20：37）。したがって、教えているときに決意を勧めるならば、求道者に悔い改めを勧めていることになるのです。

メモ

人々が決意してそれを貫けるよう助けるための最も優れた方法の一つは、決意を勧めることです。決意するように勧め、フォローアップすることが大切な理由として、以下の事項を挙げることができます。

- 学んだ原則に従って生活することによって改宗し（ヨハネ7：17参照）、自分の行っていることによって天の御父が喜んでおられるという御霊の確認を実感できる。
- 悔い改めて、変わるならば、チャレンジに打ち勝ち、羞恥心や罪悪感が取り除かれ、神の赦しによって平安と喜びを得ることができる。
- 決意を貫くことにより、神聖な聖約を交わし、それを守る備えができる。



©2001 Simon Dewey. 聖子は祈らば祈られています。

人々が悔い改め、決意を貫けるようフォローアップすることによって、あなたは人々に対する愛と、神の約束に対する信仰を表すことができます。

バプテスマを受けるために求められる決意事項は最初の4つのレッスンに記されています。バプテスマと確認の儀式を受けた後に、霊的に進歩するために必要な決意事項は、レッスン5に記されています。キリストを信じる信仰を強める事柄を行うように勧める必要があることを、常に覚えておいてください。以下の原則を記憶にとどめてください。

- 会員であれ、リフェローであれ、個人的な接触であれ、見つける機会があるときにはいつも、行動を起こすよう相手に勧めるべきです。通常、回復のメッセージについてさらに学ぶように勧めます。
- 人々に話したり、教えたりするときには必ず、キリストを信じる信仰を強めるために何かを行うよう勧めます。
- 教えるときに一つか、それ以上の決意事項に的を絞ります。もしこれらの決意を勧めないとしたら、悔い改めてキリストのもとに来るよう求めていることにはなりません。
- 同僚との勉強会でレッスンを教える準備をするとき、各求道者の必要と状態を考慮して、レッスン計画の一つ以上の決意事項を含めます。
- レッスン中に、計画していなかった決意事項を勧めるよう靈感を受けることがあるかもしれません。人々に悔い改めるよう常に勧めてください。
- 決意を勧めるときは大胆に、自信をもって行います（アルマ38：12参照）。大胆であることにより、主の戒めに対する従順が祝福をもたらすことについて、あなたが信仰を持っていることを示すことができます。
- 人々は勧められないと行動を起こさないかもしれません。

聖文研究

勧めを行うことはなぜそれほど大切なのでしょう。

アルマ5：62

モロナイ7：13

決意事項はなぜ大切なのでしょう。

2ニーファイ31章

アルマ32：27

教義と聖約20：37

モーサヤ2：41

教義と聖約14：7

ヨハネ7：17

アルマ7：14-16

はっきりと尋ねる

決意の勧めは「していただけますか」という形式を取ることが多く、これははいかいいえの答えを求めます。勧めは具体的で、はっきりとしていて、また明確でなければなりません。それは行動方針について決意するよう勧め、導く言葉です。それは、あなたが教えた原則について決意し、信仰を行使するよう求める質問なのです。

優れた勧めの例を以下に挙げます。約束や証がそれに続きます。

- 明日、わたしたちは午後7時に訪問します。そのときまでに〔第三ニーファイ11章、モロナイ10章3-5節、このパンフレット〕を読んでいただけますか。これを読むなら……ことを知っています。わたしはモルモン書が……であることを証します。
- ジョセフ・スミスが預言者であったかどうかについて神に祈り、尋ねていただけますか。あなたが祈るなら、神は……ことを知っています。わたしはジョセフ・スミスが預言者であったこと、……ことを知っています。
- 今度の日曜午前9時に、一緒に教会に出席していただけますか。そうしていただけるなら、あなたは……でしょう。わたしはキリストの教会が回復され、……を知っています。
- 今日説明した純潔の律法を、今から守っていただけますか。この律法に従うことにより、……でしょう。わたしは主の僕として、純潔の律法を守ることが……ことを証します。
- 金曜日までに〔名前〕さんを、わたしたちに会って福音について学び始めるよう誘っていただけますか。御霊はあなたが……できるように助けていただけます。福音を分かち合うことによって、あなたは生活の中で……祝福を受けることができます。
- 神は古代と同じように現代にも預言者を召されました。どのようにして現代の預言者が召されたのかをさらにお話しするために、お宅に伺ってもよろしいですか。……を理解されると、あなたの生活の中で目的や方向性がより明確になり、平安が増し加えられます。わたしは神が再び……を召しておられることを証します。

活動—個人学習または同僚との勉強会

一つのレッスンの中にあるすべての決意事項について、簡潔で、直接的で、明確な勧めを学習帳に書き出します。もし以前にこの活動を行っていたら、もう一度行って、以前の勧めと比較します。決意を勧める能力が進歩しているかどうかを自問してください。

あなたが書いた勧めを同僚とともに吟味します。一つ一つの勧めについて、以下の質問を検討します。

- 勧めるとき、主が約束しておられる祝福について説明しているだろうか。もししていなければ、それはなぜだろうか。
- この勧めを避けているだろうか。避けているとしたら、それはなぜだろうか。
- この勧めをするときに、気まずい感じがしているだろうか。どうすれば改善できるだろうか。
- この勧めはわたし個人にとってどれほど大切だろうか。
- 勧めた後でどれだけ頻繁にフォローアップしているだろうか。どうすれば改善できるだろうか。

求道者かよく知っているあまり活発でない会員を思い浮かべます。その人たちに話しているかのように、これらを勧める練習をします。

必要に応じて、レッスン計画に書き留めた勧めを修正します。その日、その週を通じて勧めることができるように、具体的な目標を設定します。

祝福を約束する

人がその思いや行動を変えるには理由を必要とします。多くの場合、約束された祝福が、神に従う強い動機になります。主は戒めをお与えになるとき、その戒めを守ることに對する祝福をし

しばしば約束しておられます（教義と聖約130：20-21参照）。特定の戒めに従うよう人々を備えるとき、以下の事柄を教えます。

- この戒めに従うことは神と御子への愛を表すことになります。
- この戒めに従うときに、神への信頼を表すことになります。
- その報いとして、神が約束された祝福を受けることになります。

戒めについて証する^{あかし}とき、その戒めに従うことによってあなたが受けている祝福について話します。あなたが教えている人々も同じような祝福が受けられると約束してください。

戒めを守るために努力している人々に、天の御父から与えられた祝福^{みこころ}について話すよう求めます。たとえ困難なことに出遭っても、御父の御心を行うかぎり祝福を受け続けることを約束してください。

聖文研究

わたしたちを祝福したいという気持ちについて、主はどのように述べておられるでしょうか。

アルマ37：17

教義と聖約1：37

教義と聖約76：5-10

活動—個人学習

教義と聖約82：10と130：20-21を読んでください。次に、以下の聖句を研究します。学習帳に二つの欄を作ります。片方の欄に各聖句に記されている戒めを書き出し、別の欄にその戒めを守るときに与えられる約束を書き出します。

教義と聖約11：21

教義と聖約89：18-21

教義と聖約100：5-8

教義と聖約84：85

教義と聖約95：8-9

マラキ3：10-12

求道者に教える一つのレッスンの中のすべての決意事項を復習します。各決意事項について、以下の質問に答えます。

- この決意を守る人々に主はどのような祝福を約束しておられるだろうか。
- 信仰と証を得るために、この原則に従うことはどのように助けとなるだろうか。
- 人々が悔い改め、御霊^{みたま}に対してもっと敏感になるために、この決意はどのように助けとなるだろうか。

しばしば証^{あかし}を述べる

証^{あかし}とは聖霊によって与えられる霊的な証拠または確信です。証を述べるとは信じていること、すなわち福音の真理に対する気持ちや確信を、簡潔にまた率直に宣言することです。御霊を招き、人々が御霊を感じられるようにする最も力強い方法の一つは、しばしば証を述べることです。証を述べるなら、聖文から教えた真理について、いきいきとした個人的な証拠を付け加えることになります。優れた宣教師は、イエス・キリストを信じる信仰を築く行いをするように教え、証し、勧めます。その中で、真実の原則に従うことで祝福が得られることを約束します。例えば、宣教師はこのように言うことができます。「安息日^{きよ}を聖く保つならば、あなたはさらに大きな平安を感じることをわたしは知っています。」

「証^{あかし}について申し上げますと、証を進んで分かち合う人はそれを持ち続けるのに対して、証を自分だけのものにしておく人はそれを失うということを記憶しておいてください。……教えて、そして証してください。この組み合わせに勝るものはありません。」

—トーマス・S・モンソン長老
Pathways to Perfection [1973年], 100-101

^{あかし}証を聞く人が確信を得るには、証を述べる人が誠実でなければなりません。証に力があるかどうかは、雄弁さや声の大きさではなく、あなたが心にどれほど強い確信を抱いているかに懸かっています。自分が教える教義と原則について理解と確信を強めるために、毎日努力してください。教えた原則や教義が真実であることを結び固めるために、しばしば証を述べてください。教えては証し、また教えては証するということを、可能なかぎり頻繁^{おこな}に行ってください。



あなたの証^{あかし}は「イエス・キリストは神の御子です」あるいは「わたしはモルモン書が真実であることを身をもって知っています」というように簡潔なものかもしれません。また、その知識をどのようにして得たかについての経験を手短かに述べるとよいでしょう。各レッスンでは、最後だけでなく、途中で何度も証を述べます。同僚が教えたことは神から与えられたものであることを証してください。これから教えようとしている原則に従うならば、祝福が得られると証してください。原則に従って生活することにより、あなたの人生がどのように祝福されてきたかを話してください。

人々はあなたの教えることについて知的な疑問を抱くことがあるかもしれませんが、誠実で心からの証^{あかし}に対して疑問を差し挟むことは困難です。証を述べる際には、教える人々が聖霊による確認の証を感じられるように祈ってください。あなたの証は、聖霊があなたの証の真実性を確認してくださり、求道者がそれを感じることができるよう、その環境を作っています。このようにして、人々はあなたが勧める決意を受け入れる備えができるのです。

ブリガム・ヤングは、回復された福音について学び始めてから最初の1年間は、末日聖徒イエス・キリスト教会に入るためにバプテスマを受けることはありませんでした。しかし、自分の改宗について次のように述べました。「わたしが聞いたモルモン書についての証^{あかし}が、もしもこの世のあらゆる才能、機転、知恵、優雅さを集めた言葉であったならば、その真実性を述べる宣言が、この世の雄弁術の粋を集めたような言葉遣いで、学問やこの世の知恵によって証明しようとしたものであったならば、そのような言葉の数々は煙のように立ち上り、消え去っていたことでしょう。けれども、雄弁ではなく、人々の前で話す才能も持ち合わせていない一人の男が『わたしは主の力によって、モルモン書が真実であり、ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知っています』とだけ言ったとき、その人から発せられた聖霊がわたしの理解を照らしてくださり、光と栄光と不死不滅がわたしの前にあるのに気づいたのです。わたしはそれらに取り巻かれ、それらに満たされて、その証が真実であることを身をもって知りました。」(Journal of Discourses, 第1巻, 90)

活動—個人学習

以下の聖句は証^{あかし}を述べた例です。それぞれの質問と聖句を読んでから、答えを学習帳に書いてください。

- これらの聖句で、使徒や預言者たちは何について証^{あかし}しているのでしょうか。
- 彼らは自分の話していることをどれほど強く信じているのでしょうか。どうして彼らが真理を確信していたと言えるのでしょうか。
- 「わたしは_____が真実であることを知っています」と言うとき、それはどういう意味でしょうか。確信を伝えるために、ほかにどのような言葉を用いることができるのでしょうか。

モルモン書ヤコブ7：7-12

教義と聖約76：22-24

使徒2：14-38

アルマ5：45-48

ヨハネ3：3-11

使徒10：34-44

アルマ34：1, 8

聖文研究

^{あかし}証を述べることについてどのような原則と約束が与えられているでしょうか。

2 ニーファイ 33：1

教義と聖約 84：61

ヨハネ 15：26

教義と聖約 62：3

教義と聖約 100：5-8

フォローアップ

勧めるだけで、フォローアップしないまま放置しておくのは、旅行に出かけたのにいつまでも目的地へ行こうとしないようなこと、または、演奏会の入場券を買ったのに会場に入らないようなことです。果たさなければ、決意は無意味になります。

変わるのは大変なこともあります。あなたの役目は変わろうと決意した人々を励ますことです。人々が決意を貫けるように最善を尽くしてください。

心から悔い改めているかどうかは、一定期間義にならなかった行いをしているかどうかによって確認できます。特に純潔、知恵の言葉、^{じゅうぶん}仕分の一などの戒めについてはこれが当てはまります。人々が決意を貫けるようにワードの指導者と力を合わせて支援すると同時に、理解を示してください。忍耐と根気を持ってください。人々がこれらの決意に従うようになるまで、つまり悔い改めるまで、あなたの務めは終わりません（3 ニーファイ 18：32 参照）。悔い改めに至る原則を人々が強く信頼するようになるまで、何度か訪問する必要がある場合もあります。

フォローアップはあなたが初めて訪問して教えるときから始まります。

- あなたの名前と電話番号を記したパンフレットやカードを渡し、その上に自分が決意したことを自分で書いてもらいます。
- 次のレッスンの約束までに、毎日、少しの時間、立ち寄るつもりであることを必ず知らせます。彼らを支え、助けることが目的であることを説明します。これらの訪問で何をするつもりかを知らせておきます。
- 今日行った決意の勧めすべてについて明日フォローアップすることをデイリープランナーの「メモ／行動リスト」の項に書き留めておきます。

しばしば、可能であれば毎日、訪問し、決意の進捗状況を確認する、質問に答える、困難に打ち勝てるように助ける、補足レッスンを行う、モルモン書を一緒に読む、聖句を分かち合う、視聴覚資料を見せる、などを行います。しばしば訪問することによって、イエス・キリストの福音が回復されたというメッセージを教えたときに彼らを感じた霊的な感動を強めることができます。御霊によるこの励ましは非常に大切です。時には求道者に電話をかけて、決意事項を確認し、守るよう励ますこともあるでしょう。

決意を守ることによって得られた祝福に気づくよう助けてください。特に、メッセージが真実であることについて御霊の証を受けたときの気持ちを述べてもらいます。

決意を立派に貫いている人を称賛し、励ましてください。求道者は生活を変える過程にあります。学び、実行することがたくさんあります。心からの称賛の言葉をしばしば贈ってください。彼らが進歩していることに感謝を表し、決意を貫けると確信していることを伝えます。一緒にいるときは常に励ましてください。

決意を守れなかったため祝福を逃している人には、心配し残念に思っていることを伝えます。

活動—個人学習または同僚との勉強会

求道者一人一人と毎日連絡を取るための計画をデイリープランナーに記入します。どのようなフォローアップを行うかを数日前から計画しておきます。

レッスンを教えるときに行う決意の勧めを一つ選びます。次に、その決意を受け入れたり、守ったりするうえで障害となる事柄を幾つか明らかにします。求道者の不安を取り除くために助ける方法を話し合い、練習してください。

記憶にとどめましょう

- 教会員でない人々といるときも、教会員といるときも、見つける状況でも教える状況でも、必ず決意を勧めることを忘れない。
- 人々が改心できるように決意を勧める。
- 祝福を約束する。
- 証あかしを述べる。
- 決意を守れるようにフォローアップする。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- レッスン4か5に挙げられている戒めを一つ選びます。この戒めに従うことによってあなたが受けている祝福について考えます。それらを学習帳に書き留めてください。
- あなたの家族に手紙を書いて、特定の戒めじょうよめに従うことによって得ている祝福について尋ねてください（例えば、什分の一）。
- 決意を勧めることについてあなたが感じていることを書き出します。大胆に決意を勧めていますか、それとも勧めるときにびくびくしていますか。人々が祝福を受けることを確信していますか、それとも疑いがありますか。毎日接するときに、約束を守り、忍耐し、よく助けていますか。求道者はあなたの愛を感じていますか。勧める活動の中で気づいた自分の弱点をどのように改善することができますか。
- 各レッスンについてレッスン計画を見直します。それぞれの中に決意事項が含まれていますか。レッスン計画は決意事項にはっきりとつながるようにできていますか。

同僚との勉強会

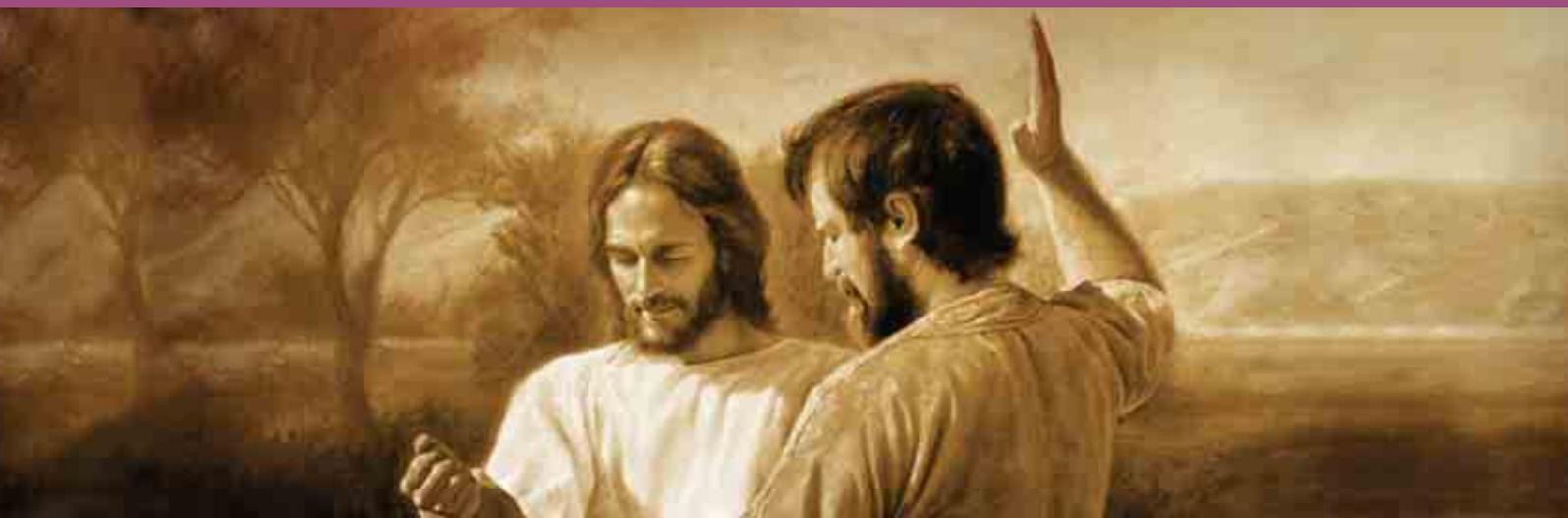
- デイリープランナーを基に、過去2日間に接触した求道者と会員すべてのリストを作ります。一人一人について、彼らが決意したことと、あなたがさらに勧めることができた、あるいは勧めるべきだった決意事項を書き出します。これらの人々から決意を得ることができた理由、ほかの人々からは決意を得られなかった理由について話し合います。これらの決意事項をフォローアップするために、あなたは何をしますつもりですか。
- デイリープランナーに目を通して、明日かあさつてに教える予定の求道者の名前を書き出します。レッスン4と5から、どの戒めに従うよう勧めるかを考えます。決意を勧める方法について、また、従順であれば得られるとあなたたちが約束する具体的な祝福について話し合います。
- どのようなことが期待されているかを知らせるために、求道者に「教授記録」を見せることについて考えます。適切であれば、コピーを渡してもよいでしょう。
- デイリープランナーから過去3日間の「メモ／行動リスト」を見直して、自分たちが行った勧めをすべてフォローアップするために、すべきことが記されているかどうかを確かめます。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- 求道者と毎日接触するための、効果的で独創的なアイデアを話し合います。宣教師はどのような方法で会員たちと効果的に働いているでしょうか。どのような印刷物や視覚資料が有効でしょうか。会員たちが家にいなかったり、忙しくてあなたと会う時間が取れなかったりする場合に、あなたは何かができるでしょうか。
- レッスン4と5の戒めの効果的な教え方について、宣教師が経験していることを話し合います。
- 現在、求道者が抱えている具体的な不安について話し合います。それらの不安の本質は何でしょうか。それらを解決するために宣教師は何ができるでしょうか。

伝道部会長

- 時々宣教師のレッスンに同行してください。人々が決意できるように励ますこと、あるいは決意を貫けるよう励ますことに宣教師の注意が向くよう助けてください。
- 求道者と毎日接触する活動に、神権指導者や会員が積極的に参加するよう奨励してください。
- あなた自身の伝道活動において、またあなたが仕える宣教師とともにいるときに、勧める模範を示してください。



人々をバプテスマと確認に備えるには どうしたらよいのでしょうか

深く考えましょう

- 人々をバプテスマと確認に備えるには何をしたらよいのでしょうか。
- バプテスマの面接を効果的に行うにはどうすればよいのでしょうか。
- 霊的なバプテスマ会を計画し、進めるにはどうすればよいのでしょうか。
- ビショップと密接に働き、改宗者が確実に確認を受けられるようにするにはどうすればよいのでしょうか。
- バプテスマと確認の記録を完成させることはなぜ大切なのでしょうか。

人々をバプテスマと確認に備える

ああなたがレッスンを教える目的は、人々がイエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、罪を悔い改めるよう助けることです。モルモンは「悔い改めの最初の実はバプテスマである」と教えました（モロナイ8：25）。バプテスマの面接は、志願者が主の定められたバプテスマの標準にふさわしく、聖霊の賜物を受ける準備ができているかどうかを確認するために教会が定めた方法です。バプテスマ志願者はこの面接を通して、教会の正式な代表者の前で「自分のすべての罪を心から悔い改めたこと」（教義と聖約20：37）を証明するという聖文上の資格を満たすのです。求道者が行う決意は、バプテスマの聖約を交わして、それを守るための備えとなります。あなたが勧めた決意事項を守ってきた人々は、面接の準備と、活発な教会員となるための準備が十分にできていることでしょう。

求道者を教え、バプテスマと確認に備えさせるときに、彼らがバプテスマの資格を確実に満たせるようにしてください。

メモ

バプテスマの資格

教義と聖約20：37——

- 神の前にへりくだる。
- バプテスマを受けたいと願う。
- 打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出る。
- 自分のすべての罪を心から悔い改める。
- 進んでイエス・キリストの名を受ける。
- 最後までイエス・キリストに仕える決心をする。
- 自分の罪の赦しを得るようにキリストの御霊を受けたことをその行いによって明らかにする。

大管長会と十二使徒定員会——

- 教義と聖約20：37で命じられているように、バプテスマの資格を満たすために十分な変化を遂げる。
- キリストを信じる信仰を深める。
- 背きを悔い改める。
- 道徳的なふさわしさについて定められた原則に従う。
- 知恵の言葉を守る。
- 什分の一を納めることを決意する。
- 宣教師のレッスンをすべて受ける〔『教授記録（ティーチングレコード）』のレッスン1-4と、該当する決意事項〕。
- ビショップまたは支部会長に会う。
- 聖餐会に数回出席する。

（「伝道活動に関する声明」大管長会からの手紙，2002年12月11日付）

求道者がバプテスマを受ける日付を確定したら、『デイリープランナー』に記されているバプテスマと確認を受けるうえで助けとなる事柄をすべて完了させるための予定を組みます。『教授記録（ティーチングレコード）』を入念に調べて、あなたが基本的な教義を教え終えていること、志願者がバプテスマの面接でのあらゆる質問に答えられることを確認します。次の集会でこの日程について本人と話し合ってください。可能であれば、志願者は自分のバプテスマの前にだれかのバプテスマ会に出席します。

求道者にまだ準備ができていないと感じたら、資格を満たすようになるまで面接の予定を組んではなりません。志願者が未成年であれば、両親または保護者からバプテスマを受ける許可をもらっていることを確認してください。できれば書面による許可をもらいます。

求道者がバプテスマの面接に備えられるように、面接の目的を説明してください。そしてバプテスマと聖霊の賜物を受けることがどれほど神聖か教え、証を述べます。これまで教えてきた原則と、これから交わす聖約を理解しているか確認するために面接を行うということを伝えます。また面接は、神聖な儀式を受ける準備ができていることを主の代表者の前で証明する機会でもあることを説明してください。バプテスマと確認において交わす聖約を守るならば、罪の赦しを受けます。主要な教義を信じていること、過去の罪を悔い改めていること、生涯を通じてイエス・キリストに従うという聖約を交わしたいと思っていることについて、面接をする人が質問することを志願者に知らせておきます。確認と聖霊の賜物を受けるまで、水に沈めるバプテスマは完成されないことを強調してください。

活動—個人学習または同僚との勉強会

- 以下の聖句を読んで、聖文に記されているバプテスマと確認に必要な資格をリストにしてください。

2ニーファイ9：23；31：4-13	3ニーファイ27：13-21	教義と聖約20：37
モーサヤ18：8-10	モロナイ6：1-4	教義と聖約22章
アルマ7：14-15	モロナイ8：25-26	使徒2：37-39

- バプテスマの面接において、志願者は進んでキリストの名を受けるか尋ねられます。どうすればこの質問の意味を理解できるように助けられるでしょうか。以下の聖句を研究しながら、この質問について深く考えてください。

モーサヤ4-5章	モーサヤ26：18，21-27	3ニーファイ27：1-10
モーサヤ18：1-11		

この原則を理解するうえで役立つ聖句をほかにも探すとよいでしょう。

面接を実施する方法

面接を実施する人は、バプテスマの面接の質問を使い、御霊の導きに従って、バプテスマ志願者が教義と聖約20：37にある資格を満たしているかどうか見極めます。質問は、志願者の年齢や成熟度に応じて調整することが大切です。

バプテスマの面接の質問を通して志願者が資格を満たしていないことが分かった場合は、バプテスマと確認を延期すべきです。志願者は専任宣教師からさらにレッスンを受け、ワードの会員たちからフェローシップを受ける必要があります。

面接を実施するディストリクトリーダーまたはゾーンリーダーは以下を行います。

- 快適で、プライバシーが保たれ、主の御霊を感じやすい場所で面接を行います。面接者の同僚は近くで待機します。
- 祈りによって始めます。
- 志願者が気持ちを楽しめるよう配慮します。
- 面接が霊を鼓舞する機会となるようにします。
- 志願者が面接の目的を理解していることを確認します。
- バプテスマの面接の質問を行います。志願者の証の強さと悔い改めが真心からのものであることを知るためにフォローアップの質問をします。
- 志願者の質問に答えます。
- 証を述べ、感じていることを話すよう志願者に勧めます。
- 証やふさわしさに問題があれば、本人の準備ができるまでバプテスマを延期する方がよいことを説明します。

バプテスマの面接の質問

1. あなたは神が永遠の御父であられることを信じていますか。イエス・キリストが神の御子であられ、世の救い主、贖い主であられることを信じていますか。
2. あなたはイエス・キリストの教会と福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことを信じていますか。あなたは〔現在の^{あがな}大管長の名前〕が神の預言者であることを信じていますか。そのことはあなたにとってどのような意味がありますか。
3. 悔い改めとはあなたにとってどのようなことですか。あなたは過去の過ちをすべて悔い改めたと感じていますか。
4. あなたは過去に重大な犯罪にかかわったことがありますか。もしあれば、現在執行猶予中または仮釈放中ですか。これまでに墮胎や同性愛にかかわったことはありますか。
5. あなたは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になることには福音の標準に従った生活をする^{こと}が含まれることを教わっています。以下の標準はどのような意味であると理解していますか。それらの標準に進んで従いたいと思いませんか。
 - a. 純潔の律法。この律法は法的に結婚した男女間の結びつき以外のあらゆる性的関係を禁じています。
 - b. 什分の一^{じゅうぶん}の律法
 - c. 知恵の言葉
 - d. 安息日。毎週聖餐^{せいさん}を受け、教会員に奉仕をすることも含まれます。
6. バプテスマを受けると、進んでイエス・キリストの御名^{みな}を受け、主の戒めを生涯守り通すことを、神と聖約します。あなたはこの聖約を交わし、聖約に忠実に生活する心構えができていますか。

面接を終え、志願者がバプテスマの資格を満たしている場合は、祝福の言葉をかけてください。ほかの宣教師たちを交えて、バプテスマ会でどのようなことをするかを説明します。

確認は、志願者が住む区域のワードの聖餐会^{せいさん}においてビショップの指示の下に行われることを説明します。

バプテスマを延期する必要がある^{場合}、ディストリクトリーダー、ゾーンリーダー、その他の宣教師は、事態を内密に、また注意して扱う必要があります。志願者がバプテスマの資格を得られること、一部の背きは完全に悔い改めるために、より長い期間を必要とすることを説明します。儀式の神聖さを保つために、ふさわしさについて高い標準が求められていることを説明します。志願者を支援するために全力を尽くすことを理解してもらうようにしてください。それから約束に従って心からの支援を行います。

バプテスマと確認—質疑応答

バプテスマの面接はだれが行うのですか。

通常、ゾーンリーダーを含むディストリクト内の宣教師が教えたバプテスマ志願者の面接は、ディストリクトリーダーが行います。ディストリクトリーダーが教えた志願者の面接はゾーンリーダーが行います。重大な罪に関与した人々の面接は、伝道部会長または伝道部会長が指名した人が行わなければなりません。ディストリクトリーダーやゾーンリーダーは、伝道部会長から割り当てを受けなければならず、ディストリクトまたはゾーンの区域外のバプテスマ志願者に対して面接を行いません。

改宗者のバプテスマとはどのような意味ですか。

改宗者のバプテスマとは、以下を指します。

- 9歳以上で、以前にバプテスマを受けたことも、教会員として確認を受けたこともない人。
- 両親がともに教会員ではない8歳の子供、または両親が子供と同時にバプテスマと確認を受ける場合。

未成年者にバプテスマを施すには許可が必要ですか。

成人に達していない求道者を教え、バプテスマを施すには、事前に親または法律上の保護者から、できれば書面による許可を受けなければなりません。さらに未成年者がバプテスマの聖約を理解しており、教会の集会に忠実に出席することを含めて福音に従い続けるためにあらゆる努力をすることを示す十分な理由がなければなりません。

夫または妻にバプテスマを施すには、^{はんりよ}伴侶の許可が必要ですか。

必要です。^{はんりよ}伴侶の承諾を受けないまま既婚者にバプテスマを施してはなりません。

父親にバプテスマを受ける準備ができていない場合、その家族にバプテスマを施すべきですか。それとも父親の準備ができるまで待つべきですか。

家族の父親にバプテスマと確認を受ける準備ができていなくて、ほかの家族に準備ができていない場合、父親抜きで家族にバプテスマを施したくないことを父親に告げるとよいでしょう。教会は家長を尊重しており、家族が福音の中で成長を遂げるには家族全員でバプテスマを受けることが望ましいためです。父親がなおも拒み続ける場合は、父親の承諾を得たうえで、ほかの家族にバプテスマと確認を施すことができます。

妻や子供たちにバプテスマを施せるよう、バプテスマを受けた直後に父親をアロン神権に聖任することは適切ですか。

いいえ。父親は聖餐会において確認を受けなければなりません。そして、ビショップから面接を受けた後にアロン神権を受けるための支持を採ります。父親がバプテスマを施せるようにと、家族のバプテスマを延期してはなりません。

破門された人に教え、バプテスマを施すことができますか。

破門された人のバプテスマは改宗者のバプテスマではありません。宣教師は破門された人のバプテスマの面接は行いません。伝道部会長とビショップが密接に働きかけていないかぎり、そのような人に働きかけることはできません。

バプテスマの日を設定しているにもかかわらず、すべての決意事項を守っていない人はどうすべきですか。

教えている人にまだ準備が必要だと感じたら、その求道者が決意を守り、資格を満たすようになるまでバプテスマの面接の予定を組んではなりません。

結婚せずに^{どうせい}同居している人たちがバプテスマを望む場合は、どのように対処すべきですか。

婚姻関係にないまま、異性と一緒に生活しているバプテスマ志願者は、バプテスマを受ける前に結婚するか、ともに生活するのをやめなければなりません。

バプテスマの面接の4番目の質問では、墮胎、同性愛の関係、重大な犯罪などの深刻な罪にかかわっていたかどうかが問われます。そのような罪を告白された場合はどうすべきですか。

1. レッスンを行う宣教師への指示。戒めを教え、決意するように勧めるときに、求道者がそのような罪を自分から打ち明けることがあります。しかし、求道者が何も言わなくても、彼らに問題があるように思える場合は、バプテスマの面接に備えるために、これらの罪に関与したことがあるか尋ねることができます。もし、重大な罪に関与していたことが明らかになっても、その罪について詳しく質問してはなりません。バプテスマの日程を組んだり、バプテスマと確認を受けることに関して約束をしたりしてはなりません。愛を示し、悔い改めの原則を復習します。これらの罪は重大であり、もっと成熟した経験豊かな人（伝道部会長または伝道部会長から割り当てを受ける人）が彼らと話して、助けの手を差し伸べることを優しく説明します。それから、バプテスマの面接の要請書を伝道部会長に直接送ります。
2. バプテスマの面接を行う人への指示。宣教師がバプテスマの面接の前に正しく求道者を教えていたら、これらの問題は、仮に存在したなら、伝道部会長に報告されていたはずです。もしそのような問題が面接の中で明らかになったら、愛を示し、戒めと悔い改めの原則を復習します。これらの罪は重大であり、もっと成熟した経験豊かな人（伝道部会長または伝道部会長から割り当てを受ける人）が彼らと話して、助けの手を差し伸べることを優しく説明します。それから、バプテスマの面接の要請書を伝道部会長に直接送ります。

活動——個人学習

もしあなたが面接を受ける側だとしたら、どのように感じるでしょうか。以下の質問について考えます。

- あなたは面接のどのような点を不安に思うでしょうか。あなたの気持ちをほぐすために、面接者はどのようなことを行ったり、言ったりできるでしょうか。
- あなたは面接者からどのように接してほしいと思うでしょうか。
- 疑問や誤解していることに対して、また重大な罪を告白したとき、あなたは面接者にどのような対応をしてほしいですか。

これらの質問の答えを学習帳に書いてください。

『バプテスマの記録』を完成させる

面接を行う宣教師は、用紙に記されている指示に従って、最新の『バプテスマの記録』に必要な事項を記入します。面接者は、『バプテスマの記録』を基に会員記録が作成されることを説明し、この記録には新会員の個人情報と、彼らが受けた儀式についての大切な情報が記載されることを伝えます。会員が転居すると、会員記録は転居先のユニットに転送されます。ビショップがフェローシップと支援を行えるようにするためです。面接のときに、用紙に記された情報が正確であることを志願者に確認してもらいます。面接をする宣教師が『バプテスマの記録』をバプテスマ会に持参し、管理者に渡します。

ビショップは、バプテスマ志願者一人一人の『確認の記録／バプテスマと確認の証明書』が、用紙に記されている指示に従って確実に記入されるようにします。

活動——個人学習または同僚との勉強会

モーサヤ6：1-3とモロナイ6：1-4を研究してください。これらの聖句は、バプテスマと確認の正確な記録を作成するあなたの責任とどのような関係があるでしょうか。

バプテスマ会

バプテスマと確認の聖なる儀式が執行される時、力強い御霊の現れがあります。バプテスマ会とその後に行われる確認の儀式は、新しく改宗する人にとって霊的に大きな意義を持つ出来事とならなければなりません。あなたはワード伝道主任と協力して、よく準備され、霊的で、記憶に残るバプテスマ会とするために全力を尽くさなければなりません。新しく改宗する人が教会に活発に集う決意をいっそう強める集会にする必要があります。

バプテスマ会には、ビショップリック、定員会と補助組織の指導者、ホームティーチャーと訪問教師（割り当てられている場合）を招待します。改宗者の友人や親戚、現在の求道者全員を、バプテスマ会と確認の儀式が執行される聖餐会に招待すべきです。彼らはこれらの経験を通して御霊を感じ、福音をさらに学ぼうと自らを備えます。バプテスマ志願者、ワード伝道主任と力を合わせて、志願者の友人や親戚を招待してください。バプテスマ会の後、彼らを感じたことを話し合うためにフォローアップを行い、友人がなぜバプテスマを受けたかを探求するよう勧めます。

バプテスマ志願者を教えた宣教師は、バプテスマ会を計画するためにワード伝道主任と調整をします。バプテスマ会の内容とその理由を志願者に説明します。適切な服装について説明し、バプテスマの衣装をどのように手渡すかも説明します。バプテスマの場所と時間を確認します。通常はビショップリックの一員かワード伝道主任がバプテスマ会の司会を務めます。主要な計画事項は以下のとおりです。

バプテスマ会には以下の事柄が含まれます。

1. 前奏曲
2. 司会を務める神権指導者からの簡単な歓迎の言葉（ビショップリックの一員が管理する）
3. 開会の賛美歌と祈り
4. 一人か二人の話者によるバプテスマや聖霊の賜物など、福音のテーマに関する短い話
5. 音楽の発表
6. バプテスマの執行
7. バプテスマを受けた求道者と儀式執行者が着替える間の敬虔なひととき。間奏曲を演奏する、親しまれている賛美歌や初等協会の歌を歌う、教会の視聴覚資料を見せる、証を述べることなどが含まれる
8. 新しい改宗者が証を述べる機会（もし希望するなら）
9. 閉会の賛美歌と祈り
10. 後奏曲



確認

バプテスマを受けた人は、その後で確認を受けます（教義と聖約20：41参照）。新しい改宗者はバプテスマと確認が執り行われた後に教会員とみなされます（ヨハネ3：5；教義と聖約33：11参照）。新しい改宗者はバプテスマ会が行われた場所ではなく、本人が居住する区域のワードの聖餐会^{せいさん}で確認を受けます。ビショップはバプテスマが執行された後、速やかに確認の儀式が執り行われるのを見届ける責任があります。ビショップまたは顧問の一人が確認に参加します。ビショップは改宗者を教えた長老の宣教師たちを確認に参加させることができます。この大切な儀式が執行されるように、ビショップやワード伝道主任と密接な連絡を取ってください。



バプテスマと確認の後

宣教師はビショップの指示の下、引き続き新会員のフェローシップを行うことができます。引き続きレッスンを教え、新会員が今まで学んできたことを復習してください。彼らを励まし、支え、一緒にモルモン書を読み、家族や友人に福音を分かち合うよう助けます。また適切であれば、生涯を通じて、あなたが教えた人々と連絡を取り、励まし、支え続けてください。

確認の儀式が行われた後も、レッスン1から4をもう一度教え、レッスン5を教える際に『教授記録（ティーチングレコード）』に進歩状況を記録します。ワード伝道主任^{あがな}やワード指導者と力を合わせ、新しい改宗者が教会に活発に集い、イエス・キリストの贖い^{あがな}がもたらすすべての祝福を受けられるよう助けます。

記憶にとどめましょう

- バプテスマと確認の面接に向けて志願者を適切に備える。
- 志願者がバプテスマと確認の資格を満たしていることを確認する。
- バプテスマ会が霊的で意義深いものとなるよう助ける。
- バプテスマ会と確認の儀式を活用して、教える人を見つける。
- バプテスマと確認の記録を正確かつ完全に記入する。

研究と応用のためのアイデア

メモ

個人学習

- バプテスマの志願者が直面すると思われる問題をリストアップしてください。志願者が会員たちから愛と友情を感じることはなぜ大切なのでしょうか。
- モロナイ6章と教義と聖約20：68-69を研究してください。人々をバプテスマと確認に備えることについて、これらの聖句から何を学べるのでしょうか。学んだ事柄を書き留め、同僚との勉強会で自分の考えを伝えてください。

同僚との勉強会

- ヘンリー・B・アイリング長老は、高い標準を維持することの大切さについて説明しています。この勧告について同僚と話し合い、これらの標準に従うよう人々を雄々しく助けることについて感じていることを評価します。「主が主の標準を定められたのは、わたしたちを祝福するためです。そのような祝福について考えてみてください。主は標準を守る人に対して、聖霊の助けと内なる平安、主の宮で聖なる儀式を受ける機会を約束されました。さらに主の標準に添って生活し続ける人は、永遠の命を得〔る〕……と約束されました。……わたしたちは皆、自分の仕える人々を愛しているので、天の御父の子供である彼らが主の祝福すべてを受けるのに必要な忠実さと清らかさを身に付けられるよう、さらに努力していきたいと願っています。……まず主の標準を明確に、そして臆^{おそ}することなく教えることから始めるのです。世の中が主の標準から遠ざかり、主の標準をあざ笑うようになったとしても、皆さんはいつそう勇気をもって語らなくてはなりません。」（「ふさわしさの標準」第1回世界指導者訓練集会、2003年1月、10-11）
- 本章を研究した結果、人々をバプテスマと確認に備えることについて何を学んだか同僚と話してください。
- 最近出席したバプテスマ会について考え、その内容を「バプテスマ会」の項に記されている指針と比較します。良かった点や改善できる点を挙げてください。バプテスマ会を、霊的で人を鼓舞できるようなものとするにはどうしたらよいでしょうか。話し合ってください。
- 特定の求道者をバプテスマの面接に備える方法を練習してください。
- バプテスマの面接の質問を検討します。以下のような様々な状況に対処する方法を考えてください。
 - 志願者は以前に犯罪に関与しており、現在執行猶予中であることを伝えていませんでした。
 - 祈りましたが、ジョセフ・スミスが預言者であるという力強い答えをまだ受けていません。
 - 志願者は2日前にたばこを吸いました。
 - 志願者は祈りの答えを受けたかどうか、まだはっきりと分かっていません。
 - その家族は友人からのプレッシャーを感じており、バプテスマを受けるべきか迷っています。
- 『バプテスマの記録』と『確認の記録／バプテスマと確認の証明書』に目を通します。情報が正確であり、すべての項目が完全に記載されていることを確認するにはどうすればよいでしょうか。

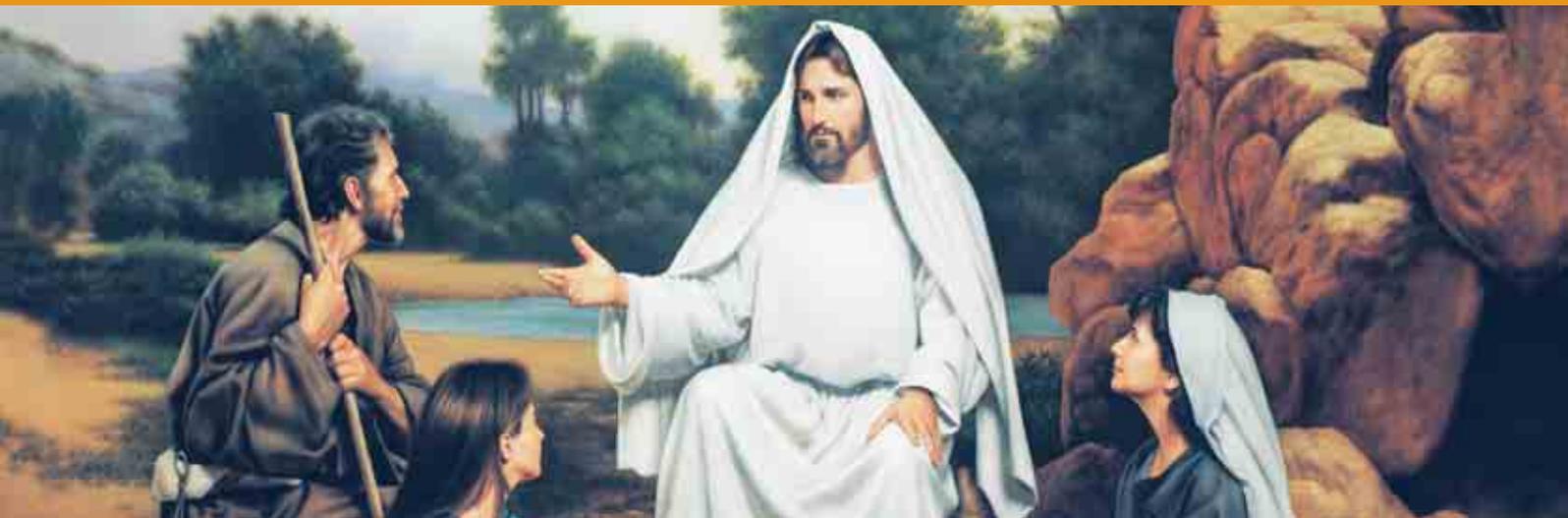
メモ

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- バプテスマの面接の大切さについて考えてください。求道者をどのように面接に備えたらよいか話し合います。
- バプテスマ会と確認の儀式の機会を通して教える人を見つけるにはどうしたらよいか話し合ってください。

伝道部会長

- 地元の神権指導者に働きかけ、彼らが『進歩状況報告書（プログレスレコード）』を確実に活用するようにしてください。
- 時折、バプテスマの最初の面接を行ってください。
- ディストリクトリーダーとゾーンリーダーにバプテスマの面接の進め方を教えてください。
- 重大な罪を犯したバプテスマ志願者にバプテスマの面接を行う方法について、伝道部会長と神権指導者を指導してください。



ステークやワードの指導者と協力して働くにはどうしたらよいのでしょうか

メモ

深く考えましょう

- 新しい改宗者とあまり活発でない会員が教会に活発に集うようになるには何が必要でしょうか。
- 伝道、定着、活発化に対して、ステークとワードの指導者にはどのような責任があるでしょうか。
- 宣教師として、ワード指導者が教会を確立するのをどのように支援できるでしょうか。
- ワード伝道主任との毎週の伝道調整集会では何をすべきでしょうか。

伝道中には、多くの指導者や会員たちと協力して働くという素晴らしい機会が与えられます。あなたは彼らとともに末日聖徒イエス・キリスト教会を強め、確立するのです。教会指導者との間に築く関係は、生涯を通じて祝福となることでしょう。宣教師と会員が、回復された福音を天の御父の子供たちにもたらすために努力するとき、これらの関係は大きな意味を成してきます。ワード組織の中で働く基本的な方法を理解しておくことは、目標を明確にし、大いなる力をもって前進する助けとなります。

新会員とあまり活発でない会員を強める

改宗者はバプテスマと確認を受けるときに、残りの生涯を通じて神に従い、神と人に仕えるという神聖な約束を交わします。彼らは日の栄えの王国において救いを得る権利を有するようになります。約束された祝福を受けるには、イエス・キリストを信じる信仰をもって最後まで堪え忍ばなければなりません。新しい改宗者が活発で忠実であり続けるためには、会員の助けが欠かせません。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。「わたしたちが伝道の業の実を大切に保たなかったなら、伝道活動を行っても何の意味もありません。伝道と定着、この二つの働きは不

メモ

可分のものであり、……会員となった人が定着するように見守るのは、わたしたちの急務なのです。」(『子羊を見いだし、羊を養う』『リアホナ』1999年7月号, 125)

ビショップの指示の下、ワード評議会には新会員とあまり活発でない会員を強める第一の責任が課せられています。ワード評議会は、新会員とあまり活発でない会員に友人がいて、彼らが神の言葉で養われており、召しと責任を受けているか確認します。また、ホームティーチングに対する支援を専任宣教師(家庭訪問では姉妹宣教師)に要請したり、新会員やあまり活発でない会員、長老見込み会員への訪問を依頼したりすることができます。宣教師と会員が組になって訪問するとよいでしょう。

宣教師にもこれらの人々に対する責任があります。ヒンクレイ大管長はこう語りました。「宣教師の皆さん……にも改宗者を教会に定着させる責任があります。改宗した彼らを訪問し続けることはできないかもしれません。しかし時々手紙を書いて、彼らを力づけることができます。……帰還した後も、彼らを忘れないでください。そしてそれ以降もずっと、彼らの信頼に値するような生活をしてください。そして時折手紙を書き、皆さんの愛を伝えてください。」(『リアホナ』1999年7月号, 126)

教会の集会に出席するときは、同僚とともに求道者の隣に座ってください。または、支え、強めるために働きかけている会員と座ります。ほかの宣教師たちと一緒に座るべきではありません。

宣教師の主要な目的の一つは、教会を確立し、奉仕しているユニットを強めることです。新しい改宗者が教会に定着し、あまり活発でない会員が再び活発になるように助けることによって、この使命の一部を果たすことができます。あなたはワード宣教師と一緒にレッスン1から4をもう一度教え、さらにレッスン5を教える責任があります。ワード宣教師、ホームティーチャー、訪問教師もこれらの原則を教えるうえで助けることができます。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、改宗して間もない人々の多くが直面する困難についてこう述べています。

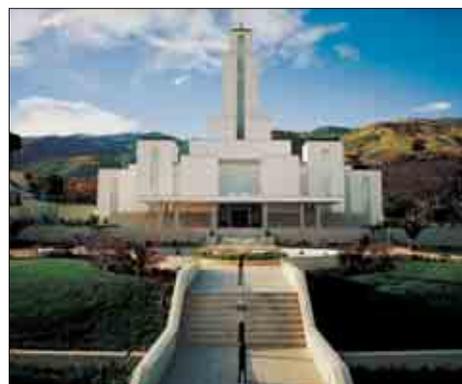
先日わたしはとても興味深い手紙を頂きました。1年前に教会に加入したある女性からの手紙です。こう書かれています。

「教会にたどり着くまでの道のりはユニークで、チャレンジに満ちたものでした。この1年間はわたしの人生でいちばん厳しいものでしたが、最も報いの多い1年でもありました。新会員としてわたしには、これからの毎日チャレンジが続くでしょう。」

彼女は教会に加入したとき、ワードの指導者からの助けを感じられなかったと言います。ビショップは新会員の彼女に対して無関心に思われました。疎外感を抱いた彼女は、伝道部長のところに行ってみました。伝道部長は彼女に様々な良い機会を与えてくれました。

彼女はこう言っています。「教会の人は、新会員となることがどういうことなのか分かっていません。……ですから、どのように新会員を助けたらいいかなど分かるはずがありません。」

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんがもし新会員の気持ちを理解していないとしたら、それがどのような気持ちなのか想像してみるようにお勧めします。それはたとえようもなく寂しいという気持ちかもしれません。幻滅や恐怖という気持ちかもしれません。この教会に属しているわたしたちは、自分で想像する以上に、この世の人とは懸け離れた存在です。この女性はこう書いています。「わたしたちは、求道者という立場から、教会員という立場に変わったときに、自分がまったく異なる世界、独自の伝統、文化、言葉を持つ世界に足を踏み入れてしまったことに驚きます。わたしたちは、この新しい世界を旅するときに導きを求めることのできる人や場所がないということに気づきます。最初のうち、この旅は興奮に満ちたものであり、失敗しても楽しくさえありますが、次第に欲求不満が募り、ついには怒りへと変わっていくのです。この欲求不満と怒りの段階で、新会員は去って行きます。そして、元いた所へと戻って行きます。そこでは、自分が何者なのか分かりますし、人に貢献し、言葉を交わすこともできるのです。」(『リアホナ』1999年7月号, 125)



活動—個人学習または同僚との勉強会

ヒンクレー大管長の話を読んでから、以下の質問の答えを学習帳に書き留めるか、同僚と話し合います。適切な目標を設定し、計画を立ててください。

- この話によれば、どのような要因によって、新会員は活発であり続けるのが難しくなるのでしょうか。
- 教え始めるときから会員の参加を求めることは、このような問題に対処するうえでどう役立つのでしょうか。
- あなたが教えている人について考えてください。教会という新しい社会に移ろうとする求道者を支援するために、どうしたらもっと教会員の助けを得られるのでしょうか。

ホームティーチングと家庭訪問

ステーク会長とビショップは伝道部会長と調整を行い、あまり活発でない会員とパートメンバーの家族を訪問するために宣教師を活用することができます。また状況が許す場合には、ホームティーチングと家庭訪問に参加するよう専任宣教師に依頼することができます。これらの教える機会を活用することによって、会員を強め、宣教師の教える能力を高め、宣教師がリフェローを受けられるようにすることができます（「伝道活動に関する声明」大管長会からの手紙、2002年12月11日付参照）。

新会員とあまり活発でない会員を強めるために、ワード評議会と協力して働く

求道者に教え、バプテスマを施すことは、伝道部会長の指示の下で行われます。しかしながら、専任宣教師と会員が力を合わせ、一致して働くなら、福音を宣べ伝える業をもっと力強く前進させることができます。宣教師はしばしば、ワード評議会と神権役員会に出席するよう求められることがあります。その際、最も優先すべきことは、求道者が教会に集うようにすることです。ほとんどの場合、宣教師は教会の中で求道者と行動を共にするからです。ワード評議会集会への出席と、だれかを教会に連れてくる時間帯が重なってしまった場合、後者を優先させます。このようなときは、『進歩状況報告書（プログレスレコード）』をワード伝道主任に提出して、伝道主任が必要な情報をすべて持ってワード評議会集会または神権役員会集会に出席できるようにします。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。

「新しい改宗者はだれでも3つのことを必要としています。

1. 常に頼ることのできる、自分を支えてくれる教会の友人、自分の質問に答えてくれ、自分の問題を理解してくれる教会の友人。
2. 責任。この教会のいちばん大きな特徴は活動です。それは、わたしたちを成長させてくれる過程です。主に対する信仰と愛は、腕の筋肉に似ています。筋肉は使えば強くなります。使わなければ弱くなります。どの改宗者にも責任を与えるべきです。……
3. すべての改宗者は『神の善い言葉で養われ』なければなりません（モロナイ6：4）。改宗者にとって欠かせないのは、神権定員会や扶助協会、若い女性、若い男性、日曜学校、あるいは初等協会などに参加することです。また、聖餐会に出席して聖餐を取り、バプテスマのときに交わした聖約を新たにしよう励ましを受けなければなりません。」（『リアホナ』1999年7月号、125）



© 1899 George K. Ober. ミル・ボンド・プレス社からの複製。複製は禁じられています。

新しい改宗者に友人、責任、霊的な養いを与えるために、ワード評議会は率先して行動を起こします。宣教師は要請を受けたときに支援します。神権指導者と会員は、宣教師の助けを借りてフェローシップを実施します。

友情をはぐくむ

- バプテスマと確認の前に、可能であればすべてのレッスンに会員が同席するようにします。レッスンに同席する会員はしばしば求道者と時間を共にし、質問に答え、彼らが抱える問題を理解し、励ましを与えます。
- 会員をバプテスマ会に招待して、新しい改宗者をワードに歓迎するよう求めます。会員は教会の様々な集会で新しい改宗者が安心できるように助けます。また彼らをほかの会員に紹介します。
- 求道者をできるだけ早い時期に、ビショップ、顧問、長老定員会と扶助協会の会長、そのほかワードの指導者に紹介します。ビショップやワードのそのほかの指導者が果たす役割について説明してください。



奉仕の機会

- 男性の改宗者が、アロン神権とメルキゼデク神権について理解し、神権を受ける準備ができるよう助けてください。神権定員会では、ともに学び、礼拝し、奉仕する機会があることを説明します。
- 伴侶ほんりよに先立たれた人や病人を助けたり、福祉事業に参加したりするなど、新会員とあまり活発でない会員に奉仕の機会に参加してもらいます。
- 改宗者が家族の記録と系図表を完成できるよう、彼らを家族歴史相談員に紹介します。状況が許すなら、亡くなった先祖の身代わりとして改宗者が神殿でバプテスマを受けるための準備を手伝います。
- 宣教師からレッスンを受けるために家族や友人を備えるよう改宗者に勧めます。宣教師は新しい改宗者とあまり活発でない会員にリフェローを求めるべきです。

神の言葉で養う

- レッスン5「律法と儀式」で採り上げられている原則をすべて教えます。
- 新しい改宗者とあまり活発でない会員に、彼らがバプテスマを受ける前おこなに行った決意と、バプテスマと確認を受けたときに交わした聖約を思い起こさせます。
- 個人としてまた家族として毎日祈るよう励まします。
- 聖文、特にモルモン書を毎日研究するよう励まします。
- イエス・キリストの福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことに対する改宗者の証あかしを強めます。バプテスマと確認の前に教えたレッスンを復習して、現在の必要に合わせた決意の勧めを行います。
- 毎週日曜日に教会に出席してふさわしい状態せいざんで聖餐を受けることの大切さを、引き続き教えます。改宗して間もない人やあまり活発でない会員と教会に集い、一緒に座ります。
- 日曜学校では福音の原則のクラスに出席するよう勧めます。
- 月曜の夕べに『家庭の夕べアイデア集』を使って家庭の夕べを開く方法を教えます。
- 回復された福音を周りの人に分かち合うよう励まします。
- セミナリーやインスティテュートに登録するよう助けます。

- www.mormon.org, www.lds.org (訳注——日本語版はwww.ldschurch.jp), www.familysearch.org など、教会が提供している情報源について知らせます。

聖文研究

神の言葉で養う

モーサヤ18：18-20

アルマ31：5

モロナイ6：4

奉仕

モーサヤ2：17

マタイ25：40

『聖句ガイド』「奉仕」の項

専任で奉仕する伝道部会長の役割は何でしょうか

専任で奉仕する伝道部会長は、改宗者のバプテスマの鍵を持っています。伝道部会長の指示の下で、専任宣教師は求道者に教えるという大切な責任を果たします。これに対してビショップは、教えを受けている求道者の進歩と、教会員による働きかけを管理します。ワード伝道計画は、ビショップの管理の下で実施されます。伝道部会長は定期的にステーク会長と会い、専任宣教師が地元の神権指導者と協力しているか確かめます。伝道部会長は伝道活動を調整し、ステーク会長が伝道活動に関する原則と働きについて指導するのを助けます。

ステークおよびワードの指導者の責任は何でしょうか

地元の教会指導者と会員はあなたの最大の協力者です。彼らを尊敬し、良い関係を築くよう努めてください。これらの指導者とともに働くとき、彼らにはそれぞれの召しに付随するほかの責任があることを忘れてはなりません。ステークやワードの指導者の重荷ではなく、祝福となるよう心がけてください。「どのようにお手伝いしましょうか」という積極的な態度を示してください。宣教師の計画や活動についてビショップおよびワード伝道主任と話し合います。ワード伝道計画を常に支援するようにしてください。

伝道活動において地元の神権指導者が果たす役割が以下に説明されています。彼らの役割を理解することによって、さらに良い協力関係を築くことができます。

ステーク会長

ステーク会長は、ビショップが、伝道、定着、活発化に対する責任を果たすのを管理します。また毎月行うビショップとの面接で、様々な計画や特定の求道者と会員の進歩の状況について話し合います。さらに、ステークやワードの集会で伝道活動に関する教義が定期的に教えられ、神権指導者とそのほかの指導者が伝道の責任について訓練を受けられるようにします。

ステーク会長はまた伝道部会長と定期的に会って、指導者と会員の訓練、専任宣教師の活用と配置、活発化に対する支援を含む、伝道活動の調整を図ります。

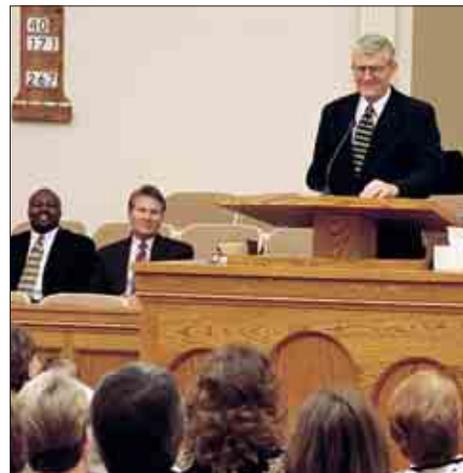
高等評議員

一人の高等評議員がステーク会長会から割り当てを受けて、ステークにおける伝道、定着、活発化の活動を促進するために働きます。この高等評議員は、これらの活動の進捗状況についてステーク会長会に定期的に報告します。さらに、ワード伝道主任がワード伝道計画の作成を含む、自分の務めについて適切な訓練を受けられるようにします。

ビショップ

ビショップはワードの伝道、定着、活発化に対して責任があります。ビショップ自身が伝道活動に参加し、指導性を発揮することが大切です。この働きをなし遂げるために、ビショップはふさわしいメルキゼデク神権者をワード伝道主任として召します。また、ワードの必要を満たすために十分な数のワード宣教師を召します。

ビショップは神権役員会とワード評議会を活用して、伝道、定着、活発化の調整を図ります。また、ワード伝道計画を作成し、実行するための指示を与えます。



活動—同僚との勉強会

ビショップと会う計画を立てます。ワードで最善の働きができるよう助言を求めてください。

神権指導者と補助組織指導者

神権指導者と補助組織指導者は、新会員とあまり活発でない会員の状況を定期的に検討し、彼らをフェローシップし、強めるための最善の方法を計画します。また、ワード伝道主任と綿密な連絡を取って、ワード宣教師と専任宣教師の、伝道、定着、活発化に対する働きを調整します。

ワード伝道主任

ワード伝道主任はビショップの指示の下、以下を実施します。

- 人々に福音を伝え、求道者、新しい改宗者、あまり活発でない会員に働きかけるうえで模範を示します。
- ワード宣教師と専任宣教師が、神権指導者、補助組織指導者、会員と働くうえでの調整を図ります。
- 『進捗状況報告書（プログレスレコード）』『改宗者アクションリスト』『ビショップリック対応・面接リスト』を使って、求道者、新しい改宗者、あまり活発でない会員の進捗状況を神権役員会集会とワード評議会集会で検討します。『改宗者アクションリスト』と『ビショップリック対応・面接リスト』は、ワードの集会所にあるコンピューターを使って作成する報告書です。この二つの報告書を使って、新しい改宗者とそのほかの会員の進捗状況を確認します。
- 伝道調整集会を毎週開きます。
- 専任宣教師と調整しながら、ワードの改宗者のバプテスマ会を計画します。バプテスマ会は通常、ビショップリックの一員または伝道主任が司会をします。

ワード伝道主任はまた、ワード神権役員会、ワード評議会、ワード福祉委員会の一員として働き、ステーク神権指導者会に出席します。

ワード宣教師

ふさわしい兄弟姉妹がワード宣教師として働くために召されます。ワード伝道主任が監督します。

ワード宣教師は、求道者を見つけ、フェローシップを行い、教える責任があります。また、新しい改宗者とあまり活発でない会員を教え、フェローシップを行います。

メルキゼデク神権を持つワード宣教師を、ワード伝道主任補佐として召すことができます。

伝道活動の調整

ワード伝道活動の調整は通常、神権役員会集会とワード評議会集会において、専任宣教師が作成する『進歩状況報告書（プログレスレコード）』を使って行われます。以下の段落で説明されているように、これらの集会では、求道者を見つけ、教え、フェローシップと活発化を行うことについて報告、計画、調整をします。

教える人を見つける。神権役員会集会とワード評議会集会では、特定の人々が専任宣教師のレッスンを受けられるようにするための計画について話し合います。宣教師のレッスンを聞くために個人や家族を備えているワードの会員について話し合います。

教え、バプテスマを施す。神権役員会集会とワード評議会集会では『進歩状況報告書（プログレスレコード）』を毎週検討します。『進歩状況報告書』には、専任宣教師が教えている人々の進歩状況が記されています。また、会員の家で教えるための計画や、求道者のフェローシップ、バプテスマ会への会員の参加についても調整します。

新会員をフェローシップし、教える。神権役員会集会とワード評議会集会では、『改宗者アクションリスト』を使って、新会員一人一人の進歩状況を把握します。新会員への働きかけについても話し合います。また、ビショップから求められた場合には、新会員の召しについて推薦を出します。

あまり活発でない会員をフェローシップし、教える。神権役員会集会とワード評議会集会では、神権定員会と専任宣教師による活発化に対する働きを調整します。また、あまり活発でない会員に対するフェローシップの計画、特に教会の集会や活動に招待する計画を立てます。

ワード伝道主任と行うその他の調整

ワード伝道活動は、通常神権役員会集会とワード評議会集会で調整されます。さらに調整が必要な場合、ワード伝道主任は専任宣教師との間で伝道調整集会を開くことができます。ほかにも、ワード宣教師や大祭司グループリーダー補佐、長老定員会顧問、扶助協会顧問を招待するとよいでしょう。

この調整集会に出席する人々は、前回の調整集会で決めた割り当てや目標についての検討や報告、その週の計画について話し合うとよいでしょう。また、必要であれば、ワード宣教師が専任宣教師と働くために調整し、ワード宣教師と専任宣教師がともに働くことで、さらに効果を上げる方法についても話し合います。

ワード伝道計画

ワード伝道活動を活性化するにはワード伝道計画を立てることが有効です。その効果は多くのワードで実証されています。この計画には目標を立てることや、率先して行動すること、ワードの会員が人々に福音を勧められるよう助けることなどを含めることができます。このような計画を通して、個人や家族もどのように伝道活動に参加したらよいか知ることができます。

会員は回復のメッセージに進んで耳を傾ける人を見つけるために、あらゆる有効な手段を活用しなければなりません。将来、家族として教会に集うことのできる父親や母親、子供たちを見つけることに力を入れる必要があります。以下は伝道計画を立てる際の提案です。

- 福音を勧めようとしている人の心を主が備えてくださるよう祈ってください。また、主が備えておられる人々に気づくことができるよう祈ります（アルマ6：6参照）。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように教えています。「わたしたちの民が世界中の宣教師のために祈るだけでなく、ワードで働く宣教師を自分が援助できるよう主に助けを求めるとき、すばらしいことが起こることでしょう。」（「伝道活動」『第1回世界指導者訓練集会』2003年1月, 19）
- 人々に影響を与えることのできる機会に目を向けます。隣人と親しく接して、あらゆる人に愛を示します。
- 友人や隣人に、会員とともに奉仕するよう求めてください。地域社会で奉仕することや、援助を必要とする人々に食事を提供すること、扶助協会の家庭・家族・個人を豊かにする集会でミニクラスを教えること、またワードの活動を支援したり、引越しやスカウト活動、家族歴史、福祉事業を手伝ったりすることができます。
- バプテスマや確認、神権の聖任が行われるときに、教会員でない親戚、友人、隣人を招待します。
- 食事会などの特別な行事を教会員でない人々に手伝ってもらうようにします。
- ワードの集会、活動、ファイヤサイド、オープンハウスを、会員が知人を招待したいと思えるような充実した内容のものとしします。
- 人々を家庭の夕べに招待します。
- 結婚、出産、死など、人生の転換期を迎えている人を訪問します。
- 近所に引越してきた人を訪れて、手伝います。地域や近隣の情報を伝え、教会について知らせます。
- あらゆる機会を捕らえて福音について話すようにします。救い主やモルモン書、聖書、人生の目的、家族、家族歴史などについて話します。
- 青少年に、同年代の子と親しくして、教会の集会や活動に誘うことを奨励します。
- パートメンバーの家族に働きかけます。
- 霊性が高まるような聖餐会を計画します。

活動—同僚との勉強会

- 同僚とともに『真理を守る』『教会の管理』の項、58-61を読んで、話し合います。
- 学んだ事柄を同僚と分かち合い、学習帳に書き留めます。
- これまで学んだことは、教会指導者に働きかけるうえでどのような影響を及ぼすか話し合ってください。

教会に活発に集う決意

人々が生涯を通じて教会に活発に集う決意をして、それを守るときに、伝道活動は最大の成果を挙げることになります。教会員となるだけでは不十分です。定着する必要があるのです。あなたの教えと勧めは、すべてこの目標に向けられていなければなりません。天の御父が用意しておられるすべての祝福を受けるには、絶えず福音に従って生活し、教会に活発でなければなりません。

ニーファイはこう教えました。「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは尋ねたい。あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。……あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ……力強く進まなければならない。そして、……最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31：19-20)

人々が「永遠の命……神のあらゆる賜物たまものの中で最も大いなるもの」を得られるよう最善を尽くしてください(教義と聖約14：7)。

記憶にとどめましょう

- ビショップおよびワード評議会の会員と力強い関係を築く。
- 神権役員会集会和ワード評議会集会に適切な方法で参加する。
- ワード評議会に貢献する。評議会の会員から支援を求められたときは——
 - 改宗者とあまり活発でない会員に進んでフェロシップを行い、彼らが召しを果たし、奉仕をするときに助け、レッスンをもう一度教える。
 - 会員とともに、「律法と儀式」のレッスンを新しい改宗者に教える。

研究と応用のためのアイデア

個人学習

- 『デイリープランナー』を使って、新しい改宗者や最近活発になった会員と会う計画を立ててください。そして生活を変えたときの話や教会に出席するようになったときのことを尋ねてください。最も助けになったのはどのようなことでしたか。彼らの経験について感じたことを学習帳に書き留めます。現在の求道者に働きかけるうえでどのようなことを学びましたか。
- 2ニーファイ31：18-20；アルマ26：1-7と32：32-43；モロナイ6章を研究してください。新しい改宗者を強めることに関して、これらの聖句から学んだことを書き留めます。

同僚との勉強会

- ワード評議会集会のときに、区域内のあまり活発でない会員の中で、訪問してほしい人がいないかビショップに尋ねてください。これらの会員を訪問するとき、イエス・キリストを信じる彼らの信仰を築くように努めてください。また彼らにリフェローを求めてください。
- 1コリント3：2；ヘブル5：12；教義と聖約19：22を研究してください。これらの聖句で言われている「乳」とは何を意味しているのでしょうか。「堅い食物（肉）」とは何でしょうか。自分の答えを「何を研究し、教えたらいいでしょうか」の章に記されている教義と比較します。適量の乳と肉を正しい順序で与えなければならないのはなぜでしょうか。あなたはそれをどのように^{おこな}に行っていますか。
- ジョセフ・F・スミス大管長がバプテスマを受けたときの気持ちについて語った以下の引用を読んでください。

「わたしが感じたのは、純粋な平安と愛と光でした。もしわたしが罪を犯していたとしたら——もちろん罪がなかったわけではありませんが——わたしは自分の罪が^{ゆる}赦され、まことに罪から清められたと感じました。わたしは感動に心打たれ、足もとの最も小さい虫さえも傷つけまいと思うほどでした。あらゆるところで、あらゆる人に、あらゆるものに善を行いたいと思いました。新たな命を感じ、正しいことを行おうという新たな意欲がわいてきました。わたしの心に悪を求める思いはひとかけらも残っていませんでした。……それは神からのものであり、わたしが主を受け入れたことの生きた証^{あかし}であり、この証は今もわたしの心に生きていることをわたしは知っています。」(Gospel Doctrine, 第5版 [1939年], 96)

次に、バプテスマを受けてから長い年月が過ぎた後に、スミス大管長が自分の気持ちについて語った言葉を読んでください。

「この同じ精神、同じ熱心な望みを、[バプテスマを受けたあの日]から今日に至るまで、人生のあらゆる瞬間に心に持ち続けていたら、どれほどすばらしかったことでしょうか。ところが、この証と新しい誕生と心の変化を受けたわたしたちの多くは、判断を誤ったり、多くの間違いを犯したり、日常生活で正しい標準を守らなかったりすることがしばしばあります。そのようなときに、わたしたちは邪悪な行いを悔い改め、しばしば主の手にすがって^{ゆる}赦しを求めてきました。このようにして、わたしたちがバプテスマを受けて罪の赦しを受けたとき

に心にみなぎっていたのと同じ望みと目的が、今日に至るまでわたしたちの心をつらえ、わたしたちの感情と情熱を支配してきました。」
(*Gospel Doctrine*, 96)

- 自分自身の証^{あかし}と福音に従って生活する決意に関して、スミス大管長からどのようなことを学びましたか。
- たとえ将来預言者になる人であっても、新しい改宗者はバプテスマ後に困難に直面します。そのことについて何が分かりましたか。
- 最近の改宗者とあまり活発でない会員について考えるとき、彼らがかつて持っていた「望みと目的」を取り戻させるために、あなたは何かができるでしょうか。

ディストリクト・ミーティングとゾーン大会

- ビショップを集会に招き、あまり活発でない会員や新しい改宗者に働きかけるときの問題について話してもらいます。特に、これらの問題に対処するうえで、宣教師にどのような助けができるか話してもらいます。
- 迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえ^{ほうとう}について話し合ってください（ルカ15章参照）。

伝道部会長

- 地元の神権指導者に働きかけて、以下の事柄について新しい改宗者を助けるよう励ましてください。
 - 神権の聖任を受ける。
 - ホームティーチャーの訪問を受ける。
 - 先祖の名前を神殿へ提出して、死者のためのバプテスマを受ける。
 - ホームティーチャーの同席のもとで、「律法と儀式」のレッスンを受ける。
- ワード評議会において宣教師を活用する方法を地元の指導者に教えてください。
- 地元の指導者に『進歩状況報告書（プログレスレコード）』の目的と活用方法を教えてください。
- 時々、宣教師の『進歩状況報告書（プログレスレコード）』に目を通します。
- 時々、最近の改宗者の状態を確認してください。そして宣教師と会員が彼らをどのように助けられるか考えてください。
- ステークまたはワードの指導者を招き、宣教師が最も助けとなるのはどのようなときか、宣教師たちの前で話してもらいます。
- 最近の改宗者を招いて、新会員として経験していることを宣教師に向けて話してもらいます。
- 時々、改宗者の会員にゾーン大会で改宗談を分かち合うようお願いします。

あ

愛, 118
証, しばしば__を述べる, 198-199
贖い, 31-33, 34, 48, 51-52, 60-61
__の定義, 58
アダムとエバの墮落, 49-50
__の定義, 58
あまり活発でない会員, 求道者を見つけるための情報源, 162
__を強める, 213-214
アロン神権, __の回復, 37
憐れみ, __の定義, 70
暗記, __とレッスン, vii
安息日, __を聖く過ごす, 74

い

イエス・キリスト, ジョセフ・スミスに御姿を現される, 37
__贖い主であられる__, 51-52, 60-61
__の贖い, 「贖い」の項参照
__の地上での働き, 34
人々が__について学べるよう助ける, 47-48
イエス・キリストの再臨, 37
イエス・キリストの福音, 「福音」の項参照
異言, __の賜物, 133
異言の賜物, 133
以前の求道者, 教える人々を見つけるうえでの情報源, 166
命の木, __の活動, 2
祈り, 戒め, 73
__に対する提案, 94-95
__の役割, 39
__をささげるには, 39
改宗における__と信仰, 93-95
真理を知るための方法, 39
評価の指標, 95
戒め, 71-81
__を教えるには, 71-72
__を研究するには, 72

う

ウィクリフ, ジョン, 45

え

永遠の命, __の定義, 70
永遠の結婚, 85
栄光の王国, 53
英語, __を学ぶ必要性, 128
エデンの園, 49
エリヤの霊, 163-165
エンダウメント, 86

お

オークス, ダリン・H, キリストのもとへ来るよう人々に勧める, 9
教える, 相手の必要を満たせるよう, __方法を調整する, 177-78
__ことと暗記すること, vii
__ことと見つけること, 158-59
__ことと耳を傾けること, 185-186
__ことに関する大管長会の勧め, 175-76
会員と一緒に__, 179
教会の召しで__, 88
キリスト教の背景を持たない人々に__, 190-191
質問を使って__, 183-184
聖文を活用して__, 180-182
宣教師として福音を__, 175
同僚と一緒に__, 178-79
御霊によって__, 3-4
レッスンの時間, 178
レッスンの長さ, vii
レッスンを始める方法, 176-177
教える人を見つける, 155

おもな指標 (キーインディケーター), __の定義, 138-139
__に対する目標を設定する, 146
人々を改宗に導くための__, 138-139

か

会員, 伝道活動に対する恐れ, 161
__求道者を見つけるのを助ける, 160-162
__伝道活動に参加するよう__を助けるには, 162
改宗, __における宣教師の役割, 93
__における御霊の役割, 93
改宗者のバプテスマ, __の定義, 206-207
改宗における宣教師の役割, 93
回復, __のメッセージについての説明, 6-8
__福音の__, 36-37
回復に関するメッセージ, 31
__と家族, 159-160
__の説明, 6-8
学習帳, __の説明, x
確認, 65
__の定義, 70
__への備え, 203-204
__を執り行うには, 210
「バプテスマと確認」の項も参照
家族, __の目的, 85
家族, __は福音により祝福される, 32
__回復された福音は__を祝福する, 3
__の大切さについて教える, 159-160
「家族—世界への宣言」, 3, 85
家族歴史, 教える人々を見つける手段, 163-165
家族歴史活動, 86
家族歴史センター, 教える人々を見つける手段, 164
家庭の夕べ, 85
家庭訪問, 215
カブレラ, ビクトール・マヌエル, 改宗談, 157-158
神, __の正しい礼拝の仕方, 76
神, キリスト教の教えを知らない人々に__について教える, 32
神の家族, 31-32, 155
神, わたしたちの天の御父, 31-32, 48
カルビン, ジョン, 45

き

儀式, __の定義, 63
希望, 117
求道者, 宣教師はバプテスマの面接に__を備えさせる, 203-204
__と一緒にモルモン書を読む, 110-111
__のための目標を設定する, 147-150
求道者を見つける, __ための提案, 167
教会本部からのリフェロー, 163
教会を確立する, 10
教会を築く, 156
『教授記録 (ティーチングレコード)』, 用紙の説明, 141-142
キリスト, 「イエス・キリスト」の項参照
キリスト教の背景を持たない人々, __に教える, 190-191
キリスト, __の光, 「キリストの光」の項参照
キリストの光, 90
キリストのような特質, 神から授けられる賜物, 115
__をはぐくむには, 122-123
__をはぐくむ必要性, 115
記録, バプテスマと確認の__, 208
勤勉, 121
キンボール, スペンサー・W, 伝道活動と神殿活動, 164
__任命, 4

<

悔い改め, 62-63, 187-190
__と決意, 195
『区域伝道記録 (エリアブック)』, __の説明, 139-141
__以前の求道者を見つけるために__を使う, 166
偶像, 76

国の法律, __を遵守し, 敬う, 80-81

け

警告, 啓示を受けるに際しての__, 98-99
 啓示, 個人の__, 89-90
 系図, 求道者を見つける手段, 163-165
 決意, __と祝福, 197-198
 __と単刀直入な質問, 197
 __とフォローアップ, 200
 __は悔い改めに欠かせない要素である, 195
 __は信仰を増す, 196
 決意, __の目的, 8
 決意を勧める, 195-196
 研究, 承認された__資料, 23
 祈りによって始める, 17, 22
 教える準備として__する, 19-22
 __のための指針, 20-21
 効果的な__, 17
 効果的な__のための提案, 22-24
 研究と応用のためのアイデア, __の活用法, xi
 言語の習得, __と文法, 130
 __と暗記, 129-130
 __の原則, 128-129
 __のための学習計画, 129-131
 __のためのツール, 129
 __の目標, 129
 同僚とともに__をする, 131-132
 現世, 50
 __の定義, 59
 __の目的, 31-32
 謙遜, 120-121
 権能, 宣教師の__, 4
 失われた神権の__, 35
 回復された__, 36-37

こ

孔子, 46
 更新, __の定義, 70
 個人学習, __の目的, viii-ix
 __のスケジュール, viii
 個人の啓示, 89-90

さ

最後まで堪え忍ぶ, 66, 88
 __の定義, 70
 裁き, __の定義, 59
 最後の__, 53

し

慈愛, 118
 時間の使い方, 効果的な__, 137
 死者のためのバプテスマ, 86
 質問, __と決意, 197
 教えるうえで__する, 183-184
 モルモン書を活用して__に答えるには, 109
 集会, 伝道調整, 219
 週間計画会, __を開くには, 147-150
 宗教改革, 35
 宗教改革者, 45
 従順, 122
 戒め, 72
 重大な犯罪, __とバプテスマの資格, 207-208
 柔軟性, 研究における__, vii
 教えるうえでの__, vii
 十分の一, __の律法, 78-79
 十分の一と献金, __を納める, 80
 祝福, __と決意, 197-198
 十戒, __を守る, 76-77
 シュルツ, フランクとミルドレッド, 164-165

純潔, __の律法, 77

昇栄, 53

__の定義, 59

常習癖の克服, 187-190

情報のピラミッド, 140

情報ボックス, 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に設けられてい
 る__, x-xi

贖罪, __の定義, 59

初等協会, __の組織, 83

新会員, 求道者を見つけるための情報源, 162

__はもう一度レッスンを受ける, 210

__を強める, 213-214

__のレッスン, 29

宣教師は__のフェロローシップを行う, 210

神権, アロン__, 83

__の回復, 37, 83

__の定義, 32

メルキゼデク__, 83

神権時代, 32-34

神権時代, __の定義, 33

神権指導者, __の義務, 218

神権と補助組織, 83-84

信仰, __と教える人々を見つける活動, 156

イエス・キリストを信じる__, 61-62, 116-117

__と祈り, 93-95

人生の問題, __とモルモン書, 107-108

神殿, __での礼拝, 86

『進捗状況報告書 (プログレスレコード)』, 用紙の説明, 142

『真理を守る』, 21

す

救い, あらゆる人に及ぶ__, 86

__の計画, 47-54

__の定義, 59

救いの計画, 47-54

__の図, 54

スケジュール, 「宣教師の一日のスケジュール」の項参照

ステーク会長, __の義務, 217

ステーク高等評議員, __の義務, 218

ステーク指導者, __と伝道活動, 213

__の義務, 217

スナイダー家族, __の物語, 113

スミス, ジョセフ・F, バプテスマを受けたときの気持ち, 222

スミス, ジョセフ, __と最初の示現, 37

あらゆる人に教える, 156

啓示の必要性, 89

__と回復, 36-37

聖霊の賜, 91

福音を宣べ伝える, 160

水と聖霊によるバプテスマ, 9

御霊に頼る, 97-98

モルモン書はかなめ石である, 103

スミス, ハイラム, 第一の原則を教える, 6

せ

成功, __の定義, 10-11

聖餐, 64

聖書, __はモルモン書を支える, 106

聖典, __に印を付ける, 24

教えるうえで__を活用する, 180-182

聖文研究, 戒め, 73-74

聖約, __の定義, 70

__の説明, 63

聖霊, __の賜物, 91

__という御方, 90

__によって学ぶ, 18

__の力, 90

聖霊の賜物, 65, 91

責任, 回復された福音を教える__, 1

宣教師基本図書, viii

『宣教師週間報告書 (ウィークリーレポート)』, 用紙の説明, 145

『宣教師デイリープランナー』, 用紙の説明, 144-145

宣教師としての成功, 10-11

宣教師の一日のスケジュール, viii

宣教師の召し, 〃と責任, 4

回復された福音を教える, 175

〃に伴う力と権能, 4-5

宣教師の目的, イエス・キリストを代表する, 2

前世, 〃の定義, 59

前世での生活, 48

〃の定義, 59

選択の自由, 48, 49

そ

創造, 地球の〃, 49

ゾーン大会, 〃と学習, viii

た

大管長, 伝道活動, 12-13

大管長会, 伝道活動, 29-30

大管長会メッセージ, v

墮胎, 〃とバプテスマの資格, 207-208

断食, 〃の律法, 79

ち

知恵の言葉, 78

知識, 119

地上における生活, 50

父親, 〃の義務, 85

父なる神, ジョセフ・スミスに姿を現される, 37

長老見込み会員, 求道者を見つけるための情報源, 162

つ

月の栄えの王国, 53

罪, 文化によって捉え方が異なる, 61

罪からの清め, 2, 5-6, 60-61

て

定義, なじみのない用語の〃, 21

ディストリクト・ミーティング, 〃と勉強, viii

〃の目的, ix

ティンダル, ウィリアム, 45

テラー, ジョン, 簡潔に教える, 182

伝道活動, 会員が行う〃, 84

伝道活動に関する預言者の言葉, 12-13

伝道活動の調整, 219

伝道地の言語, 〃と母国語, 127

〃を学ぶために備える, 127

熱心に学ぶことが求められる, 128

伝道調整集会, 〃の役割, 219

伝道部会長, 〃の義務, 217

天の御父, 31-32, 48

『電話による概要報告書 (コールイン・サマリーレポート)』, 〃の説明, 143

と

同性愛の関係, 〃とバプテスマの資格, 207-208

同僚関係の評価, 150

同僚との勉強会, 〃の目的, ix

〃のスケジュール, viii

徳, 118-119

特質, 〃を研究するには, 116

キリストの〃, 115

特質を伸ばすための活動, 自己評価, 126

に

肉体の死, 〃の定義, 59

忍耐, 120

は

晋教, 〃の定義, 45

大〃, 35-36

バックラー, ボイド・K, 水と火のバプテスマ, 9

改宗における御霊の力, 93

キリストの光, 90

研究により行動が変わる, 19

御霊を認識する, 96, 99

モルモン書の持つ, 霊を養う力, 108

霊的な事柄を無理強いする, 102

霊的な体験, 99

話す, 人と〃ためのアイデア, 157

教える人を見つけるための方法, 156-158

母親, 〃の義務, 85

バプテスマ, 〃の勧め, 40, 66

幼い子供には必要ない, 64

教会の会員となるために必要, 64

最初の聖約, 63-64

資格を満たしていない志願者の〃, 207

〃の資格, 204

〃の準備, 203-204

火の〃, 65

バプテスマ会, 〃を進めるには, 208-209

バプテスマと確認, 9, 75

〃に関する質疑応答, 206-208

〃の記録, 208

バプテスマの面接, 〃を実施するには, 205-208

求道者を〃に備えさせる, 204

〃を実施する人, 206

〃の質問, 206

バプロ, 奉仕によって改宗した話, 168-169

破門された会員, 〃のバプテスマ, 207

バラード, M・ラッセル, 目標設定, 146

御霊の力, 93

ハンター, ハワード・W, 御霊を認識する, 99

反対意見, モルモン書を活用して, 〃に答えるには, 108-109

ひ

ビショップ, 149-150

〃と伝道活動, 161

伝道に関する〃の責任, 218

ワードの伝道活動を指示する, 214

日の栄えの王国, 53

水山, 問題を〃にたとえる, 187

ヒンクレー, ゴードン・B, 改宗者を教会に定着させる宣教師の

責任, 214

新しい改宗者が必要としていること, 215-216

祈りの気持ちでモルモン書を読む, 108

会員が宣教師を助ける, 160-161

改宗者の定着, 213

信仰と祈り, 93-94

宣教師の祈り, 94

奉仕, 168

御霊を認識する, 97

ふ

ファウスト, ジェームズ・E, 希望, 117

はっきりと教える, 182

フェローシップ, 新会員の〃, 210

フォローアップ, 〃と決意, 200

福音, 60-66

〃の回復, 36-37

〃の定義, 5, 70

〃の目的, 6

〃は家族を祝福する, 3, 32

〃は人々の必要を満たす, 1-2

不死不滅, 〃の定義, 59

〃の説明, 53

扶助協会, 83

- 復活, 53
 __の定義, 51, 59
 仏陀 (ゴータマ), 46
 文化, __を学ぶ必要性, 132
-
- へ
- ベリー, L・トム, 従順, 122
 ベンソン, エズラ・タフト, モルモン書を活用して質問に答える, 108-109
 かなめ石としてのモルモン書, 104
 人生の重要な問題に答える, 107
 働き, 121
 福音を全世界に宣べ伝える, 2
 御霊の大切さ, 176
-
- ほ
- 報告の責任, 150-151
 奉仕, 教会の会員としての__, 87
 求道者を見つける手段としての__, 168-169
 法律, __を遵守し, 敬う, 80-81
 ホームティーチング, 215
 星の栄えの王国, 53
 補助組織指導者, __の責任, 218
 ホランド, ジェフリー・R, 言語の習得, 128
 力によって教える, 8
 耳を傾ける, 185
-
- ま
- 毎日の計画会, 150
 マックスウェル, ニール・A, 希望, 117
 学ぶ, 啓示を受けるプロセスを__, 18
 教会員として__, 88
 聖霊によって__, 18
-
- み
- 『見込み求道者 (ポテンシャル・インベスティゲーター)』, 用紙の
 説明, 143
 未成年者, __とバプテスマ, 207
 御霊, 改宗における__の力, 92-93
 __の促し, 96-97
 __に導かれるままにレッスンを__, 176
 __によって教える, 3-4
 御霊の賜, 91
 見つけ, 教える, 158-159
 会員と一緒に__, 160-162
 御霊によって__, 156
 耳を傾ける, 言語能力を向上させるために__, 130
 教えるうえで__, 185-186
-
- む
- ムハンマド, 46
-
- め
- 恵み, __の定義, 70
 召し, 教会での__, 87
 「宣教師の召し」の項も参照
 メディアからのリフェロー, 163
 メルキゼデク神権, __の回復, 37
-
- も
- 目的, 宣教師としての__, 1
 目標の設定, 137
 目標, __と週間計画会, 147-150
 __を設定するには, 146
 モルモン書, __は人生の問題に答える, 107-108
 回復の証拠, 7, 38-39, 103
 かなめ石としての__, 103-104
 キリストの神性に対する証拠, 103
 伝道地の言語を学ぶために__を読む, 130
 __の活用法, 110-111
 __の目的, 38
 __はキリストを証する, 105
 __は聖書を支える, 106
 __は人を神に近づける, 108
 __を求道者と読むには, 110-111
 モンソン, トーマス・S, 証を述べる, 198
 会員と一緒に教える, 179
 業績の評価, 150
 忍耐, 120
 御霊の言葉, 133
 問題, 求道者の__を解決する必要性, 187
-
- や
- 約束の聖なる御霊, 91
 ヤング, プリガム, 証を得る, 199
-
- よ
- よい働きをする, 168-169
 預言者, __の説明, 34
 __の役割, 32-33
 預言者に従う, 75-76
-
- ら
- 落胆, 10-11
-
- り
- リー, ハロルド・B, 家族の大切さ, 3
 理解できるように教える, 193
 律法と儀式, バプテスマの後に教える, 82-88
 __を教えるには, 82
 __を研究するには, 83
 リフェロー, __に対応する際の指針, 163
 輪廻, __と復活, 53
-
- る
- ルター, マルチン, 45
-
- れ
- 霊界, 52-53
 霊の死, __の定義, 59
 レッスン, 新会員のための__, 29
 求道者に教える__, 29
 学習や訓練の場で__を活用する, 29
-
- わ
- ワースリン, ジョセフ・B, モルモン書の活用法, 110
 ワード指導者, __と伝道活動, 213
 __の義務, 217
 ワード宣教師, __の義務, 219
 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の使用法, xi
 ワード伝道計画, 220
 ワード伝道主任, __の義務, 218-219
 ワード評議会, 149-150, 215-217
 新しい改宗者を養う, 217-218
 新しい改宗者が召しを果たせるよう助ける, 217
 新しい改宗者と友情をはぐくむ, 216
 __にはフェローシップに対する責任がある, 214
 若い女性, __の組織, 83
 若い男性, __の組織, 83
 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』, ワード宣教師と指導者による
 __の使用, xi
 __の活用法, vii

記憶にとどめましょう……

- あなたの目的は、人々をキリストのもとへ導くことです。
 - 人々が教義と聖約第20章37節とバプテスマの面接の質問に記されているバプテスマの条件を満たせるよう備えましょう。
-
- 自分自身と周りの人々のために、しばしば祈りましょう。
 - どこへ行き、何を行い、何を語るかを示してくださるよう御霊に頼りましょう。
 - 完全に従順になりましょう。
 - 伝道地の言語を毎日学びましょう。
-
- 毎日計画を立て、おもな指標の項目に焦点を当てましょう。
 - 毎日、毎時間、効果的に働きましょう。
-
- リフレローをする人がいないか、**すべての人に**尋ねましょう。
 - 見つけながら教え、教えながら見つけましょう。
-
- あなたの教える人とともにモルモン書を読みましょう。
 - ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知るうえで大切なのは、モルモン書を読み、祈ることです。そのことを人々に教えましょう。
 - すべての求道者と毎日連絡を取りましょう。
 - しばしば証を述べましょう。
 - 可能であれば、すべてのレッスンに会員が同席するようにしましょう。
 - 毎回、次のレッスンの具体的な日程と時間を決めましょう。
 - すべての求道者をバプテスマ会に招待しましょう。
 - 各レッスンが終わったら、求道者が読んで深く考え、次回の集會に備えられるよう、読書課題を渡しましょう。
-
- 会員に仕え、ワード指導者と協力して働くことにより、信頼関係を築きましょう。
 - 会員の定着と活発化において、ワード指導者を支援しましょう。
-
- あなたの教える人が皆、悔い改めをもたらす決意と、救い主への信仰を強める決意ができるよう助けましょう。
 - 主を愛し、最善を尽くして仕えましょう。

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

